

豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査について

Ⅰ アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、高齢者や障害者を含む誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるしくみの一層の充実を図るため、保健・医療・福祉の各分野にわたり、総合的・体系的に施策・事業を盛り込んだ「豊島区地域保健福祉計画」の改定に反映させるための基礎資料として活用することを目的に実施した。

2 調査方法

	今回の調査	平成19年度調査
調査対象	豊島区内在住の20歳以上75歳未満の区民	同左
対象数	3,000人	同左
抽出方法	無作為抽出	同左
調査方法	郵送配布・郵送回収	同左
調査期間	平成22年6月14日～30日	平成19年10月18日～31日

3 有効回収数

	今回の調査	平成19年度調査
配布数	3,000票	3,000票
有効回収数	1,188票	1,421票
有効回収率	39.6%	47.4%

4 調査項目

全32問の調査を実施し、6項目に分類した。

(1) 回答者の属性 (11問)

- ①性別 ②年齢 ③居住地区 ④居住年数 ⑤住居の種類 ⑥家族構成 ⑦職業
- ⑧看護や介護を必要とする家族の有無 ⑨看護や介護を必要とする家族の続柄・年齢
- ⑩看護や介護が必要な理由 ⑪回答者の健康状態 ⑫健康のため積極的に身体を動かすこと
- ⑬健康のために実施していること ⑭充実感・生きがい

(2) 居住継続意向や地域活動等について (6問)

- ①居住継続意 ②日常生活の中で困ったときに助けてもらえる人
- ③地域活動・ボランティア活動の参加状況
- ④地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由
- ⑤今後参加したい地域活動やボランティア活動
- ⑥重要度が高いと考える地域活動 ⑦参加したことがある地域活動
- ⑧参加したい地域活動 ⑨地域活動により多くの人が参加するために必要なこと

(3) 健康や福祉に関する情報提供や相談について (3問)

- ①健康や福祉に関する情報の入手先
- ②健康や福祉に関する情報入手のしやすさ、相談窓口への満足度
- ③相談窓口の周知状況、利用の有無、利用意向

(4) 福祉のまちづくりについて (3問)

- ①バリアフリー化すべき施設 ②日常の外出頻度
- ③外出時に街の中や建物の中で困ったり、不便に思うこと ④まちのバリアフリーの満足度

(5) 地域での支え合いや助け合いについて (4問)

- ①困っている人を見かけたことの有無 ②困っていた人の状況 ③困っている人への対処
- ④心のバリアフリー推進のために必要な仕組み ⑤住民同士の支え合いや助け合いの必要性
- ⑥住民同士の支え合いや助け合いで必要なこと
- ⑦住民同士が支え合ったり、助け合う必要がないと思う理由
- ⑧コミュニティソーシャルワーカー配置の認知状況
- ⑨コミュニティソーシャルワーカーに期待すること、求めるもの

(6) 地域保健福祉全般について (4問)

- ①地域で困っていること、解決すべき課題 ②住民と行政の役割分担のあり方
- ③「地域保健福祉計画」の認知状況 ④地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと

5 アンケートの自由記述について

身近な生活上の問題や保健・福祉の課題について感じていることやご意見を尋ねたところ、449名の方から513件の自由記述があった。(以下の16項目に整理)

- 1. 高齢者の保健・福祉について
- 2. 障害者の保健・福祉について
- 3. 子どもの保健・福祉について
- 4. 保健医療全般について
- 5. 地域活動・コミュニケーションについて
- 6. 相談・情報提供について
- 7. 意識啓発について
- 8. 教育について
- 9. バリアフリー・駅等のエレベーター等について
- 10. 防災・防犯について
- 11. 生活保護について
- 12. ホームレスについて
- 13. 保健福祉全般について
- 14. 外国人について
- 15. 区政全般について
- (ごみ問題、自転車対策、喫煙マナー、公園・緑地、ペット・動物、道路、その他)
- 16. その他

6 アンケート調査結果 (一部抜粋)

(1) 回答者の属性について

問6【家族構成について】

「二世世代家族（親と子）」が45.3%。次いで「単身（ひとり暮らし）」が21.0%。

「夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）」が12.4%

問8、問9、問10

【看護や介護を必要とする家族の有無・家族の続柄・年齢及び看護や介護が必要な理由】

介護や看護を必要とする人が「いない」が87.0%。「いる」が12.5%

「いる」と回答した年齢層は、55歳～64歳で、全体の2割。

介護等を必要とする家族は「親」であり、全体の7割を占める。その親の年齢は「80歳代」が80.2%。次いで「70歳代」が11.3%。

介護が必要な理由としては、「高齢で身の回りの世話が必要なため」が57.7%。次いで「病気のため」が26.8%。「認知症のため」が24.8%。

(2) 居住継続意向や地域活動等について

問13【日常生活の中で困ったときに助けてもらえる人】

「友人・知人」が53.4%。次いで「兄弟・姉妹」が31.7%。年齢別でみると、20～44歳で「友人・知人」が、いずれの年齢でも60%超。

問14 問14-1 問15

【地域活動・ボランティア活動の参加状況、参加しなかった理由】及び【今後参加したい地域活動やボランティア活動】

「どれも参加していない」は、前回調査（19年）の64.7%から今回69.4%へと9.7ポイントの増加。この参加しない理由として、「忙しい」とするもののほか、「きっかけや誘いがなかった」「参加方法がわからなかった」が上位。

問16【重要度が高いと考える地域活動】

重要度が高いと考える地域活動としては、「仕事を通じてできる活動」（39.6%）、「社会福祉協議会を通じてできる活動」（39.5%）、「豊島区の事業を通じてできる活動」（39.1%）が上位。

問17【地域活動により多くの人が参加するために必要なこと】

参加する方法についての具体的情報を広く紹介する」が56.8%で最も多く、次いで「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が54.5%、「活動に参加できる『ゆとり』や『時間』のある社会をつくる」が37.5%。

(3) 健康や福祉に関する情報提供や相談について

問18【健康や福祉に関する情報の入手先】

「広報紙」が54.8%。次いで「テレビ・ラジオ」が47.6%。「一般の新聞・雑誌」が40.7%

問19【健康や福祉に関する情報入手のしやすさ、相談窓口への満足度】

前回調査（19年）と比較すると、「満足」は前回の16.2%から今回14.6%へと1.6ポイント微減し、反対に「不満」（「やや不満」と「とても不満」の合計）は、前回の23.7%から今回27.7%へと4.0ポイント増。

(4) 福祉のまちづくりについて

問21 【バリアフリー化すべき施設】

「歩道」が57%で最も多く、次いで、「歩道の放置自転車等の撤去」が49%、「電車・バス等(コミュニティバス含む)の公共交通機関」が48.1%、「駅舎等の旅客施設」が45.6%。

問23 【まちのバリアフリーの満足度】

「やや不満」が31.5%で最も多く、次いで「やや満足」が18.4%。

(5) 地域での支え合いや助け合いについて

問27 【住民同士の支え合いや助け合いで必要性】

住民同士の支え合い、助け合いは、「必要だと思う」が82.7%で最も多い。

問27-1 【住民同士の支え合いや助け合いで必要なこと】

住民同士の支え合いが「必要だと思う」人に、そのために必要なことを尋ねたところ、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が50.7%で最も多く、次いで「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」が45.2%、「地域の人が気軽に集まれる場所を作ること」が40.4%。

問28 【コミュニティソーシャルワーカー配置の認知状況】

「知らない」が93.9%で極めて多く、「知っている」は3.5%。

問28-1 【コミュニティソーシャルワーカーに期待すること、求めるもの】

コミュニティソーシャルワーカーを「知っている」人に、期待することを尋ねた結果、「身近な地域での相談対応」が58.5%で最も多く、次いで「相談窓口や支援体制についての情報の提供」が56.1%、「高齢者や障害者など災害等の緊急時に支援の必要な人への見守り」が48.8%。

(6) 地域保健福祉全般について

問29 【地域で困っていること、解決すべき課題】

「診察時間外の救急医療体制」が23.9%で最も多く、次いで「歩行喫煙・ポイ捨て」が21.9%、「治安・防犯対策」が21.0%、「放置自転車」が20.3%。

問30 【住民と行政の役割分担のあり方】

「福祉は行政と住民が協力して行い、それぞれの得意分野を活かす」が51.2%で最も多く、次いで「福祉はすべて行政が行い、行き届かない部分は住民が協力する」が14.6%、「福祉はすべて行政が行い、そのために住民は税金を支払う」が8.2%。

問31 【「地域保健福祉計画」の認知状況】

「知らなかった」が77.7%となっており、「名前も内容も知っていた」は3.2%。

問32 【地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと】

「いつでも気軽に相談できる身近な窓口や専門的な窓口の充実」が42.1%で最も多く、次いで「支援が必要な人に、サービスを総合的に提供できる仕組みづくり」が40.7%、「保健・医療・福祉のサービス利用に関する情報提供の充実」が33.7%。

II グループヒアリング調査の概要

1 調査の目的

「区民意識・意向調査」を補完するため、今後の地域福祉活動の担い手として期待する団体や事業者等から、活動の状況や成果・課題、地域における連携・ネットワークづくり、区への要望などをお聞きし、計画検討の基礎資料とすることを目的に実施した。

特に地域福祉の推進の視点から、地域の関連する団体・グループが顔を合わせ、話を聞くことで、相互理解と連携をさらに深めることもねらいとした。

2 対 象

下記の対象を関連名簿などから抽出し、グループヒアリング調査を実施した。

① 高齢者関連グループ：6名参加

高齢者団体、民生・児童委員、高齢者サービス提供事業者（民間事業者）、高齢者サービス提供事業者（事業系NPO）

② 障害者関連グループ：8名参加

障害者団体、ボランティア団体、民生・児童委員、障害者サービス提供事業者（民間事業者）

③ 地域団体・事業者グループ：7名参加

商店街、商工会議所、町会・自治会、民生・児童委員

3 調査内容

調査対象に応じて、下記の内容を事前に「ヒアリングシート」で配付し、記入・提出いただいたうえ、ヒアリングを実施した。

なお、ヒアリングにおいては、地域福祉推進と計画への要望把握の視点から「ネットワークづくり」「区への要望」を重点的に伺い、他の項目についてはシートでの情報把握を主体にとりまとめた。

項目	施策への反映	設問項目
基本属性	基本的属性をたずねる	○設立時期 ○メンバー構成 ○活動目的 ○活動年数 ○事業の目的 ○主な事業内容
活動状況	参加促進に関わる要因や意識を探る	○活動までの経緯 ○活動・事業・社会貢献活動内容 ○事業の実施場所、対象者 ○地域の方との関わり方
活動の成果と課題	活動を促進、支援するための方策検討につなげる	○活動（事業）によって得られたこと、よかったこと ○活動（事業）を進める上で支障になっていること・問題・課題
ネットワークづくり	ネットワークの効果を把握し、ネットワークづくりの支援方策の検討につなげる	○他の団体や行政との関わり方 ○連携・ネットワークによる効果と展望 ○今後の課題
区への要望	支援策の検討につなげる	○区への要望 ○地域保健福祉施策・計画への要望 ○コミュニティソーシャルワーカーへの期待 ○住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて事業者としてできること

4 スケジュール

- ヒアリングシート配付 6月下旬～7月上旬
- ヒアリングシート回収 7月中旬
- ヒアリングの実施 7月22日（高齢者関連グループ）、27日（障害者関連グループ）、
28日（地域団体・事業者関連グループ）
- 結果とりまとめ 8月上旬～中旬

5 ヒアリング結果による主な課題等 （一部抜粋）

1. 地域の見守り活動

- 町会・民生委員・高齢者クラブ等関係団体連携による、一人暮らし高齢者等の見守り
- 個人情報取り扱いのルール化による見守り活動への活用
- 宅配事業＋見守りのシステムづくり

2. 情報提供体制の充実

- 地域活動団体間の連携支援に向けた情報交換のしくみづくり
- 保健福祉に係る区民向け最新情報の提供体制の充実

3. 地域保健福祉計画の周知

- 計画内容の区民への周知徹底と、計画の実効性の向上

4. 支援体制の充実

- ライフステージに沿った支援体制の構築
- 親の高齢化に伴う親子(知的障害) あわせた支援の必要性
- 介護職やボランティア等の人材の確保

5. コミュニティソーシャルワーカー

- 地域に密着し、地域の実情に即したシステムの構築
- 地域の相談窓口として、また専門職として中心的な役割を担う必要性

6. 地域活動団体等との連携

- 町会・自治会・商工会議所等との連携イメージの具体化
- 地域の社会貢献活動に熱心な企業との連携と活動支援

7. ホームレスへの支援

- 増加傾向にあるホームレスに対し、行政と支援団体との連携による支援のあり方検討

III 地域保健福祉計画の改定について

1 地域保健福祉計画の性格

高齢者や障害者を含む誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるしくみの一層の充実を図るため、保健・医療・福祉の各分野にわたり、総合的・体系的に施策・事業を盛り込んだ計画であり、「地域福祉計画」、「高齢者保健福祉計画」、「介護保険事業計画」、「障害者計画」、「障害福祉計画」、「健康増進計画」の性格を有している。

2 計画期間 平成24年度から28年度までの5か年

3 計画の改定に向けた、今後のスケジュール

- 地域保健福祉計画中間のまとめ報告 平成23年9月
- パブリックコメント実施 23年12月
- 地域保健福祉計画答申 24年3月
- 地域保健福祉計画策定報告 24年3月

豊島区地域保健福祉計画改定のための
区民意識・意向調査
報 告 書

平成22年(2010年)11月

豊 島 区

豊島区地域保健福祉計画改定のための
区民意識・意向調査
報 告 書

平成22年(2010年)11月

豊 島 区

はじめに

豊島区では、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、これを継続的に支えるシステムの構築をめざして、「豊島区地域保健福祉計画」の改定作業を進めています。

この計画は、高齢者、障害者といった対象者別の福祉計画を一元化し、さらに、保健医療分野の計画と一体化するなかで、区と区民とのパートナーシップを構築し、ともに地域の課題に総合的・横断的に対応していこうとするもので、平成24年度から5年間の計画となります。

計画の改定にあたっては、昨年10月に、計画の改定および保健福祉に関わるその他の重要事項について審議、答申する区長の附属機関とされる、保健福祉審議会を設置しておりますが、地域住民が主体的に参加・参画し、より身近な問題として取り組むことが重要とされていることから、「豊島区介護保険についてのアンケート調査」や「豊島区障害者・難病患者 実態・意向調査」を実施し、より多くの区民の方からご意見やご提案をいただく予定としております。

今回の区民意識・意向調査では、地域福祉の担い手としての地域の方々を広く対象とし、地域での課題や、地域活動（支え合い）への参加意向などを調査するとともに、地域団体・ボランティア・NPO・民間企業などから、活動の状況・課題、地域における連携・ネットワークづくりについてグループヒアリング調査を実施しました。

この報告書でまとめた調査結果につきましては、計画策定の一助となる基礎資料にさせていただくと同時に、多くの方々にご記入いただいた自由記述欄の貴重なご意見、ご提案などにつきましても今後の施策づくりに活かしてまいります。

最後に、調査の実施にあたり、ご協力をいただきました皆様に、心から感謝を申し上げます。

豊島区保健福祉部

目 次

第1編 アンケート調査	1
第1章 調査の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査方法	3
3 有効回収数	3
4 調査項目	3
5 報告書の見方	5
第2章 回答者の属性	6
1 性 別	6
2 年 齢	6
3 居住地区	9
4 居住年数	11
5 住居の種類	12
6 家族構成	13
7 職 業	14
8 看護や介護を必要とする家族の有無	15
9 看護や介護を必要とする家族の続柄・年齢	17
10 看護や介護が必要な理由	21
11 回答者の健康状態	22
12 健康のため積極的に身体を動かすこと	24
13 健康のために実施していること	25
14 充実感・生きがい	27
第3章 居住継続意向や地域活動等について	29
1 居住継続意向	29
2 日常生活の中で困ったときに助けてもらえる人	32
3 地域活動・ボランティア活動の参加状況	34
4 地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由	37
5 今後参加したい地域活動やボランティア活動	39
6 重要度が高いと考える地域活動	43
7 参加したことがある地域活動	44
8 参加したい地域活動	45
9 地域活動により多くの人が参加するために必要なこと	46
第4章 健康や福祉に関する情報提供や相談について	48
1 健康や福祉に関する情報の入手先	49
2 健康や福祉に関する情報入手のしやすさ、相談窓口への満足度	53
3 相談窓口の周知状況、利用の有無、利用意向	54

第5章 福祉のまちづくりについて	63
1 バリアフリー化すべき施設	63
2 日常の外出頻度	68
3 外出時に街の中や建物の中で困ったり、不便に思うこと	70
4 まちのバリアフリーの満足度	72
5 ガイドマップに期待するもの、要望（自由記入）	74
第6章 地域での支え合いや助け合いについて	75
1 困っている人を見かけたことの有無	76
2 困っていた人の状況	77
3 困っている人への対処	78
4 心のバリアフリー推進のために必要な仕組み	80
5 住民同士の支え合いや助け合いの必要性	82
6 住民同士の支え合いや助け合いで必要なこと	84
7 住民同士が支え合ったり、助け合う必要がないと思う理由	87
8 コミュニティソーシャルワーカー配置の認知状況	88
9 コミュニティソーシャルワーカーに期待すること、求めるもの	90
第7章 地域保健福祉全般について	91
1 地域で困っていること、解決すべき課題	92
2 住民と行政の役割分担のあり方	99
3 「地域保健福祉計画」の認知状況	101
4 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと	103
5 活動団体・取り組みの名称・活動内容	109
6 自由記入	110
第2編 グループヒアリング調査	137
第1章 調査の概要	139
1 調査の目的	139
2 対 象	139
3 調査内容	140
4 スケジュール	142
第2章 ヒアリング結果	143
1 高齢者関連グループ	145
2 障害者関連グループ	156
3 地域団体・事業者グループ	175
資料編	189
資料1 単純集計	191
資料2 アンケート調査票	204
資料3 グループヒアリング調査票	220

第1編

アンケート調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、高齢者や障害者を含む誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるしくみの一層の充実を図るため、保健・医療・福祉の各分野にわたり、総合的・体系的に施策・事業を盛り込んだ「豊島区地域保健福祉計画」の改定に反映させるための基礎資料として活用することを目的に実施しました。

2. 調査方法

- (1) 調査対象 豊島区内在住の20歳以上75歳未満の区民
- (2) 対象数 3,000人
- (3) 抽出方法 単純無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送配布－郵送回収
- (5) 調査期間 平成22年6月14日（月）～6月30日（水）

3. 有効回収数

- (1) 配布数 3,000票
- (2) 有効回収数 1,188票
- (3) 有効回収率 39.6%

4. 調査項目

(1) 回答者の属性

- ①性別（問1）
- ②年齢（問2）
- ③居住地区（問3）
- ④居住年数（問4）
- ⑤住居の種類（問5）
- ⑥家族構成（問6）
- ⑦職業（問7）
- ⑧看護や介護を必要とする家族の有無（問8）
- ⑨看護や介護を必要とする家族の続柄・年齢（問8－1）
- ⑩看護や介護が必要な理由（問8－2）
- ⑪回答者の健康状態（問9）
- ⑫健康のため積極的に身体を動かすこと（問10）
- ⑬健康のために実施していること（問10－1）
- ⑭充実感・生きがい（問11）

(2) 居住継続意向や地域活動等について

- ①居住継続意向 (問12)
- ②日常生活の中で困ったときに助けてもらえる人 (問13)
- ③地域活動・ボランティア活動の参加状況 (問14)
- ④地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由 (問14-1)
- ⑤今後参加したい地域活動やボランティア活動 (問15)
- ⑥重要度が高いと考える地域活動 (問16①)
- ⑦参加したことがある地域活動 (問16②)
- ⑧参加したい地域活動 (問16③)
- ⑨地域活動により多くの人が参加するために必要なこと (問17)

(3) 健康や福祉に関する情報提供や相談について

- ①健康や福祉に関する情報の入手先 (問18)
- ②健康や福祉に関する情報入手のしやすさ、相談窓口への満足度 (問19)
- ③相談窓口の周知状況、利用の有無、利用意向 (問20)

(4) 福祉のまちづくりについて

- ①バリアフリー化すべき施設 (問21)
- ②日常の外出頻度 (問22)
- ③外出時に街の中や建物の中で困ったり、不便に思うこと (問22-1)
- ④まちのバリアフリーの満足度 (問23)

(5) 地域での支え合いや助け合いについて

- ①困っている人を見かけたことの有無 (問25)
- ②困っていた人の状況 (問25-1)
- ③困っている人への対処 (問25-2)
- ④心のバリアフリー推進のために必要な仕組み (問26)
- ⑤住民同士の支え合いや助け合いの必要性 (問27)
- ⑥住民同士の支え合いや助け合いで必要なこと (問27-1)
- ⑦住民同士が支え合ったり、助け合う必要がないと思う理由 (問27-2)
- ⑧コミュニティソーシャルワーカー配置の認知状況 (問28)
- ⑨コミュニティソーシャルワーカーに期待すること、求めるもの (問28-1)

(6) 地域保健福祉全般について

- ①地域で困っていること、解決すべき課題 (問29)
- ②住民と行政の役割分担のあり方 (問30)
- ③「地域保健福祉計画」の認知状況 (問31)
- ④地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと (問32)

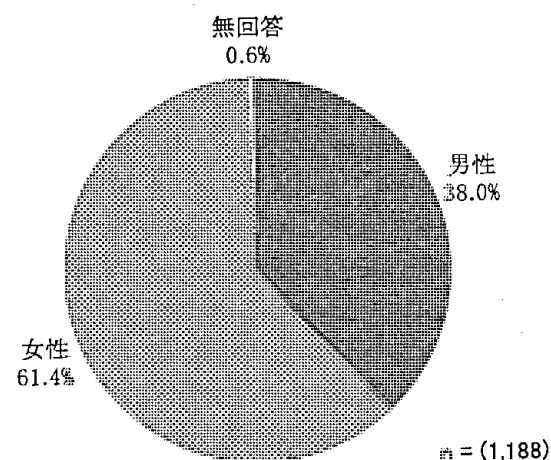
5. 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分率で計算し、小数点以下第2位を四捨五入して計算した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として計算した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。
- (7) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (8) 表中に上下二段で数値が表示されている場合、上段が回答数、下段が回答割合(%)を示している。
- (9) 表中の網掛けは、回答者の割合が比較的高い選択肢を示している。
- (10) 節ごとに、本アンケート調査結果から得られた「地域保健福祉計画改定に向けた課題」を示している。

第2章 回答者の属性

1 性別

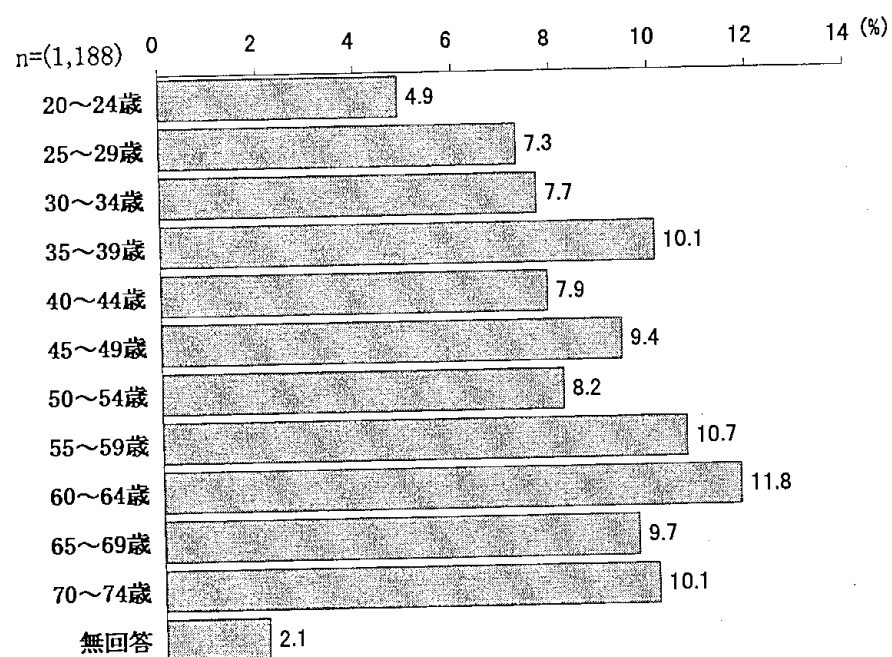
問1 性別を選んでください。(○は1つのみ)



性別をみると、「女性」が61.4%、「男性」が38.0%となっています。

2 年齢

問2 あなたの年齢は何歳ですか。6月1日現在の満年齢でご記入ください。

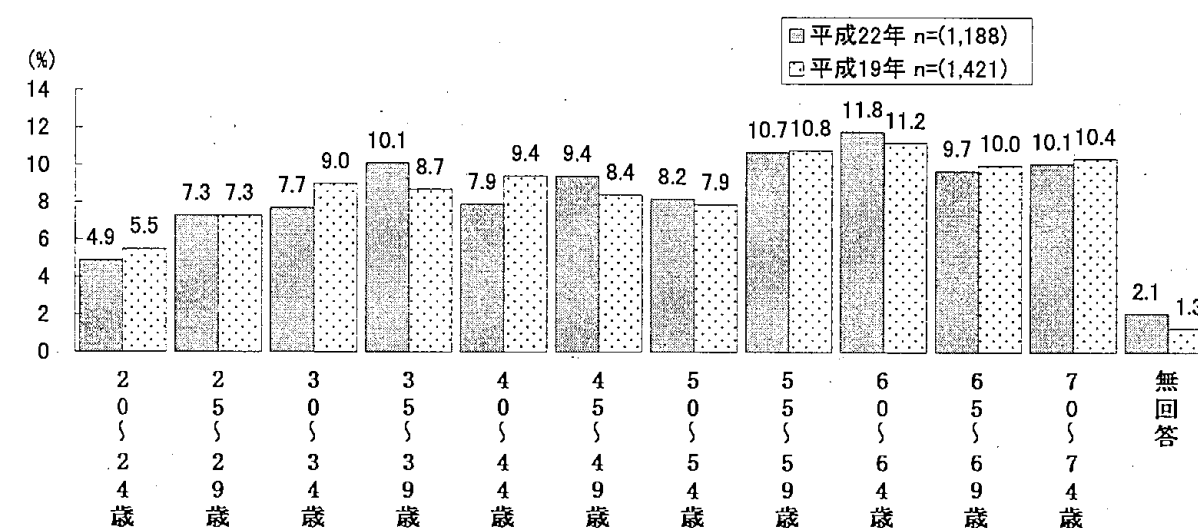


年齢をみると、「60～64歳」が11.8%で最も多く、次いで「55～59歳」が10.7%、「35～39歳」と「70～74歳」がともに10.1%となっています。
平成19年調査と比較すると、ほぼ同様の年齢区分となっています。

性別 年齢

	調査数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	無回答	平均(歳)
全体	1188	58	87	92	120	94	112	98	127	140	115	120	25	49.54
男性	452	24	31	34	47	33	38	34	44	59	43	59	6	50.28
女性	729	34	56	58	73	60	74	64	83	81	71	61	14	49.06
	100.0	4.7	7.7	8.0	10.0	8.2	10.2	8.8	11.4	11.1	9.7	8.4	1.9	

《参考》平成19年調査との比較 年齢



3 地区別でみると、西部地区で「60～64歳」が13.7%と多くなっています。

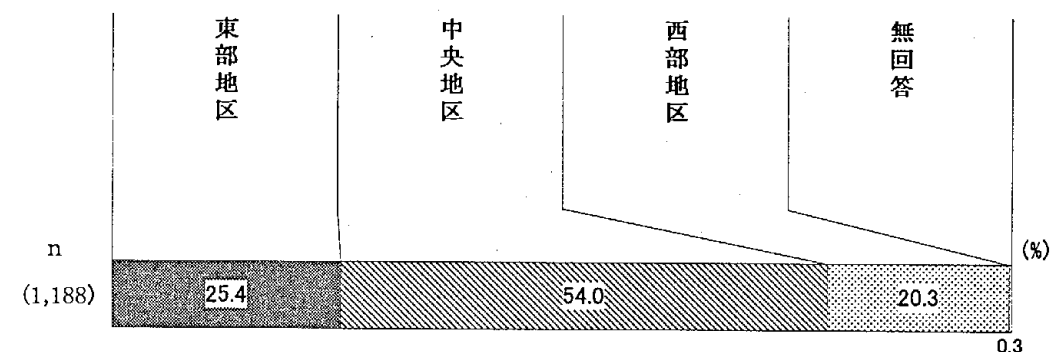
8 地区別でみると、東部地区1で「60～64歳」が15.8%、中央地区2で「55～59歳」「65～69歳」がそれぞれ14.5%、14.0%、中央地区3で「70～74歳」が14.2%と、多くなっています。

地区別 年 齢

	調査数	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	無回答	平均(歳)
全 体	1188	58	87	92	120	94	112	98	127	140	115	120	25	49.54
	100.0	4.9	7.3	7.7	10.1	7.9	9.4	8.2	10.7	11.8	9.7	10.1	2.1	
東部地区	302	14	28	18	36	15	29	33	30	39	21	34	5	49.39
	100.0	4.6	9.3	6.0	11.9	5.0	9.6	10.9	9.9	12.9	7.0	11.3	1.7	
中央地区	642	35	45	50	62	62	55	44	74	67	71	64	13	49.46
	100.0	5.5	7.0	7.8	9.7	9.7	8.6	6.9	11.5	10.4	11.1	10.0	2.0	
西部地区	241	9	14	24	22	17	28	21	23	33	23	21	6	49.82
	100.0	3.7	5.8	10.0	9.1	7.1	11.6	8.7	9.5	13.7	9.5	8.7	2.5	
東部地区1	152	7	12	9	16	8	13	15	16	24	14	18	-	50.85
	100.0	4.6	7.9	5.9	10.5	5.3	8.6	9.9	10.5	15.8	9.2	11.8	-	
東部地区2	150	7	16	9	20	7	16	18	14	15	7	16	5	47.86
	100.0	4.7	10.7	6.0	13.3	4.7	10.7	12.0	9.3	10.0	4.7	10.7	3.3	
中央地区1	188	11	9	19	22	16	20	11	19	22	20	15	4	48.77
	100.0	5.9	4.8	10.1	11.7	8.5	10.6	5.9	10.1	11.7	10.6	8.0	2.1	
中央地区2	179	7	15	11	14	22	9	15	26	12	25	19	4	50.43
	100.0	3.9	8.4	6.1	7.8	12.3	5.0	8.4	14.5	6.7	14.0	10.6	2.2	
中央地区3	134	4	14	12	13	12	12	9	12	14	11	19	2	49.43
	100.0	3.0	10.4	9.0	9.7	9.0	9.0	6.7	9.0	10.4	8.2	14.2	1.5	
中央地区4	141	13	7	8	13	12	14	9	17	19	15	11	3	49.18
	100.0	9.2	5.0	5.7	9.2	8.5	9.9	6.4	12.1	13.5	10.6	7.8	2.1	
西部地区1	117	3	7	14	10	8	11	11	10	16	13	11	3	50.33
	100.0	2.6	6.0	12.0	8.5	6.8	9.4	9.4	8.5	13.7	11.1	9.4	2.6	
西部地区2	124	6	7	10	12	9	17	10	13	17	10	10	3	49.33
	100.0	4.8	5.6	8.1	9.7	7.3	13.7	8.1	10.5	13.7	8.1	8.1	2.4	

3 居住地区

問3 お住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つのみ)

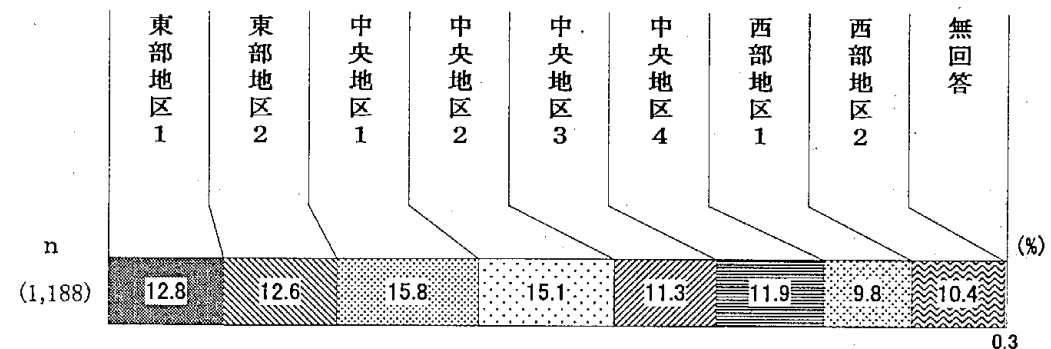


【地区の区分】

東部地区：駒込1～7丁目、巣鴨1～5丁目、西巣鴨1～4丁目、北大塚1・2丁目、南大塚1～3丁目

中央地区：北大塚3丁目、上池袋1～4丁目、東池袋1～5丁目、南池袋1～4丁目、西池袋1～5丁目、池袋1～4丁目、池袋本町1～4丁目、雑司が谷1～3丁目、高田1～3丁目、目白1～5丁目

西部地区：南長崎1～6丁目、長崎1～6丁目、千早1～4丁目、要町1～3丁目、高松1～3丁目、千川1・2丁目



【地区の区分】

東部地区1：駒込1～7丁目 巣鴨1・2丁目 南大塚1～3丁目

東部地区2：巣鴨3～5丁目 西巣鴨1～4丁目 北大塚1・2丁目

中央地区1：北大塚3丁目 上池袋1～4丁目 東池袋1～5丁目

中央地区2：南池袋1～4丁目 高田1～3丁目 雑司が谷1～3丁目 目白1・2丁目

中央地区3：西池袋1～5丁目 池袋3丁目 目白3～5丁目

中央地区4：池袋1・2・4丁目 池袋本町1～4丁目

西部地区1：千早1～4丁目 要町1～3丁目 長崎1丁目 高松1～3丁目 千川1・2丁目

西部地区2：長崎2～6丁目 南長崎1～6丁目

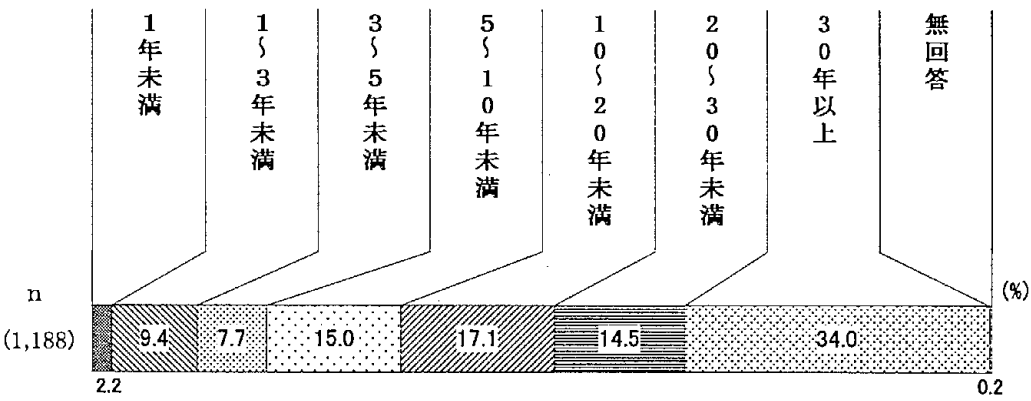
住まいを尋ねたところ、「中央地区」が54.0%、「東部地区」が25.4%、「西部地区」が20.3%となっています。また、8区分でみると、地区は全体に分散しています。

年齢別 居住地域

	調査数	東部地区	中央地区	西部地区	無回答
全 体	1188 100.0	302 25.4	642 54.0	241 20.3	3 0.3
20～24歳	58 100.0	14 24.1	35 60.3	9 15.5	-
25～29歳	87 100.0	28 32.2	45 51.7	14 16.1	-
30～34歳	92 100.0	18 19.6	50 54.3	24 26.1	-
35～39歳	120 100.0	36 30.0	62 51.7	22 18.3	-
40～44歳	94 100.0	15 16.0	62 66.0	17 18.1	-
45～49歳	112 100.0	29 25.9	55 49.1	28 25.0	-
50～54歳	98 100.0	33 33.7	44 44.9	21 21.4	-
55～59歳	127 100.0	30 23.6	74 58.3	23 18.1	-
60～64歳	140 100.0	39 27.9	67 47.9	33 23.6	1 0.7
65～69歳	115 100.0	21 18.3	71 61.7	23 20.0	-
70～74歳	120 100.0	34 28.3	64 53.3	21 17.5	1 0.8

4 居住年数

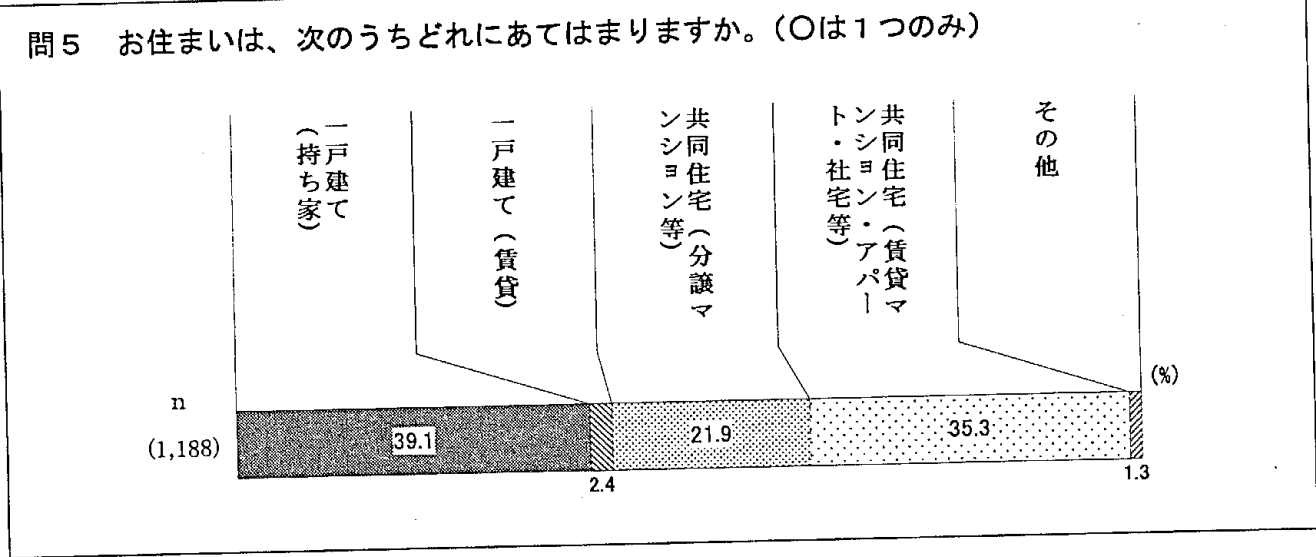
問4 豊島区に住んで、通算どのくらいになりますか。(○は1つのみ)



居住年数を尋ねたところ、「30年以上」が34.0%で最も多く、次いで「10～20年未満」が17.1%、「5～10年未満」が15.0%となっています。

	調査数	東部地区1	東部地区2	中央地区1	中央地区2	中央地区3	中央地区4	西部地区1	西部地区2	無回答
全 体	1188 100.0	152 12.8	150 12.6	188 15.8	179 15.1	134 11.3	141 11.9	117 9.8	124 10.4	3 0.3
20～24歳	58 100.0	7 12.1	7 12.1	11 19.0	7 12.1	4 6.9	13 22.4	3 5.2	6 10.3	-
25～29歳	87 100.0	12 13.8	16 18.4	9 10.3	15 17.2	14 16.1	7 8.0	7 8.0	7 8.0	-
30～34歳	92 100.0	9 9.8	9 9.8	19 20.7	11 12.0	12 13.0	8 8.7	14 15.2	10 10.9	-
35～39歳	120 100.0	16 13.3	20 16.7	22 18.3	14 11.7	13 10.8	13 10.8	10 8.3	12 10.0	-
40～44歳	94 100.0	8 8.5	7 7.4	16 17.0	22 23.4	12 12.8	12 12.8	8 8.5	9 9.6	-
45～49歳	112 100.0	13 11.6	16 14.3	20 17.9	9 8.0	12 10.7	14 12.5	11 9.8	17 15.2	-
50～54歳	98 100.0	15 15.3	18 18.4	11 11.2	15 15.3	9 9.2	9 9.2	11 11.2	10 10.2	-
55～59歳	127 100.0	16 12.6	14 11.0	19 15.0	26 20.5	12 9.4	17 13.4	10 7.9	13 10.2	-
60～64歳	140 100.0	24 17.1	15 10.7	22 15.7	12 8.6	14 10.0	19 13.6	16 11.4	17 12.1	1 0.7
65～69歳	115 100.0	14 12.2	7 6.1	20 17.4	25 21.7	11 9.6	15 13.0	13 11.3	10 8.7	-
70～74歳	120 100.0	18 15.0	16 13.3	15 12.5	19 15.8	19 15.8	11 9.2	11 9.2	10 8.3	1 0.8

5 住居の種類



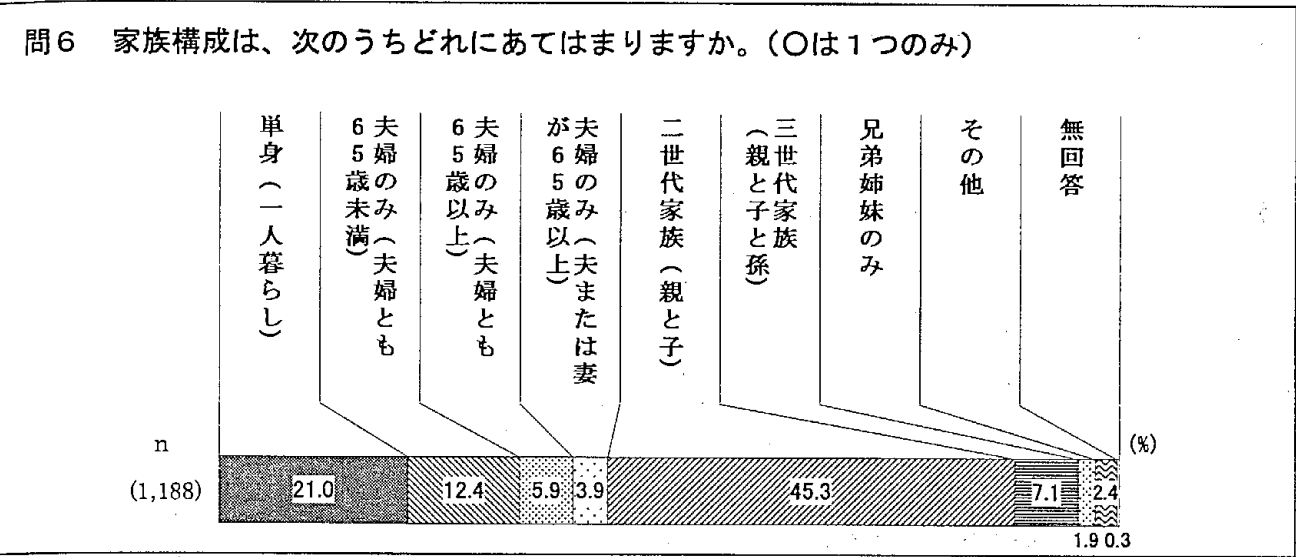
「一戸建て(持ち家)」が39.1%で最も多く、次いで「共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)」が35.3%、「共同住宅(分譲マンション等)」が21.9%となっています。

年齢別でみると、20～39歳では共同住宅が多く、50歳以上では一戸建て(持ち家)が多くなっています。

性別・年齢別 住居の種類

	調査数	一戸建て(持ち家)	一戸建て(賃貸)	共同住宅(分譲マンション等)	共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)	その他
全体	1188	465	28	260	419	16
	100.0	39.1	2.4	21.9	35.3	1.3
男性	452	175	13	89	169	6
	100.0	38.7	2.9	19.7	37.4	1.3
女性	729	287	15	170	247	10
	100.0	39.4	2.1	23.3	33.9	1.4
20～24歳	58	19	1	7	30	1
	100.0	32.8	1.7	12.1	51.7	1.7
25～29歳	87	19	3	11	54	-
	100.0	21.8	3.4	12.6	62.1	-
30～34歳	92	21	3	15	53	-
	100.0	22.8	3.3	16.3	57.6	-
35～39歳	120	31	6	30	52	1
	100.0	25.8	5.0	25.0	43.3	0.8
40～44歳	94	30	1	32	31	-
	100.0	31.9	1.1	34.0	33.0	-
45～49歳	112	36	2	37	36	1
	100.0	32.1	1.8	33.0	32.1	0.9
50～54歳	98	49	1	29	18	1
	100.0	50.0	1.0	29.6	18.4	1.0
55～59歳	127	63	2	27	31	4
	100.0	49.6	1.6	21.3	24.4	3.1
60～64歳	140	60	5	26	44	5
	100.0	42.9	3.6	18.6	31.4	3.6
65～69歳	115	57	3	26	29	-
	100.0	49.6	2.6	22.6	25.2	-
70～74歳	120	66	1	17	34	2
	100.0	55.0	0.8	14.2	28.3	1.7

6 家族構成



家族構成をみると、「二世世代家族(親と子)」が45.3%で最も多く、次いで「単身(一人暮らし)」が21.0%、「夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)」が12.4%となっています。

性別でみると、男性で単身が多い傾向があり、これは独身あるいは単身赴任の男性が仕事の兼ね合いで居住している場合が多いためではないかと予想されます。

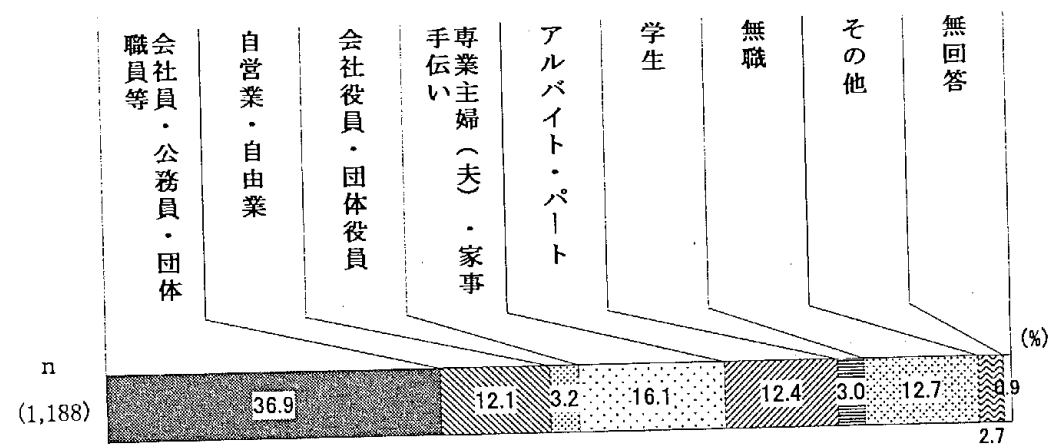
年齢別でみると、25～34歳では「単身(一人暮らし)」、35～69歳では「二世世代家族(親と子)」、65歳以上では「夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)」が多い傾向があります。

性別・年齢別 家族構成

	調査数	単身(一人暮らし)	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	二世世代家族(親と子)	三世世代家族(親と子と孫)	兄弟姉妹のみ	その他	無回答
全体	1188	249	147	70	46	538	84	22	29	3
	100.0	21.0	12.4	5.9	3.9	45.3	7.1	1.9	2.4	0.3
男性	452	105	62	28	20	198	30	6	3	-
	100.0	23.2	13.7	6.2	4.4	43.8	6.6	1.3	0.7	-
女性	729	141	85	42	25	339	53	16	25	3
	100.0	19.3	11.7	5.8	3.4	46.5	7.3	2.2	3.4	0.4
20～24歳	58	8	3	-	-	36	5	2	3	1
	100.0	13.8	5.2	-	-	62.1	8.6	3.4	5.2	1.7
25～29歳	87	31	10	-	1	29	5	5	5	1
	100.0	35.6	11.5	-	1.1	33.3	5.7	5.7	5.7	1.1
30～34歳	92	25	19	-	-	43	2	-	3	-
	100.0	27.2	20.7	-	-	46.7	2.2	-	3.3	-
35～39歳	120	17	22	-	1	70	7	-	3	-
	100.0	14.2	18.3	-	0.8	58.3	5.8	-	2.5	-
40～44歳	94	18	10	-	-	54	9	1	2	-
	100.0	19.1	10.6	-	-	57.4	9.6	1.1	2.1	-
45～49歳	112	24	20	-	-	53	10	2	3	-
	100.0	21.4	17.9	-	-	47.3	8.9	1.8	2.7	-
50～54歳	98	13	14	-	2	55	13	-	1	-
	100.0	13.3	14.3	-	2.0	56.1	13.3	-	1.0	-
55～59歳	127	23	21	-	1	61	11	7	3	-
	100.0	18.1	16.5	-	0.8	48.0	8.7	5.5	2.4	-
60～64歳	140	25	26	-	12	66	10	-	1	-
	100.0	17.9	18.6	-	8.6	47.1	7.1	-	0.7	-
65～69歳	115	25	-	28	17	34	6	3	2	-
	100.0	21.7	-	24.3	14.8	29.6	5.2	2.6	1.7	-
70～74歳	120	35	-	38	11	30	3	1	1	1
	100.0	29.2	-	31.7	9.2	25.0	2.5	0.8	0.8	0.8

7 職 業

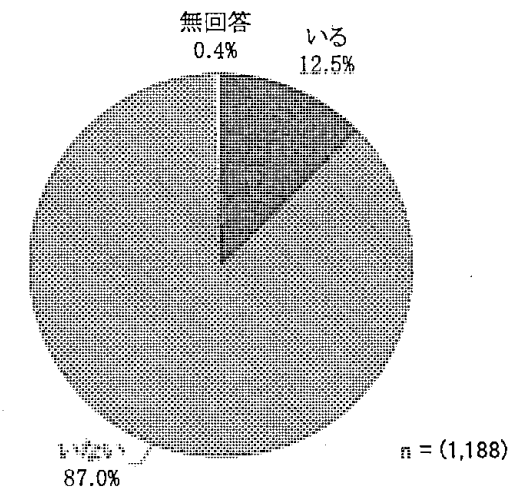
問7 ご職業は、次のうちどれにあてはまりますか。(〇は1つのみ)



職業をみると、「会社員・公務員・団体職員等」が36.9%で最も多く、次いで「専業主婦(夫)・家事手伝い」が16.1%、「無職」が12.7%となっています。

8 看護や介護を必要とする家族の有無

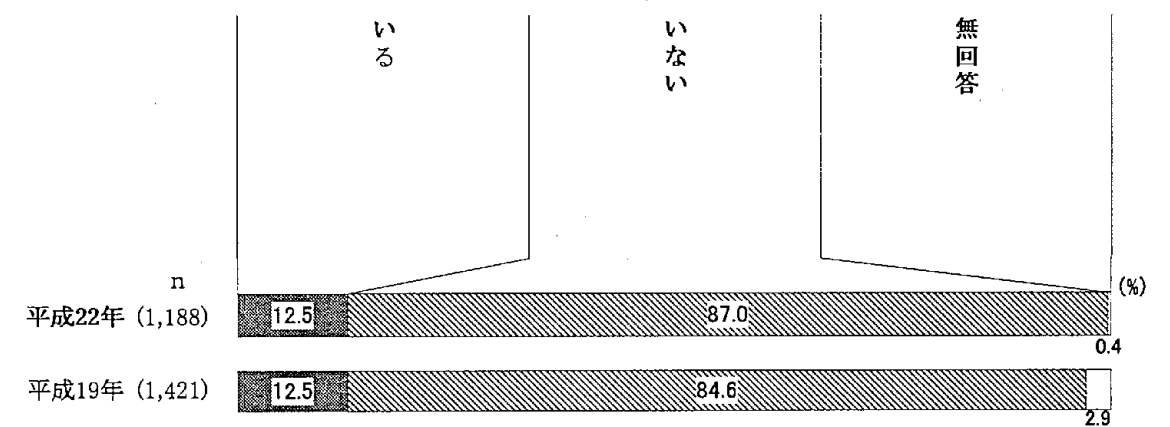
問8 ご家族に看護や介護を必要とする方はいますか。(〇は1つのみ)



家族に介護や看護を必要とする人がいるか尋ねたところ、「いない」が87.0%、「いる」が12.5%となっています。

平成19年度と比較しても大きな変化はみられません。

《参考》平成19年調査との比較 看護や介護を必要とする家族の有無



年齢別でみると、55～64歳で「いる」が約2割と多い傾向にあります。

性別・年齢別 看護や介護を必要とする家族の有無

	調査数	いる	いない	無回答
全 体	1188	149	1034	5
	100.0	12.5	87.0	0.4
男性	452	52	396	4
	100.0	11.5	87.6	0.9
女性	729	96	632	1
	100.0	13.2	86.7	0.1
20～24歳	58	3	55	-
	100.0	5.2	94.8	-
25～29歳	87	3	84	-
	100.0	3.4	96.6	-
30～34歳	92	5	86	1
	100.0	5.4	93.5	1.1
35～39歳	120	9	111	-
	100.0	7.5	92.5	-
40～44歳	94	9	85	-
	100.0	9.6	90.4	-
45～49歳	112	14	97	1
	100.0	12.5	86.6	0.9
50～54歳	98	16	82	-
	100.0	16.3	83.7	-
55～59歳	127	26	101	-
	100.0	20.5	79.5	-
60～64歳	140	28	110	2
	100.0	20.0	78.6	1.4
65～69歳	115	16	99	-
	100.0	13.9	86.1	-
70～74歳	120	14	106	-
	100.0	11.7	88.3	-

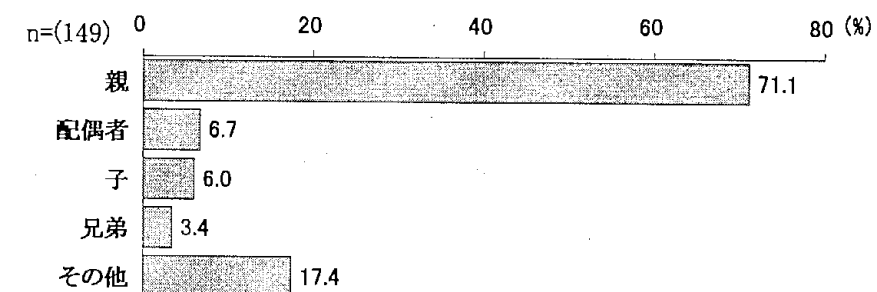
9 看護や介護を必要とする家族の続柄・年齢

(問8で「1. いる」とお答えの方に)

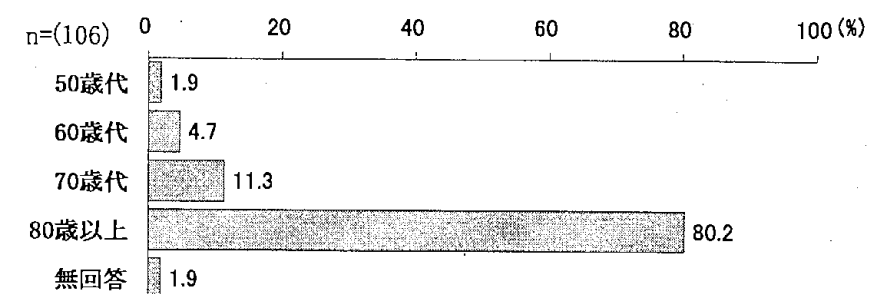
問8-1 看護や介護が必要な方は、あなたからみて、どなたですか。

(○はあてはまるものすべて)

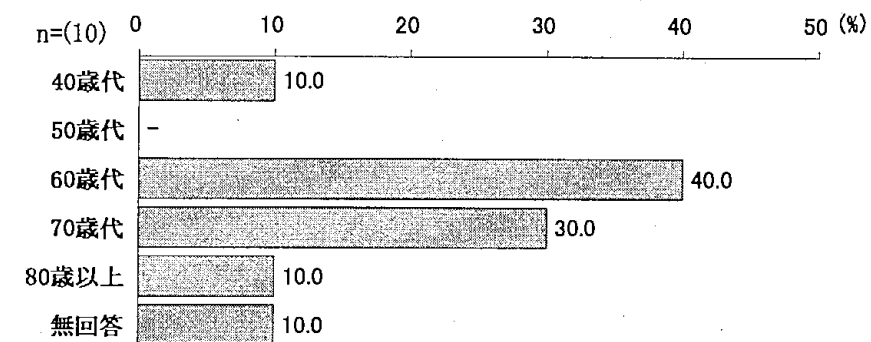
その方の年齢も合わせてご記入ください。



看護や介護を必要とする家族の年齢 (親)



看護や介護を必要とする家族の年齢 (配偶者)

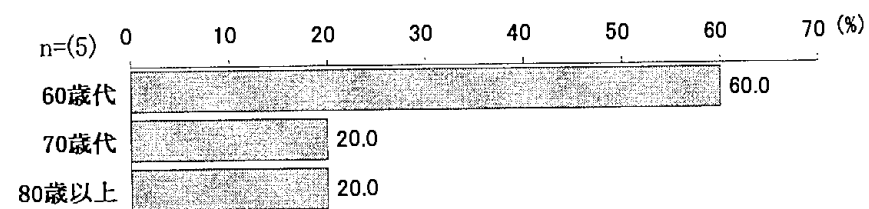


介護や看護を必要とする家族は、「親」が71.1%で最も多くなっています。

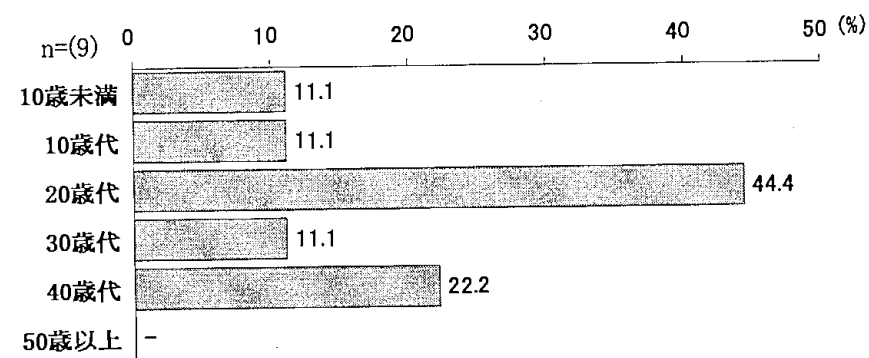
親の年齢は、「80歳以上」が80.2%で最も多く、次いで「70歳代」が11.3%となっています。

(※) その他の年齢は、基数が少ないため、コメントは省略。

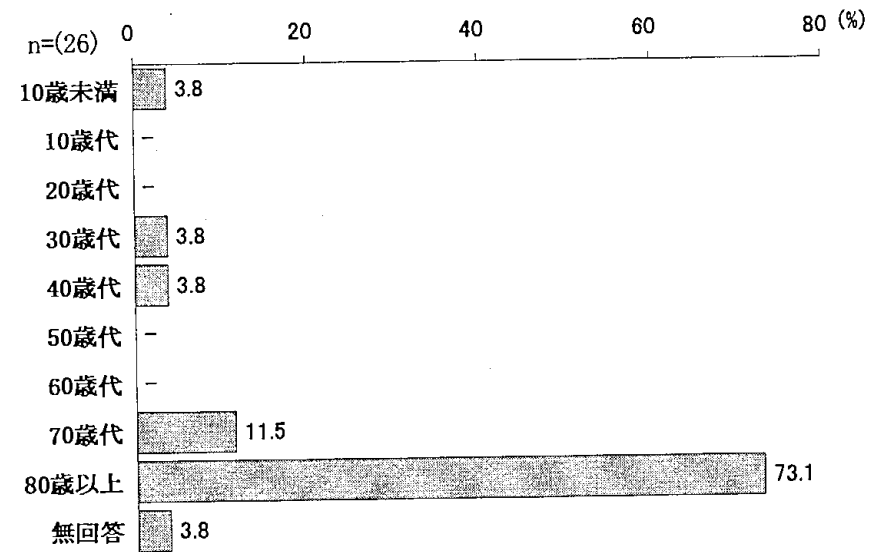
看護や介護が必要とする家族の年齢（兄弟）



看護や介護を必要とする家族の年齢（子）



看護や介護を必要とする家族の年齢（その他）

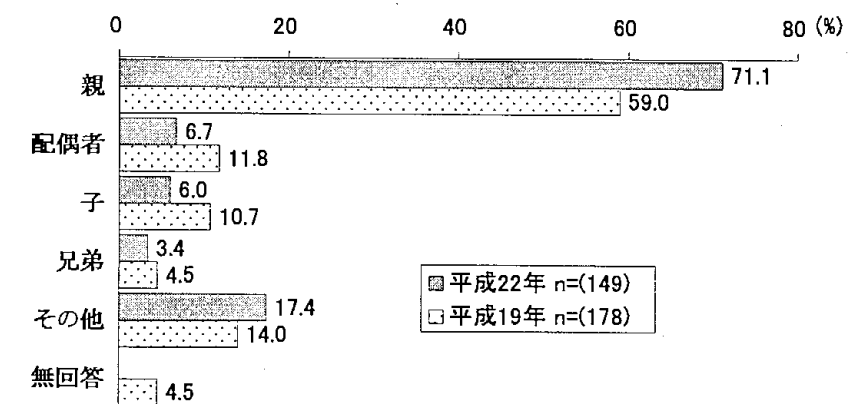


平成19年調査と比較すると、「親」が前回の59.0%から今回71.1%と12.1ポイント多くなっています。また、配偶者は11.8%から6.7%、子は10.7%から6.0%へと、それぞれ約5ポイント低くなっています。

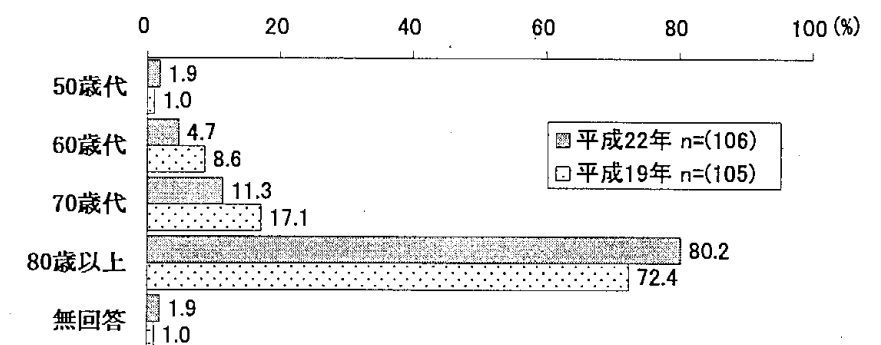
親の年齢では、80歳以上が、平成19年の72.4%から今回80.2%へと7.8ポイント多くなっています。

(※) その他の年齢は、基数が少ないため、コメントは省略。

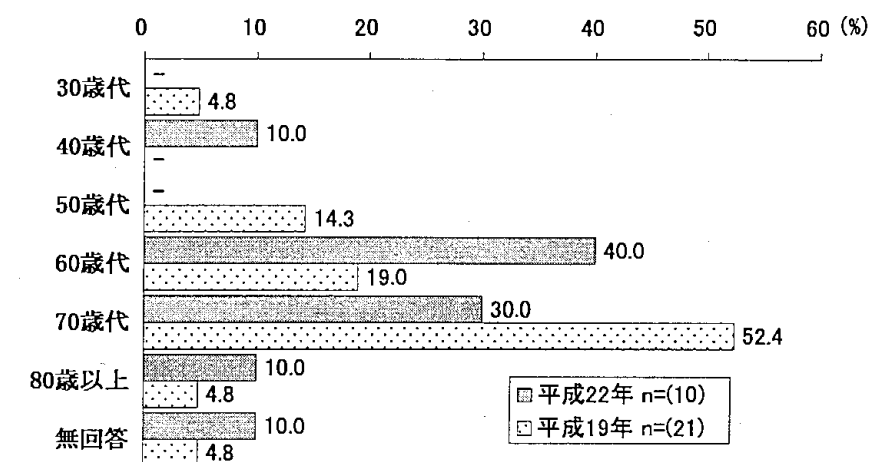
《参考》平成19年調査との比較 看護や介護を必要とする家族の続柄



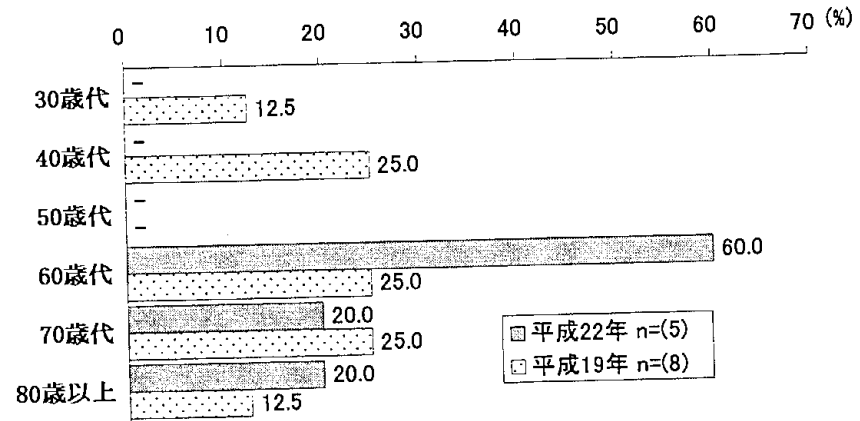
《参考》平成19年調査との比較 看護や介護を必要とする家族の年齢（親）



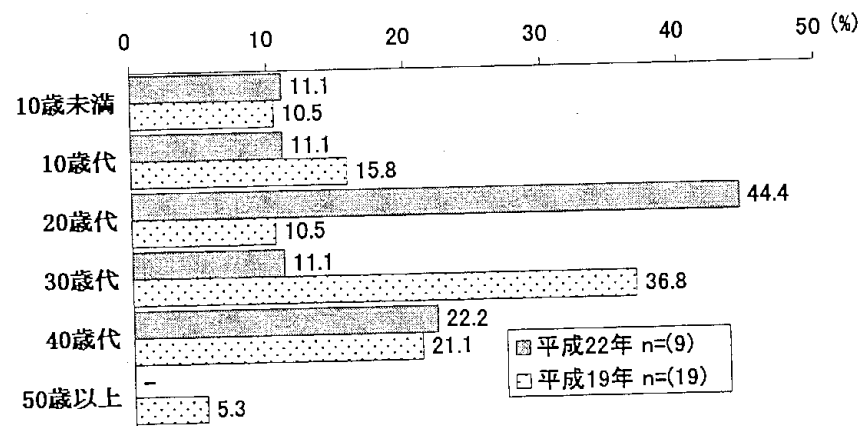
《参考》平成19年調査との比較 看護や介護を必要とする家族の年齢（配偶者）



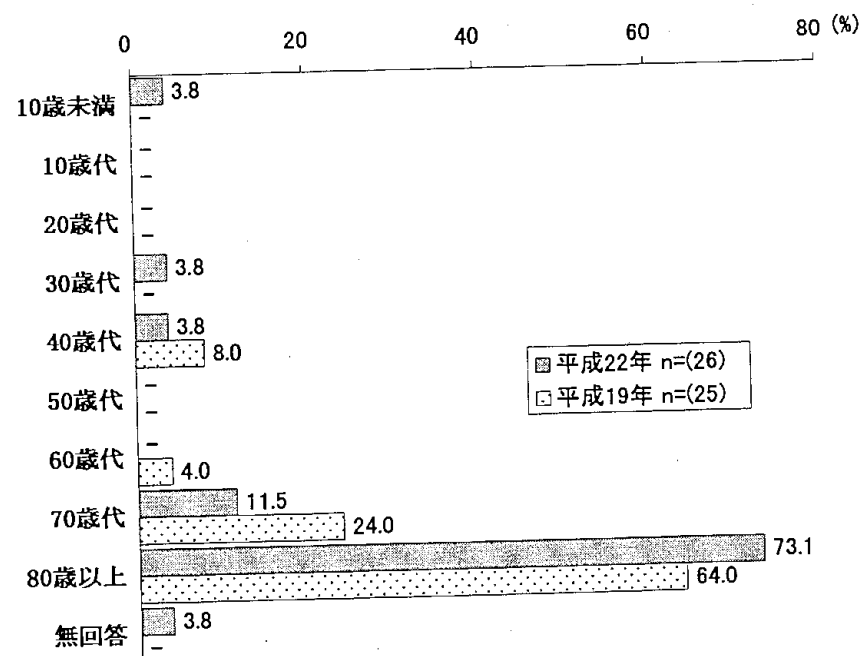
《参考》平成19年調査との比較 看護や介護を必要とする家族の年齢（兄弟）



《参考》平成19年調査との比較 看護や介護を必要とする家族の年齢（子）



《参考》平成19年調査との比較 看護や介護を必要とする家族の年齢（その他）

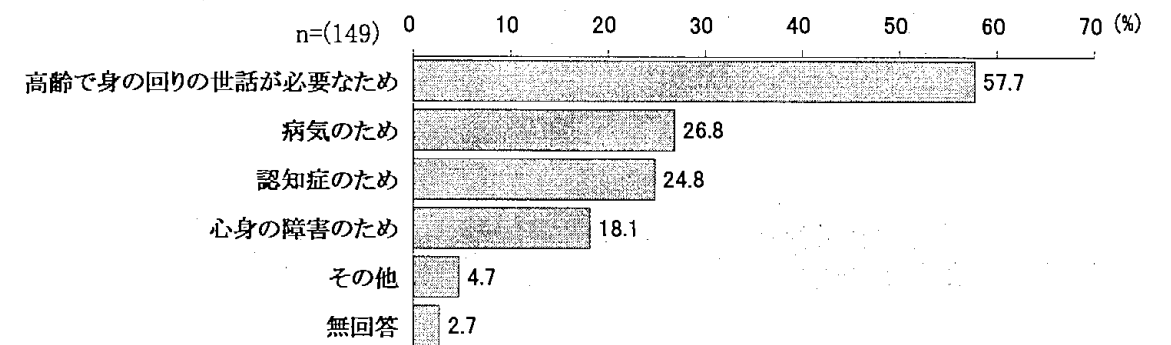


10 看護や介護が必要な理由

（問8で「1. いる」とお答えの方に）

問8-2 看護や介護が必要な理由は、次のうちどれにあてはまりますか。

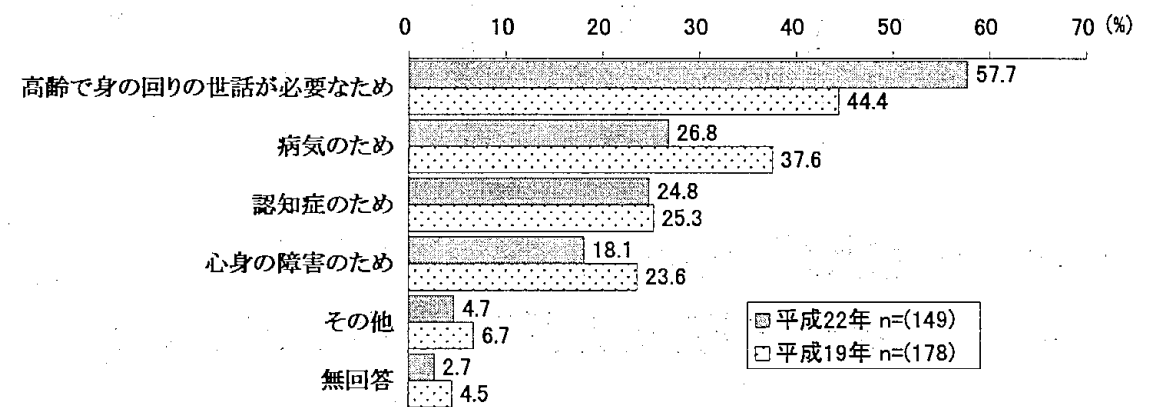
（○はあてはまるものすべて）



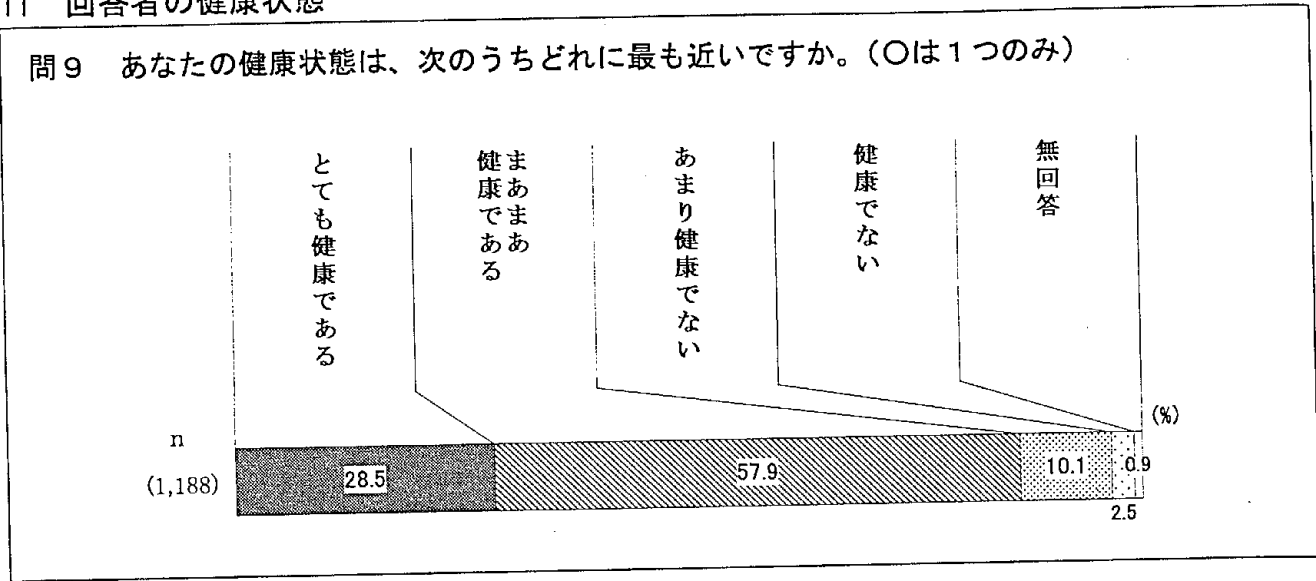
看護や介護が必要な理由を尋ねたところ、「高齢で身の回りの世話が必要なため」が57.7%で最も多く、次いで「病気のため」が26.8%、「認知症のため」が24.8%となっています。

平成19年調査と比較すると、「高齢で身の回りの世話が必要なため」が平成19年の44.4%から今回57.7%と13.3ポイント多くなっています。また、「病気のため」が37.6%から26.8%と10.8ポイント低くなっています。また、「心身の障害のため」も23.6%から18.1%と、5.5ポイント低くなっています。

《参考》平成19年調査との比較 看護や介護が必要な理由



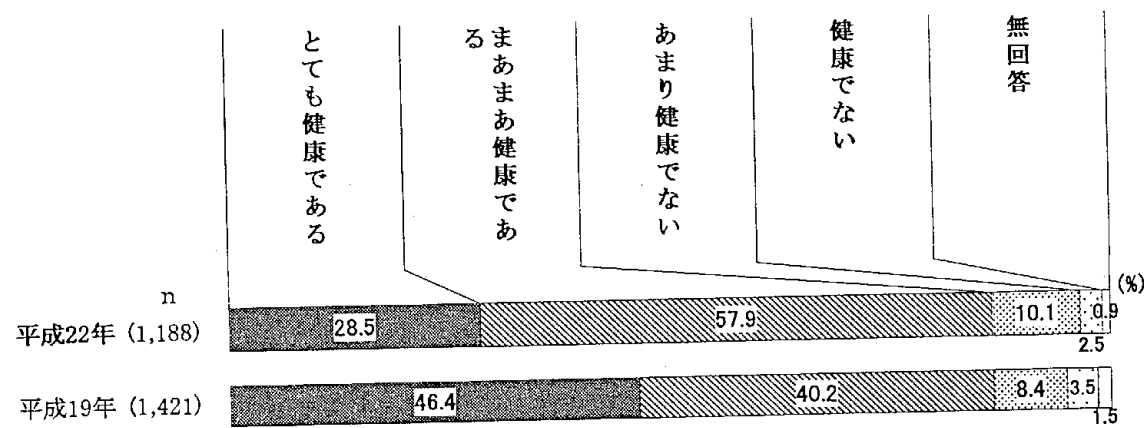
11 回答者の健康状態



健康状態を尋ねたところ、「まあまあ健康である」が57.9%で最も多く、次いで「とても健康である」が28.5%、「あまり健康でない」が10.1%となっています。

平成19年調査と比較すると、「とても健康である」が平成19年の46.4%から今回28.5%と17.9ポイント低く、「まあまあ健康である」が40.2%から57.9%と17.7ポイント多くなっています。

《参考》平成19年調査との比較 回答者の健康状態



※ 平成19年は、項目が「とても健康である」が「健康である」、「まあまあ健康である」が「まあ健康である」。

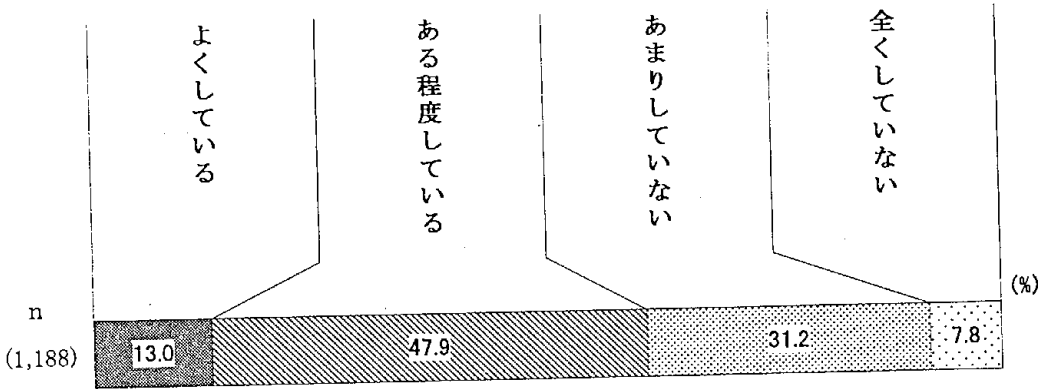
健康としている人（「とても健康である」と「まあまあ健康である」の合計）を年齢別にみると、若いほど健康とする人の割合が多く、20～24歳（89.7%）と70～74歳（75.9%）では13.8%の差がみられました。

性別・年齢別 回答者の健康状態

	調査数	とても健康である	まあまあ健康である	あまり健康でない	健康でない	無回答
全 体	1188	339	688	120	30	11
	100.0	28.5	57.9	10.1	2.5	0.9
男性	452	119	279	42	10	2
	100.0	26.3	61.7	9.3	2.2	0.4
女性	729	220	402	78	20	9
	100.0	30.2	55.1	10.7	2.7	1.2
20～24歳	58	32	20	3	2	1
	100.0	55.2	34.5	5.2	3.4	1.7
25～29歳	87	46	35	6	-	-
	100.0	52.9	40.2	6.9	-	-
30～34歳	92	46	40	6	-	-
	100.0	50.0	43.5	6.5	-	-
35～39歳	120	52	59	7	1	1
	100.0	43.3	49.2	5.8	0.8	0.8
40～44歳	94	32	58	1	2	1
	100.0	34.0	61.7	1.1	2.1	1.1
45～49歳	112	36	65	9	2	-
	100.0	32.1	58.0	8.0	1.8	-
50～54歳	98	19	63	10	4	2
	100.0	19.4	64.3	10.2	4.1	2.0
55～59歳	127	29	81	15	2	-
	100.0	22.8	63.8	11.8	1.6	-
60～64歳	140	16	96	21	4	3
	100.0	11.4	68.6	15.0	2.9	2.1
65～69歳	115	12	79	15	8	1
	100.0	10.4	68.7	13.0	7.0	0.9
70～74歳	120	14	77	24	4	1
	100.0	11.7	64.2	20.0	3.3	0.8

12 健康のため積極的に身体を動かすこと

問10 あなたは、日頃から日常生活の中で、健康のために積極的に身体を動かすことをしていますか。(〇は1つのみ)



健康のために積極的に身体を動かしているか尋ねたところ、「ある程度している」が47.9%、「あまりしていない」が31.2%、「よくしている」が13.0%となっています。

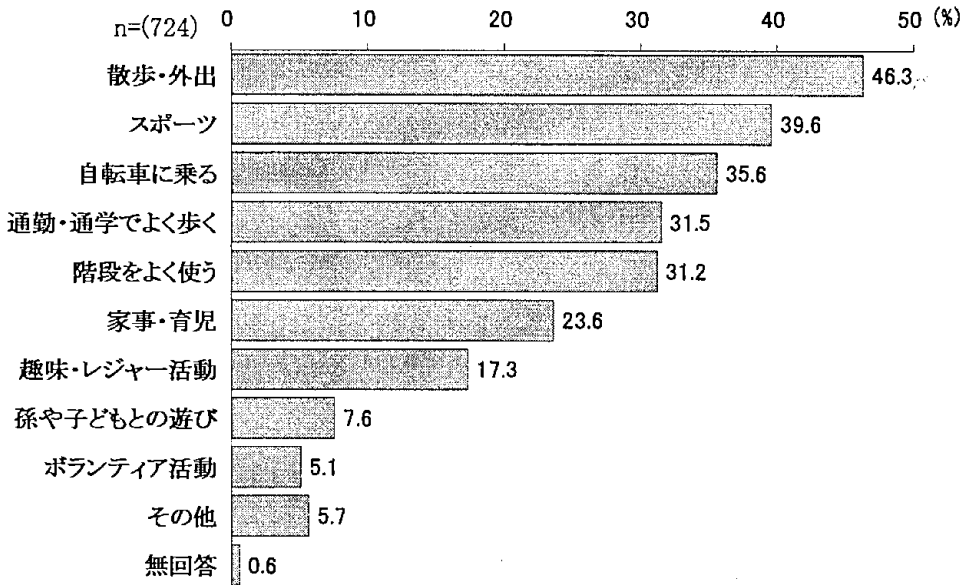
年齢別でみると、「よくしている」という人は、40歳代まで上下していますが、50～54歳から年齢に比例してやや増えていく傾向があります。

性別・年齢別 健康のため積極的に身体を動かすこと

	調査数	よくしている	ある程度している	あまりしていない	全くしていない
全体	1188	155	569	371	93
	100.0	13.0	47.9	31.2	7.8
男性	452	66	201	151	34
	100.0	14.6	44.5	33.4	7.5
女性	729	89	363	218	59
	100.0	12.2	49.8	29.9	8.1
20～24歳	58	4	24	26	4
	100.0	6.9	41.4	44.8	6.9
25～29歳	87	11	38	30	8
	100.0	12.6	43.7	34.5	9.2
30～34歳	92	9	40	36	7
	100.0	9.8	43.5	39.1	7.6
35～39歳	120	5	58	42	15
	100.0	4.2	48.3	35.0	12.5
40～44歳	94	15	40	28	11
	100.0	16.0	42.6	29.8	11.7
45～49歳	112	14	41	47	10
	100.0	12.5	36.6	42.0	8.9
50～54歳	98	8	49	30	11
	100.0	8.2	50.0	30.6	11.2
55～59歳	127	17	67	36	7
	100.0	13.4	52.8	28.3	5.5
60～64歳	140	21	76	31	12
	100.0	15.0	54.3	22.1	8.6
65～69歳	115	22	63	27	3
	100.0	19.1	54.8	23.5	2.6
70～74歳	120	23	63	30	4
	100.0	19.2	52.5	25.0	3.3

13 健康のために実施していること

(問10で「1. よくしている」「2. ある程度している」とお答えの方に)
問10-1 どのようなことをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)



健康のために具体的にしていることを尋ねたところ、「散歩・外出」が46.3%、「スポーツ」が39.6%、「自転車に乗る」が35.6%となっています。

性別でみると、男性では「スポーツ」が最も多く、女性では、「散歩・外出」が最も多くなっています。

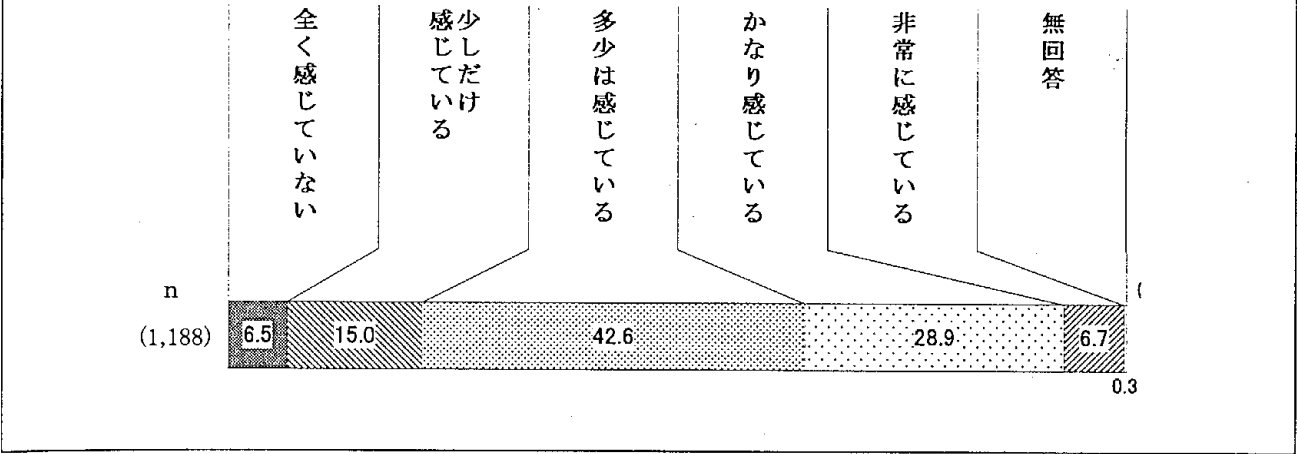
年齢別でみると、60歳以上では、「散歩・外出」が50%台半ばと多くなっています。また、25～29歳、40～44歳、55～59歳では、「スポーツ」が50%前後を占めて多くなっています。

性別・年齢別 健康のために実施していること

	調査数	散歩・外出	スポーツ	自転車に乗る	通勤・通学でよく歩く	階段をよく使う	家事・育児	趣味・レジャー活動	孫や子どもとの遊び	ボランティア活動	その他	無回答
全 体	724 100.0	335 46.3	287 39.6	258 35.6	228 31.5	226 31.2	171 23.6	125 17.3	55 7.6	37 5.1	41 5.7	4 0.6
男性	267 100.0	118 44.2	129 48.3	83 31.1	95 35.6	81 30.3	17 6.4	49 18.4	17 6.4	14 5.2	10 3.7	1 0.4
女性	452 100.0	214 47.3	156 34.5	175 38.7	132 29.2	144 31.9	154 34.1	76 16.8	38 8.4	23 5.1	29 6.4	3 0.7
20～24歳	28 100.0	8 28.6	11 39.3	11 39.3	14 50.0	7 25.0	2 7.1	3 10.7	-	-	1 3.6	-
25～29歳	49 100.0	25 51.0	25 51.0	17 34.7	21 42.9	13 26.5	10 20.4	11 22.4	6 12.2	-	1 2.0	-
30～34歳	49 100.0	18 36.7	17 34.7	12 24.5	19 38.8	7 14.3	11 22.4	8 16.3	5 10.2	2 4.1	2 4.1	-
35～39歳	63 100.0	24 38.1	25 39.7	20 31.7	18 28.6	16 25.4	19 30.2	9 14.3	11 17.5	-	3 4.8	1 1.6
40～44歳	55 100.0	16 29.1	28 50.9	18 32.7	20 36.4	13 23.6	16 29.1	7 12.7	6 10.9	1 1.8	3 5.5	-
45～49歳	55 100.0	27 49.1	22 40.0	26 47.3	28 50.9	30 54.5	13 23.6	9 16.4	1 1.8	2 3.6	1 1.8	1 1.8
50～54歳	57 100.0	20 35.1	19 33.3	21 36.8	23 40.4	17 29.8	18 31.6	7 12.3	-	3 5.3	3 5.3	-
55～59歳	84 100.0	39 46.4	40 47.6	26 31.0	36 42.9	36 42.9	18 21.4	21 25.0	4 4.8	4 4.8	6 7.1	1 1.2
60～64歳	97 100.0	53 54.6	38 39.2	41 42.3	25 25.8	25 25.8	21 21.6	16 16.5	6 6.2	5 5.2	4 4.1	-
65～69歳	85 100.0	47 55.3	26 30.6	31 36.5	13 15.3	30 35.3	19 22.4	10 11.8	10 11.8	6 7.1	6 7.1	1 1.2
70～74歳	86 100.0	48 55.8	31 36.0	30 34.9	9 10.5	28 32.6	20 23.3	19 22.1	4 4.7	10 11.6	8 9.3	-

14 充実感・生きがい

問11 あなたは、生活に充実感や生きがいを感じていますか。(○は1つのみ)



生活に充実感や生きがいを感じているか尋ねたところ、「多少は感じている」が42.6%、「かなり感じている」が28.9%、「少しだけ感じている」が15.0%、「全く感じていない」が6.5%となっています。

性別でみると、男性では「全く感じていない」が9.5%と女性の4.5%より倍以上多くなっています。

年齢別で見ると、大きな差はみられませんが、「全く感じていない」が50～54歳で9.2%、「非常に感じている」が25～29歳で13.8%と他の年齢よりやや多くなっています。

性別・年齢別 充実感・生きがい

	調査数	全く感じていない	少しだけ感じている	多少は感じている	かなり感じている	非常に感じている	無回答
全 体	1188	77	178	506	343	80	4
	100.0	6.5	15.0	42.6	28.9	6.7	0.3
男性	452	43	60	191	126	30	2
	100.0	9.5	13.3	42.3	27.9	6.6	0.4
女性	729	33	114	314	216	50	2
	100.0	4.5	15.6	43.1	29.6	6.9	0.3
20～24歳	58	4	10	23	17	4	-
	100.0	6.9	17.2	39.7	29.3	6.9	-
25～29歳	87	6	13	35	21	12	-
	100.0	6.9	14.9	40.2	24.1	13.8	-
30～34歳	92	6	16	37	29	4	-
	100.0	6.5	17.4	40.2	31.5	4.3	-
35～39歳	120	7	17	52	38	6	-
	100.0	5.8	14.2	43.3	31.7	5.0	-
40～44歳	94	6	10	39	33	6	-
	100.0	6.4	10.6	41.5	35.1	6.4	-
45～49歳	112	4	17	48	34	8	1
	100.0	3.6	15.2	42.9	30.4	7.1	0.9
50～54歳	98	9	16	44	28	1	-
	100.0	9.2	16.3	44.9	28.6	1.0	-
55～59歳	127	6	22	56	34	9	-
	100.0	4.7	17.3	44.1	26.8	7.1	-
60～64歳	140	10	17	67	35	10	1
	100.0	7.1	12.1	47.9	25.0	7.1	0.7
65～69歳	115	9	20	51	30	5	-
	100.0	7.8	17.4	44.3	26.1	4.3	-
70～74歳	120	9	13	45	42	10	1
	100.0	7.5	10.8	37.5	35.0	8.3	0.8

第3章 居住継続意向や地域活動等について

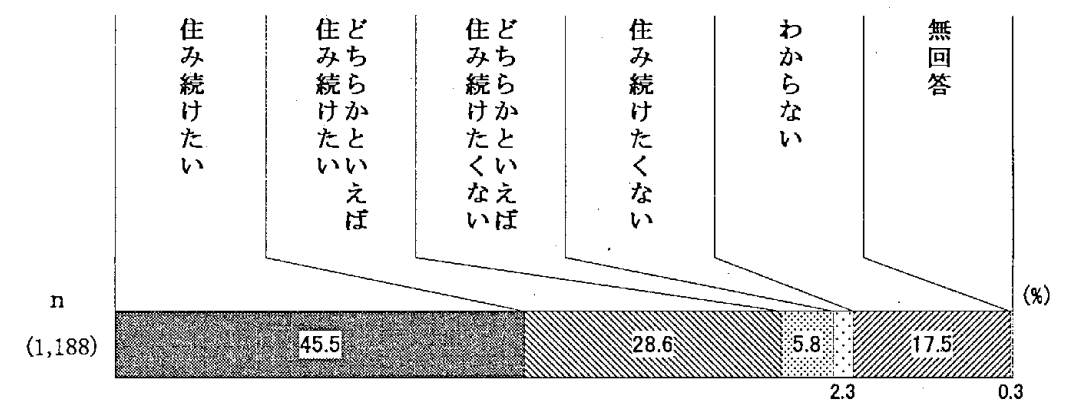
1 居住継続意向

地域保健福祉計画改定に向けた課題

□居住意向が減少していることから、若年層や中年層を中心として、定住意向を高めていくような、施策を展開していくことが求められます。

□地域のボランティアやNPO等をはじめとして、地域の人々や団体との支え合いを広めていくことが課題です。

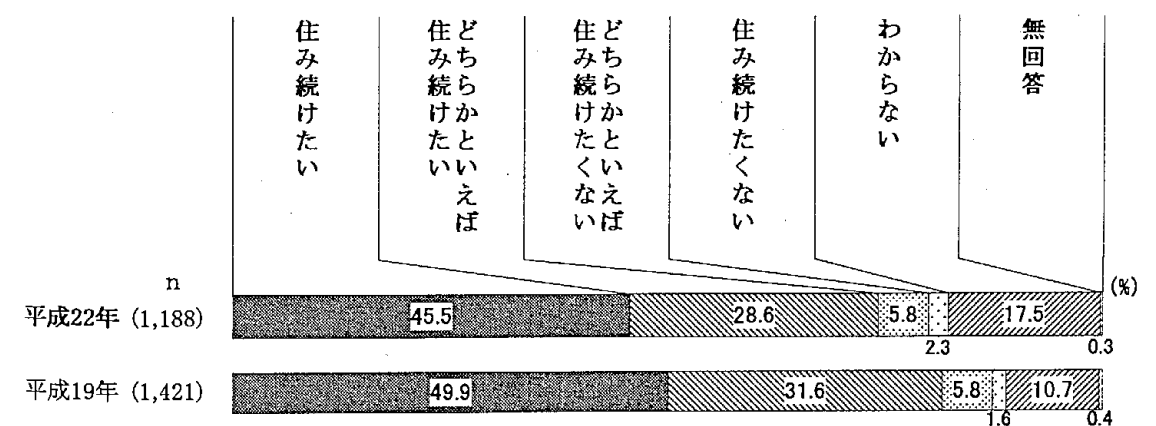
問12 これからもずっと豊島区に住み続けたいですか。(〇は1つのみ)



「住み続けたい」が45.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が28.6%、「わからない」が17.5%となっています。

平成19年調査と比較すると、「住み続けたい」は前回の49.9%から、今回は45.5%へと4.4ポイント低下しています。

《参考》平成19年調査との比較 居住継続意向



性別でみると、女性の方が「住み続けたい」の割合が多くなっています。

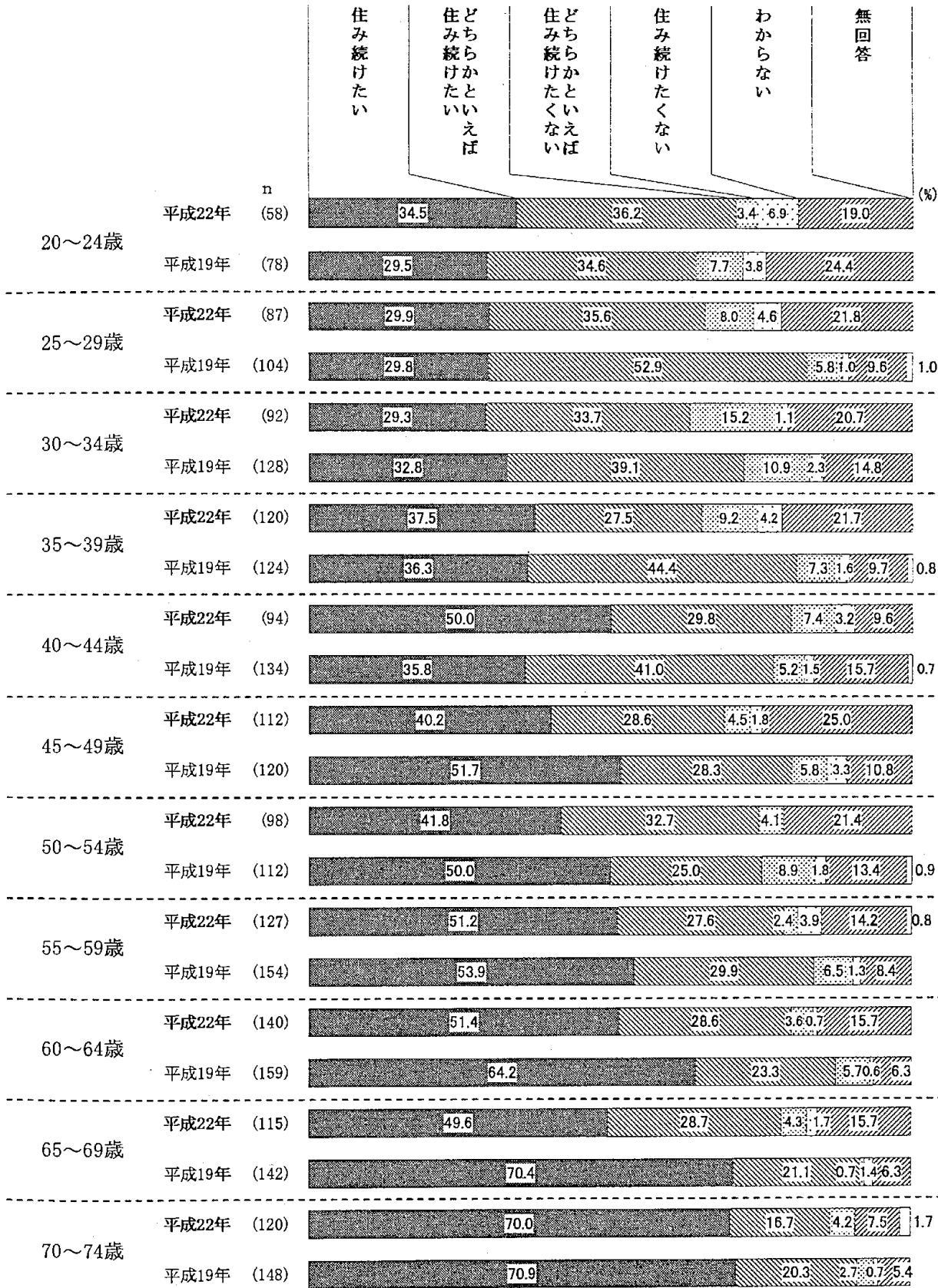
年齢別でみると、「住み続けたい」は、25～29歳、30～34歳では、それぞれ29.9%、29.3%と低くなっているほか、35～39歳、45～49歳、50～54歳でも、40%前後とやや低くなっています。一方、55歳以上では「住み続けたい」は多く、70～74歳では70.0%となっています。

性別・年齢別 居住継続意向

	調査数	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらかといえば住みたくない	住み続けたくない	わからない	無回答
全 体	1188	541	340	69	27	208	3
	100.0	45.5	28.6	5.8	2.3	17.5	0.3
男性	452	198	134	21	13	84	2
	100.0	43.8	29.6	4.6	2.9	18.6	0.4
女性	729	342	204	47	14	121	1
	100.0	46.9	28.0	6.4	1.9	16.6	0.1
20～24歳	58	20	21	2	4	11	-
	100.0	34.5	36.2	3.4	6.9	19.0	-
25～29歳	87	26	31	7	4	19	-
	100.0	29.9	35.6	8.0	4.6	21.8	-
30～34歳	92	27	31	14	1	19	-
	100.0	29.3	33.7	15.2	1.1	20.7	-
35～39歳	120	45	33	11	5	26	-
	100.0	37.5	27.5	9.2	4.2	21.7	-
40～44歳	94	47	28	7	3	9	-
	100.0	50.0	29.8	7.4	3.2	9.6	-
45～49歳	112	45	32	5	2	28	-
	100.0	40.2	28.6	4.5	1.8	25.0	-
50～54歳	98	41	32	4	-	21	-
	100.0	41.8	32.7	4.1	-	21.4	-
55～59歳	127	65	35	3	5	18	1
	100.0	51.2	27.6	2.4	3.9	14.2	0.8
60～64歳	140	72	40	5	1	22	-
	100.0	51.4	28.6	3.6	0.7	15.7	-
65～69歳	115	57	33	5	2	18	-
	100.0	49.6	28.7	4.3	1.7	15.7	-
70～74歳	120	84	20	5	-	9	2
	100.0	70.0	16.7	4.2	-	7.5	1.7

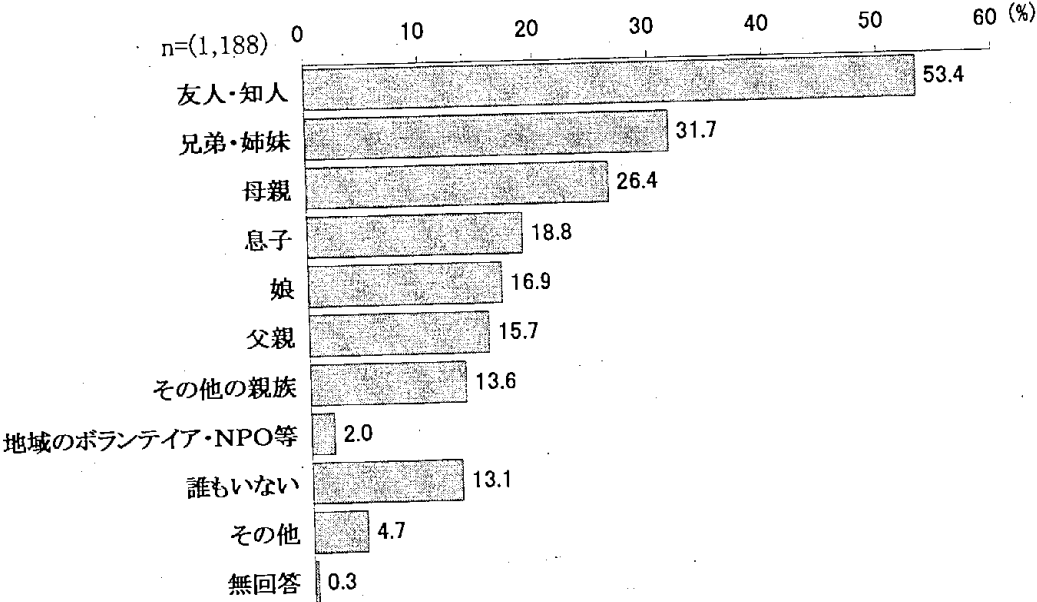
平成19年調査と年齢別を比較すると、「住み続けたい」が、60～64歳、65～69歳で前回から大きく低下しており、それぞれ64.2%から51.4%の12.8ポイント減、70.4%から49.6%の20.8ポイント減となっています。なお、70～74歳では、70.9%から70.0%と、前回同様の結果を示しています。

《参考》平成19年調査との比較 年齢別 居住継続意向



2 日常生活の中で困ったときに助けてもらえる人

問13 あなたは、身近な地域に日常生活の中で、何か困ったことがあったときに、行政以外で気軽に助けてもらえる人がいますか。(〇はあてはまるものすべて)



「友人・知人」が53.4%で最も多く、次いで「兄弟・姉妹」が31.7%、「母親」が26.4%となっています。

性別でみると、女性では「友人・知人」が57.2%と、男性（47.6%）より多くなっています。
年齢別でみると、20～44歳では「友人・知人」が、いずれの年齢でも60%を超えて多くなっています。また、この年齢では「母親」の割合も多く、20～24歳では70.7%となっています。60歳以上になると、「息子」が40%前後と多くなっています。

性別・年齢別 日常生活の中で困ったときに助けてもらえる人

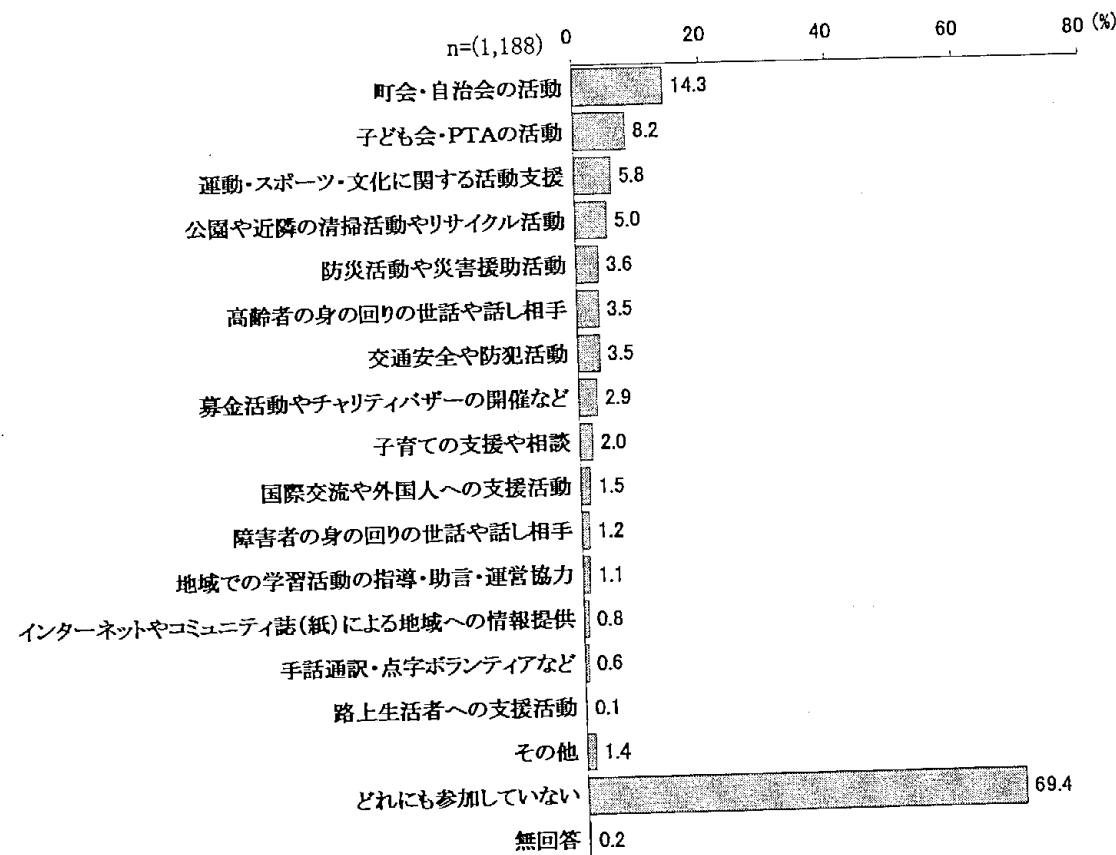
	調査数	友人・知人	兄弟・姉妹	母親	息子	娘	父親	その他の親族	N地域のボランティア等	誰もいない	その他	無回答
全体	1188	634	377	314	223	201	187	162	24	156	56	4
	100.0	53.4	31.7	26.4	18.8	16.9	15.7	13.6	2.0	13.1	4.7	0.3
男性	452	215	142	117	69	61	75	62	9	76	18	1
	100.0	47.6	31.4	25.9	15.3	13.5	16.6	13.7	2.0	16.8	4.0	0.2
女性	729	417	233	195	152	140	111	99	15	79	37	3
	100.0	57.2	32.0	26.7	20.9	19.2	15.2	13.6	2.1	10.8	5.1	0.4
20～24歳	58	37	26	41	1	-	27	11	-	4	4	-
	100.0	63.8	44.8	70.7	1.7	-	46.6	19.0	-	6.9	6.9	-
25～29歳	87	56	37	39	-	-	36	13	-	8	2	-
	100.0	64.4	42.5	44.8	-	-	41.4	14.9	-	9.2	2.3	-
30～34歳	92	56	30	48	1	1	32	9	2	18	1	-
	100.0	60.9	32.6	52.2	1.1	1.1	34.8	9.8	2.2	19.6	1.1	-
35～39歳	120	72	31	59	1	-	29	15	-	14	5	-
	100.0	60.0	25.8	49.2	0.8	-	24.2	12.5	-	11.7	4.2	-
40～44歳	94	61	30	41	7	3	24	7	-	9	6	-
	100.0	64.9	31.9	43.6	7.4	3.2	25.5	7.4	-	9.6	6.4	-
45～49歳	112	65	32	38	11	13	21	19	3	19	7	-
	100.0	58.0	28.6	33.9	9.8	11.6	18.8	17.0	2.7	17.0	6.3	-
50～54歳	98	55	19	17	24	21	8	17	1	15	5	-
	100.0	56.1	19.4	17.3	24.5	21.4	8.2	17.3	1.0	15.3	5.1	-
55～59歳	127	66	49	17	26	36	6	20	3	15	8	2
	100.0	52.0	38.6	13.4	20.5	28.3	4.7	15.7	2.4	11.8	6.3	1.6
60～64歳	140	66	39	8	55	43	2	20	4	17	7	2
	100.0	47.1	27.9	5.7	39.3	30.7	1.4	14.3	2.9	12.1	5.0	1.4
65～69歳	115	43	41	-	49	39	-	11	5	13	8	-
	100.0	37.4	35.7	-	42.6	33.9	-	9.6	4.3	11.3	7.0	-
70～74歳	120	43	35	-	44	40	-	16	5	21	2	-
	100.0	35.8	29.2	-	36.7	33.3	-	13.3	4.2	17.5	1.7	-

3 地域活動・ボランティア活動の参加状況

地域保健福祉計画改定に向けた課題

- いずれの地域活動にも参加していない人は、平成19年調査と比べて増加しており、地域活動への参加促進のための取り組みを一層充実させることが求められます。
- 参加していない理由としては、忙しさのほかに、「きっかけや誘いがなかった」「参加方法がわからなかった」が多くなっているほか、参加促進のために必要なこととして、参加する方法や活動団体の情報提供を充実させることが多く挙げられており、各種の情報提供を充実させるとともに、参加のきっかけづくり等の工夫をしていくことが必要です。
- 「町会・自治会の活動」への参加意向が、平成19年調査に比べて多くなっているのをはじめとして、運動・スポーツ、文化、清掃、リサイクル活動へ参加意向も上昇傾向を示しており、こうした区民の参加意欲を、実際の活動への参加へと結びつけていくことが必要です。

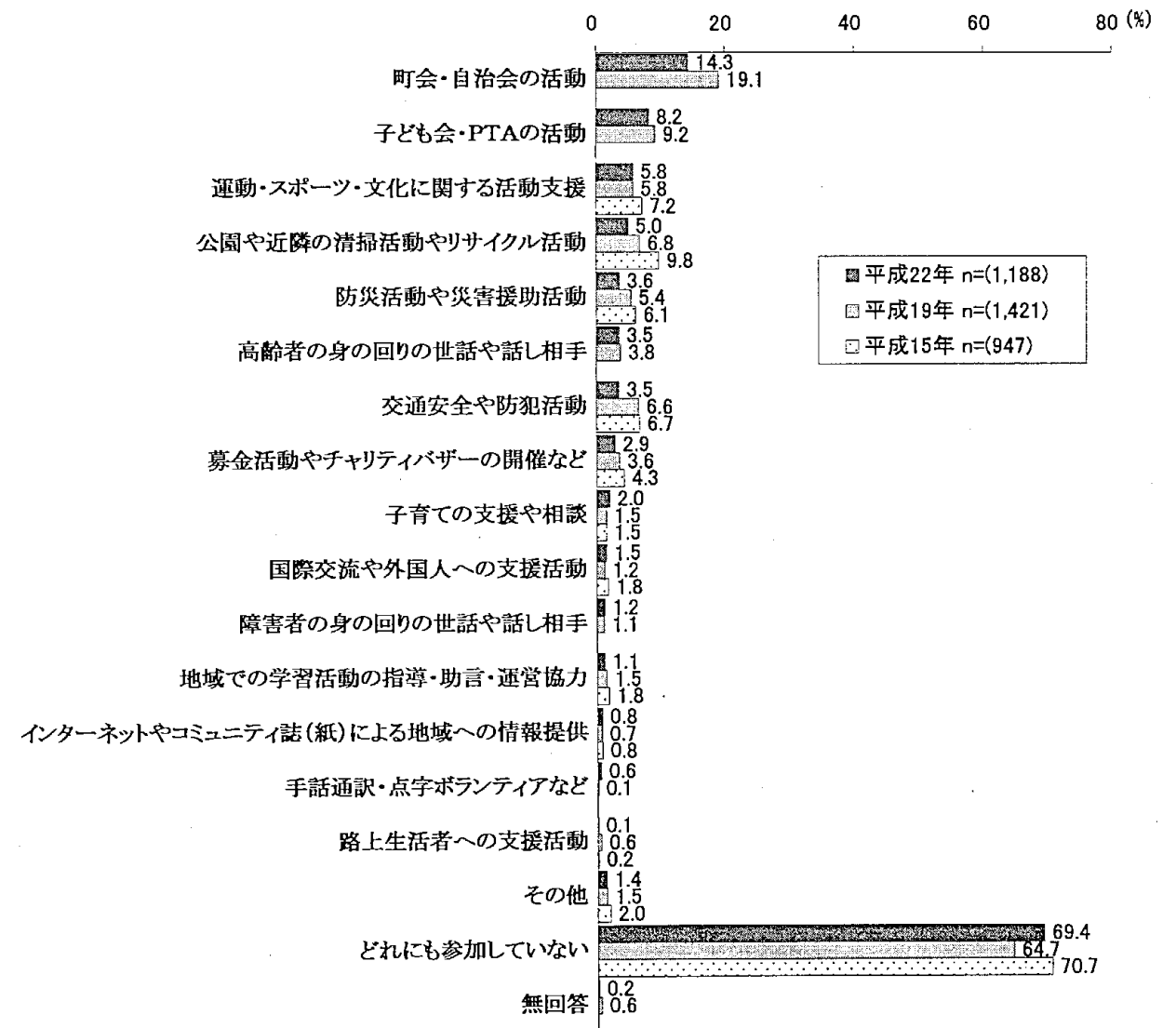
問14 過去1年くらいの間に、以下のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)



過去1年間の地域活動やボランティア活動を尋ねたところ、「どれにも参加していない」が69.4%で最も多く、次いで「町会・自治会の活動」が14.3%、「子ども会・PTAの活動」が8.2%となっています。

経年変化をみると、「どれにも参加していない」は、前回の64.7%から今回69.4%へと4.7ポイント増加しています。一方、「町会・自治会の活動」への参加率は、前回の19.1%から、今回14.3%へと4.8ポイント減少しています。

《参考》平成15・19年調査との比較 地域活動・ボランティア活動の参加状況



※ 平成15年は「町会・自治会の活動」「子ども会・PTAの活動」「高齢者の身の回りの世話や話し相手」「障害者の身の回りの世話や話し相手」「手話通訳・点字ボランティアなど」の項目はないが、「青少年健全育成に関する活動」が3.9%、「障害・高齢者等の福祉施設での活動」が3.4%、「障害・高齢者への世話や話し相手」が3.0%となっている。

性別でみると、男性では「どれにも参加していない」が73.9%と、女性(66.4%)より多くなっています。

年齢別でみると、25～34歳では、「どれにも参加していない」が80%を超え、とくに、25～29歳では87.4%に達しています。一方、35～49歳では「子ども会・PTAの活動」が多く、45歳以上になると、「町会・自治会の活動」が多くなる傾向があります。

性別・年齢別 地域活動・ボランティア活動の参加状況

	調査数	町会・自治会の活動	子ども会・PTAの活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	公園や近隣の清掃活動	防災活動や災害援助活動	高齢者の身の回りの世話や話し相手	交通安全や防犯活動	募金活動やチャリティバザーの開催など	子育ての支援や相談
全 体	1188	170	97	69	59	43	42	42	35	24
	100.0	14.3	8.2	5.8	5.0	3.6	3.5	3.5	2.9	2.0
男性	452	66	21	25	23	21	5	19	8	2
	100.0	14.6	4.6	5.5	5.1	4.6	1.1	4.2	1.8	0.4
女性	729	104	76	44	36	22	37	23	27	22
	100.0	14.3	10.4	6.0	4.9	3.0	5.1	3.2	3.7	3.0
20～24歳	58	3	-	2	1	-	3	-	2	1
	100.0	5.2	-	3.4	1.7	-	5.2	-	3.4	1.7
25～29歳	87	1	-	-	1	-	2	-	1	4
	100.0	1.1	-	-	1.1	-	2.3	-	1.1	4.6
30～34歳	92	4	5	1	-	1	-	-	1	6
	100.0	4.3	5.4	1.1	-	1.1	-	-	1.1	6.5
35～39歳	120	19	22	2	2	1	-	1	-	3
	100.0	15.8	18.3	1.7	1.7	0.8	-	0.8	-	2.5
40～44歳	94	11	24	8	3	2	2	6	2	5
	100.0	11.7	25.5	8.5	3.2	2.1	2.1	6.4	2.1	5.3
45～49歳	112	23	23	13	5	7	2	4	4	2
	100.0	20.5	20.5	11.6	4.5	6.3	1.8	3.6	3.6	1.8
50～54歳	98	15	9	8	2	2	5	4	5	1
	100.0	15.3	9.2	8.2	2.0	2.0	5.1	4.1	5.1	1.0
55～59歳	127	21	6	10	6	6	4	5	3	-
	100.0	16.5	4.7	7.9	4.7	4.7	3.1	3.9	2.4	-
60～64歳	140	25	3	9	17	9	8	5	7	2
	100.0	17.9	2.1	6.4	12.1	6.4	5.7	3.6	5.0	1.4
65～69歳	115	22	4	7	10	6	4	6	2	-
	100.0	19.1	3.5	6.1	8.7	5.2	3.5	5.2	1.7	-
70～74歳	120	24	-	8	9	9	10	11	7	-
	100.0	20.0	-	6.7	7.5	7.5	8.3	9.2	5.8	-

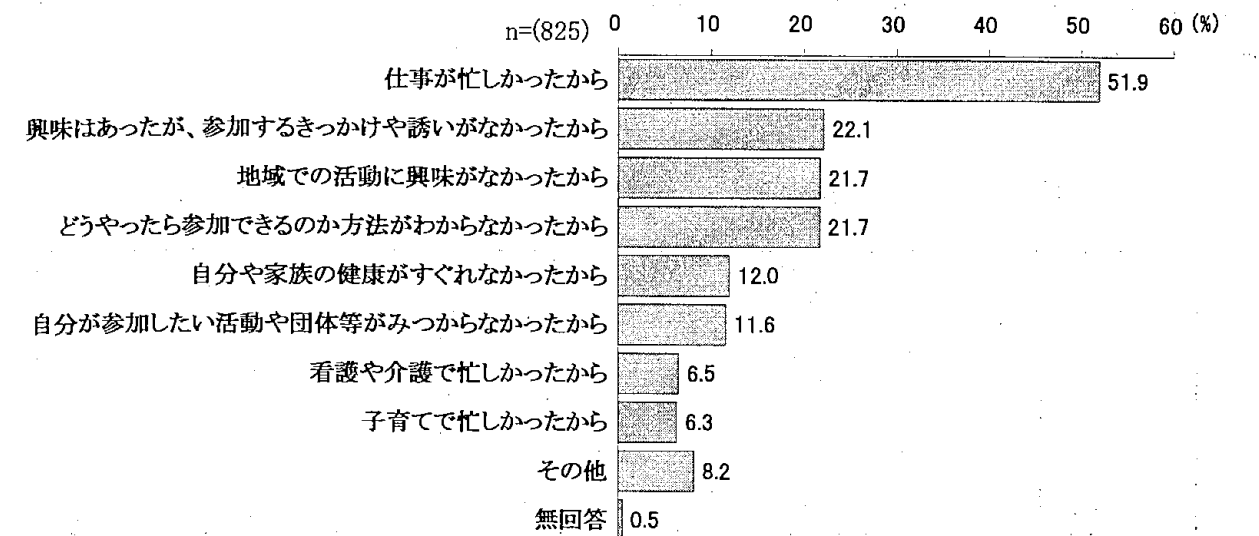
	支援活動 国際交流や外国人への 活動	障害者の身の回りの 世話や話し相手	導・助言・学習活動の 協力	地域での活動への情報 提供	インテリジェントな コミュニケーション	手話通訳・点字ボラン ティアなど	路上生活者への支援活 動	その他	い ど れ に も 参 加 し て い な い	無 回 答
全 体	18	14	13	10	7	1	17	825	2	
	1.5	1.2	1.1	0.8	0.6	0.1	1.4	69.4	0.2	
男性	5	4	4	4	2	-	6	334	2	
	1.1	0.9	0.9	0.9	0.4	-	1.3	73.9	0.4	
女性	13	10	9	6	5	1	11	484	-	
	1.8	1.4	1.2	0.8	0.7	0.1	1.5	66.4	-	
20～24歳	1	-	1	-	-	-	1	45	-	
	1.7	-	1.7	-	-	-	1.7	77.6	-	
25～29歳	2	1	-	-	-	-	2	76	-	
	2.3	1.1	-	-	-	-	2.3	87.4	-	
30～34歳	1	2	-	-	1	-	-	74	-	
	1.1	2.2	-	-	1.1	-	-	80.4	-	
35～39歳	1	-	-	1	-	-	1	86	-	
	0.8	-	-	0.8	-	-	0.8	71.7	-	
40～44歳	2	-	2	-	-	-	3	56	-	
	2.1	-	2.1	-	-	-	3.2	59.6	-	
45～49歳	-	1	1	1	2	1	-	72	-	
	-	0.9	0.9	0.9	1.8	0.9	-	64.3	-	
50～54歳	1	3	-	1	-	-	3	66	-	
	1.0	3.1	-	1.0	-	-	3.1	67.3	-	
55～59歳	1	2	-	1	1	-	2	89	-	
	0.8	1.6	-	0.8	0.8	-	1.6	70.1	-	
60～64歳	3	2	5	1	2	-	1	90	-	
	2.1	1.4	3.6	0.7	1.4	-	0.7	64.3	-	
65～69歳	2	1	2	2	1	-	2	80	1	
	1.7	0.9	1.7	1.7	0.9	-	1.7	69.6	0.9	
70～74歳	3	2	1	3	-	-	2	74	1	
	2.5	1.7	0.8	2.5	-	-	1.7	61.7	0.8	

4 地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由

(問14で「17. どれにも参加していない」とお答えの方に)

問14-1 参加しなかった理由は、次のうちどれにあてはまりますか。

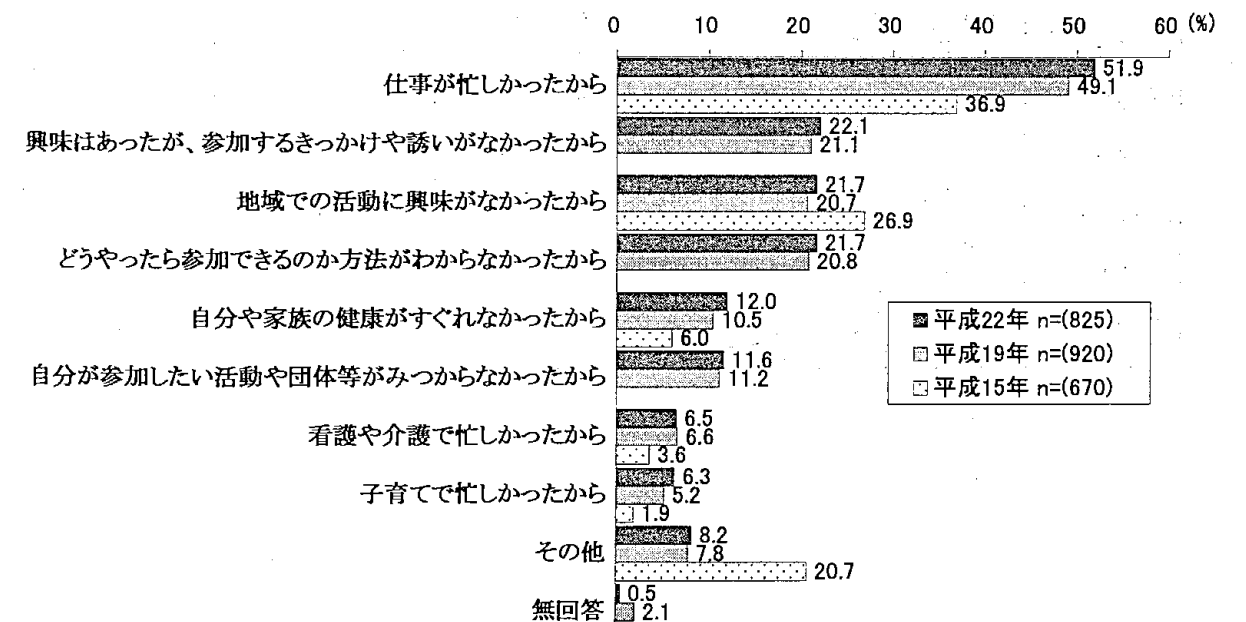
(○はあてはまるものすべて)



過去1年、地域活動やボランティア活動に参加しなかった人に、その理由を尋ねたところ、「仕事が忙しかったから」が51.9%で最も多く、次いで「興味はあったが、参加するきっかけや誘いがなかったから」が22.1%、「地域での活動に興味がなかったから」「どうやったら参加できるのか方法がわからなかったから」が共に21.7%となっています。

平成19年調査と比較すると、「仕事が忙しかったから」をはじめとして、いずれの理由も、今回調査では、横這い状態を示しています。

《参考》平成15・19年調査との比較 地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由



※ 平成15年は「興味はあったが、参加するきっかけや誘いがなかったから」「どうやったら参加できるのか方法がわからなかったから」「自分が参加したい活動や団体等が見つからなかったから」はないが、「家事が忙しかった」が2.8%となっている。

性別でみると、男性では「仕事が忙しかったから」が59.0%と、女性（47.1%）より多くなっているほか、「地域での活動に興味がなかったから」も26.9%と多くなっています。

年齢別でみると、20～24歳では、「どうやって参加できるのか方法がわからなかったから」が多くなっています。

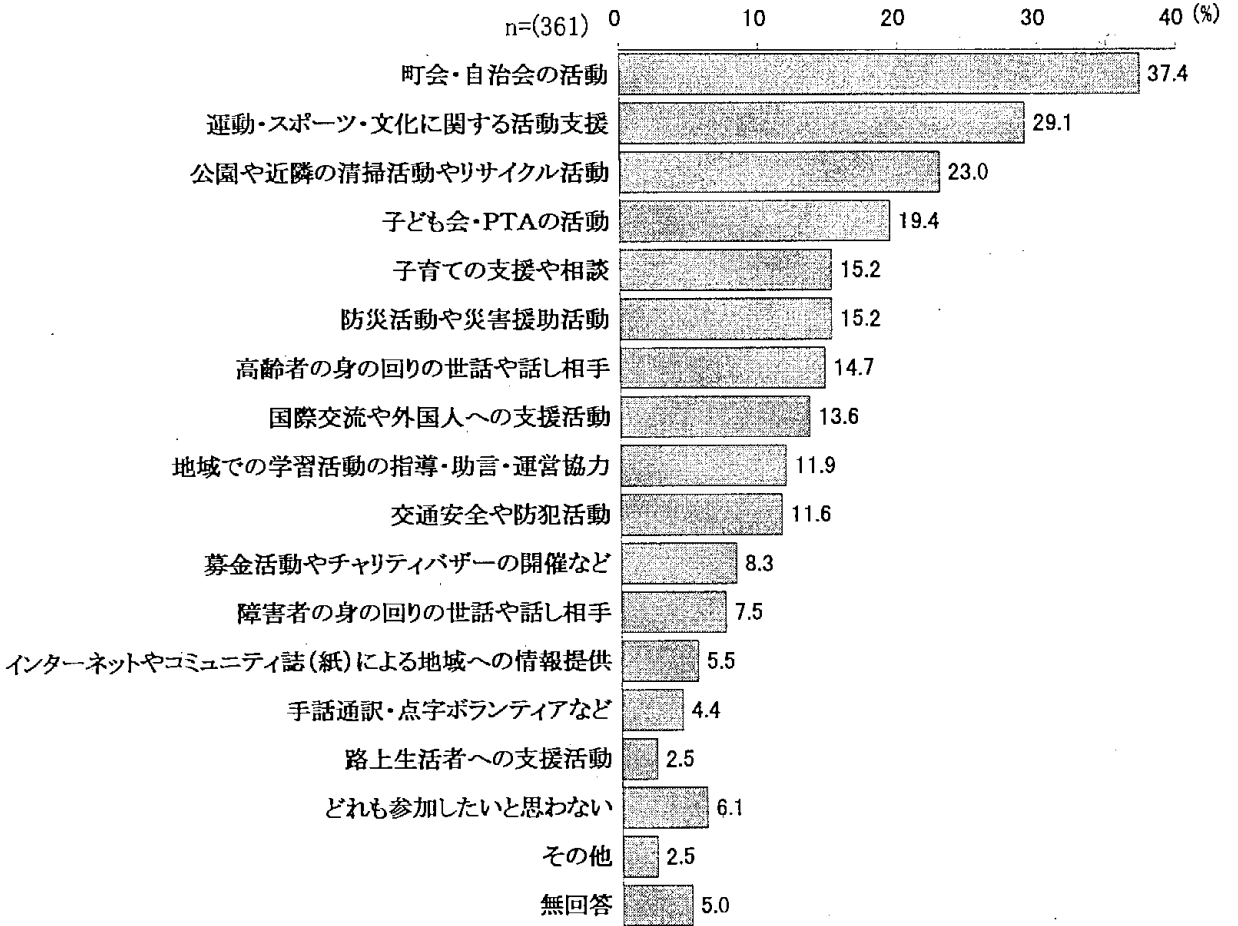
また、20～24歳では「興味はあったが、参加するきっかけや誘いがなかったから」が37.8%と多くなっています。

性別・年齢別 地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由

	調査数	仕事が忙しかったから	なす興味はあつたが、誘いがなかったから	な地域での活動に興味があったから	かどうや方法がわからなかったから	ぐれな家族の健康がす	かや団体が参加したから	た自分や介護で忙しかったから	ら子育てで忙しかったから	その他	無回答
全 体	825	428	182	179	179	99	96	54	52	68	4
	100.0	51.9	22.1	21.7	21.7	12.0	11.6	6.5	6.3	8.2	0.5
男性	334	197	78	90	78	27	33	12	12	19	1
	100.0	59.0	23.4	26.9	23.4	8.1	9.9	3.6	3.6	5.7	0.3
女性	484	228	104	86	100	71	63	42	40	48	3
	100.0	47.1	21.5	17.8	20.7	14.7	13.0	8.7	8.3	9.9	0.6
20～24歳	45	16	17	15	16	2	6	-	-	7	-
	100.0	35.6	37.8	33.3	35.6	4.4	13.3	-	-	15.6	-
25～29歳	76	49	15	17	20	4	4	-	5	11	-
	100.0	64.5	19.7	22.4	26.3	5.3	5.3	-	6.6	14.5	-
30～34歳	74	41	20	21	24	5	8	2	7	3	-
	100.0	55.4	27.0	28.4	32.4	6.8	10.8	2.7	9.5	4.1	-
35～39歳	86	49	22	15	29	11	12	3	22	1	-
	100.0	57.0	25.6	17.4	33.7	12.8	14.0	3.5	25.6	1.2	-
40～44歳	56	35	12	15	16	3	7	2	10	5	-
	100.0	62.5	21.4	26.8	28.6	5.4	12.5	3.6	17.9	8.9	-
45～49歳	72	48	17	15	18	10	8	3	4	4	1
	100.0	66.7	23.6	20.8	25.0	13.9	11.1	4.2	5.6	5.6	1.4
50～54歳	66	34	17	12	10	7	7	10	2	5	1
	100.0	51.5	25.8	18.2	15.2	10.6	10.6	15.2	3.0	7.6	1.5
55～59歳	89	49	15	14	14	14	15	6	-	9	-
	100.0	55.1	16.9	15.7	15.7	15.7	16.9	6.7	-	10.1	-
60～64歳	90	47	21	18	9	15	10	10	1	8	1
	100.0	52.2	23.3	20.0	10.0	16.7	11.1	11.1	1.1	8.9	1.1
65～69歳	80	35	13	13	8	12	8	9	1	8	-
	100.0	43.8	16.3	16.3	10.0	15.0	10.0	11.3	1.3	10.0	-
70～74歳	74	18	11	18	12	14	9	8	-	5	1
	100.0	24.3	14.9	24.3	16.2	18.9	12.2	10.8	-	6.8	1.4

5 今後参加したい地域活動やボランティア活動

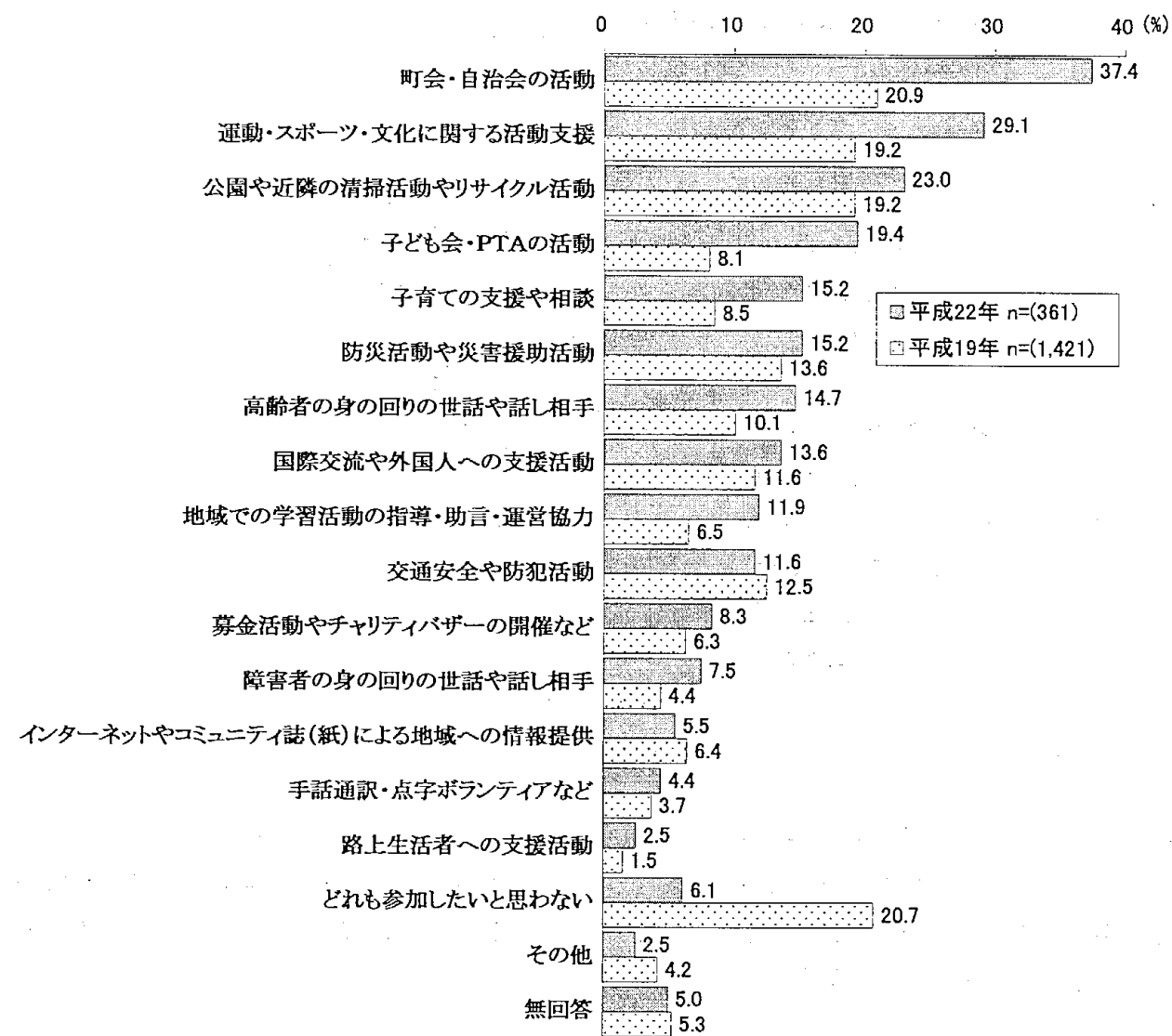
問15 今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)



今後参加したい地域活動やボランティア活動を尋ねたところ、「町会・自治会の活動」が37.4%で最も多く、次いで「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」が29.1%、「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」が23.0%となっています。

平成19年調査と比較すると、「町会・自治会の活動」が前回の20.9%から今回37.4%へと16.5ポイント増加しているほか、「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」や「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」も増加傾向を示しています。

《参考》平成19年調査との比較 今後参加したい地域活動やボランティア活動



※ 平成19年度は『問14で「1～16」をお答えの方のみ、うかがいます』という指定なし。

性別でみると、男性では「町会・自治会の活動」が46.6%と女性（33.1%）より多くなっているほか、「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」への参加意欲も多くなっています。

年齢別でみると、25～29歳、40～44歳では、「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」が40%を超えて多く、55～59歳、65～69歳では「町会・自治会の活動」が50%前後を占めて多くなっています。

性別・年齢別 今後参加したい地域活動やボランティア活動

	調査数	町会・自治会の活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	子ども会・PTAの活動	子育ての支援や相談	防災活動や災害援助活動	高齢者の身の回りの世話や話し相手	国際交流や外国人への支援活動	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	その他
全 体	361	135	105	83	70	55	55	53	49	43	
	100.0	37.4	29.1	23.0	19.4	15.2	15.2	14.7	13.6	11.9	
男性	116	54	39	27	16	5	32	11	16	15	
	100.0	46.6	33.6	23.3	13.8	4.3	27.6	9.5	13.8	12.9	
女性	245	81	66	56	54	50	23	42	33	28	
	100.0	33.1	26.9	22.9	22.0	20.4	9.4	17.1	13.5	11.4	
20～24歳	13	3	5	7	1	2	2	3	3	-	
	100.0	23.1	38.5	53.8	7.7	15.4	15.4	23.1	23.1	-	
25～29歳	11	4	5	2	1	3	-	3	-	2	
	100.0	36.4	45.5	18.2	9.1	27.3	-	27.3	-	18.2	
30～34歳	18	3	6	3	7	8	3	-	6	1	
	100.0	16.7	33.3	16.7	38.9	44.4	16.7	-	33.3	5.6	
35～39歳	34	14	5	7	17	7	3	2	4	3	
	100.0	41.2	14.7	20.6	50.0	20.6	8.8	5.9	11.8	8.8	
40～44歳	38	10	16	6	16	7	2	2	7	5	
	100.0	26.3	42.1	15.8	42.1	18.4	5.3	5.3	18.4	13.2	
45～49歳	40	13	15	7	17	7	6	6	5	6	
	100.0	32.5	37.5	17.5	42.5	17.5	15.0	15.0	12.5	15.0	
50～54歳	32	11	10	8	2	6	3	7	5	6	
	100.0	34.4	31.3	25.0	6.3	18.8	9.4	21.9	15.6	15.6	
55～59歳	38	18	15	6	2	3	6	5	5	5	
	100.0	47.4	39.5	15.8	5.3	7.9	15.8	13.2	13.2	13.2	
60～64歳	50	20	12	16	3	5	12	8	4	6	
	100.0	40.0	24.0	32.0	6.0	10.0	24.0	16.0	8.0	12.0	
65～69歳	34	17	5	5	2	3	8	4	5	5	
	100.0	50.0	14.7	14.7	5.9	8.8	23.5	11.8	14.7	14.7	
70～74歳	45	19	10	11	1	3	9	11	3	2	
	100.0	42.2	22.2	24.4	2.2	6.7	20.0	24.4	6.7	4.4	

	交通安全や防犯活動	募金活動やチャリティバザーの開催など	障害者の身の回りの世話や話し相手	インターネットやコミュニティ誌(紙)による地域への情報提供	インターネットや点字ボランティアなど	路上生活者への支援活動	どれも参加したいと思わない	その他	無回答
全 体	42	30	27	20	16	9	22	9	18
	11.6	8.3	7.5	5.5	4.4	2.5	6.1	2.5	5.0
男性	24	7	7	9	6	4	3	1	9
	20.7	6.0	6.0	7.8	5.2	3.4	2.6	0.9	7.8
女性	18	23	20	11	10	5	19	8	9
	7.3	9.4	8.2	4.5	4.1	2.0	7.8	3.3	3.7
20～24歳	-	-	2	2	1	1	1	-	-
	-	-	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	-	-
25～29歳	-	2	1	1	1	-	1	-	-
	-	18.2	9.1	9.1	9.1	-	9.1	-	-
30～34歳	1	1	1	2	1	-	-	-	-
	5.6	5.6	5.6	11.1	5.6	-	-	-	-
35～39歳	6	1	2	2	2	-	3	-	1
	17.6	2.9	5.9	5.9	5.9	-	8.8	-	2.9
40～44歳	4	2	2	2	-	-	3	-	2
	10.5	5.3	5.3	5.3	-	-	7.9	-	5.3
45～49歳	5	4	6	2	3	3	6	-	1
	12.5	10.0	15.0	5.0	7.5	7.5	15.0	-	2.5
50～54歳	2	3	2	3	3	2	1	-	2
	6.3	9.4	6.3	9.4	9.4	6.3	3.1	-	6.3
55～59歳	2	3	3	1	1	2	1	1	2
	5.3	7.9	7.9	2.6	2.6	5.3	2.6	2.6	5.3
60～64歳	6	6	5	2	2	-	-	3	5
	12.0	12.0	10.0	4.0	4.0	-	-	6.0	10.0
65～69歳	6	2	-	-	1	-	2	4	3
	17.6	5.9	-	-	2.9	-	5.9	11.8	8.8
70～74歳	10	5	3	2	1	1	4	1	2
	22.2	11.1	6.7	4.4	2.2	2.2	8.9	2.2	4.4

居住年数別でみると、「どれも参加していない」は、1年未満、1～3年未満の短期居住者で、多くなっています。また、住居の種類別でみると、共同住宅で、職業別でみると、「会社員・公務員・団体職員等」「学生」で「どれも参加していない」が多くなっています。

居住年数別 参加していない人・参加したいと思わない人

	調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30年以上	無回答
全体	1188	26	112	91	178	203	172	404	2
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
「どれも参加していない」人	825	23	95	69	122	135	114	265	2
	69.4	88.5	84.8	75.8	68.5	66.5	66.3	65.6	100.0
全体	361	3	17	22	56	68	57	138	-
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-
「どれも参加したいと思わない」人	22	1	1	-	5	6	3	6	-
	6.1	33.3	5.9	-	8.9	8.8	5.3	4.3	-

住居の種類別 参加していない人・参加したいと思わない人

	調査数	家一戸建て（持ち）	一戸建て（賃貸）	共同住宅（分譲マンション等）	共同住宅（賃貸マンション・アパート等）	その他
全体	1188	465	28	260	419	16
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
「どれも参加していない」人	825	285	14	194	325	7
	69.4	61.3	50.0	74.6	77.6	43.8
全体	361	179	14	66	93	9
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
「どれも参加したいと思わない」人	22	12	-	8	2	-
	6.1	6.7	-	12.1	2.2	-

職業別 参加していない人・参加したいと思わない人

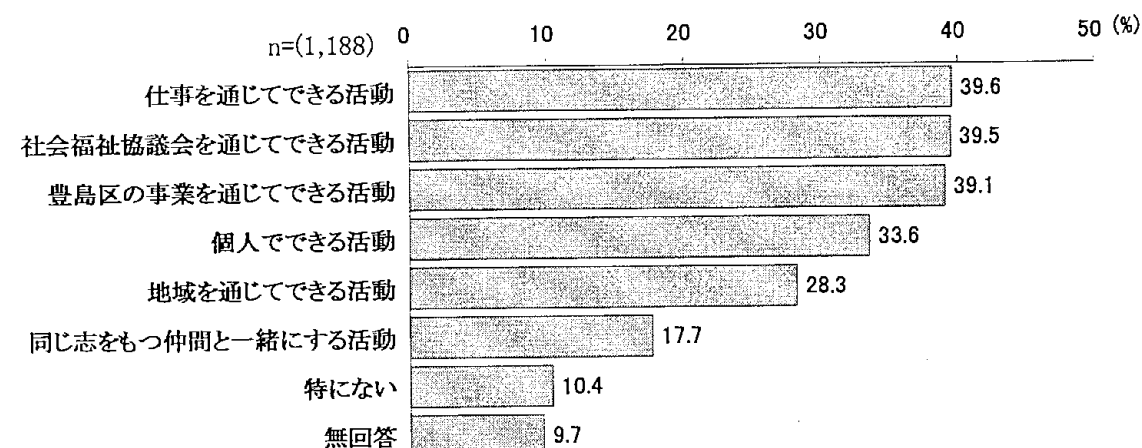
	調査数	会社員・公務員・団体職員等	自営業・自営業・自営業	会社役員・会社役員・会社役員	専業主婦・専業主婦・専業主婦	アルバイト・アルバイト・アルバイト	学生	無職	その他	無回答
全体	1188	438	144	38	191	147	36	151	32	11
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
「どれも参加していない」人	825	338	90	29	107	103	28	103	19	8
	69.4	77.2	62.5	76.3	56.0	70.1	77.8	68.2	59.4	72.7
全体	361	99	54	9	84	44	8	47	13	3
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
「どれも参加したいと思わない」人	22	6	-	2	6	4	-	3	1	-
	6.1	6.1	-	22.2	7.1	9.1	-	6.4	7.7	-

看護・介護の必要者の有無別 参加していない人・参加したいと思わない人

	調査数	いる	いない	無回答
全体	1188	149	1034	5
	100.0	100.0	100.0	100.0
「どれも参加していない」人	825	100	723	2
	69.4	67.1	69.9	40.0
全体	361	48	310	3
	100.0	100.0	100.0	100.0
「どれも参加したいと思わない」人	22	3	19	-
	6.1	6.3	6.1	-

6 重要度が高いと考える地域活動

問16① 今後、豊島区としてより充実させていくべき、重要度が高いと考える地域活動に○をつけてください。（○は3つまで）



重要度が高いと考える地域活動としては、「仕事を通じてできる活動」（39.6%）、「社会福祉協議会を通じてできる活動」（39.5%）、「豊島区の事業を通じてできる活動」（39.1%）の3つの活動が多くなっています。

性別でみると、女性では「豊島区の事業を通じてできる活動」が43.8%と、男性（31.9%）を上回っているほか、「社会福祉協議会を通じてできる活動」も多くなっています。

年齢別でみると、30～39歳、45～49歳では「豊島区の事業を通じてできる活動」が、40～44歳、50～59歳では「仕事を通じてできる活動」が、45～59歳では「社会福祉協議会を通じてできる活動」が、それぞれ多くなる傾向があります。

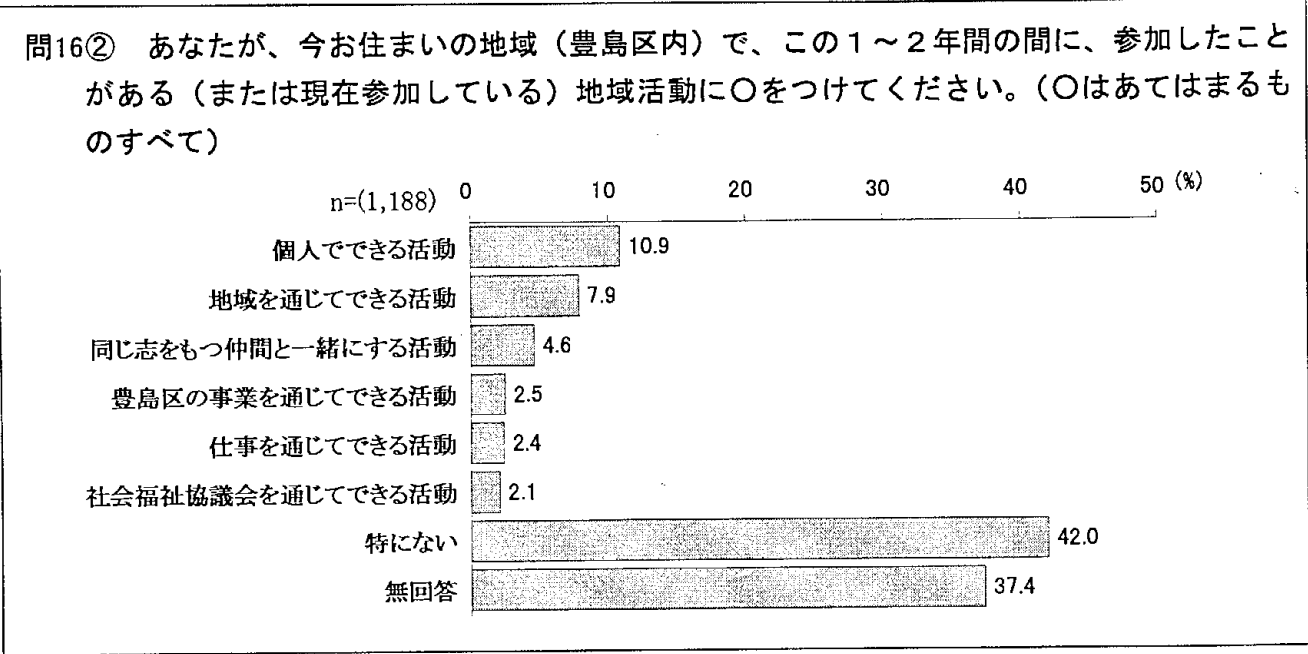
性別・年齢別 重要度が高いと考える地域活動

	調査数	仕事を通じてできる活動	社会福祉協議会を通じてできる活動	豊島区の事業を通じてできる活動	個人でできる活動	地域を通じてできる活動	同じ志をもつ仲間と一緒にする活動	特にない	無回答
全体	1188	470	469	464	399	336	210	124	115
	100.0	39.6	39.5	39.1	33.6	28.3	17.7	10.4	9.7
男性	452	175	157	144	130	128	89	58	46
	100.0	38.7	34.7	31.9	28.8	28.3	19.7	12.8	10.2
女性	729	293	310	319	268	205	121	64	68
	100.0	40.2	42.5	43.8	36.8	28.1	16.6	8.8	9.3
20～24歳	58	26	32	23	26	18	17	2	1
	100.0	44.8	55.2	39.7	44.8	31.0	29.3	3.4	1.7
25～29歳	87	37	32	32	37	34	19	7	4
	100.0	42.5	36.8	36.8	42.5	39.1	21.8	8.0	4.6
30～34歳	92	36	37	44	39	34	19	10	3
	100.0	39.1	40.2	47.8	42.4	37.0	20.7	10.9	3.3
35～39歳	120	49	52	57	40	38	21	13	6
	100.0	40.8	43.3	47.5	33.3	31.7	17.5	10.8	5.0
40～44歳	94	44	39	38	35	27	12	9	5
	100.0	46.8	41.5	40.4	37.2	28.7	12.8	9.6	5.3
45～49歳	112	48	54	56	42	34	19	9	3
	100.0	42.9	48.2	50.0	37.5	30.4	17.0	8.0	2.7
50～54歳	98	54	45	44	30	24	14	9	4
	100.0	55.1	45.9	44.9	30.6	24.5	14.3	9.2	4.1
55～59歳	127	57	63	54	38	35	12	13	7
	100.0	44.9	49.6	42.5	29.9	27.6	9.4	10.2	5.5
60～64歳	140	59	54	55	42	40	29	7	20
	100.0	42.1	38.6	39.3	30.0	28.6	20.7	5.0	14.3
65～69歳	115	32	26	27	32	28	24	17	23
	100.0	27.8	22.6	23.5	27.8	24.3	20.9	14.8	20.0
70～74歳	120	21	25	25	31	18	18	26	34
	100.0	17.5	20.8	20.8	25.8	15.0	15.0	21.7	28.3

事業例一覧

(1) 豊島区の事業を通じてできる活動 事業例：高齢者元気あとし事業 ：認知症サポーター ：手話講習会
(2) 社会福祉協議会を通じてできる活動 事業例：高齢者困りごと援助サービス事業の協力員 ：リボンサービス事業 ：豊島ボランティアセンターを通じての活動
(3) 仕事を通じてできる活動 事業例：シルバー人材センターへの会員登録による多様な仕事 ：高齢者、障害者など就労の困難な方の採用を進める ：社会に貢献している事業者と優先的な取引をする
(4) 個人でできる活動 事業例：隣近所の人と顔見しりになる ：ひとり暮らしの高齢者など気になる方への安否確認 ：点字ブロックの上に駐輪しない
(5) 同じ志をもつ仲間と一緒にする活動 事業例：既存の枠組にとらわれず、仲間と組織をつくり活動する ：NPO組織をつくる ：健康づくり自主グループづくり
(6) 地域を通じてできる活動 事業例：地域で誰でも気軽に立寄れるサロンをつくったり運営を手伝う ：町会・自治会や青少年育成委員などが実施する地域行事に参加し手伝う ：地域防災組織の活動に参加する

7 参加したことがある地域活動



「特にない」が42.0%で最も多くなっています。一方、「個人でできる活動」は10.9%、「地域を通じてできる活動」は7.9%となっています。

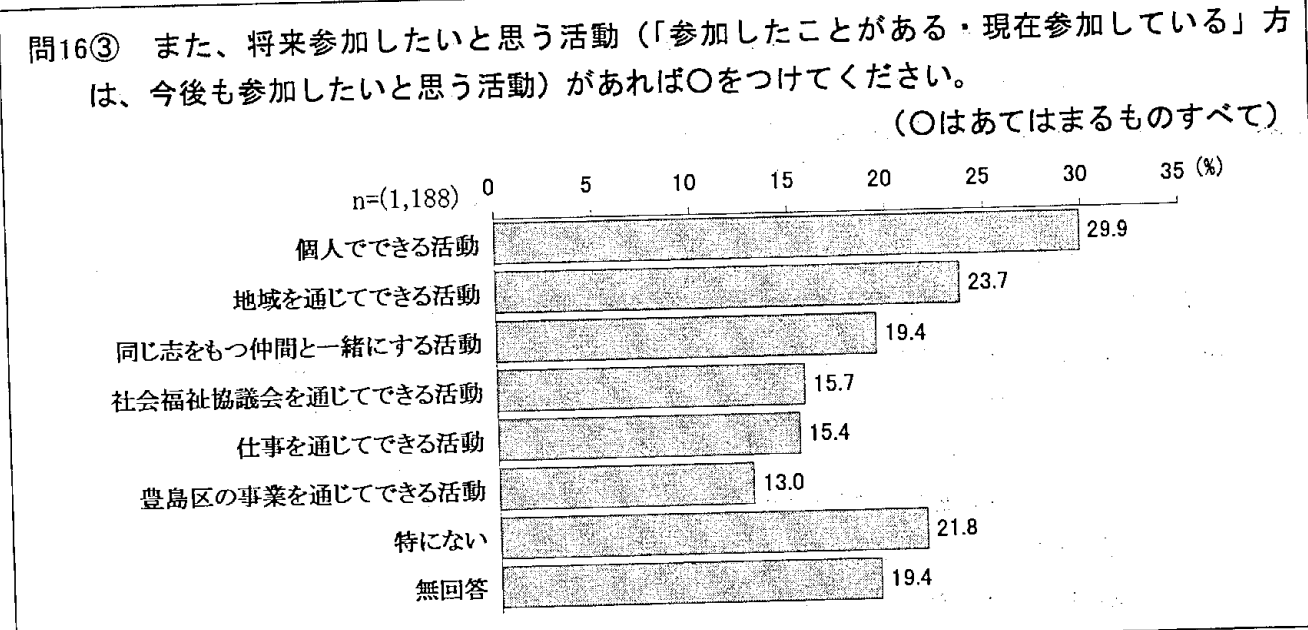
性別でみると、男性では「特にない」が48.2%と女性（38.1%）より多くなっています。

年齢別でみると、20～39歳で、「特にない」が50%を超えて多くなっています。一方、40～49歳で、「個人でできる活動」が15%を超えてやや多くなっています。

性別・年齢別 参加したことがある地域活動

	調査数	個人でできる活動	地域を通じてできる活動	同じ志をもつ仲間と一緒にする活動	豊島区の事業を通じてできる活動	仕事を通じてできる活動	社会福祉協議会を通じてできる活動	特にない	無回答
全体	1188	130	94	55	30	28	25	499	444
	100.0	10.9	7.9	4.6	2.5	2.4	2.1	42.0	37.4
男性	452	33	40	25	4	13	6	218	151
	100.0	7.3	8.8	5.5	0.9	2.9	1.3	48.2	33.4
女性	729	97	54	30	26	15	19	278	289
	100.0	13.3	7.4	4.1	3.6	2.1	2.6	38.1	39.6
20～24歳	58	8	3	3	1	-	1	32	15
	100.0	13.8	5.2	5.2	1.7	-	1.7	55.2	25.9
25～29歳	87	6	1	4	-	-	-	46	30
	100.0	6.9	1.1	4.6	-	-	-	52.9	34.5
30～34歳	92	7	3	3	2	-	1	44	36
	100.0	7.6	3.3	3.3	2.2	-	1.1	47.8	39.1
35～39歳	120	15	7	-	-	1	-	60	41
	100.0	12.5	5.8	-	-	0.8	-	50.0	34.2
40～44歳	94	15	6	3	1	-	-	39	36
	100.0	16.0	6.4	3.2	1.1	-	-	41.5	38.3
45～49歳	112	19	10	2	4	1	2	47	37
	100.0	17.0	8.9	1.8	3.6	0.9	1.8	42.0	33.0
50～54歳	98	13	10	7	6	2	1	44	30
	100.0	13.3	10.2	7.1	6.1	2.0	1.0	44.9	30.6
55～59歳	127	12	13	5	2	1	4	54	47
	100.0	9.4	10.2	3.9	1.6	0.8	3.1	42.5	37.0
60～64歳	140	14	14	10	6	6	4	53	52
	100.0	10.0	10.0	7.1	4.3	4.3	2.9	37.9	37.1
65～69歳	115	8	15	6	2	7	4	35	52
	100.0	7.0	13.0	5.2	1.7	6.1	3.5	30.4	45.2
70～74歳	120	9	12	10	5	10	6	37	56
	100.0	7.5	10.0	8.3	4.2	8.3	5.0	30.8	46.7

8 参加したい地域活動



将来参加したいと思う活動を尋ねたところ、「個人でできる活動」が29.9%で最も多く、次いで「地域を通じてできる活動」が23.7%、「同じ志をもつ仲間と一緒にする活動」が19.4%となっています。

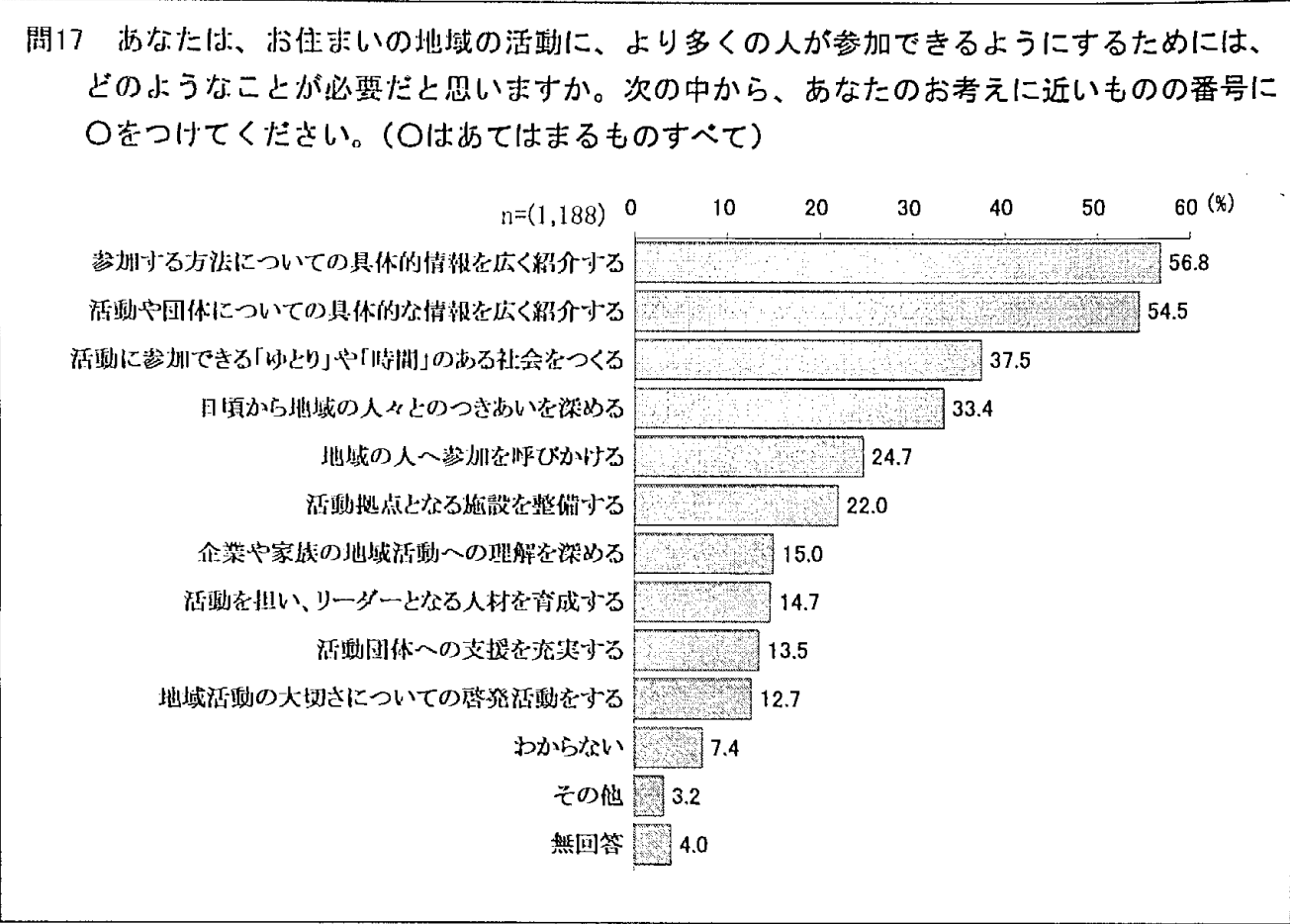
性別でみると、女性では「個人でできる活動」が33.9%と、男性（23.5%）より多くなっています。

年齢別でみると、25～29歳で「個人でできる活動」が48.3%となっているほか、20～24歳、35～39歳、50～54歳でも40%近くを示しています。35～69歳では「地域を通じてできる活動」が20%台半ばから30%近くを占めて多くなっています。

性別・年齢別 参加したい地域活動

	調査数	個人でできる活動	地域を通じてできる活動	同じ志をもつ仲間と一緒にする活動	社会福祉協議会を通じてできる活動	仕事を通じてできる活動	豊島区の事業を通じてできる活動	特にない	無回答
全体	1188	355	282	231	187	183	155	259	231
	100.0	29.9	23.7	19.4	15.7	15.4	13.0	21.8	19.4
男性	452	106	107	98	56	84	42	113	92
	100.0	23.5	23.7	21.7	12.4	18.6	9.3	25.0	20.4
女性	729	247	174	132	130	98	113	144	137
	100.0	33.9	23.9	18.1	17.8	13.4	15.5	19.8	18.8
20～24歳	58	22	13	13	9	3	8	19	6
	100.0	37.9	22.4	22.4	15.5	5.2	13.8	32.8	10.3
25～29歳	87	42	18	21	11	11	10	21	11
	100.0	48.3	20.7	24.1	12.6	12.6	11.5	24.1	12.6
30～34歳	92	28	18	14	10	14	11	26	20
	100.0	30.4	19.6	15.2	10.9	15.2	12.0	28.3	21.7
35～39歳	120	44	30	17	22	16	18	24	19
	100.0	36.7	25.0	14.2	18.3	13.3	15.0	20.0	15.8
40～44歳	94	31	25	17	12	10	10	23	14
	100.0	33.0	26.6	18.1	12.8	10.6	10.6	24.5	14.9
45～49歳	112	37	32	25	16	22	19	19	17
	100.0	33.0	28.6	22.3	14.3	19.6	17.0	17.0	15.2
50～54歳	98	37	25	28	20	22	14	17	13
	100.0	37.8	25.5	28.6	20.4	22.4	14.3	17.3	13.3
55～59歳	127	27	34	18	26	27	17	26	21
	100.0	21.3	26.8	14.2	20.5	21.3	13.4	20.5	16.5
60～64歳	140	34	40	33	32	31	27	22	28
	100.0	24.3	28.6	23.6	22.9	22.1	19.3	15.7	20.0
65～69歳	115	19	28	26	12	12	10	24	36
	100.0	16.5	24.3	22.6	10.4	10.4	8.7	20.9	31.3
70～74歳	120	26	16	14	14	13	10	31	40
	100.0	21.7	13.3	11.7	11.7	10.8	8.3	25.8	33.3

9 地域活動により多くの人が参加するために必要なこと



地域の活動により多くの人が参加するために必要なことを尋ねたところ、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が56.8%で最も多く、次いで「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が54.5%、「活動に参加できる『ゆとり』や『時間』のある社会をつくる」が37.5%となっています。

性別でみると、女性では「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」が60.6%と、男性（51.3%）を上回っているほか、「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」も男性より多くなっています。

年齢別でみると、ほぼすべての年齢にわたって、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」と「活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する」が多くなっています。また、他の項目としては、25～29歳、35～39歳、40～44歳で「活動に参加できる『ゆとり』や『時間』のある社会をつくる」が40%台半ばを占め、他の年代より多くなっています。

性別・年齢別 地域活動により多くの人が参加するために必要なこと

	調査数	参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する	活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する	活動に参加できる『ゆとり』や『時間』のある社会をつくる	日頃から地域の人々とのつきあいを深める	地域の人へ参加を呼びかける	活動拠点となる施設を整備する	企業や家族の地域活動への理解を深める	活動を担い、リーダーとなる人材を育成する	活動団体への支援を充実する	地域活動の大切さについての啓発活動をする	わからない	その他	無回答
全体	1188	675	648	445	397	294	261	178	175	160	151	88	38	47
	100.0	56.8	54.5	37.5	33.4	24.7	22.0	15.0	14.7	13.5	12.7	7.4	3.2	4.0
男性	452	232	217	168	123	90	92	67	67	62	58	39	21	25
	100.0	51.3	48.0	37.2	27.2	19.9	20.4	14.8	14.8	13.7	12.8	8.6	4.6	5.5
女性	729	442	430	274	274	202	169	110	107	97	92	49	16	21
	100.0	60.6	59.0	37.6	37.6	27.7	23.2	15.1	14.7	13.3	12.6	6.7	2.2	2.9
20～24歳	58	39	38	21	24	16	7	17	8	6	8	1	2	-
	100.0	67.2	65.5	36.2	41.4	27.6	12.1	29.3	13.8	10.3	13.8	1.7	3.4	-
25～29歳	87	51	53	40	29	17	15	14	14	13	8	5	3	3
	100.0	58.6	60.9	46.0	33.3	19.5	17.2	16.1	16.1	14.9	9.2	5.7	3.4	3.4
30～34歳	92	55	50	39	29	23	23	19	12	12	8	3	4	5
	100.0	59.8	54.3	42.4	31.5	25.0	25.0	20.7	13.0	13.0	8.7	3.3	4.3	5.4
35～39歳	120	78	76	57	45	36	26	28	16	14	20	4	3	2
	100.0	65.0	63.3	47.5	37.5	30.0	21.7	23.3	13.3	11.7	16.7	3.3	2.5	1.7
40～44歳	94	45	41	43	31	21	19	12	11	11	8	6	2	5
	100.0	47.9	43.6	45.7	33.0	22.3	20.2	12.8	11.7	11.7	8.5	6.4	2.1	5.3
45～49歳	112	79	75	45	33	20	27	21	23	19	16	7	3	3
	100.0	70.5	67.0	40.2	29.5	17.9	24.1	18.8	20.5	17.0	14.3	6.3	2.7	2.7
50～54歳	98	58	57	39	23	30	19	12	15	17	12	6	4	2
	100.0	59.2	58.2	39.8	23.5	30.6	19.4	12.2	15.3	17.3	12.2	6.1	4.1	2.0
55～59歳	127	76	75	43	42	27	23	17	17	18	22	4	6	5
	100.0	59.8	59.1	33.9	33.1	21.3	18.1	13.4	13.4	14.2	17.3	3.1	4.7	3.9
60～64歳	140	81	80	37	49	34	40	18	20	18	20	16	5	4
	100.0	57.9	57.1	26.4	35.0	24.3	28.6	12.9	14.3	12.9	14.3	11.4	3.6	2.9
65～69歳	115	52	48	37	39	33	28	11	13	14	12	15	-	9
	100.0	45.2	41.7	32.2	33.9	28.7	24.3	9.6	11.3	12.2	10.4	13.0	-	7.8
70～74歳	120	47	41	33	44	27	27	5	23	15	12	21	5	8
	100.0	39.2	34.2	27.5	36.7	22.5	22.5	4.2	19.2	12.5	10.0	17.5	4.2	6.7

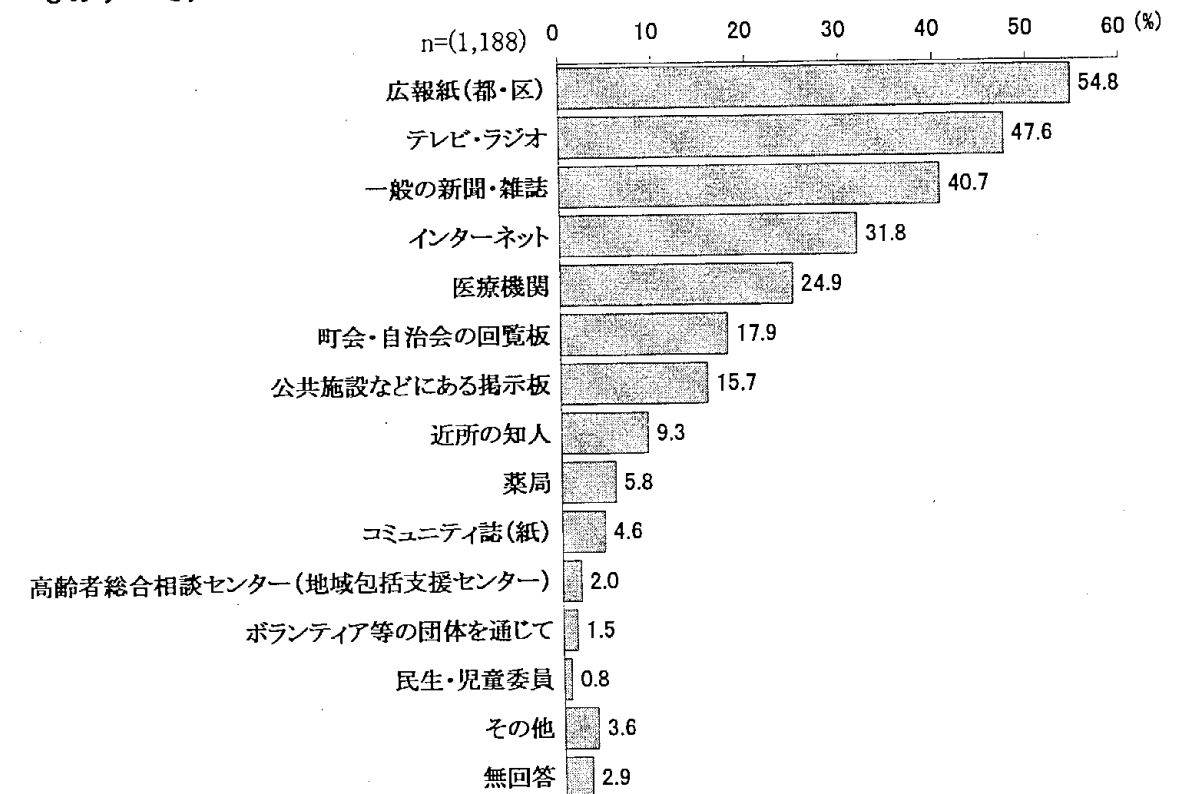
健康や福祉に関する情報提供や相談について

地域保健福祉計画改定に向けた課題

- 若い人を中心として、平成19年調査に比べ、「インターネット」を情報媒体として利用する人が増加していますが、その一方で、一人暮らし高齢者や高齢者のみ夫婦などでは、「広報紙」や「一般の新聞・雑誌」を挙げる人も依然として少なくありません。こうしたことから、年齢層に応じた情報提供体制を充実させていく必要があります。
- 情報提供や相談窓口について、平成19年調査に比べて、満足という人が減少し、不満という人が増えていることから、情報提供体制と相談体制の一層の充実が求められます。
- 福祉の相談窓口としては、区役所の福祉相談窓口、池袋保健所・長崎健康相談所、民生委員・児童委員等が広く区民に知られているほか、今回は、高齢者総合相談センターや子ども家庭支援センターの認知度も高くなっています。しかしながら、身体障害者相談員・知的障害者相談員をはじめとして、他の窓口についての認知度は高いとはいえないのが現状です。各種の相談窓口の存在を広く区民に知らせ、区民がいつでも、どこでも、気軽に相談できる体制を構築していく必要があります。

1 健康や福祉に関する情報の入手先

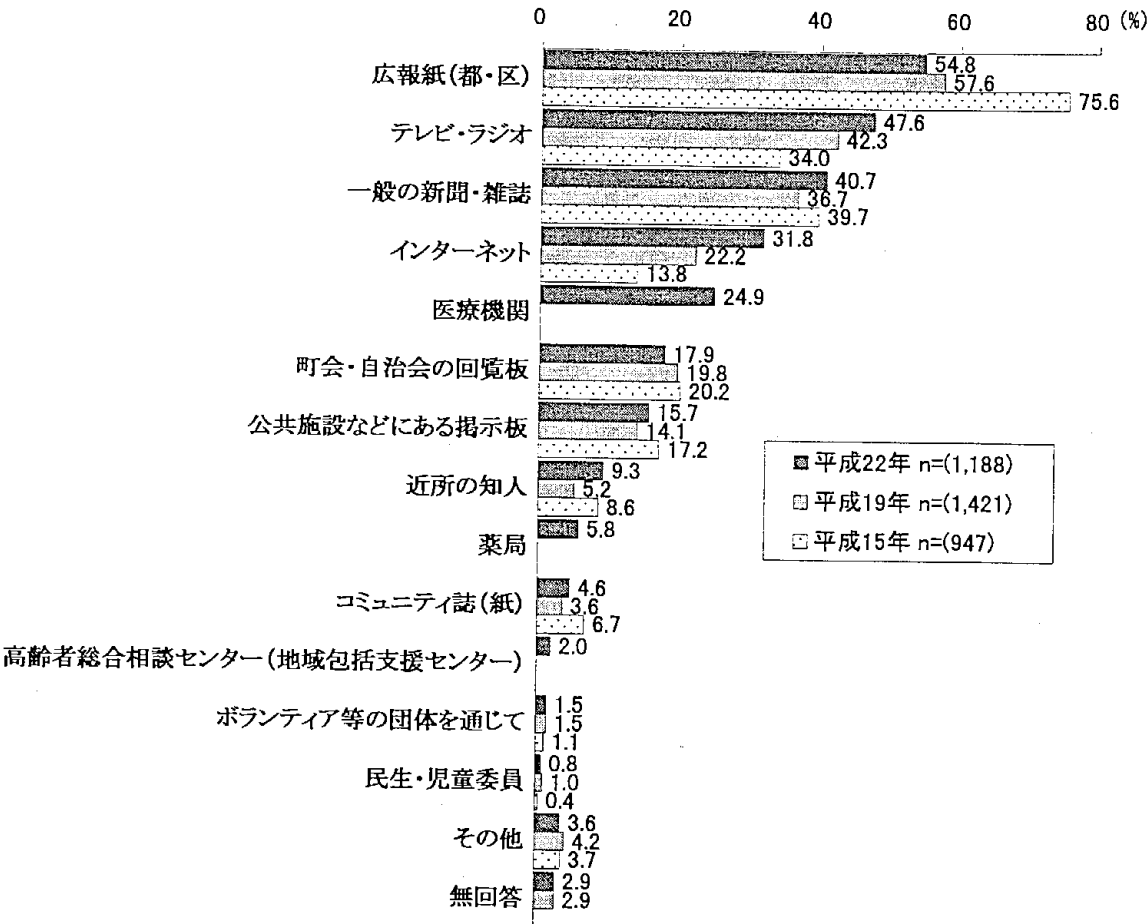
問18 健康や福祉に関する情報を主にどのようなところから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)



「広報紙(都・区)」が54.8%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が47.6%、「一般の新聞・雑誌」が40.7%となっています。

平成19年調査と比較すると、「広報紙（都・区）」が、前回の57.6%から、今回54.8%へと2.8ポイント微減しているのに対して、「インターネット」は前回の22.2%から、今回31.8%と、9.6ポイント増加しています。

《参考》平成15・19年調査との比較 健康や福祉に関する情報の入手先



※ 平成19年は「医療機関」「薬局」「高齢者総合支援センター（地域包括支援センター）」はない。

性別でみると、女性では「広報紙（都・区）」が59.5%と、男性（47.3%）より多くなっています。
年齢別でみると、30歳以上では、いずれの年齢でも「広報紙（都・区）」が多く、とくに55～69歳では、60%を超えています。また、25～44歳では、「インターネット」が多く、なかでも25～29歳では57.5%に達しています。
家族構成別でみると、高齢者のみ夫婦では、「一般の新聞・雑誌」のほか、「医療機関」や「町会・自治会の回覧板」が多くなっているほか、一人暮らし高齢者でも「一般の新聞・雑誌」を情報の入手先としてあげる人が多くなっています。

性別・年齢別 健康や福祉に関する情報の入手先

	調査数	広報紙(都・区)	テレビ・ラジオ	一般の新聞・雑誌	インターネット	医療機関	町会・自治会の回覧板	示板 公共施設などにある掲	近所の知人	薬局	コミュニティ誌(紙)	高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)	ボランティア等の団体を通じて	民生・児童委員	その他	無回答
全体	1188	651	566	484	378	296	213	186	110	69	55	24	18	10	43	35
	100.0	54.8	47.6	40.7	31.8	24.9	17.9	15.7	9.3	5.8	4.6	2.0	1.5	0.8	3.6	2.9
男性	452	214	207	189	163	105	94	60	38	22	18	7	6	5	10	19
	100.0	47.3	45.8	41.8	36.1	23.2	20.8	13.3	8.4	4.9	4.0	1.5	1.3	1.1	2.2	4.2
女性	729	434	357	292	212	191	116	125	72	47	37	17	12	5	33	16
	100.0	59.5	49.0	40.1	29.1	26.2	15.9	17.1	9.9	6.4	5.1	2.3	1.6	0.7	4.5	2.2
20～24歳	58	15	26	20	26	14	6	13	3	7	3	-	-	-	4	1
	100.0	25.9	44.8	34.5	44.8	24.1	10.3	22.4	5.2	12.1	5.2	-	-	-	6.9	1.7
25～29歳	87	27	38	19	50	16	6	18	5	2	5	-	-	1	3	4
	100.0	31.0	43.7	21.8	57.5	18.4	6.9	20.7	5.7	2.3	5.7	-	-	1.1	3.4	4.6
30～34歳	92	44	30	25	48	23	4	11	4	7	-	1	2	1	2	3
	100.0	47.8	32.6	27.2	52.2	25.0	4.3	12.0	4.3	7.6	-	1.1	2.2	1.1	2.2	3.3
35～39歳	120	70	51	37	59	19	13	21	8	6	6	1	-	1	4	5
	100.0	58.3	42.5	30.8	49.2	15.8	10.8	17.5	6.7	5.0	5.0	0.8	-	0.8	3.3	4.2
40～44歳	94	49	49	30	46	19	9	19	8	8	6	-	1	1	6	2
	100.0	52.1	52.1	31.9	48.9	20.2	9.6	20.2	8.5	8.5	6.4	-	1.1	1.1	6.4	2.1
45～49歳	112	62	53	55	48	26	19	12	7	8	5	1	-	-	8	2
	100.0	55.4	47.3	49.1	42.9	23.2	17.0	10.7	6.3	7.1	4.5	0.9	-	-	7.1	1.8
50～54歳	98	58	49	39	40	30	25	12	8	7	6	2	2	1	2	3
	100.0	59.2	50.0	39.8	40.8	30.6	25.5	12.2	8.2	7.1	6.1	2.0	2.0	1.0	2.0	3.1
55～59歳	127	80	63	62	23	33	24	20	10	7	9	3	1	2	6	3
	100.0	63.0	49.6	48.8	18.1	26.0	18.9	15.7	7.9	5.5	7.1	2.4	0.8	1.6	4.7	2.4
60～64歳	140	94	73	59	15	40	36	29	15	5	7	6	6	-	4	2
	100.0	67.1	52.1	42.1	10.7	28.6	25.7	20.7	10.7	3.6	5.0	4.3	4.3	-	2.9	1.4
65～69歳	115	70	58	64	9	29	30	12	16	1	2	1	2	2	2	4
	100.0	60.9	50.4	55.7	7.8	25.2	26.1	10.4	13.9	0.9	1.7	0.9	1.7	1.7	1.7	3.5
70～74歳	120	70	63	59	6	42	33	17	23	6	4	5	4	1	2	6
	100.0	58.3	52.5	49.2	5.0	35.0	27.5	14.2	19.2	5.0	3.3	4.2	3.3	0.8	1.7	5.0

家族構成別 健康や福祉に関する情報の入手先

	調査数	広報紙(都・区)	テレビ・ラジオ	一般の新聞・雑誌	インターネット	医療機関	町会・自治会の回覧板	示板 公共施設などにある掲	近所の知人	薬局	コミュニティ誌(紙)	高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)	ボランティア等の団体を通じて	民生・児童委員	その他	無回答
全体	1188	651	566	484	378	296	213	186	110	69	55	24	18	10	43	35
	100.0	54.8	47.6	40.7	31.8	24.9	17.9	15.7	9.3	5.8	4.6	2.0	1.5	0.8	3.6	2.9
単身(65歳未満)	184	65	96	61	88	43	8	21	7	14	4	2	1	1	11	5
	100.0	35.3	52.2	33.2	47.8	23.4	4.3	11.4	3.8	7.6	2.2	1.1	0.5	0.5	6.0	2.7
単身(65歳以上)	60	36	31	31	1	17	11	10	9	1	3	2	4	1	-	4
	100.0	60.0	51.7	51.7	1.7	28.3	18.3	16.7	15.0	1.7	5.0	3.3	6.7	1.7	-	6.7
夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	147	79	63	55	57	31	23	23	4	5	6	2	1	-	6	2
	100.0	53.7	42.9	37.4	38.8	21.1	15.6	15.6	2.7	3.4	4.1	1.4	0.7	-	4.1	1.4
夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	70	38	37	42	5	28	24	9	13	6	3	2	-	1	1	1
	100.0	54.3	52.9	60.0	7.1	40.0	34.3	12.9	18.6	8.6	4.3	2.9	-	1.4	1.4	1.4
夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	46	26	26	19	5	13	12	5	8	1	5	2	1	-	-	-
	100.0	56.5	56.5	41.3	10.9	28.3	26.1	10.9	17.4	2.2	10.9	4.3	2.2	-	-	-
二世世代家族(親と子)	538	332	246	223	184	128	101	99	55	34	26	6	9	3	14	18
	100.0	61.7	45.7	41.4	34.2	23.8	18.8	18.4	10.2	6.3	4.8	1.1	1.7	0.6	2.6	3.3
三世世代家族(親と子と孫)	84	53	34	32	20	20	28	12	9	2	4	5	2	3	4	3
	100.0	63.1	40.5	38.1	23.8	23.8	33.3	14.3	10.7	2.4	4.8	6.0	2.4	3.6	4.8	3.6
兄弟姉妹のみ	22	8	10	7	6	6	2	1	4	1	2	-	-	-	3	1
	100.0	36.4	45.5	31.8	27.3	27.3	9.1	4.5	18.2	4.5	9.1	-	-	-	13.6	4.5
その他	29	13	18	10	9	9	4	6	1	4	2	2	-	1	3	1
	100.0	44.8	62.1	34.5	31.0	31.0	13.8	20.7	3.4	13.8	6.9	6.9	-	3.4	10.3	3.4

※ 「兄弟姉妹のみ」と「その他」は基数が少ないため分析ではふれていない。

3 地区別でみると、東部地区、中央地区では、「広報紙（都・区）」がそれぞれ55.0%、55.6%と、西部地区よりやや高くなっています。

8 地区別でみると、中央地区1、西部地区1では「テレビ・ラジオ」が、それぞれ51.1%、56.4%と、他の地区より多くなっています。一方、西部地区2では41.9%と全地区中で最も低くなっています。

住居の種類別でみると、一戸建て（持ち家）では、「広報紙（都・区）」が61.7%と、他の地区より多くなっています。

地区別 健康や福祉に関する情報の入手先

	調査数	広報紙（都・区）	テレビ・ラジオ	一般の新聞・雑誌	コミュニティ誌（紙）	インターネット	町会・自治会の回覧板	公共施設などにある掲	医療機関	薬局	高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）	民生・児童委員	近所の知人	ボランティア等の団体を通じて	その他	無回答
全 体	1188	651	566	484	55	378	213	186	296	69	24	10	110	18	43	35
	100.0	54.8	47.6	40.7	4.6	31.8	17.9	15.7	24.9	5.8	2.0	0.8	9.3	1.5	3.6	2.9
東部地区	302	166	134	122	11	100	48	43	72	13	7	2	27	1	11	7
	100.0	55.0	44.4	40.4	3.6	33.1	15.9	14.2	23.8	4.3	2.3	0.7	8.9	0.3	3.6	2.3
中央地区	642	357	312	266	34	203	110	103	163	42	11	5	57	11	24	20
	100.0	55.6	48.6	41.4	5.3	31.6	17.1	16.0	25.4	6.5	1.7	0.8	8.9	1.7	3.7	3.1
西部地区	241	127	118	95	10	74	54	40	60	14	6	3	26	6	8	8
	100.0	52.7	49.0	39.4	4.1	30.7	22.4	16.6	24.9	5.8	2.5	1.2	10.8	2.5	3.3	3.3
東部地区1	152	84	67	63	6	47	26	18	30	3	2	-	14	1	5	4
	100.0	55.3	44.1	41.4	3.9	30.9	17.1	11.8	19.7	2.0	1.3	-	9.2	0.7	3.3	2.6
東部地区2	150	82	67	59	5	53	22	25	42	10	5	2	13	-	6	3
	100.0	54.7	44.7	39.3	3.3	35.3	14.7	16.7	28.0	6.7	3.3	1.3	8.7	-	4.0	2.0
中央地区1	188	103	96	82	10	62	31	33	47	11	1	-	15	4	4	2
	100.0	54.8	51.1	43.6	5.3	33.0	16.5	17.6	25.0	5.9	0.5	-	8.0	2.1	2.1	1.1
中央地区2	179	101	86	71	9	53	31	26	43	12	6	3	17	1	4	5
	100.0	56.4	48.0	39.7	5.0	29.6	17.3	14.5	24.0	6.7	3.4	1.7	9.5	0.6	2.2	2.8
中央地区3	134	72	66	54	9	48	17	17	31	6	-	2	13	2	7	4
	100.0	53.7	49.3	40.3	6.7	35.8	12.7	12.7	23.1	4.5	-	1.5	9.7	1.5	5.2	3.0
中央地区4	141	81	64	59	6	40	31	27	42	13	4	-	12	4	9	9
	100.0	57.4	45.4	41.8	4.3	28.4	22.0	19.1	29.8	9.2	2.8	-	8.5	2.8	6.4	6.4
西部地区1	117	61	66	48	5	42	25	15	35	11	3	1	11	3	2	1
	100.0	52.1	56.4	41.0	4.3	35.9	21.4	12.8	29.9	9.4	2.6	0.9	9.4	2.6	1.7	0.9
西部地区2	124	66	52	47	5	32	29	25	25	3	3	2	15	3	6	7
	100.0	53.2	41.9	37.9	4.0	25.8	23.4	20.2	20.2	2.4	2.4	1.6	12.1	2.4	4.8	5.6

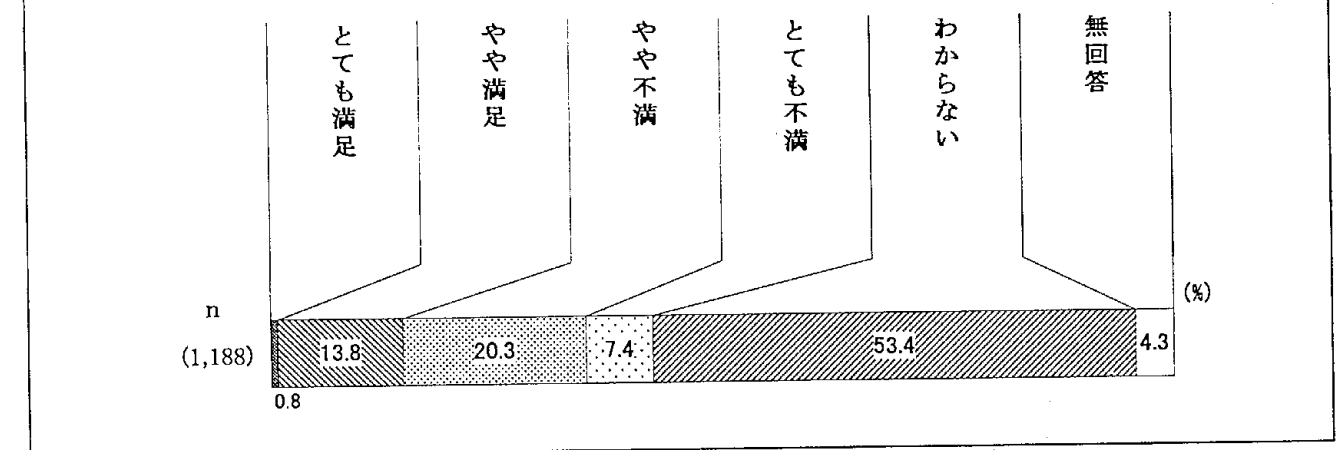
住居の種類別 健康や福祉に関する情報の入手先

	調査数	広報紙（都・区）	テレビ・ラジオ	一般の新聞・雑誌	コミュニティ誌（紙）	インターネット	町会・自治会の回覧板	公共施設などにある掲	医療機関	薬局	高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）	民生・児童委員	近所の知人	ボランティア等の団体を通じて	その他	無回答
全 体	1188	651	566	484	55	378	213	186	296	69	24	10	110	18	43	35
	100.0	54.8	47.6	40.7	4.6	31.8	17.9	15.7	24.9	5.8	2.0	0.8	9.3	1.5	3.6	2.9
一戸建て（持ち家）	465	287	225	206	23	102	146	80	125	27	14	5	53	11	15	17
	100.0	61.7	48.4	44.3	4.9	21.9	31.4	17.2	26.9	5.8	3.0	1.1	11.4	2.4	3.2	3.7
一戸建て（賃貸）	28	15	6	6	2	9	9	6	8	-	-	1	1	1	-	2
	100.0	53.6	21.4	21.4	7.1	14.3	32.1	21.4	28.6	-	-	3.6	3.6	3.6	-	7.1
共同住宅（分譲マンション等）	260	150	125	116	12	108	25	42	56	11	3	-	22	3	9	4
	100.0	57.7	48.1	44.6	4.6	41.5	9.6	16.2	21.5	4.2	1.2	-	8.5	1.2	3.5	1.5
共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）	419	188	202	148	17	161	29	57	100	29	5	3	33	3	19	11
	100.0	44.9	48.2	35.3	4.1	38.4	6.9	13.6	23.9	6.9	1.2	0.7	7.9	0.7	4.5	2.6
その他	16	11	8	8	1	3	4	1	7	2	2	1	1	-	-	1
	100.0	68.8	50.0	50.0	6.3	18.8	25.0	6.3	43.8	12.5	12.5	6.3	6.3	-	-	6.3

※ 「その他」は基数が少ないため分析ではふれていない。

2 健康や福祉に関する情報入手のしやすさ、相談窓口への満足度

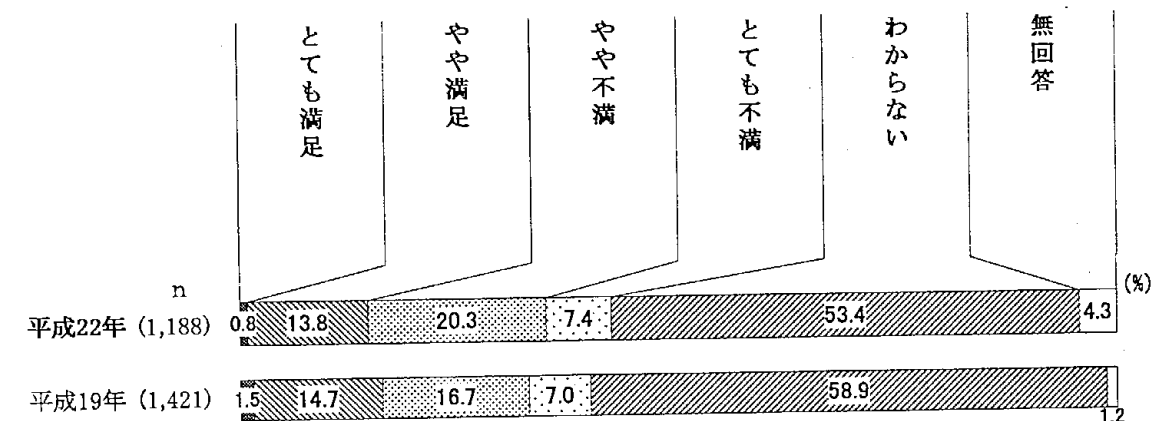
問19 健康・福祉に関する情報入手のしやすさや、相談窓口について満足していますか。
(○は1つのみ)



「わからない」が53.4%で最も多くなっています。一方、「満足」（「とても満足」と「やや満足」の合計）は14.6%となっています。

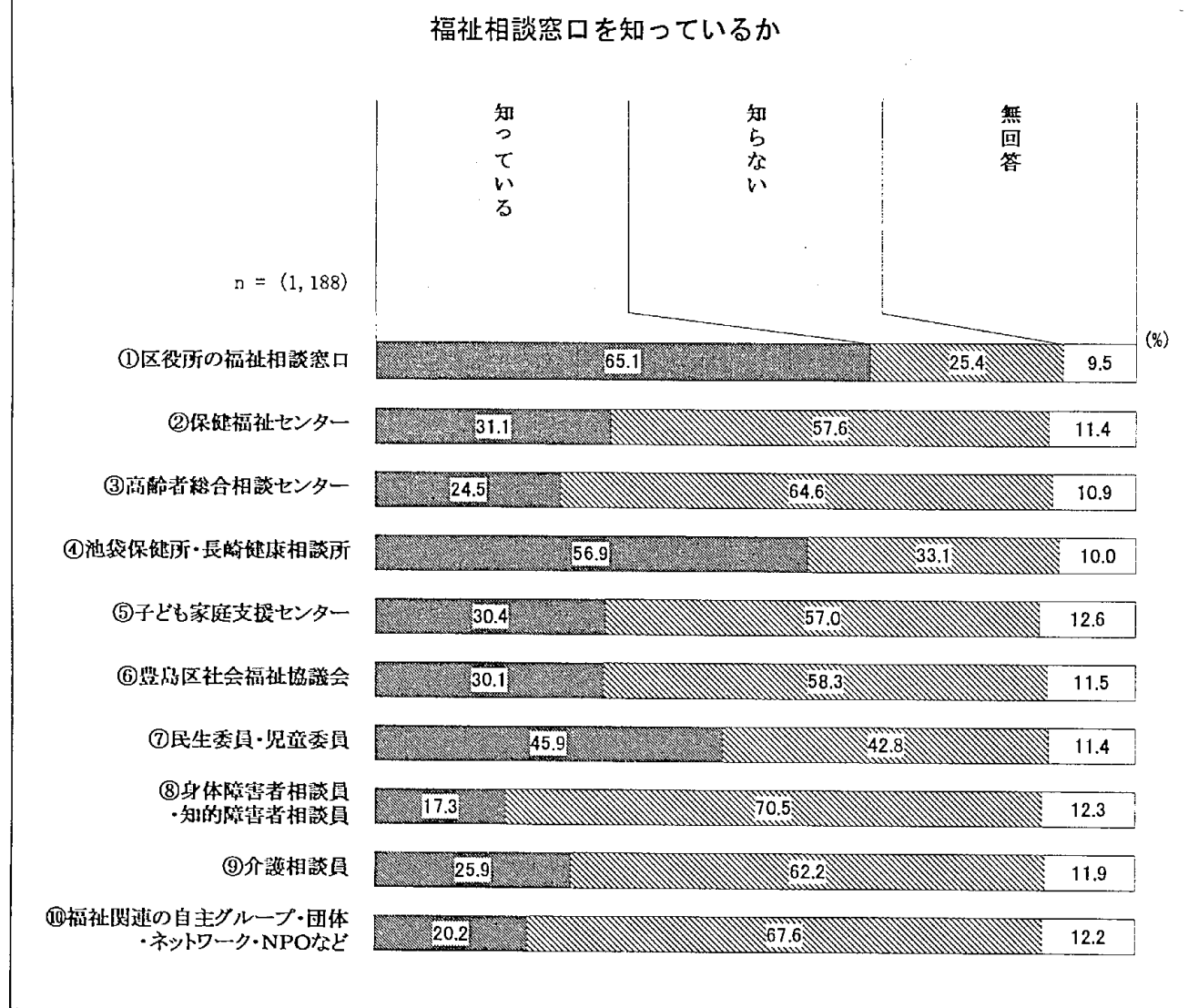
平成19年調査と比較すると、「満足」は前回の16.2%から今回14.6%へと1.6ポイント微減し、反対に《不満》（「やや不満」と「とても不満」の合計）は、前回の23.7%から今回27.7%へと4.0ポイント増加しています。

《参考》平成19年調査との比較 健康や福祉に関する情報入手のしやすさ、相談窓口への満足度



3 相談窓口の周知状況、利用の有無、利用意向

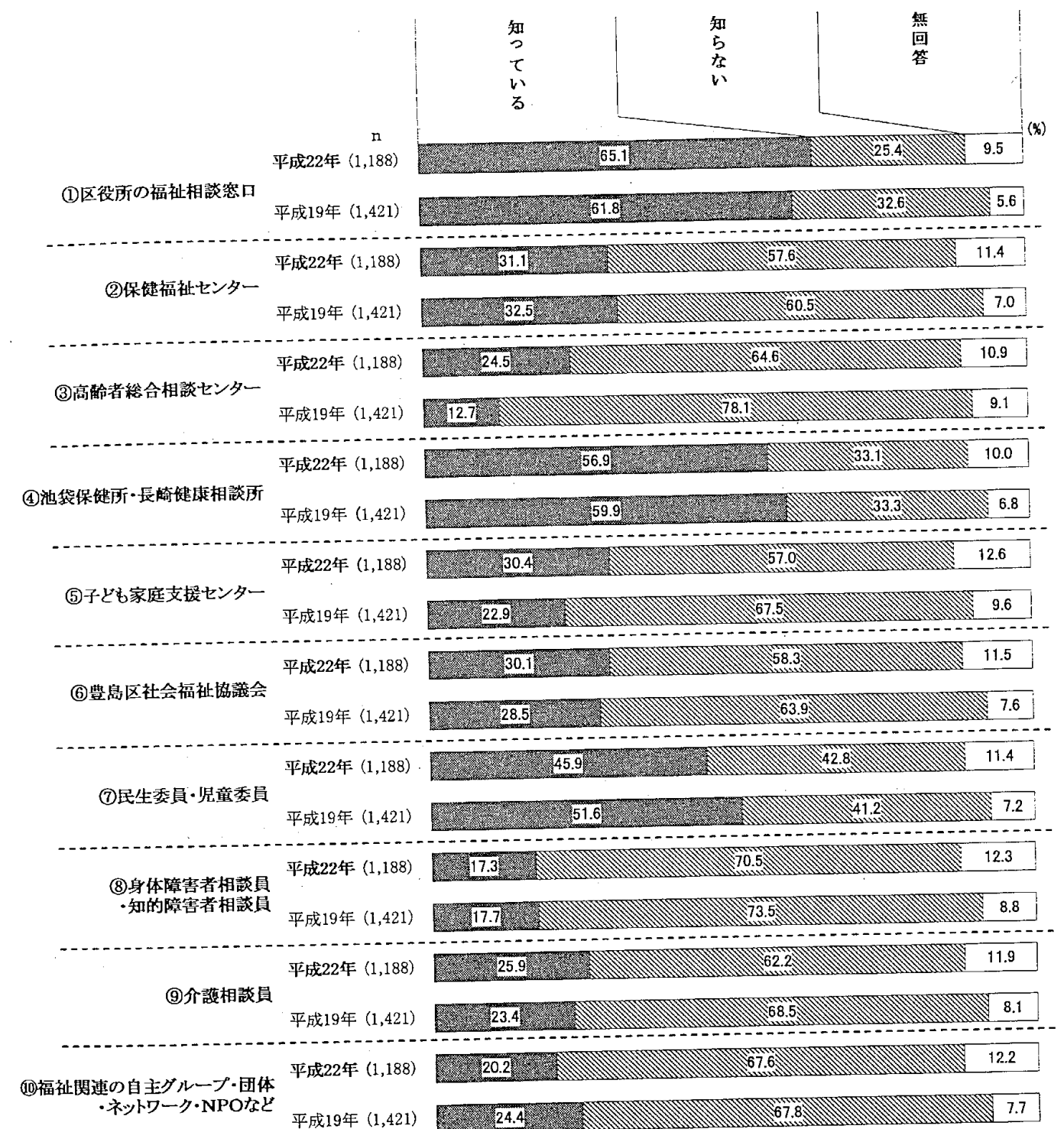
問20 次の福祉相談窓口などを知っていますか。また相談したことはありますか。知っていますか（①～⑩のそれぞれに○は1つのみ）相談しましたか（①～⑩のそれぞれに○は1つのみ）今後相談したいですか（①～⑩のそれぞれに○は1つのみ）



福祉相談窓口の周知度をみると〈区役所の福祉相談窓口〉が65.1%で最も多く、次いで〈池袋保健所・長崎健康相談所〉が56.9%、〈民生委員・児童委員〉が45.9%となっています。

平成19年調査と比較すると、周知度は〈高齢者総合相談センター〉は前回の12.7%から24.5%へと11.8ポイント増加しています。また、〈子ども家庭支援センター〉は、前回の22.9%から30.4%へと7.5ポイント増加しています。

《参考》平成19年調査との比較 福祉相談窓口を知っているか

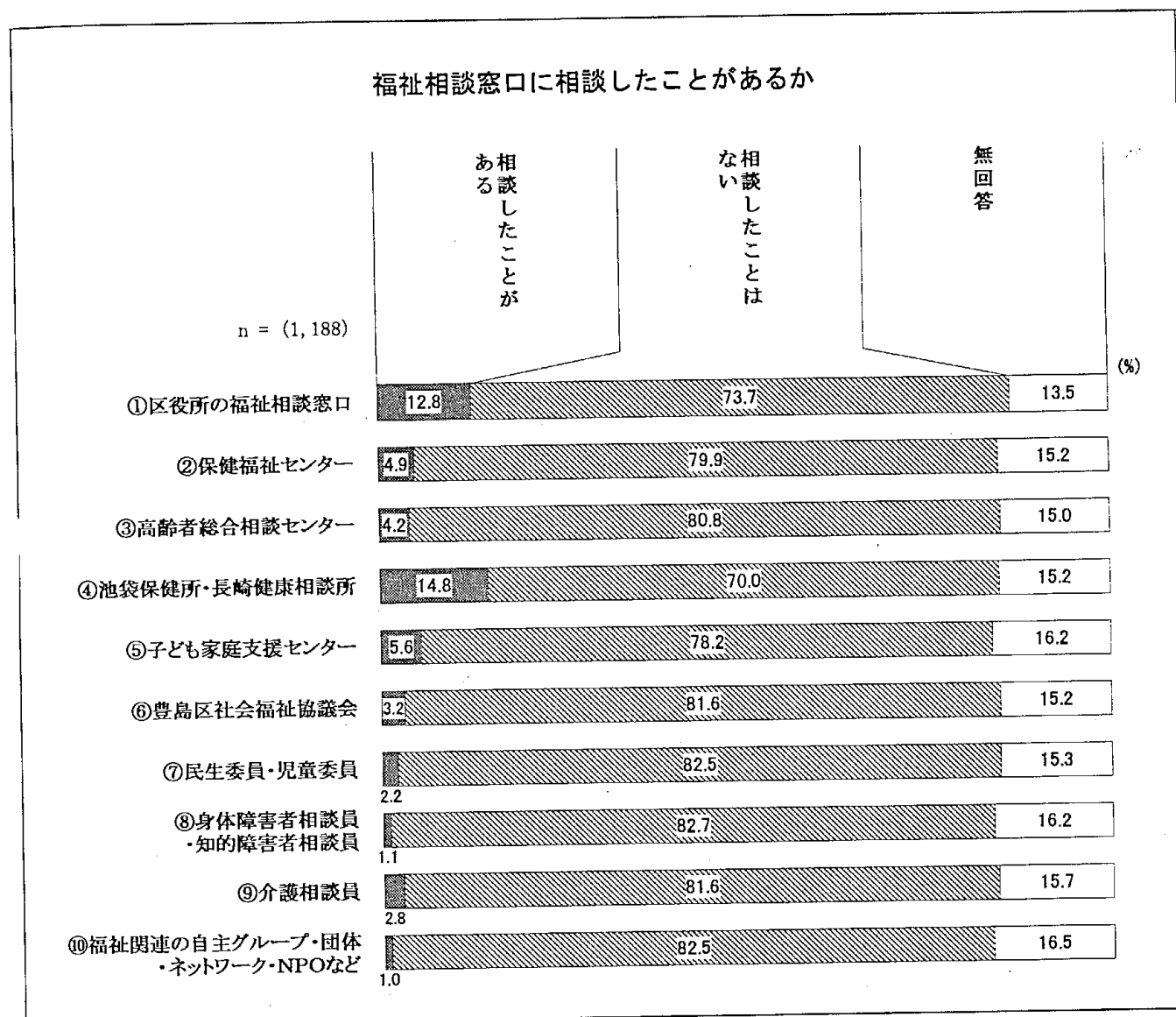


年齢別 福祉相談窓口を知っているか

	調査数	知っている	知らない	無回答
全 体	1188 100.0	291 24.5	767 64.6	130 10.9
20～24歳	58 100.0	10 17.2	45 77.6	3 5.2
25～29歳	87 100.0	8 9.2	72 82.8	7 8.0
30～34歳	92 100.0	13 14.1	75 81.5	4 4.3
35～39歳	120 100.0	18 15.0	98 81.7	4 3.3
40～44歳	94 100.0	21 22.3	70 74.5	3 3.2
45～49歳	112 100.0	34 30.4	72 64.3	6 5.4
50～54歳	98 100.0	34 34.7	60 61.2	4 4.1
55～59歳	127 100.0	40 31.5	74 58.3	13 10.2
60～64歳	140 100.0	44 31.4	75 53.6	21 15.0
65～69歳	115 100.0	32 27.8	59 51.3	24 20.9
70～74歳	120 100.0	29 24.2	51 42.5	40 33.3

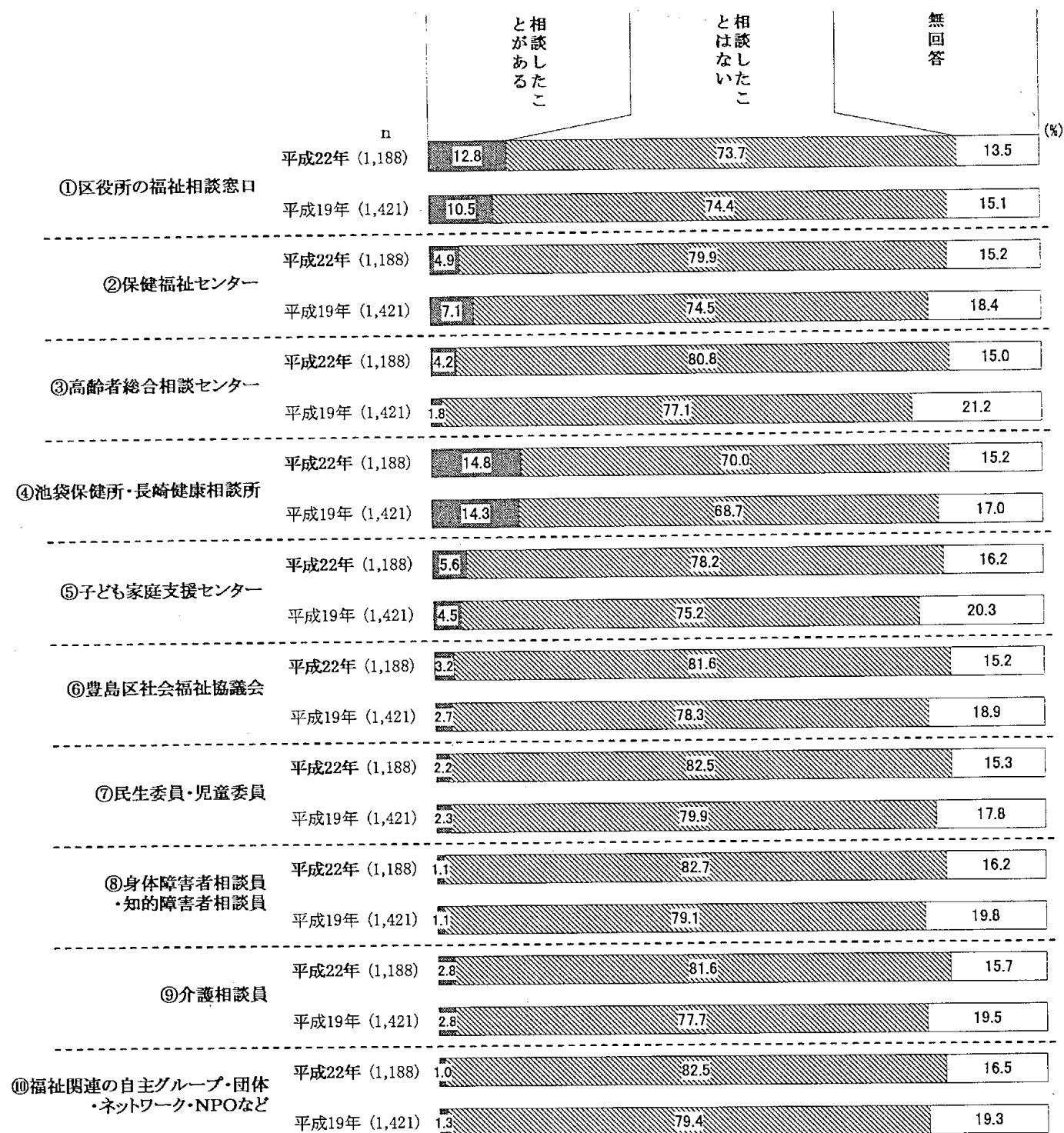
⑤子ども家庭支援センター

調査数	知っている	知らない	無回答
1188 100.0	361 30.4	677 57.0	150 12.6
58 100.0	17 29.3	38 65.5	3 5.2
87 100.0	16 18.4	65 74.7	6 6.9
92 100.0	32 34.8	56 60.9	4 4.3
120 100.0	64 53.3	52 43.3	4 3.3
94 100.0	46 48.9	46 48.9	2 2.1
112 100.0	36 32.1	70 62.5	6 5.4
98 100.0	30 30.6	63 64.3	5 5.1
127 100.0	37 29.1	74 58.3	16 12.6
140 100.0	29 20.7	83 59.3	28 20.0
115 100.0	23 20.0	66 57.4	26 22.6
120 100.0	22 18.3	49 40.8	49 40.8



平成19年調査と比較すると、利用度は〈高齢者総合相談センター〉は前回の1.8%から4.2%へと2.4ポイント増加しています。

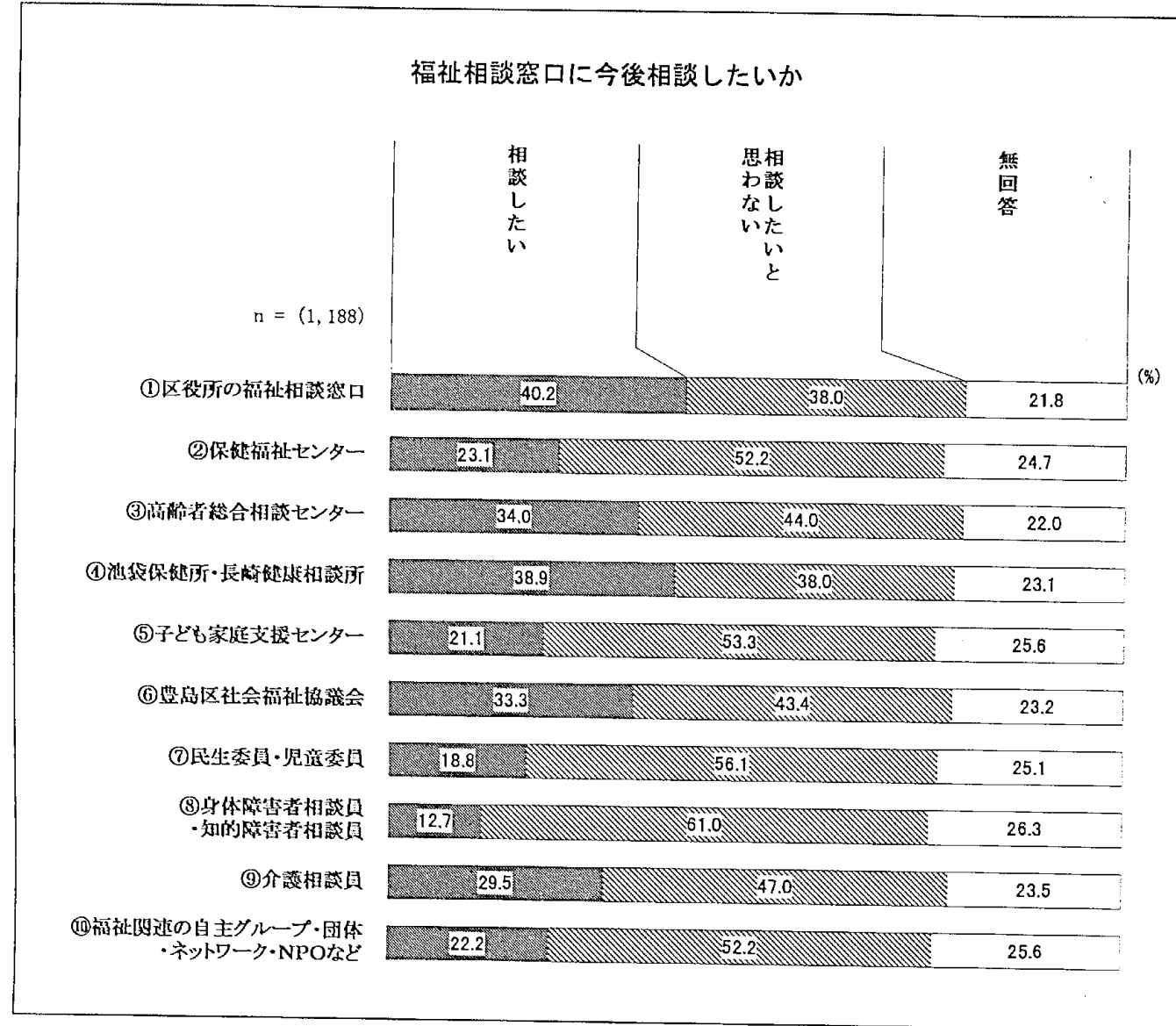
《参考》平成19年調査との比較 福祉相談窓口に相談したことがあるか



〈高齢者総合相談センター〉〈子ども家庭支援センター〉について、年齢別の利用度をみると、〈高齢者総合相談センター〉では、60～64歳で9.3%と、最も多くなっています。また、〈子ども家庭支援センター〉では、35～39歳で24.2%と、最も多くなっています。

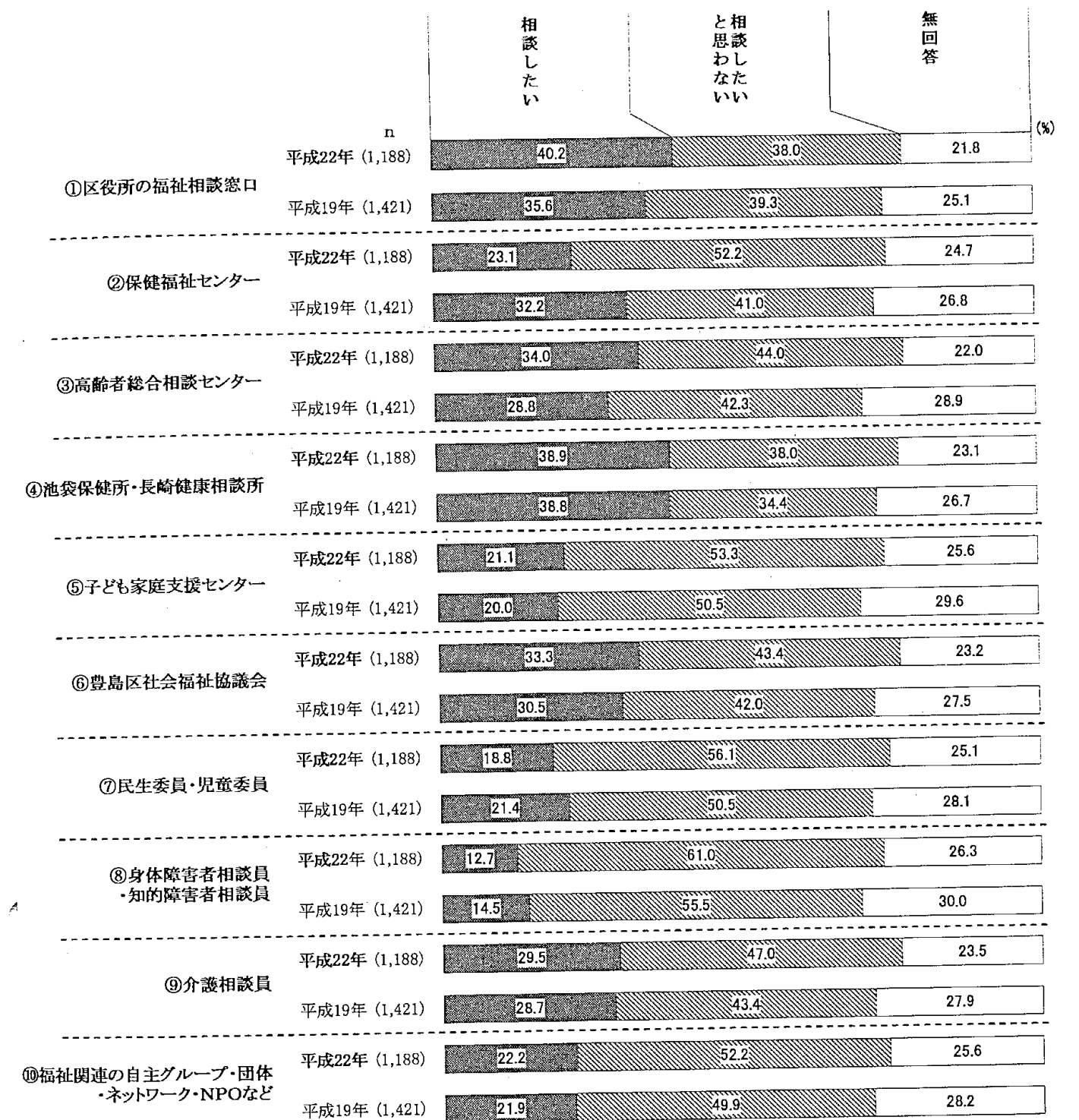
年齢別 福祉相談窓口に相談したことがあるか

③高齢者総合相談センター					⑤子ども家庭支援センター			
	調査数	が相談した人	は相談したくない人	無回答	調査数	が相談した人	は相談したくない人	無回答
全 体	1188	50	960	178	1188	66	929	193
	100.0	4.2	80.8	15.0	100.0	5.6	78.2	16.2
20～24歳	58	-	55	3	58	-	55	3
	100.0	-	94.8	5.2	100.0	-	94.8	5.2
25～29歳	87	-	81	6	87	4	77	6
	100.0	-	93.1	6.9	100.0	4.6	88.5	6.9
30～34歳	92	3	83	6	92	9	77	6
	100.0	3.3	90.2	6.5	100.0	9.8	83.7	6.5
35～39歳	120	1	108	11	120	29	82	9
	100.0	0.8	90.0	9.2	100.0	24.2	68.3	7.5
40～44歳	94	1	87	6	94	11	79	4
	100.0	1.1	92.6	6.4	100.0	11.7	84.0	4.3
45～49歳	112	4	96	12	112	6	97	9
	100.0	3.6	85.7	10.7	100.0	5.4	86.6	8.0
50～54歳	98	6	84	8	98	4	86	8
	100.0	6.1	85.7	8.2	100.0	4.1	87.8	8.2
55～59歳	127	9	102	16	127	-	106	21
	100.0	7.1	80.3	12.6	100.0	-	83.5	16.5
60～64歳	140	13	102	25	140	2	105	33
	100.0	9.3	72.9	17.9	100.0	1.4	75.0	23.6
65～69歳	115	3	80	32	115	-	81	34
	100.0	2.6	69.6	27.8	100.0	-	70.4	29.6
70～74歳	120	6	65	49	120	1	63	56
	100.0	5.0	54.2	40.8	100.0	0.8	52.5	46.7



福祉相談窓口の利用意向をみると、〈区役所の福祉相談窓口〉が40.2%で最も多く、次いで〈池袋保健所・長崎健康相談所〉が38.9%、〈高齢者総合相談センター〉が34.0%となっています。

平成19年調査と比較すると、利用意向は〈区役所の福祉相談窓口〉は前回の35.6%から40.2%へと4.6ポイント増加しているほか、「高齢者総合相談センター」や、「豊島区社会福祉協議会」も増加傾向を示しています。また、〈保健福祉センター〉は前回の32.2%から23.1%へと減少しています。これは、平成19年調査時において、〈保健福祉センター〉では、高齢者及び障害者の相談支援の機能を果たしていましたが、平成22年調査時においては、障害者に特化した相談支援へと役割・機能が変ったことによるものと思われます。



〈高齢者総合相談センター〉〈子ども家庭支援センター〉について、年齢別の利用意向をみると、〈高齢者総合相談センター〉では、50～64歳で40%台を占め、多くなっています。また、〈子ども家庭支援センター〉では、30～34歳、35～39歳で、それぞれ41.3%、45.8%と多くなっています。

年齢別 福祉相談窓口に関心があるか

③高齢者総合相談センター					⑤子ども家庭支援センター				
	調査数	相談したい	思わぬ相談したい	無回答		調査数	相談したい	思わぬ相談したい	無回答
全体	1188	404	523	261		1188	251	633	304
	100.0	34.0	44.0	22.0		100.0	21.1	53.3	25.6
20～24歳	58	15	37	6		58	17	34	7
	100.0	25.9	63.8	10.3		100.0	29.3	58.6	12.1
25～29歳	87	18	55	14		87	29	46	12
	100.0	20.7	63.2	16.1		100.0	33.3	52.9	13.8
30～34歳	92	27	54	11		92	38	42	12
	100.0	29.3	58.7	12.0		100.0	41.3	45.7	13.0
35～39歳	120	30	73	17		120	55	52	13
	100.0	25.0	60.8	14.2		100.0	45.8	43.3	10.8
40～44歳	94	30	56	8		94	31	55	8
	100.0	31.9	59.6	8.5		100.0	33.0	58.5	8.5
45～49歳	112	33	61	18		112	17	79	16
	100.0	29.5	54.5	16.1		100.0	15.2	70.5	14.3
50～54歳	98	47	33	18		98	16	61	21
	100.0	48.0	33.7	18.4		100.0	16.3	62.2	21.4
55～59歳	127	56	43	28		127	16	78	33
	100.0	44.1	33.9	22.0		100.0	12.6	61.4	26.0
60～64歳	140	63	42	35		140	11	76	53
	100.0	45.0	30.0	25.0		100.0	7.9	54.3	37.9
65～69歳	115	36	37	42		115	5	59	51
	100.0	31.3	32.2	36.5		100.0	4.3	51.3	44.3
70～74歳	120	38	24	58		120	10	40	70
	100.0	31.7	20.0	48.3		100.0	8.3	33.3	58.3

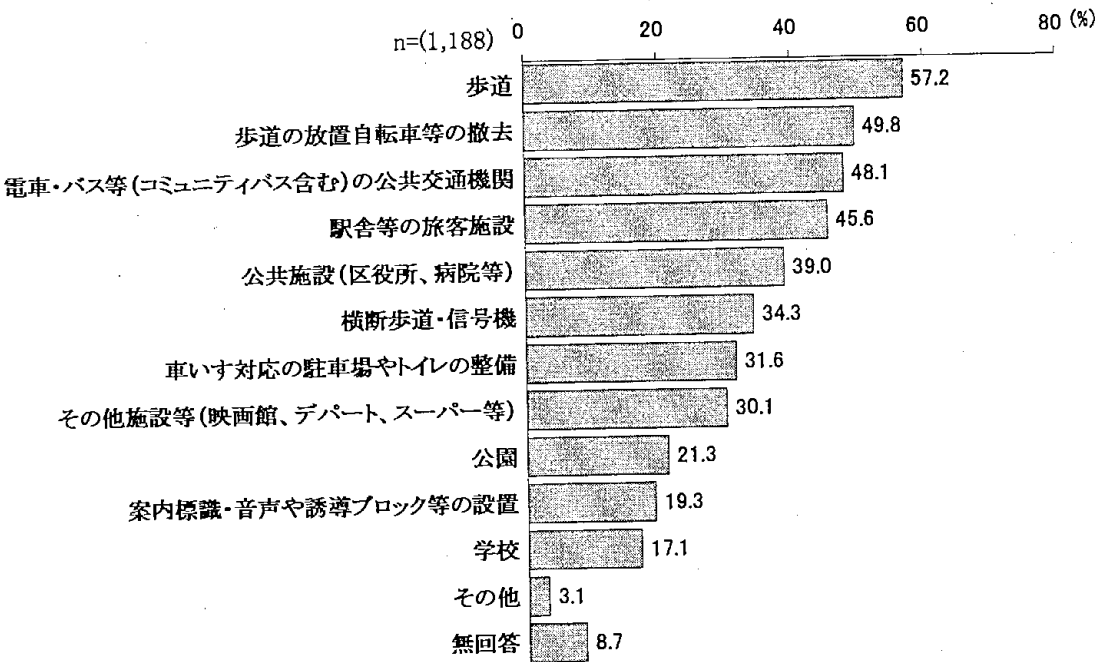
第5章 福祉のまちづくりについて

地域保健福祉計画改定に向けた課題

- バリアフリー化を推進するべきものとして、平成19年調査に比べて、「歩道」をはじめ、「電車・バス等の公共交通機関」「駅舎等の旅客施設」等がやや低下していますが、「公共施設」「公園」「学校」は増加しており、今まで以上に幅広くバリアフリーを推進していくことが求められます。
- 区内でも、バリアフリー化を推進するべきものとして、中央地区では「歩道」や「駅舎等の旅客施設」が他の地区より多くなっており、地域の特性に応じて、バリアフリーを推進していく必要があります。
- バリアフリーへの満足度をみると、東部地区、中央地区では不満という人が西部地区より多くなっており、一層のバリアフリー化の推進が求められています。
- 外出の際に困ることとして、道路の障害物の多さや道路・建物の段差を挙げる人が多くなっています。高齢者をはじめとして区民が、安全・安心に行動できるようにするため、道路に障害物を置かない等、区民のマナーを向上させることも含めて、各種の取り組みを充実させていく必要があります。

1 バリアフリー化すべき施設

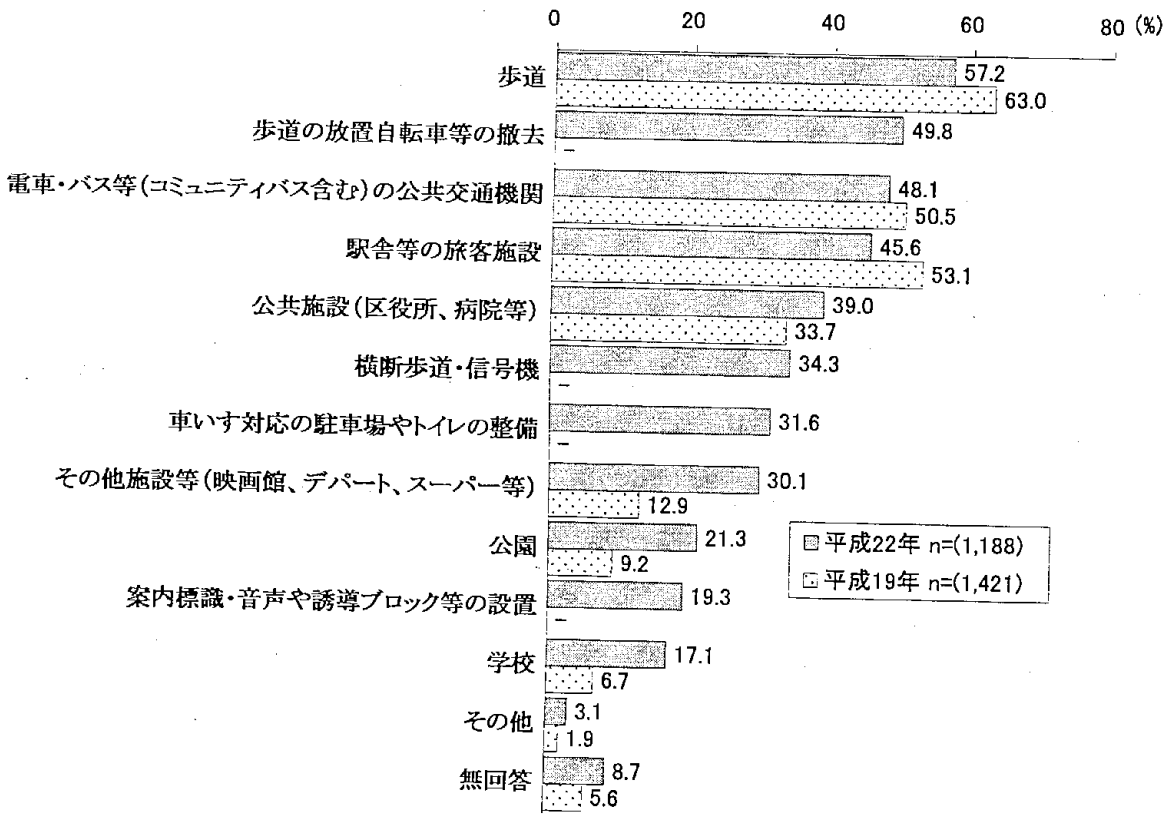
問21 公共施設、生活関連施設や鉄道等のバリアフリー化の整備が進んでいますが、これからバリアフリー化を進めてほしい施設等がありますか。（〇はあてはまるものすべて）



「歩道」が57.2%で最も多く、次いで「歩道の放置自転車等の撤去」が49.8%、「電車・バス等（コミュニティバス含む）の公共交通機関」が48.1%、「駅舎等の旅客施設」が45.6%となっています。

平成19年調査と比較すると、「歩道」が、前回の63.0%から今回57.2%へと5.8ポイント低下しているのをはじめ、「電車・バス等（コミュニティバス含む）の公共交通機関」、「駅舎等の旅客施設」も低下傾向を示しています。一方、「公共施設（区役所、病院等）」が、前回の33.7%から、今回39.0%と5.3ポイント増加したのをはじめ、「その他の施設（映画館、デパート、スーパー等）」「公園」「学校」も上昇傾向を示しています。

《参考》平成19年調査との比較 バリアフリー化すべき施設



※ 平成19年は「歩道の放置自転車等の撤去」「横断歩道・信号機」「車いす対応の駐車場やトイレの整備」「案内標識・音声や誘導ブロック等の設置」はない。

3 地区別でみると、中央地区では、「歩道」が58.9%を占めているほか、「電車・バス等（コミュニティバス含む）の公共交通機関」も、他の地区よりやや多くなっています。

8 地区別でみると、中央地区3では、「歩道」が69.4%と多くなっているほか、中央地区4でも63.1%となっています。また、中央地区4では「電車・バス等（コミュニティバス含む）の公共交通機関」、「駅舎等の旅客施設」のバリアフリー化への要望が、他の地区より多くなっています。

地区別 バリアフリー化すべき施設

	調査数	歩道	撤去 歩道の 放置自転車 等の	電車・バス等 (コミュニティバス 含む)の公 共交通機 関	駅舎等の 旅客施設	公共施設 (区役所、 病院等)	横断歩道・ 信号機	車いす 対応の 駐車場 や トイレ の整備	その他 施設等 (映画 館、デ パート 、スー パー等)	公園	案内 標識・ 音声 や誘 導 ブ ロ ッ ク 等 の 設 置	学 校	そ の 他	無 回 答
全 体	1188	679	592	572	542	463	407	375	357	253	229	203	37	103
	100.0	57.2	49.8	48.1	45.6	39.0	34.3	31.6	30.1	21.3	19.3	17.1	3.1	8.7
東部地区	302	167	156	146	133	110	94	103	91	55	61	40	6	28
	100.0	55.3	51.7	48.3	44.0	36.4	31.1	34.1	30.1	18.2	20.2	13.2	2.0	9.3
中央地区	642	378	321	323	310	267	236	191	194	143	121	118	24	49
	100.0	58.9	50.0	50.3	48.3	41.6	36.8	29.8	30.2	22.3	18.8	18.4	3.7	7.6
西部地区	241	133	114	103	99	85	76	81	72	55	47	45	7	25
	100.0	55.2	47.3	42.7	41.1	35.3	31.5	33.6	29.9	22.8	19.5	18.7	2.9	10.4
東部地区1	152	79	78	71	66	49	40	53	45	24	26	17	3	16
	100.0	52.0	51.3	46.7	43.4	32.2	26.3	34.9	29.6	15.8	17.1	11.2	2.0	10.5
東部地区2	150	88	78	75	67	61	54	50	46	31	35	23	3	12
	100.0	58.7	52.0	50.0	44.7	40.7	36.0	33.3	30.7	20.7	23.3	15.3	2.0	8.0
中央地区1	188	96	97	97	84	74	64	48	49	35	35	30	7	21
	100.0	51.1	51.6	51.6	44.7	39.4	34.0	25.5	26.1	18.6	18.6	16.0	3.7	11.2
中央地区2	179	100	82	78	86	74	67	57	50	33	29	27	10	14
	100.0	55.9	45.8	43.6	48.0	41.3	37.4	31.8	27.9	18.4	16.2	15.1	5.6	7.8
中央地区3	134	93	67	69	65	59	50	39	49	34	27	30	3	11
	100.0	69.4	50.0	51.5	48.5	44.0	37.3	29.1	36.6	25.4	20.1	22.4	2.2	8.2
中央地区4	141	89	75	79	75	60	55	47	46	41	30	31	4	3
	100.0	63.1	53.2	56.0	53.2	42.6	39.0	33.3	32.6	29.1	21.3	22.0	2.8	2.1
西部地区1	117	67	54	51	46	37	39	41	34	24	25	21	1	17
	100.0	57.3	46.2	43.6	39.3	31.6	33.3	35.0	29.1	20.5	21.4	17.9	0.9	14.5
西部地区2	124	66	60	52	53	48	37	40	38	31	22	24	6	8
	100.0	53.2	48.4	41.9	42.7	38.7	29.8	32.3	30.6	25.0	17.7	19.4	4.8	6.5

家族構成別でみると、高齢者のみ夫婦では、「歩道の放置自転車等の撤去」が62.9%と、他の家族構成より多くなっています。

家族構成別 バリアフリー化すべき施設

	調査数	歩道	歩道の放置自転車等の撤去	公共交通機関（バス等）の公	駅舎等の旅客施設	公共施設（区役所、病	横断歩道・信号機	車いす対応の駐車場やトイレの整備	その他施設等（映画館、デパート、スポーツ等）	公園	案内標識・音声や誘導	学校	その他	無回答
全 体	1188	679	592	572	542	463	407	375	357	253	229	203	37	103
	100.0	57.2	49.8	48.1	45.6	39.0	34.3	31.6	30.1	21.3	19.3	17.1	3.1	8.7
単身（65歳未満）	184	103	87	96	96	68	61	53	51	31	44	24	6	14
	100.0	56.0	47.3	52.2	52.2	37.0	33.2	28.8	27.7	16.8	23.9	13.0	3.3	7.6
単身（65歳以上）	60	27	34	23	14	19	15	14	7	5	6	2	2	11
	100.0	45.0	56.7	38.3	23.3	31.7	25.0	23.3	11.7	8.3	10.0	3.3	3.3	18.3
夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	147	83	75	67	69	46	38	55	44	33	30	26	3	15
	100.0	56.5	51.0	45.6	46.9	31.3	25.9	37.4	29.9	22.4	20.4	17.7	2.0	10.2
夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	70	35	44	25	24	27	26	18	17	15	10	2	3	11
	100.0	50.0	62.9	35.7	34.3	38.6	37.1	25.7	24.3	21.4	14.3	2.9	4.3	15.7
夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	46	27	24	20	18	20	22	17	13	13	11	7	2	9
	100.0	58.7	52.2	43.5	39.1	43.5	47.8	37.0	28.3	28.3	23.9	15.2	4.3	19.6
二世世代家族（親と子）	538	328	264	273	257	222	193	169	183	121	105	119	15	32
	100.0	61.0	49.1	50.7	47.8	41.3	35.9	31.4	34.0	22.5	19.5	22.1	2.8	5.9
三世世代家族（親と子と孫）	84	42	41	40	38	34	32	27	26	19	13	15	3	7
	100.0	50.0	48.8	47.6	45.2	40.5	38.1	32.1	31.0	22.6	15.5	17.9	3.6	8.3
兄弟姉妹のみ	22	11	10	8	9	9	8	9	5	5	5	1	-	1
	100.0	50.0	45.5	36.4	40.9	40.9	36.4	40.9	22.7	22.7	22.7	4.5	-	4.5
その他	29	20	11	18	14	17	11	12	11	10	5	6	2	-
	100.0	69.0	37.9	62.1	48.3	58.6	37.9	41.4	37.9	34.5	17.2	20.7	6.9	-

※ 「兄弟姉妹のみ」と「その他」は基数が少ないため分析ではふれていない。

外出頻度別でみると、ほぼ毎日では、「歩道」が59.3%と多く、週に3～4回でも58.8%、週に1～2回でも55.8%となっています。

外出頻度別 バリアフリー化すべき施設

	調査数	歩道	駅舎等の旅客施設	公共交通機関（バス等）の公	公共施設（区役所、病	公園	学校	その他施設等（映画館、デパート、スポーツ等）	横断歩道・信号機	案内標識・音声や誘導	歩道の放置自転車等の撤去	車いす対応の駐車場やトイレの整備	その他	無回答
全 体	1188	679	542	572	463	253	203	357	407	229	592	375	37	103
	100.0	57.2	45.6	48.1	39.0	21.3	17.1	30.1	34.3	19.3	49.8	31.6	3.1	8.7
ほぼ毎日	964	572	462	488	403	221	183	302	351	197	498	326	30	50
	100.0	59.3	47.9	50.6	41.8	22.9	19.0	31.3	36.4	20.4	51.7	33.8	3.1	5.2
週に3～4回	131	77	56	59	45	21	19	41	39	23	68	36	6	10
	100.0	58.8	42.7	45.0	34.4	16.0	14.5	31.3	29.8	17.6	51.9	27.5	4.6	7.6
週に1～2回	43	24	20	21	11	8	1	10	15	6	19	10	1	4
	100.0	55.8	46.5	48.8	25.6	18.6	2.3	23.3	34.9	14.0	44.2	23.3	2.3	9.3
月に2～3回	7	3	2	3	2	2	-	2	2	3	4	2	-	1
	100.0	42.9	28.6	42.9	28.6	28.6	-	28.6	28.6	42.9	57.1	28.6	-	14.3
年に数回	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-
外出しない	6	2	2	1	2	-	-	2	-	-	2	1	-	2
	100.0	33.3	33.3	16.7	33.3	-	-	33.3	-	-	33.3	16.7	-	33.3

※ 「月に2～3回」「年に数回」「外出しない」は基数が少ないため分析ではふれていない。

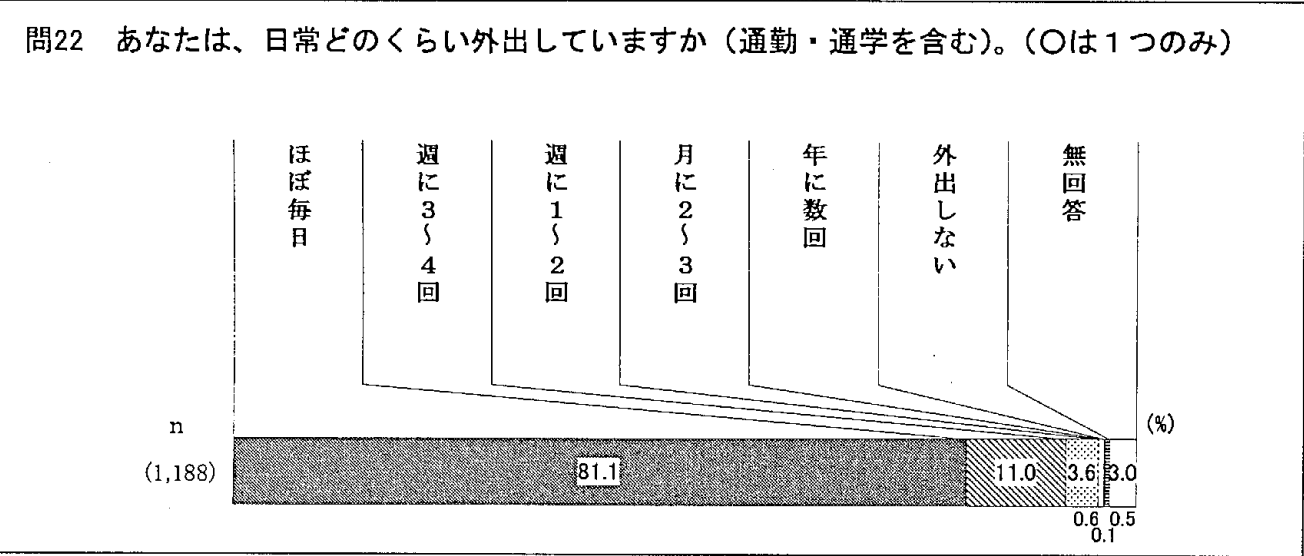
まちのバリアフリーの満足度別でみると、とても不満では、「歩道」が80.0%と最も多く、やや不満でも70.6%で最も多くなっています。

まちのバリアフリーの満足度別 バリアフリー化すべき施設

	調査数	歩道	駅舎等の旅客施設	公共交通機関（バス等）の公	公共施設（区役所、病	公園	学校	その他施設等（映画館、デパート、スポーツ等）	横断歩道・信号機	案内標識・音声や誘導	歩道の放置自転車等の撤去	車いす対応の駐車場やトイレの整備	その他	無回答
全 体	1188	679	542	572	463	253	203	357	407	229	592	375	37	103
	100.0	57.2	45.6	48.1	39.0	21.3	17.1	30.1	34.3	19.3	49.8	31.6	3.1	8.7
とても満足	13	4	3	3	4	1	2	3	3	1	6	1	-	2
	100.0	30.8	23.1	23.1	30.8	7.7	15.4	23.1	23.1	7.7	46.2	7.7	-	15.4
やや満足	218	117	86	94	81	43	32	59	66	38	118	60	4	12
	100.0	53.7	39.4	43.1	37.2	19.7	14.7	27.1	30.3	17.4	54.1	27.5	1.8	5.5
やや不満	374	264	209	223	175	101	77	132	172	89	225	140	6	6
	100.0	70.6	55.9	59.6	46.8	27.0	20.6	35.3	46.0	23.8	60.2	37.4	1.6	1.6
とても不満	105	84	68	68	58	38	29	49	55	38	67	50	8	2
	100.0	80.0	64.8	64.8	55.2	36.2	27.6	46.7	52.4	36.2	63.8	47.6	7.6	1.9
わからない	431	206	175	181	145	69	62	114	109	63	172	123	16	43
	100.0	47.8	40.6	42.0	33.6	16.0	14.4	26.5	25.3	14.6	39.9	28.5	3.7	10.0

※ 「とても満足」は基数が少ないため分析ではふれていない。

2 日常の外出頻度



日常の外出頻度を尋ねたところ、「ほぼ毎日」が81.1%で最も多く、次いで「週に3〜4回」が11.0%となっています。

性別でみると、女性では「週に3〜4回」が、13.2%と男性（7.5%）より多くなっています。

年齢別でみると、60歳以上になると、「ほぼ毎日」が低下し、70〜74歳では、「週に3〜4回」が27.5%に達しています。

性別・年齢別 日常の外出頻度

	調査数	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に2〜3回	年に数回	外出しない	無回答
全 体	1188	964	131	43	7	1	6	36
	100.0	81.1	11.0	3.6	0.6	0.1	0.5	3.0
男性	452	376	34	16	1	-	3	22
	100.0	83.2	7.5	3.5	0.2	-	0.7	4.9
女性	729	582	96	27	6	1	3	14
	100.0	79.8	13.2	3.7	0.8	0.1	0.4	1.9
20〜24歳	58	50	7	1	-	-	-	-
	100.0	86.2	12.1	1.7	-	-	-	-
25〜29歳	87	79	5	2	-	-	-	1
	100.0	90.8	5.7	2.3	-	-	-	1.1
30〜34歳	92	83	7	1	-	-	-	1
	100.0	90.2	7.6	1.1	-	-	-	1.1
35〜39歳	120	104	7	1	-	-	1	7
	100.0	86.7	5.8	0.8	-	-	0.8	5.8
40〜44歳	94	86	5	3	-	-	-	-
	100.0	91.5	5.3	3.2	-	-	-	-
45〜49歳	112	99	9	2	-	-	-	2
	100.0	88.4	8.0	1.8	-	-	-	1.8
50〜54歳	98	82	8	2	2	-	-	4
	100.0	83.7	8.2	2.0	2.0	-	-	4.1
55〜59歳	127	107	12	4	1	-	1	2
	100.0	84.3	9.4	3.1	0.8	-	0.8	1.6
60〜64歳	140	107	23	3	1	1	-	5
	100.0	76.4	16.4	2.1	0.7	0.7	-	3.6
65〜69歳	115	87	11	8	1	-	1	7
	100.0	75.7	9.6	7.0	0.9	-	0.9	6.1
70〜74歳	120	61	33	14	2	-	3	7
	100.0	50.8	27.5	11.7	1.7	-	2.5	5.8

家族構成別でみると、高齢者のみ夫婦では「週に3〜4回」が25.7%を占めているほか、一人暮らし高齢者も25.0%となっており、他の家族構成に比べて、多くなっています。

家族構成別 日常の外出頻度

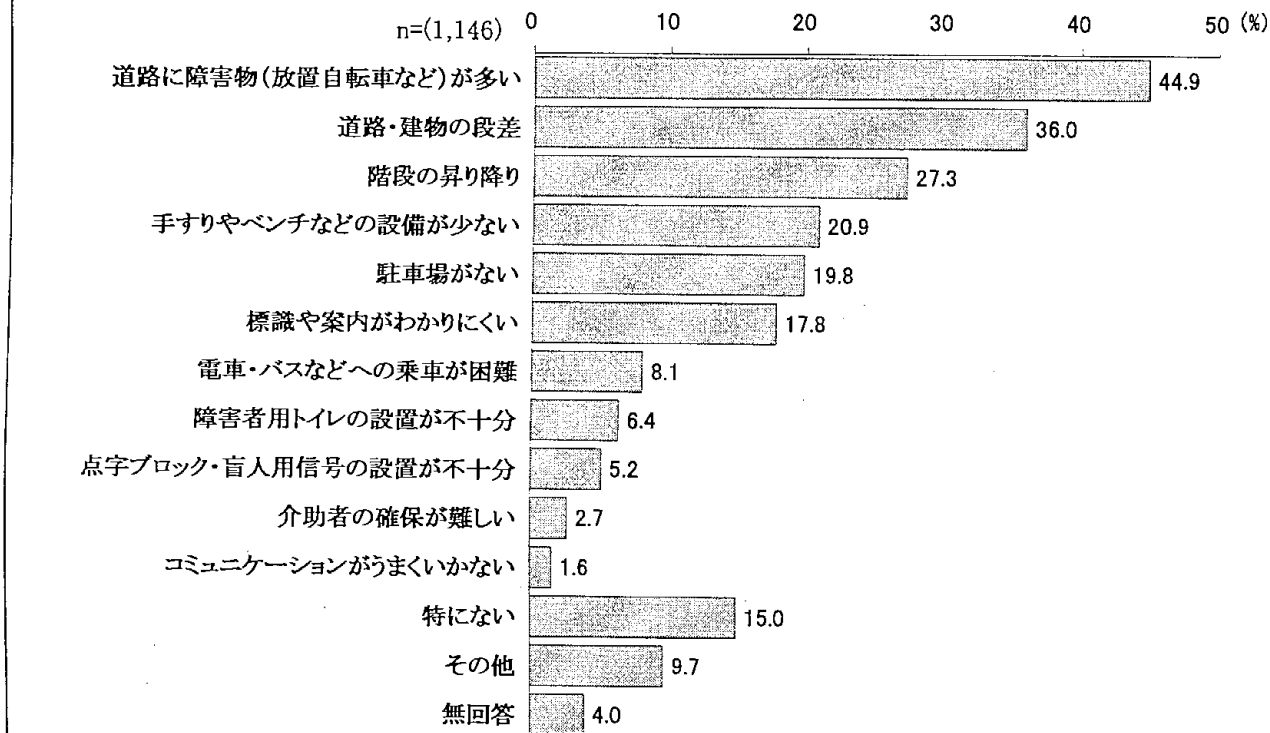
	調査数	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に2〜3回	年に数回	外出しない	無回答
全 体	1188	964	131	43	7	1	6	36
	100.0	81.1	11.0	3.6	0.6	0.1	0.5	3.0
単身（65歳未満）	184	155	21	3	1	-	-	4
	100.0	84.2	11.4	1.6	0.5	-	-	2.2
単身（65歳以上）	60	33	15	6	-	-	2	4
	100.0	55.0	25.0	10.0	-	-	3.3	6.7
夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	147	125	12	3	1	-	1	5
	100.0	85.0	8.2	2.0	0.7	-	0.7	3.4
夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	70	37	18	9	-	-	1	5
	100.0	52.9	25.7	12.9	-	-	1.4	7.1
夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	46	29	10	4	-	-	-	3
	100.0	63.0	21.7	8.7	-	-	-	6.5
二世大家族（親と子）	538	463	40	16	4	-	2	13
	100.0	86.1	7.4	3.0	0.7	-	0.4	2.4
三世大家族（親と子と孫）	84	67	12	1	1	1	-	2
	100.0	79.8	14.3	1.2	1.2	1.2	-	2.4
兄弟姉妹のみ	22	20	1	1	-	-	-	-
	100.0	90.9	4.5	4.5	-	-	-	-
その他	29	28	1	-	-	-	-	-
	100.0	96.6	3.4	-	-	-	-	-

※ 「兄弟姉妹のみ」と「その他」は基数が少ないため分析ではふれていない。

3 外出時に街の中や建物の中で困ったり、不便に思うこと

(問22で「1～5」のいずれかをお答えの方に)

問22-1 外出される際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)



外出の際の困ったことや不便に思うことは、「道路に障害物（放置自転車など）が多い」が44.9%で最も多く、次いで「道路・建物の段差」が36.0%、「階段の昇り降り」が27.3%となっています。

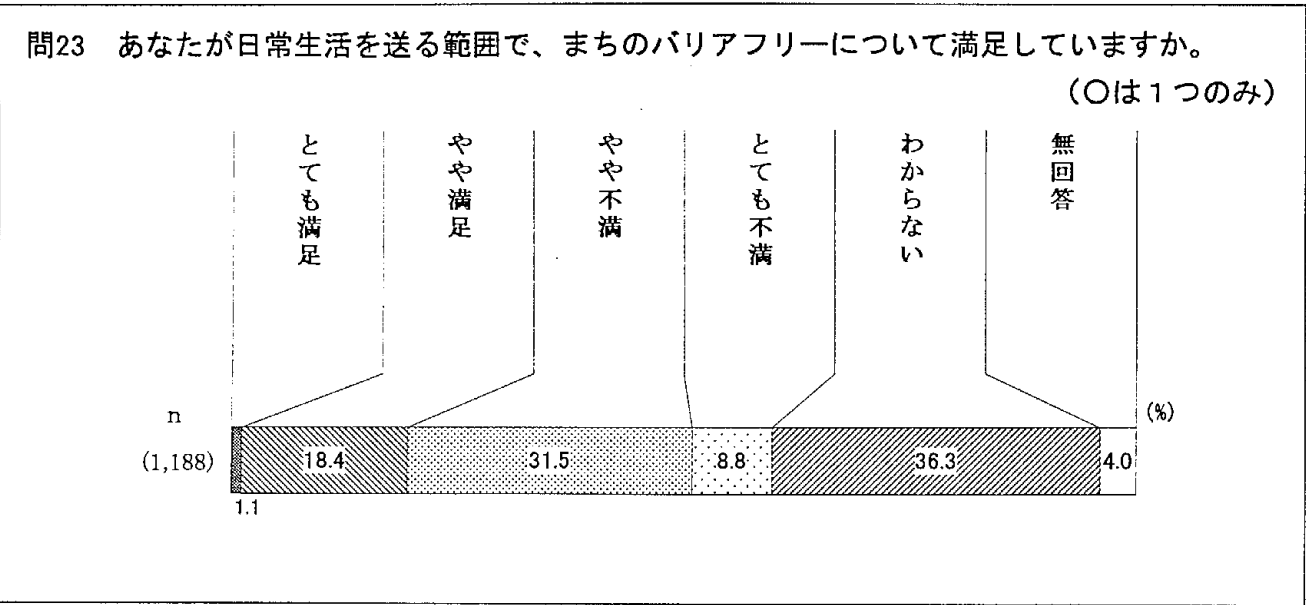
性別でみると、女性では「道路・建物の段差」が41.4%と、男性（27.4%）を大きく上回っているほか、「階段の昇り降り」も多くなっています。

年齢別でみると、45歳以上では「道路に障害物（放置自転車など）が多い」が、50%前後を占め多くなっています。また、30歳以上では、いずれの年齢でも「道路・建物の段差」が30%を超え、とくに60～64歳では43.7%となっています。

性別・年齢別 外出時に街の中や建物の中で困ったり、不便に思うこと

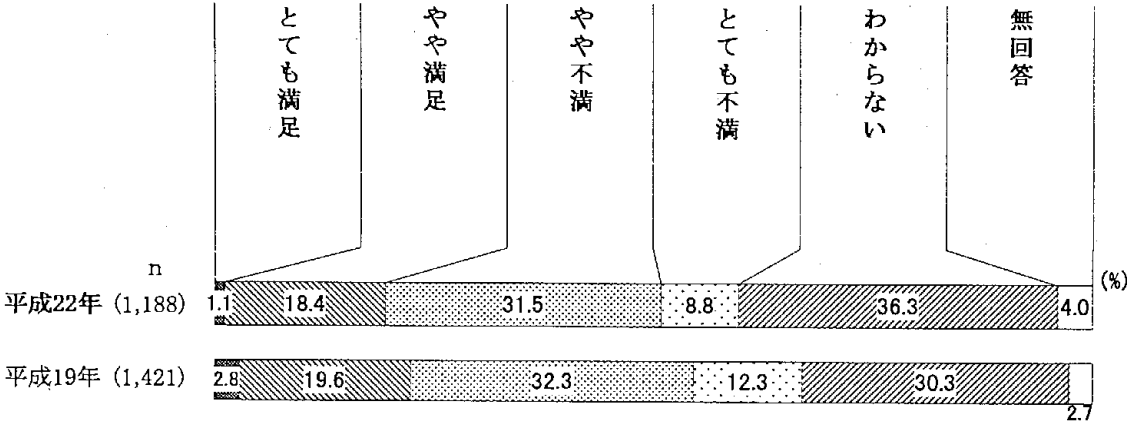
	調査数	道路に障害物(放置自転車など)が多い	道路・建物の段差	階段の昇り降り	手すりやベンチなどの設備が少ない	駐車場がない	標識や案内がわかりにくい	電車・バスなどへの乗車が困難	障害者用トイレの設置が不十分	点字ブロック・盲人用信号の設置が不十分	介助者の確保が難しい	コミュニケーションがうまくいかない	特にない	その他	無回答
全体	1146	514	413	313	240	227	204	93	73	60	31	18	172	111	46
	100.0	44.9	36.0	27.3	20.9	19.8	17.8	8.1	6.4	5.2	2.7	1.6	15.0	9.7	4.0
男性	427	181	117	80	68	127	80	23	28	20	9	5	80	31	18
	100.0	42.4	27.4	18.7	15.9	29.7	18.7	5.4	6.6	4.7	2.1	1.2	18.7	7.3	4.2
女性	712	329	295	232	169	100	124	70	45	39	22	13	91	77	28
	100.0	46.2	41.4	32.6	23.7	14.0	17.4	9.8	6.3	5.5	3.1	1.8	12.8	10.8	3.9
20～24歳	58	15	14	13	14	14	16	7	6	6	6	4	13	8	1
	100.0	25.9	24.1	22.4	24.1	24.1	27.6	12.1	10.3	10.3	10.3	6.9	22.4	13.8	1.7
25～29歳	86	26	24	21	20	20	13	12	8	6	1	3	18	8	1
	100.0	30.2	27.9	24.4	23.3	23.3	15.1	14.0	9.3	7.0	1.2	3.5	20.9	9.3	1.2
30～34歳	91	35	33	29	20	21	7	17	4	10	3	1	11	8	1
	100.0	38.5	36.3	31.9	22.0	23.1	7.7	18.7	4.4	11.0	3.3	1.1	12.1	8.8	1.1
35～39歳	112	45	41	32	17	39	13	12	10	7	1	3	13	15	5
	100.0	40.2	36.6	28.6	15.2	34.8	11.6	10.7	8.9	6.3	0.9	2.7	11.6	13.4	4.5
40～44歳	94	37	37	21	21	18	18	7	10	5	1	1	15	12	7
	100.0	39.4	39.4	22.3	22.3	19.1	19.1	7.4	10.6	5.3	1.1	1.1	16.0	12.8	7.4
45～49歳	110	57	36	24	20	25	20	10	11	8	4	1	13	13	6
	100.0	51.8	32.7	21.8	18.2	22.7	18.2	9.1	10.0	7.3	3.6	0.9	11.8	11.8	5.5
50～54歳	94	45	32	24	18	18	16	1	5	2	1	1	14	8	2
	100.0	47.9	34.0	25.5	19.1	19.1	17.0	1.1	5.3	2.1	1.1	1.1	14.9	8.5	2.1
55～59歳	124	64	45	34	30	28	35	8	7	5	4	2	17	9	7
	100.0	51.6	36.3	27.4	24.2	22.6	28.2	6.5	5.6	4.0	3.2	1.6	13.7	7.3	5.6
60～64歳	135	64	59	43	29	18	26	7	5	4	7	1	22	13	4
	100.0	47.4	43.7	31.9	21.5	13.3	19.3	5.2	3.7	3.0	5.2	0.7	16.3	9.6	3.0
65～69歳	107	57	41	32	21	12	16	4	4	3	1	-	15	10	4
	100.0	53.3	38.3	29.9	19.6	11.2	15.0	3.7	3.7	2.8	0.9	-	14.0	9.3	3.7
70～74歳	110	56	41	33	22	11	19	4	3	3	1	-	20	3	5
	100.0	50.9	37.3	30.0	20.0	10.0	17.3	3.6	2.7	2.7	0.9	-	18.2	2.7	4.5

4 まちのバリアフリーの満足度



「やや不満」が31.5%で最も多く、次いで「やや満足」が18.4%となっています。
平成19年調査と比較すると、《満足》(「とても満足」と「やや満足」の合計)、《不満》(「やや不満」と「とても不満」の合計)とも、今回、低下しています。

《参考》平成19年調査との比較 まちのバリアフリーの満足度



3 地区別でみると、東部地区、中央地区では《不満》が、いずれも40%を超え、西部地区より多くなっています。

8 地区別でみると、東部地区2、中央地区3、中央地区4では、《不満》が、それぞれ46.6%、47.8%、48.3%と、他の地区より多くなっています。

地区別 まちのバリアフリーの満足度

	調査数	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満	わからない	無回答
全 体	1188	13	218	374	105	431	47
	100.0	1.1	18.4	31.5	8.8	36.3	4.0
東部地区	302	2	57	96	35	100	12
	100.0	0.7	18.9	31.8	11.6	33.1	4.0
中央地区	642	7	114	204	58	234	25
	100.0	1.1	17.8	31.8	9.0	36.4	3.9
西部地区	241	4	46	73	12	96	10
	100.0	1.7	19.1	30.3	5.0	39.8	4.1
東部地区1	152	2	31	49	12	51	7
	100.0	1.3	20.4	32.2	7.9	33.6	4.6
東部地区2	150	-	26	47	23	49	5
	100.0	-	17.3	31.3	15.3	32.7	3.3
中央地区1	188	3	32	58	18	67	10
	100.0	1.6	17.0	30.9	9.6	35.6	5.3
中央地区2	179	2	37	42	12	78	8
	100.0	1.1	20.7	23.5	6.7	43.6	4.5
中央地区3	134	-	24	54	10	42	4
	100.0	-	17.9	40.3	7.5	31.3	3.0
中央地区4	141	2	21	50	18	47	3
	100.0	1.4	14.9	35.5	12.8	33.3	2.1
西部地区1	117	2	22	37	5	44	7
	100.0	1.7	18.8	31.6	4.3	37.6	6.0
西部地区2	124	2	24	36	7	52	3
	100.0	1.6	19.4	29.0	5.6	41.9	2.4

5 ガイドマップに期待するもの、要望（自由記入）

問24 豊島区では、高齢の方や障害のある方だけでなく、すべての方々の安全でスムーズな移動に役立てていただけるよう「福祉のまちづくりガイドマップ」を平成22年3月に作成しました。このガイドマップに対して期待するもの、要望などありましたら、ご記入ください。

ガイドマップについて期待するもの、要望を尋ねたところ206名、218件の記述がありました。

項 目	件数
見たことがない、存在を知らない、マップの広報促進、流通の充実	126
一家に1冊等、多くの人に配布してほしい	13
大きな文字やイラスト入り等、分かりやすく	10
障害者、高齢者、子ども、外国人等、すべての方に分かりやすくしてほしい	7
駅等のエレベーター、エスカレーターの案内の記載	5
配布、設置場所の充実	5
ベビーカー使用可能も記載	4
マップの広報促進、流通の充実	4
ガイドマップはいらない。予算の無駄	3
入手方法を明確にしてほしい	2
見やすくポケットサイズのものにしてほしい	2
必要な人にだけ配ればよい	2
インターネットで印刷・ダウンロード可能にしてほしい	2
車椅子の方のためのトイレやエレベーターの記載等、身障者のための記載	2
授乳室、オムツ交換室の記載	2
マップの更新を定期的にしてほしい	2
点字ブロックの情報	2
無駄のない活動	2
その他	23

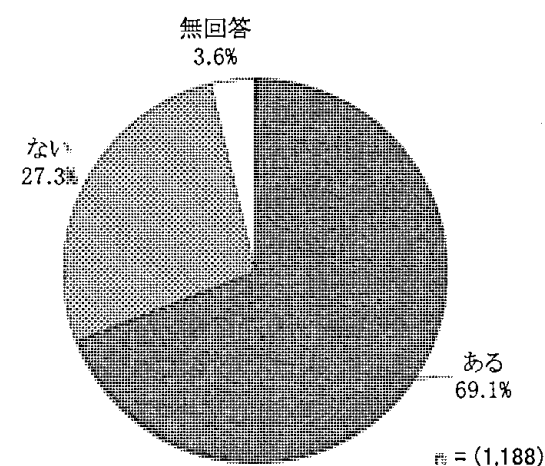
第6章 地域での支え合いや助け合いについて

地域保健福祉計画改定に向けた課題

- 心のバリアフリーを進めるためには、区民一人ひとりが、高齢者や障害者、外国人に対する差別意識や偏見をなくしていくことが必要です。こうしたことから、学校教育や生涯学習等、あらゆる機会と場を通じて、区民一人ひとりの人権の大切さについて学習できるようにするとともに、日頃から、様々な人々がお互いに対する理解を深められるよう、交流の場の拡充をしていくことが必要です。
- 住民同士の支え合いや助け合いが必要だという人は、平成19年調査と同様に区民の多数を占めています。そのために必要なこととして、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が、平成19年調査より増加しているほか、「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」も増えています。「今後、参加してみたい地域活動」についての設問でも、「町会・自治会の活動」への参加意向が増加していることを考え合わせると、今後、地域活動の推進において町会・自治会が重要な役割を果たしていくことが期待されています。
- 住民同士の支え合いを必要と考える一人暮らし高齢者では、「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」が重要と考える人が多くなっており、こうした声に地域の人々が応えて、交流を促進していくことが必要です。
- コミュニティソーシャルワーカーについては、認知度が極めて低いことから、今後は、その活動内容や役割を、区民に広く知らせていくことが必要です。

1 困っている人を見かけたことの有無

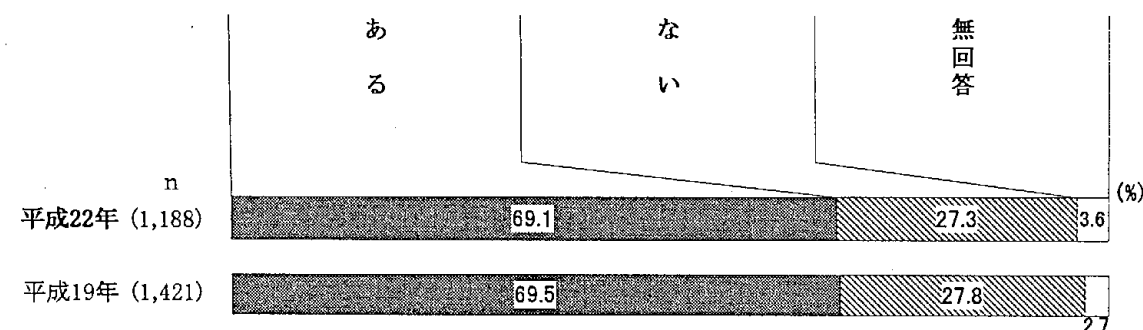
問25 外出先で障害者や高齢者、乳幼児を連れた保護者などが困っているのを見かけたことがありますか。(〇は1つのみ)



外出先で障害者、高齢者等が困っているのを見かけたことを尋ねたところ、「ある」が69.1%を占めています。

平成19年調査と比較すると、前回は69.5%、今回は69.1%と、ほぼ横這い状態となっています。

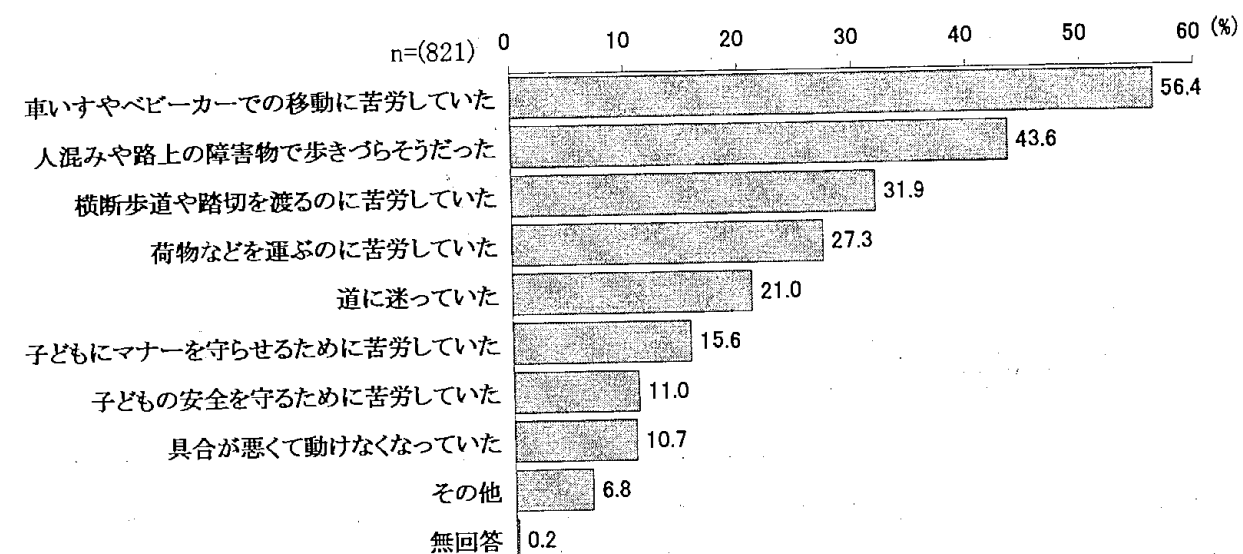
《参考》平成19年調査との比較 困っている人を見かけたことの有無



2 困っていた人の状況

(問25で「1. ある」とお答えの方に)

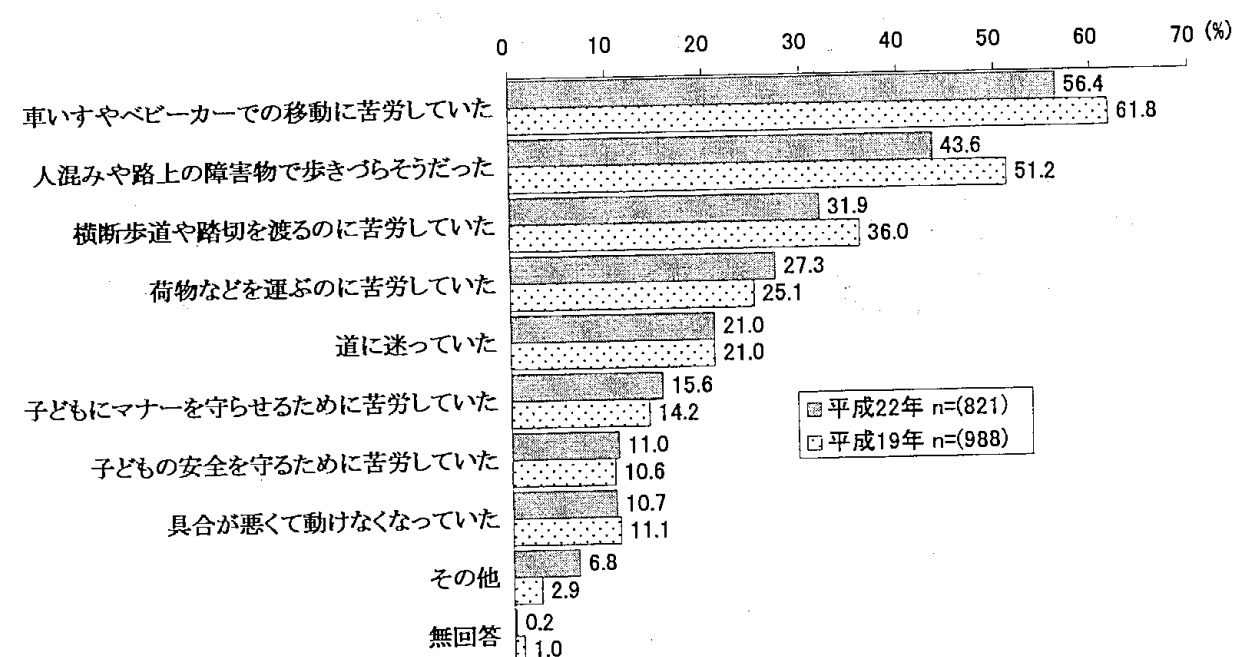
問25-1 困っていたのは、どのようなことでしたか。(〇はあてはまるものすべて)



外出先で困っている人を見かけたことがある人に、その状況を尋ねたところ、「車いすやベビーカーでの移動に苦労していた」が56.4%で最も多く、次いで「人混みや路上の障害物で歩きづらそうだった」が43.6%、「横断歩道や踏切を渡るのに苦労していた」が31.9%となっています。

平成19年調査と比較すると、「車いすやベビーカーでの移動に苦労していた」が、前回の61.8%から、今回56.4%へと5.4ポイント低下したのをはじめとして、「人混みや路上の障害物で歩きづらそうだった」と「横断歩道や踏切を渡るのに苦労していた」も低下傾向を示しています。

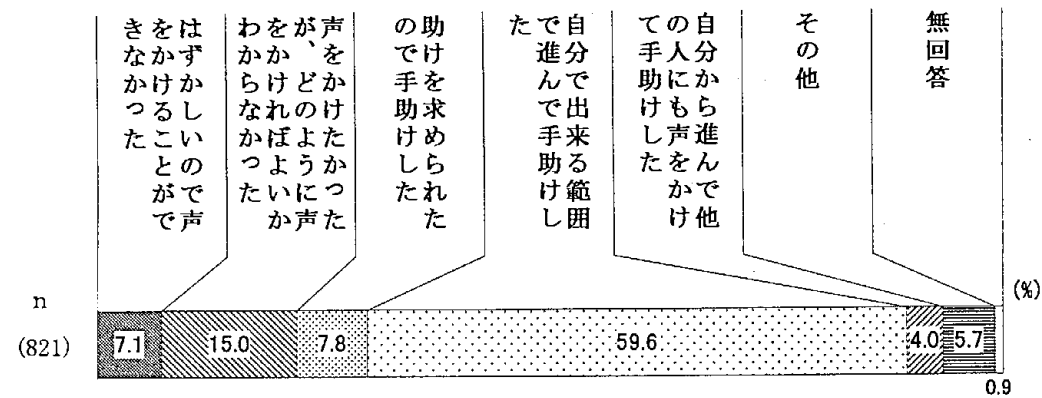
《参考》平成19年調査との比較 困っていた人の状況



3 困っている人への対処

(問25で「1. ある」とお答えの方に)

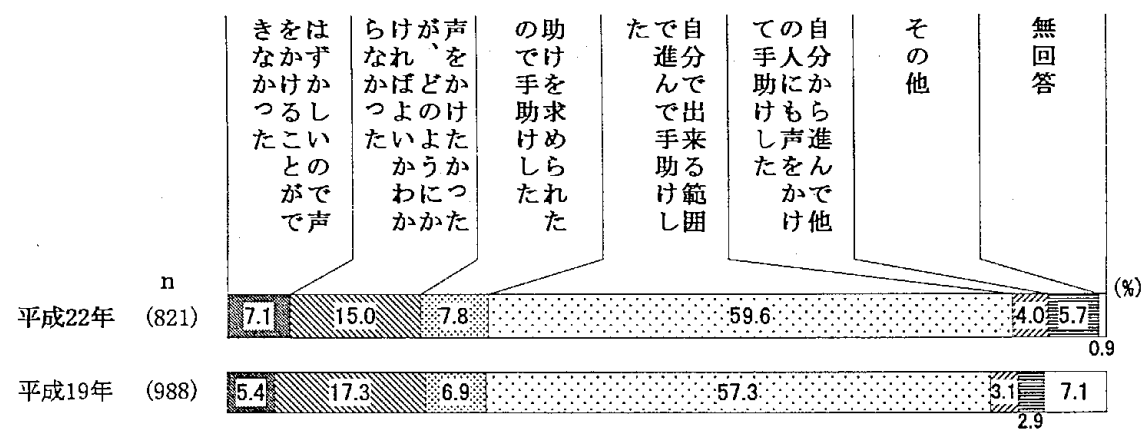
問25-2 困っているのを見かけたとき、どうしましたか。(○は1つのみ)



外出先で困っている人をみかけたときにどうしたかと尋ねたところ、「自分で出来る範囲で進んで手助けした」が59.6%で最も多く、次いで「声をかけたかったが、どのように声をかければよいかわからなかった」が15.0%で次いでいます。

平成19年調査と比較すると、「自分で出来る範囲で進んで手助けした」は、前回の57.3%から、今回59.6%へと2.3ポイント微増しています。

《参考》平成19年調査との比較 困っている人への対処



性別でみると、女性では「自分で出来る範囲で進んで手助けした」が61.9%と、男性(55.5%)より多くなっています。

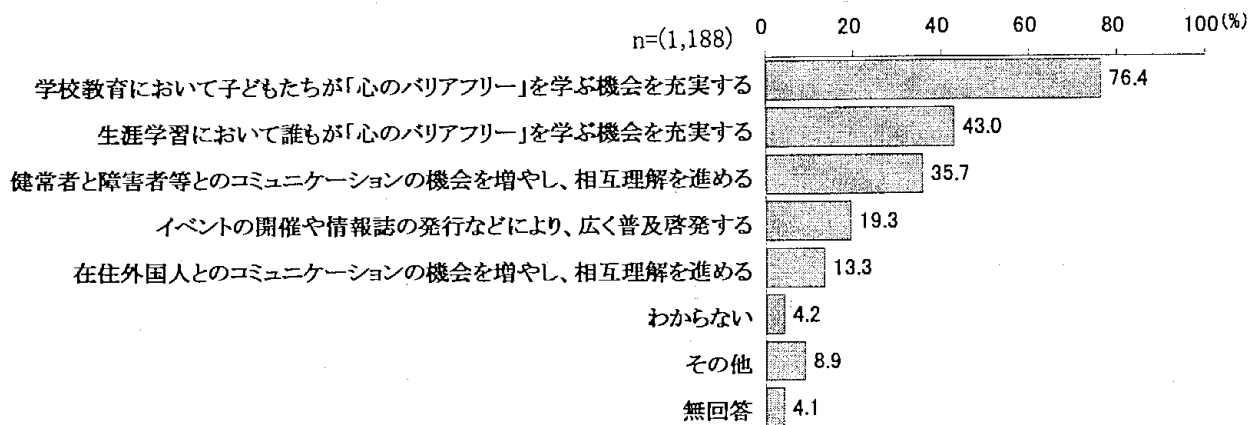
年齢別でみると、20～24歳では「自分で出来る範囲で進んで手助けした」が45.0%と低くなっていますが、45～49歳、55～69歳では、65.0%前後と多くなっています。また、35～39歳では「はずかしいので声をかけることができなかった」が、40～44歳では、「声をかけたかったが、どのように声をかければよいかわからなかった」が、それぞれ他の年代より多くなっています。

性別・年齢別 困っている人への対処

	調査数	たけることができなかった	はるかからなかつた	いかわからなかつた	どのようになかつたが、よ	声をかけたか	手助けを求められたので	自分で出来る範囲で進んで手助けした	自分から進んで他の人にも声をかけて手助けした	その他	無回答
全 体	821 100.0	58 7.1	123 15.0	64 7.8	489 59.6	33 4.0	47 5.7	7 0.9			
男性	283 100.0	24 8.5	49 17.3	25 8.8	157 55.5	11 3.9	15 5.3	2 0.7			
女性	533 100.0	34 6.4	72 13.5	39 7.3	330 61.9	22 4.1	31 5.8	5 0.9			
20～24歳	40 100.0	4 10.0	6 15.0	7 17.5	18 45.0	-	4 10.0	1 2.5			
25～29歳	60 100.0	5 8.3	11 18.3	3 5.0	36 60.0	1 1.7	3 5.0	1 1.7			
30～34歳	60 100.0	6 10.0	8 13.3	6 10.0	32 53.3	1 1.7	6 10.0	1 1.7			
35～39歳	86 100.0	13 15.1	10 11.6	4 4.7	50 58.1	2 2.3	6 7.0	1 1.2			
40～44歳	80 100.0	6 7.5	19 23.8	3 3.8	41 51.3	4 5.0	7 8.8	-			
45～49歳	82 100.0	5 6.1	13 15.9	3 3.7	53 64.6	2 2.4	5 6.1	1 1.2			
50～54歳	71 100.0	3 4.2	13 18.3	9 12.7	41 57.7	4 5.6	1 1.4	-			
55～59歳	89 100.0	8 9.0	14 15.7	4 4.5	58 65.2	3 3.4	2 2.2	-			
60～64歳	97 100.0	4 4.1	12 12.4	12 12.4	63 64.9	1 1.0	5 5.2	-			
65～69歳	75 100.0	2 2.7	10 13.3	4 5.3	48 64.0	5 6.7	4 5.3	2 2.7			
70～74歳	67 100.0	-	4 6.0	9 13.4	42 62.7	9 13.4	3 4.5	-			

4 心のバリアフリー推進のために必要な仕組み

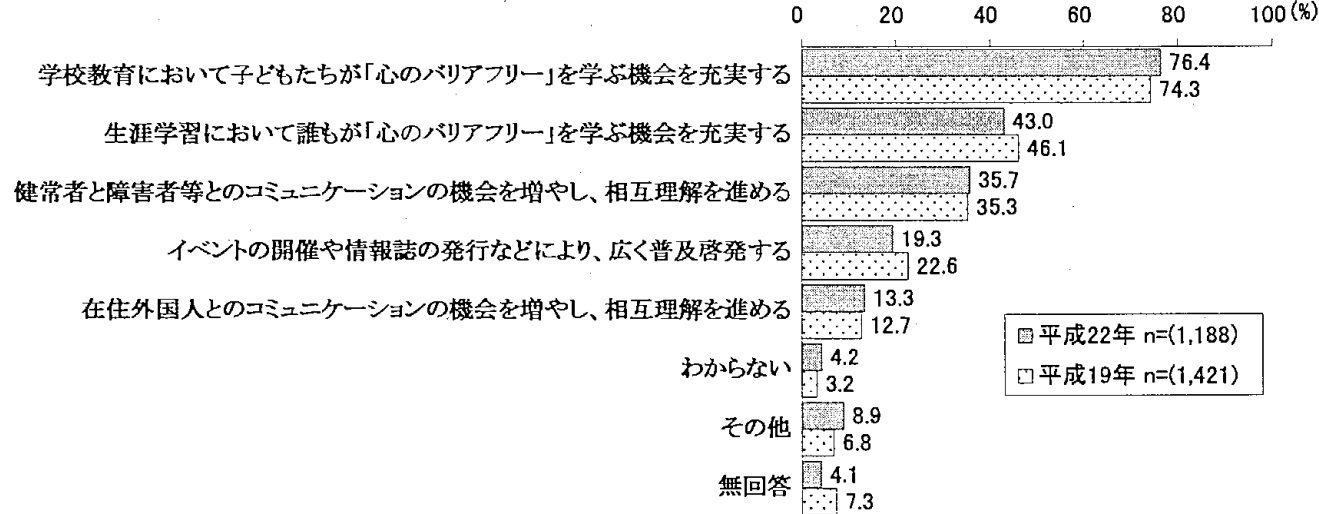
問26 電車で席を譲り合ったり、車いす使用者の手助けなどを自然にしたりできるような「心のバリアフリー」を進めるために、どのような仕組みが特に必要だと思いますか。
(〇は3つまで)



「学校教育において子どもたちが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する」が76.4%で最も多く、次いで「生涯学習において誰もが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する」が43.0%、「健常者と障害者等とのコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める」が35.7%となっています。

平成19年調査と比較すると、「学校教育において子どもたちが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する」が、前回の74.3%から、今回76.4%と2.1ポイント微増しています。

《参考》平成19年調査との比較 心のバリアフリー推進のために必要な仕組み



性別でみると、女性では「学校教育において子どもたちが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する」が79.7%と、男性（71.5%）を上回っているほか、「生涯学習において誰もが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する」と「健常者と障害者等とのコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める」も、男性より多くなっています。

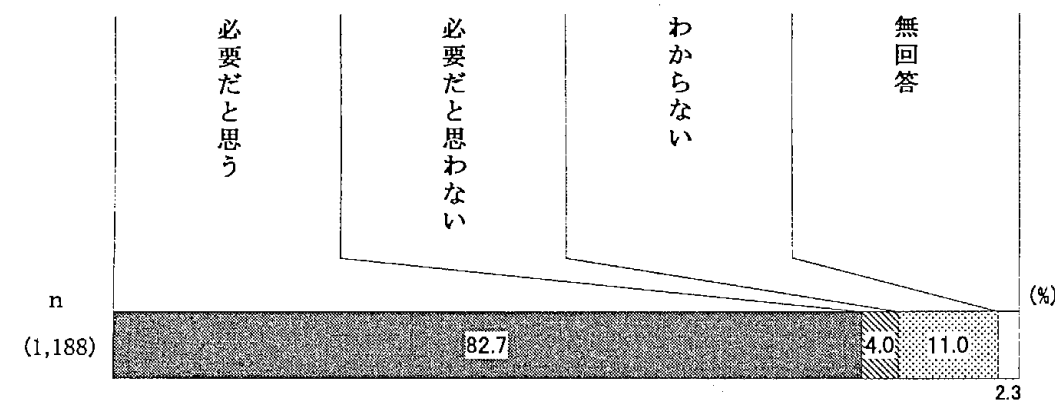
年齢別でみると、20～64歳まで「学校教育において子どもたちが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する」が80%前後を占めています。また、30～34歳、45歳以上では「生涯学習において誰もが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する」が40%を超えています。

性別・年齢別 心のバリアフリー推進のために必要な仕組み

	調査数	学校教育において子どもたちが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する	生涯学習において誰もが『心のバリアフリー』を学ぶ機会を充実する	健常者と障害者等とのコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める	イベントの開催や情報誌の発行などにより、広く普及啓発する	在住外国人とのコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める	わからない	その他	無回答
全体	1188	908	511	424	229	158	50	106	49
	100.0	76.4	43.0	35.7	19.3	13.3	4.2	8.9	4.1
男性	452	323	180	135	99	64	27	43	28
	100.0	71.5	39.8	29.9	21.9	14.2	6.0	9.5	6.2
女性	729	581	330	288	129	92	23	60	21
	100.0	79.7	45.3	39.5	17.7	12.6	3.2	8.2	2.9
20～24歳	58	45	20	19	13	14	2	4	-
	100.0	77.6	34.5	32.8	22.4	24.1	3.4	6.9	-
25～29歳	87	67	31	31	11	13	4	7	1
	100.0	77.0	35.6	35.6	12.6	14.9	4.6	8.0	1.1
30～34歳	92	71	45	28	14	15	2	13	4
	100.0	77.2	48.9	30.4	15.2	16.3	2.2	14.1	4.3
35～39歳	120	97	43	45	19	23	3	13	2
	100.0	80.8	35.8	37.5	15.8	19.2	2.5	10.8	1.7
40～44歳	94	77	36	30	17	14	5	16	2
	100.0	81.9	38.3	31.9	18.1	14.9	5.3	17.0	2.1
45～49歳	112	90	55	52	20	11	4	13	-
	100.0	80.4	49.1	46.4	17.9	9.8	3.6	11.6	-
50～54歳	98	78	46	40	22	13	6	9	1
	100.0	79.6	46.9	40.8	22.4	13.3	6.1	9.2	1.0
55～59歳	127	99	55	51	31	16	4	5	5
	100.0	78.0	43.3	40.2	24.4	12.6	3.1	3.9	3.9
60～64歳	140	111	65	54	26	19	4	11	8
	100.0	79.3	46.4	38.6	18.6	13.6	2.9	7.9	5.7
65～69歳	115	75	53	33	28	8	7	5	13
	100.0	65.2	46.1	28.7	24.3	7.0	6.1	4.3	11.3
70～74歳	120	80	53	35	24	8	8	6	11
	100.0	66.7	44.2	29.2	20.0	6.7	6.7	5.0	9.2

5 住民同士の支え合いや助け合いの必要性

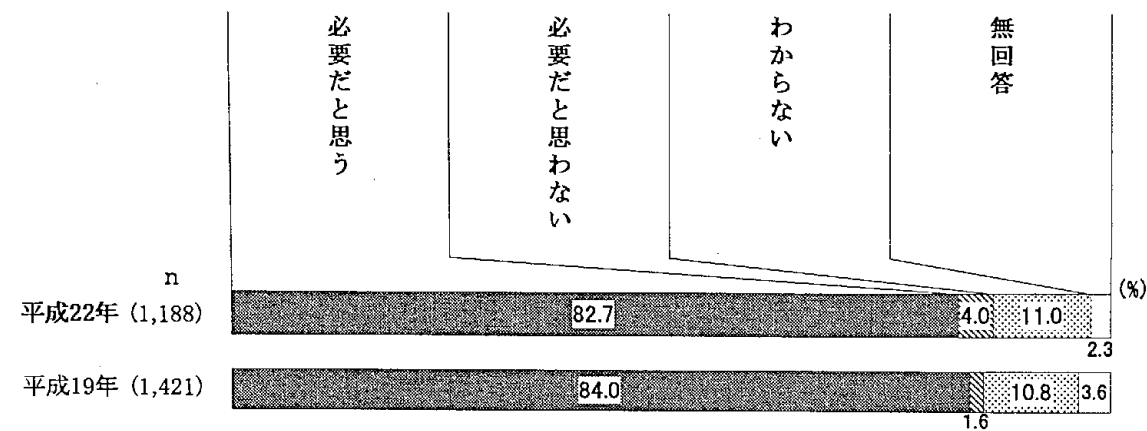
問27 地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。(〇は1つのみ)



住民同士の支え合い、助け合いは、「必要だと思う」が82.7%で最も多くなっています。

平成19年調査と比較すると、「必要だと思う」は、前回の84.0%から、今回82.7%へと1.3ポイント微減しています。

《参考》平成19年調査との比較 住民同士の支え合いや助け合いの必要性



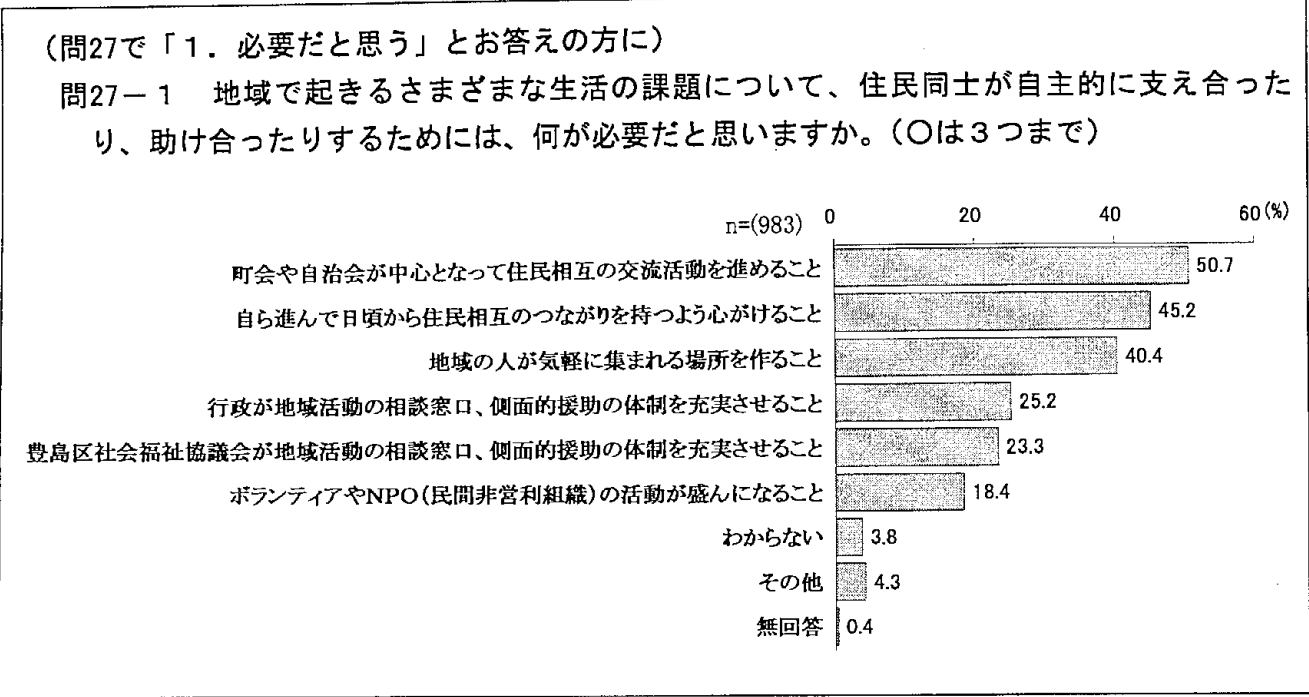
3地区別でみると、西部地区では「必要だと思う」が86.7%と、他の地区より多くなっています。

8地区別でみると、中央地区4、西部地区1、西部地区2では、「必要だと思う」が80%台後半を示し、他の地区より多くなっています。一方、中央地区2は、「必要だと思う」が75.4%とやや低くなっています。

地区別 住民同士の支え合いや助け合いの必要性

	調査数	必要だと思う	必要だと思わない	わからない	無回答
全 体	1188	983	47	131	27
	100.0	82.7	4.0	11.0	2.3
東部地区	302	248	12	35	7
	100.0	82.1	4.0	11.6	2.3
中央地区	642	523	27	77	15
	100.0	81.5	4.2	12.0	2.3
西部地区	241	209	8	19	5
	100.0	86.7	3.3	7.9	2.1
東部地区1	152	124	7	17	4
	100.0	81.6	4.6	11.2	2.6
東部地区2	150	124	5	18	3
	100.0	82.7	3.3	12.0	2.0
中央地区1	188	155	9	20	4
	100.0	82.4	4.8	10.6	2.1
中央地区2	179	135	11	27	6
	100.0	75.4	6.1	15.1	3.4
中央地区3	134	109	6	18	1
	100.0	81.3	4.5	13.4	0.7
中央地区4	141	124	1	12	4
	100.0	87.9	0.7	8.5	2.8
西部地区1	117	102	5	7	3
	100.0	87.2	4.3	6.0	2.6
西部地区2	124	107	3	12	2
	100.0	86.3	2.4	9.7	1.6

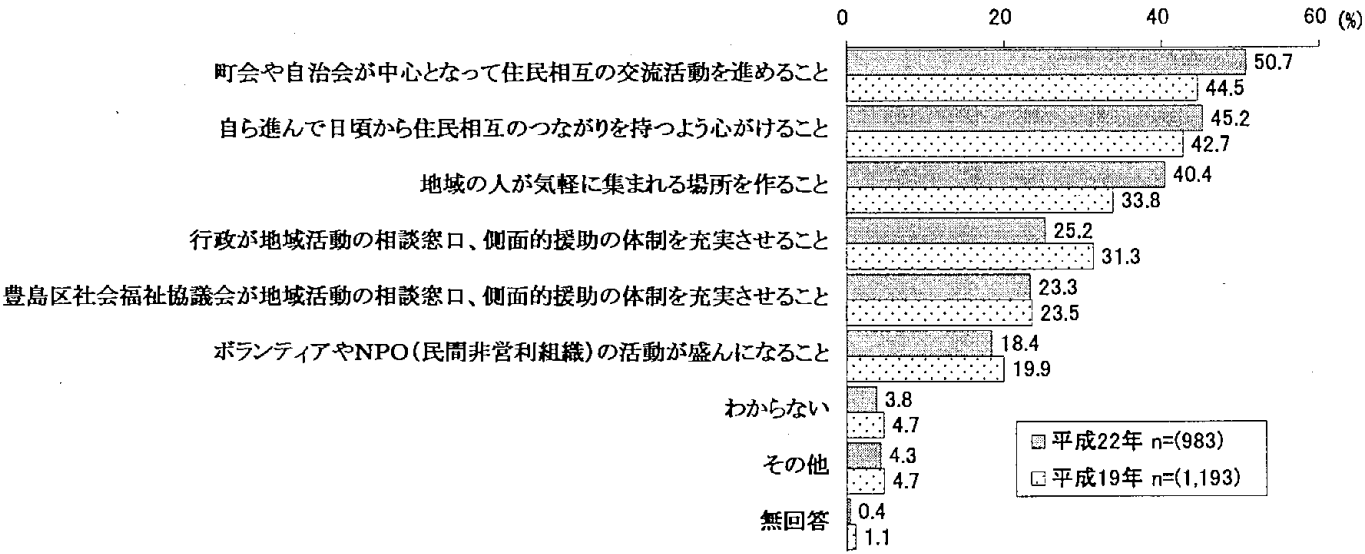
6 住民同士の支え合いや助け合いで必要なこと



住民同士の支え合いが「必要だと思う」人に、そのために必要なことを尋ねたところ、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が50.7%で最も多く、次いで「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」が45.2%、「地域の人が気軽に集まれる場所を作ること」が40.4%となっています。

平成19年調査と比較すると、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が、前回の44.5%から今回50.7%へと6.2ポイント増加しているほか、「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」と「地域の人が気軽に集まれる場所を作ること」も増加傾向を示しています。

《参考》平成19年調査との比較 住民同士の支え合いや助け合いで必要なこと



3地区別でみると、西部地区では「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が56.0%と、他の地区より多くなっています。

8地区別でみると、中央地区2、西部地区2では「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が、それぞれ56.3%、58.9%と、他の地区より多くなっています。一方、中央地区3では「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」は41.3%と低くなっています。また、西部地区1では「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」が55.9%と全地区中で最も多くなっています。

地区別 住民同士の支え合いや助け合いで必要なこと

	調査数	町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること	自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること	地域の人が気軽に集まれる場所を作ること	行政が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること	豊島区社会福祉協議会が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること	ボランティアやNPO(民間非営利組織)の活動が盛んになること	わからない	その他	無回答
全体	983	498	444	397	248	229	181	37	42	4
	100.0	50.7	45.2	40.4	25.2	23.3	18.4	3.8	4.3	0.4
東部地区	248	126	103	98	71	63	38	11	13	2
	100.0	50.8	41.5	39.5	28.6	25.4	15.3	4.4	5.2	0.8
中央地区	523	254	242	209	127	120	93	20	22	1
	100.0	48.6	46.3	40.0	24.3	22.9	17.8	3.8	4.2	0.2
西部地区	209	117	98	88	50	46	50	6	7	1
	100.0	56.0	46.9	42.1	23.9	22.0	23.9	2.9	3.3	0.5
東部地区1	124	65	50	49	30	27	21	6	6	2
	100.0	52.4	40.3	39.5	24.2	21.8	16.9	4.8	4.8	1.6
東部地区2	124	61	53	49	41	36	17	5	7	-
	100.0	49.2	42.7	39.5	33.1	29.0	13.7	4.0	5.6	-
中央地区1	155	73	70	64	35	34	23	7	10	-
	100.0	47.1	45.2	41.3	22.6	21.9	14.8	4.5	6.5	-
中央地区2	135	76	64	55	32	28	21	3	3	1
	100.0	56.3	47.4	40.7	23.7	20.7	15.6	2.2	2.2	0.7
中央地区3	109	45	49	42	27	27	22	5	6	-
	100.0	41.3	45.0	38.5	24.8	24.8	20.2	4.6	5.5	-
中央地区4	124	60	59	48	33	31	27	5	3	-
	100.0	48.4	47.6	38.7	26.6	25.0	21.8	4.0	2.4	-
西部地区1	102	54	57	44	27	23	24	2	4	-
	100.0	52.9	55.9	43.1	26.5	22.5	23.5	2.0	3.9	-
西部地区2	107	63	41	44	23	23	26	4	3	1
	100.0	58.9	38.3	41.1	21.5	21.5	24.3	3.7	2.8	0.9

家族構成別でみると、高齢者のみ夫婦では、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が53.8%と、三世代家族に次いで多くなっています。また、一人暮らし高齢者では、「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」が48.0%と多くなっています。

家族構成別 住民同士の支え合いや助け合いが必要なこと

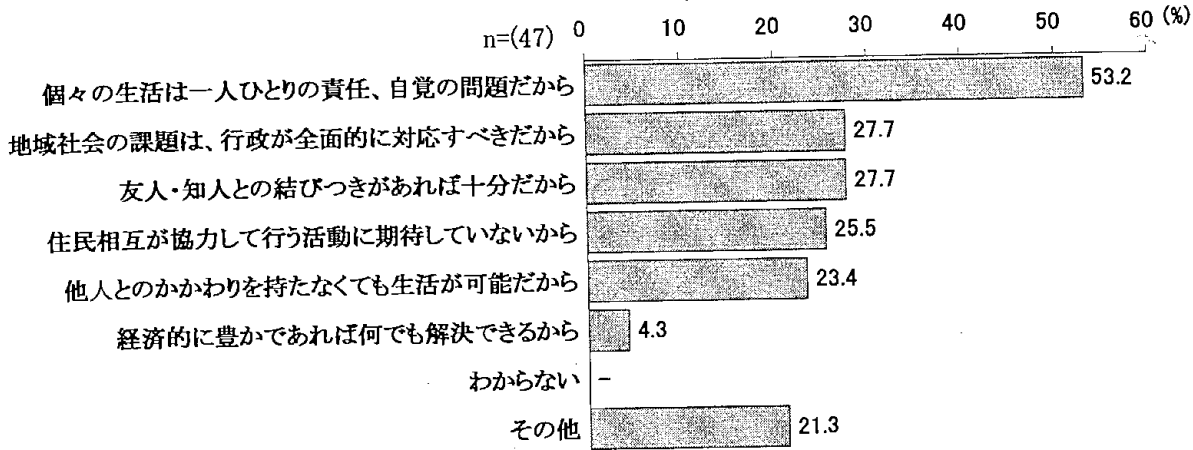
	調査数	町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること	自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること	地域の人々が気軽に集まれる場所を作ること	行政が地域活動の体制を充実させること	活動の相談窓口、側面的な支援を行うこと	豊島区社会福祉協議会が盛んにボランティア活動を行っていること	わからない	その他	無回答
全体	983	498	444	397	248	229	181	37	42	4
	100.0	50.7	45.2	40.4	25.2	23.3	18.4	3.8	4.3	0.4
単身（65歳未満）	150	65	63	63	38	46	32	1	9	1
	100.0	43.3	42.0	42.0	25.3	30.7	21.3	0.7	6.0	0.7
単身（65歳以上）	50	22	24	23	13	13	9	2	1	1
	100.0	44.0	48.0	46.0	26.0	26.0	18.0	4.0	2.0	2.0
夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	123	59	52	60	33	23	22	5	2	-
	100.0	48.0	42.3	48.8	26.8	18.7	17.9	4.1	1.6	-
夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	52	28	22	20	13	10	8	2	4	-
	100.0	53.8	42.3	38.5	25.0	19.2	15.4	3.8	7.7	-
夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	33	16	14	13	12	10	7	-	2	-
	100.0	48.5	42.4	39.4	36.4	30.3	21.2	-	6.1	-
二世代家族（親と子）	461	239	215	164	117	104	88	23	21	-
	100.0	51.8	46.6	35.6	25.4	22.6	19.1	5.0	4.6	-
三世代家族（親と子と孫）	73	46	31	36	12	15	9	3	1	2
	100.0	63.0	42.5	49.3	16.4	20.5	12.3	4.1	1.4	2.7
兄弟姉妹のみ	17	11	10	7	5	6	3	-	1	-
	100.0	64.7	58.8	41.2	29.4	35.3	17.6	-	5.9	-
その他	19	11	11	9	4	2	3	-	1	-
	100.0	57.9	57.9	47.4	21.1	10.5	15.8	-	5.3	-

※ 「兄弟姉妹のみ」と「その他」は基数が少ないため分析ではふれていない。

7 住民同士が支え合ったり、助け合う必要がないと思う理由

(問27で「2. 必要だと思わない」とお答えの方に)

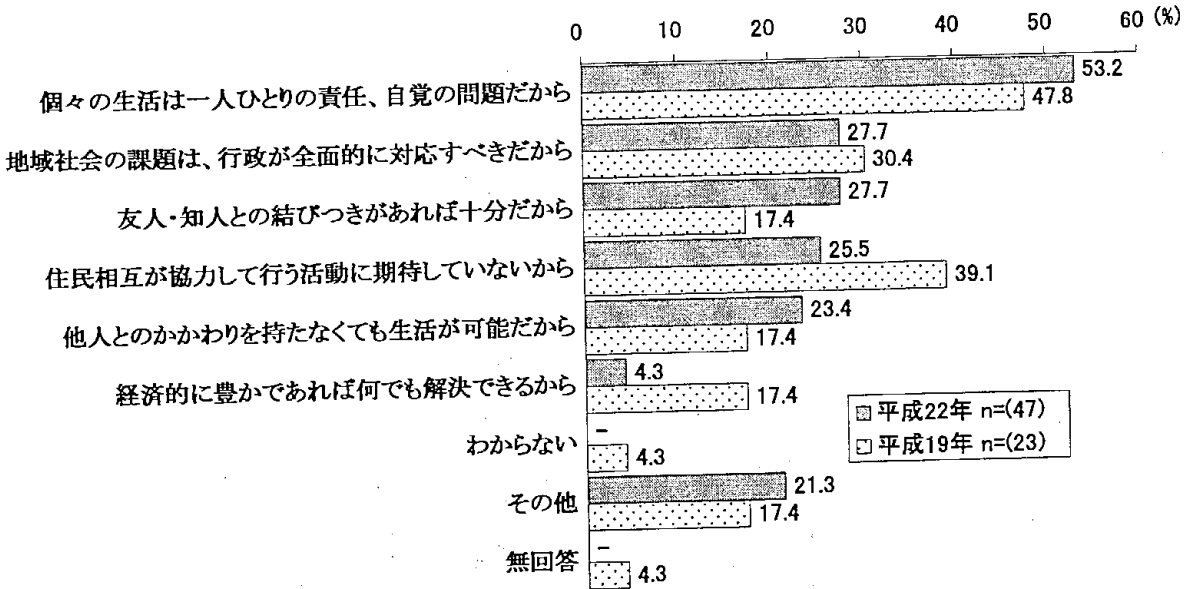
問27-2 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思うのはなぜですか。(〇は3つまで)



住民同士の支え合いが「必要だとは思わない」人に、その理由を尋ねたところ、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」が53.2%で最も多く、次いで「地域社会の課題は行政が全面的に対応すべきだから」が27.7%、「友人・知人との結びつきがあれば十分だから」が27.7%となっています。

平成19年調査と比較すると、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」が、前回の47.8%から今回53.2%へと5.4ポイント増加しているのに対して、「住民相互が協力して行う活動に期待していないから」は、前回の39.1%から今回25.5%へと13.6ポイント低下しています。

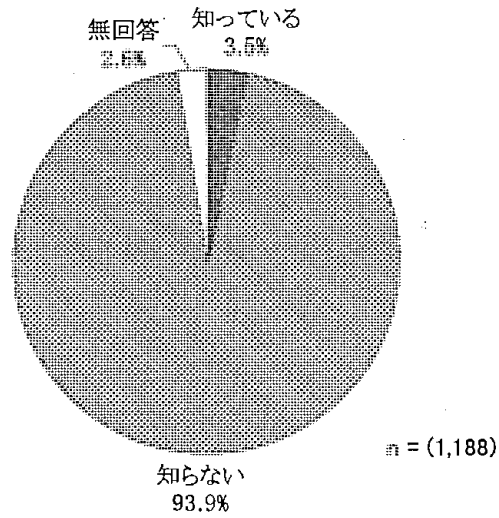
《参考》平成19年調査との比較 住民同士が支え合ったり、助け合う必要がないと思う理由



8 コミュニティソーシャルワーカー配置の認知状況

問28 豊島区では、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする地域における新たな
支え合いの仕組みづくりを進めるなかで、住民の生活課題や多様な地域の課題に対応して
いく中心的な役割を担うコミュニティソーシャルワーカーを、21・22年度、モデル事業と
して中央地域包括支援センター圏域で配置していますが、このことをご存じですか。

(○は1つのみ)



「知らない」が93.9%で極めて多く、「知っている」は3.5%にとどまっています。
性別でみると、女性では「知っている」が4.1%と、男性（2.4%）よりやや多くなっています。
年齢別でみると、60歳以上では、「知っている」がやや多くなる傾向があります。

性別・年齢別 コミュニティソーシャルワーカー配置の認知状況

	調査数	知っている	知らない	無回答
全 体	1188	41	1116	31
	100.0	3.5	93.9	2.6
男性	452	11	420	21
	100.0	2.4	92.9	4.6
女性	729	30	689	10
	100.0	4.1	94.5	1.4
20～24歳	58	2	56	-
	100.0	3.4	96.6	-
25～29歳	87	1	85	1
	100.0	1.1	97.7	1.1
30～34歳	92	1	88	3
	100.0	1.1	95.7	3.3
35～39歳	120	-	118	2
	100.0	-	98.3	1.7
40～44歳	94	3	90	1
	100.0	3.2	95.7	1.1
45～49歳	112	4	108	-
	100.0	3.6	96.4	-
50～54歳	98	3	93	2
	100.0	3.1	94.9	2.0
55～59歳	127	3	120	4
	100.0	2.4	94.5	3.1
60～64歳	140	9	128	3
	100.0	6.4	91.4	2.1
65～69歳	115	9	99	7
	100.0	7.8	86.1	6.1
70～74歳	120	6	108	6
	100.0	5.0	90.0	5.0

3 地区別でみると、いずれの地区でも「知っている」は3%台となっています。
8 地区別でみても、とくに大きな差異は認められませんが、ほとんどの地区で「知っている」が2
～3%台のなか、東部地区2、中央地区4、西部地区1では4%台となっています。

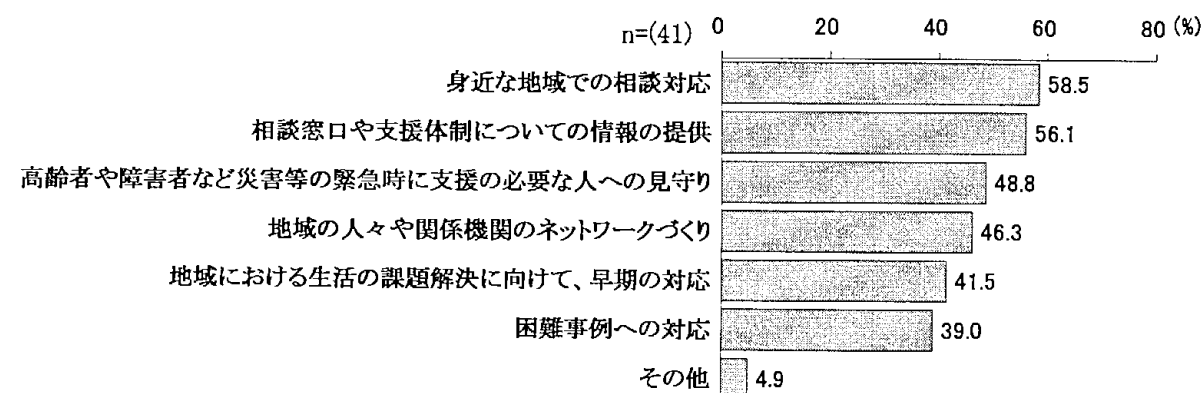
地区別 コミュニティソーシャルワーカー配置の認知状況

	調査数	知っている	知らない	無回答
全 体	1188	41	1116	31
	100.0	3.5	93.9	2.6
東部地区	302	10	283	9
	100.0	3.3	93.7	3.0
中央地区	642	22	607	13
	100.0	3.4	94.5	2.0
西部地区	241	9	224	8
	100.0	3.7	92.9	3.3
東部地区1	152	3	145	4
	100.0	2.0	95.4	2.6
東部地区2	150	7	138	5
	100.0	4.7	92.0	3.3
中央地区1	188	7	177	4
	100.0	3.7	94.1	2.1
中央地区2	179	6	167	6
	100.0	3.4	93.3	3.4
中央地区3	134	3	129	2
	100.0	2.2	96.3	1.5
中央地区4	141	6	134	1
	100.0	4.3	95.0	0.7
西部地区1	117	5	107	5
	100.0	4.3	91.5	4.3
西部地区2	124	4	117	3
	100.0	3.2	94.4	2.4

9 コミュニティソーシャルワーカーに期待すること、求めるもの

(問28で「1. 知っている」とお答えの方に)

問28-1 コミュニティソーシャルワーカーに期待すること、求めるものは何ですか。(○はあてはまるものすべて)



コミュニティソーシャルワーカーを「知っている」人に、期待することを尋ねたところ「身近な地域での相談対応」が58.5%で最も多く、次いで「相談窓口や支援体制についての情報の提供」が56.1%、「高齢者や障害者など災害等の緊急時に支援の必要な人への見守り」が48.8%となっています。

第7章 地域保健福祉全般について

地域保健福祉計画改定に向けた課題

□日頃困っていることや、解決すべき課題としては、救急医療体制の充実や治安・防犯体制のほか、歩行喫煙や放置自転車など区民のマナーの向上を求めるものが上位を占めています。

□「診察時間外の救急医療体制」については、東部地区2、中央地区3、中央地区4で、他の地区より多くなっています。また、「治安・防犯対策」については中央地区4で、「歩行喫煙・ポイ捨て」については、中央地区1で多く、地域によって課題に違いがあることがわかります。今後は、こうした地域の特性を踏まえて、課題の解決に取り組んでいくことが求められます。

□一人暮らし高齢者、高齢者のみ夫婦では、「高齢者の入院医療体制」を挙げる人が多くなっており、体制の整備・充実が必要です。

□分野別に課題として挙げられた項目をみると、次のようになっています。

◎育児・教育・児童福祉施設等 ⇒「子どもの居場所・あそび場」「認可保育園等の保育施設」「虐待・いじめ・不登校等」

◎家族の看護・介護・高齢者福祉施設等 ⇒「特別養護老人ホーム・老人保健施設等の入所施設」「介護者への支援・相談体制」

◎保健・医療分野 ⇒「診察時間外の救急医療体制」「保健・医療・福祉に関する情報」

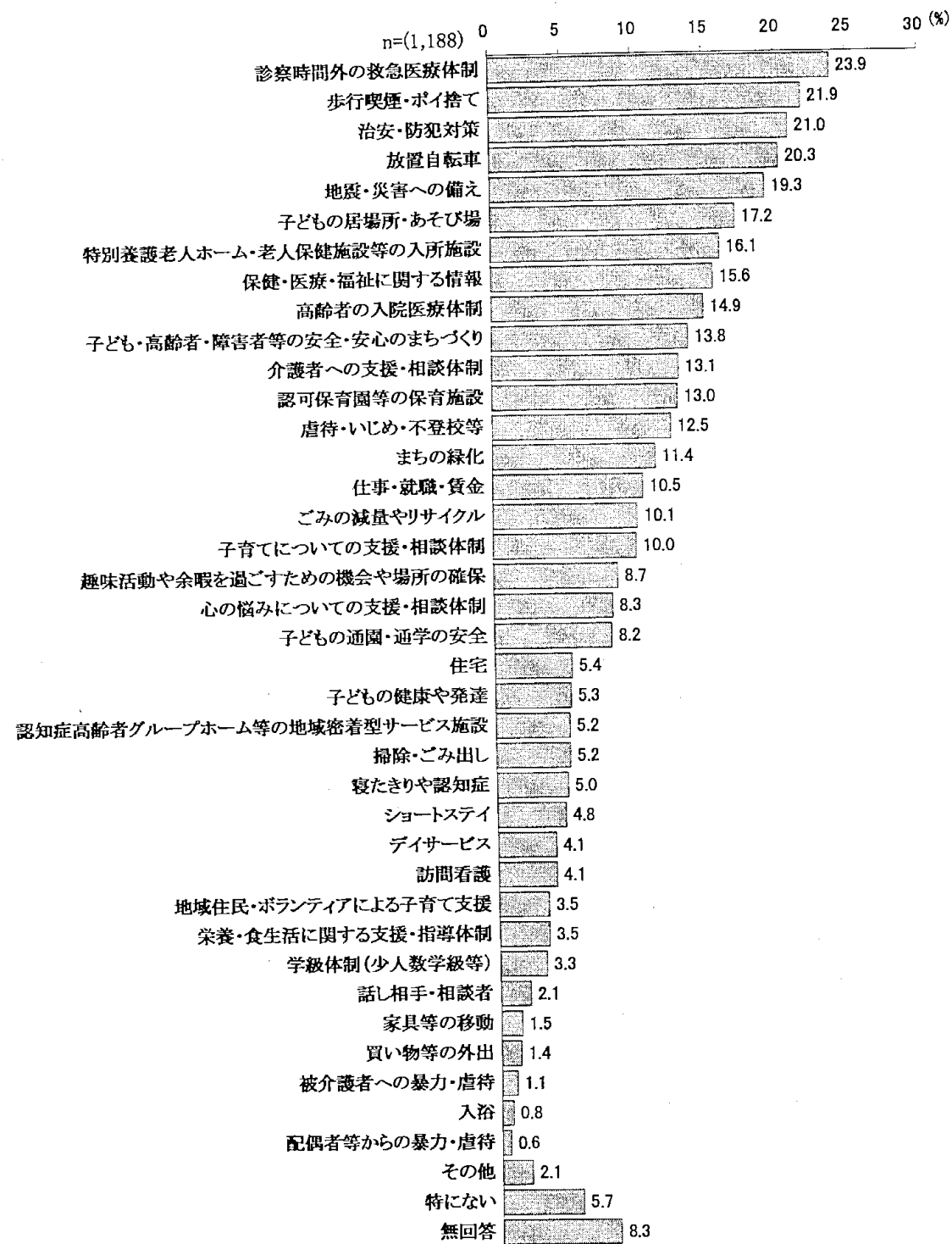
◎地域の環境・防災・防犯 ⇒「歩行喫煙・ポイ捨て」「治安・防犯対策」「放置自転車」

◎日常生活等 ⇒「仕事・就職・賃金」「趣味活動や余暇を過ごすための機会や場所の確保」

□住民と行政の役割分担についてみると、「福祉は行政と住民が協力して行い、それぞれの得意分野を活かす」は、今回も最も多くなっているものの、平成19年調査と比較すると数値は低下しており、区民と行政の協働の必要性を広く区民に知らせていくとともに、協働のあり方についても検討していくことが必要です。

1 地域で困っていること、解決すべき課題

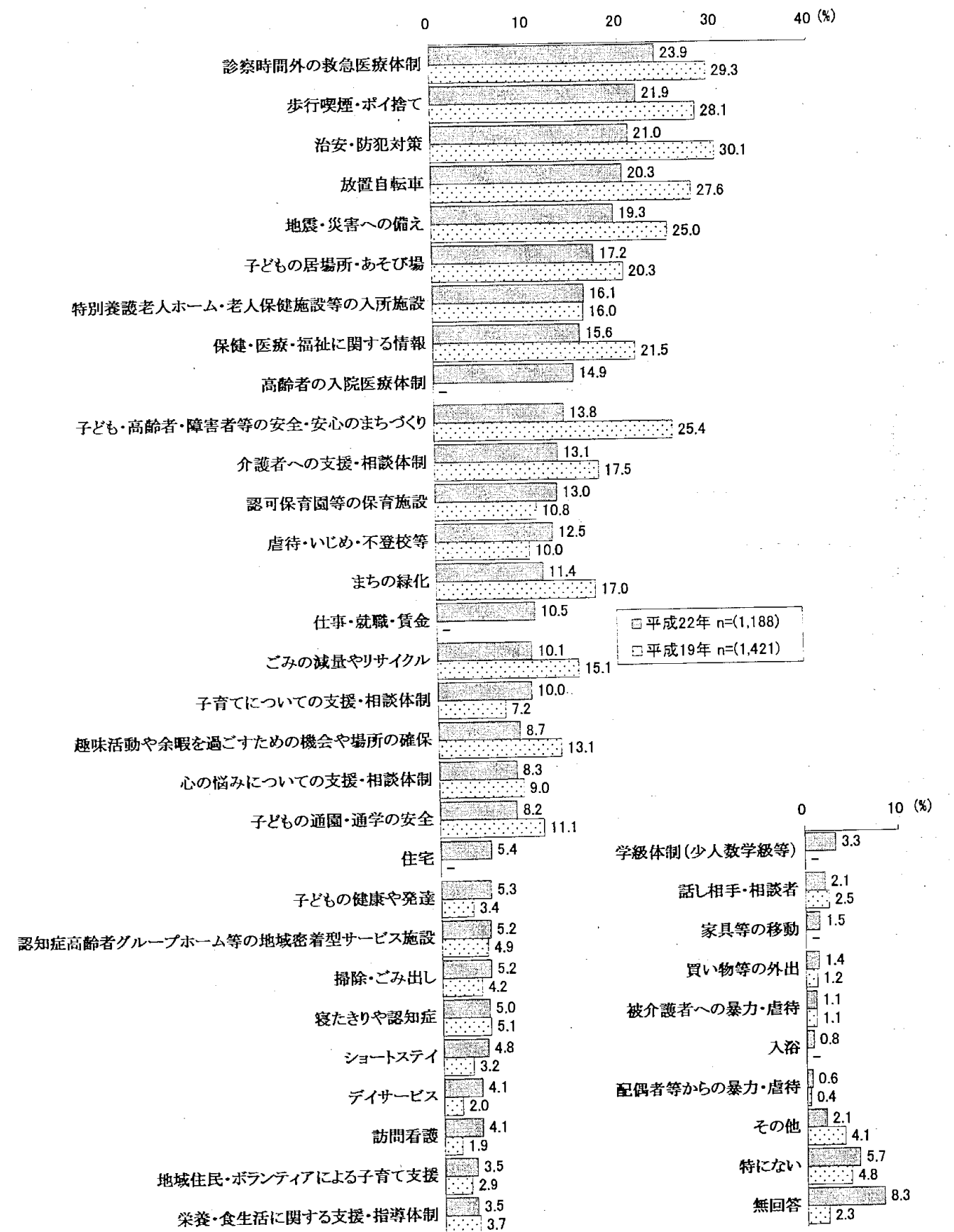
問29 あなたが地域で暮らす中で、日頃困っていること、解決すべき課題と考えていることをお聞かせください。(1～39のうち、〇は5つまで)



困っていること、解決すべき課題と考えていることを尋ねたところ、「診察時間外の救急医療体制」が23.9%で最も多く、次いで「歩行喫煙・ポイ捨て」が21.9%、「治安・防犯対策」が21.0%、「放置自転車」が20.3%となっています。

平成19年調査と比較すると、前回第一位であった「治安・防犯対策」が、前回の30.1%から、今回、21.0%へと低下したのをはじめとして、多くの項目で、低下傾向が示されています。

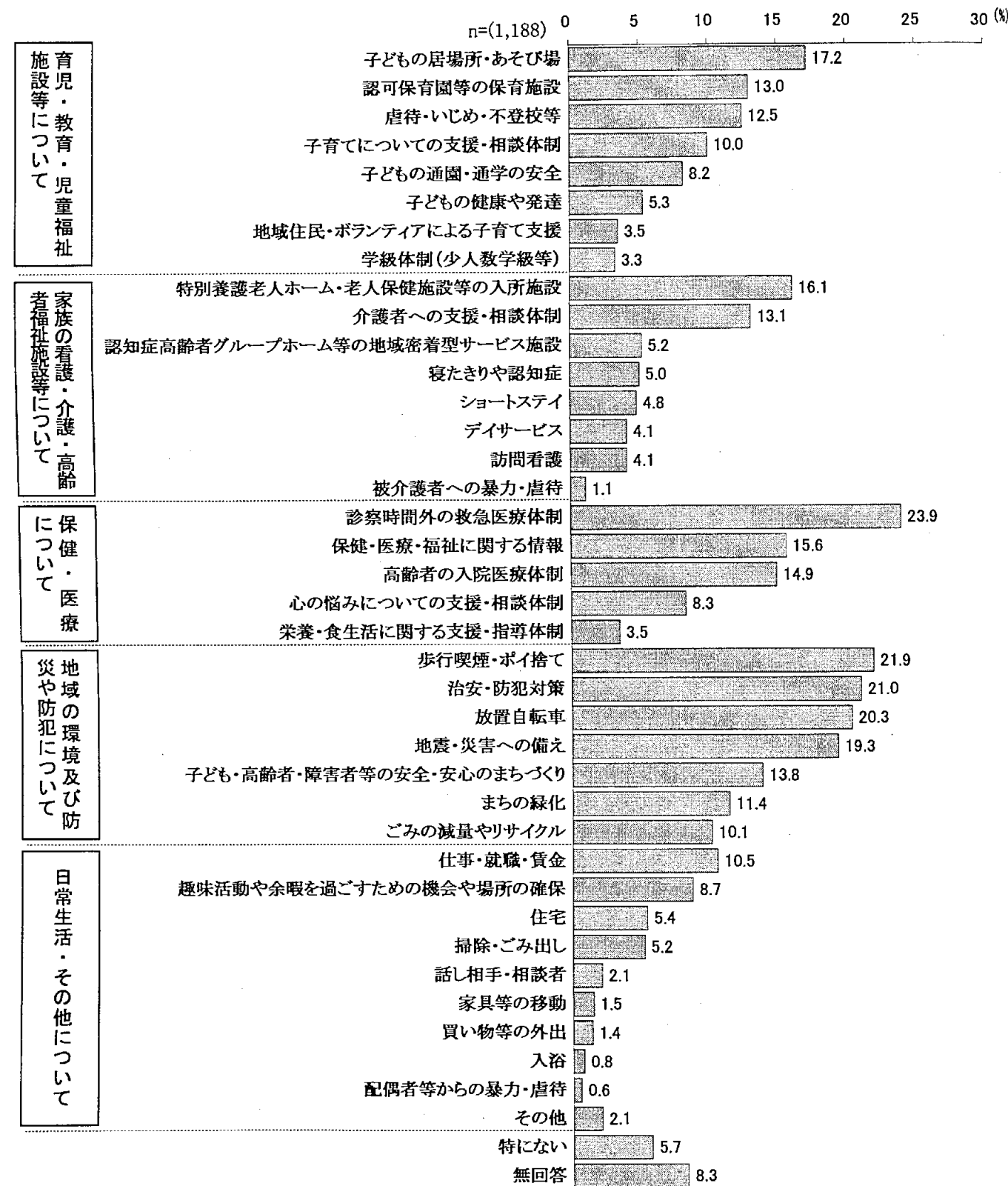
《参考》平成19年調査との比較 地域で困っていること、解決すべき課題



※ 平成19年は「高齢者の入院医療体制」「仕事・就職・賃金」「住宅」「学級体制(少人数学級等)」「家具等の移動」「入浴」はありません。
 ※ 平成19年では選択肢が33、平成22年では選択肢が39と増えていることを念頭において数字をみる必要がある。

分野別にみると、〈育児・教育〉については、「子どもの居場所・遊び場」「認可保育園等の保育施設」「虐待・いじめ・不登校」が、〈看護・介護〉については、「特別養護老人ホーム・老人保健施設等の入所施設」「介護者への支援・相談体制」が、〈保健・医療〉については、「診察時間外の救急医療体制」「保健・福祉・医療に関する情報」が、〈地域環境・防災・防犯〉については、「歩行喫煙・ポイ捨て」「治安・防犯対策」が、〈日常生活〉では「仕事・就職・賃金」「趣味活動や余暇を過ごすための機会や場所の確保」が、それぞれ上位を占めています。とくに、保健・医療の体制の整備と、防災・防犯が重要な地域課題として認識されていることがわかります。

分野別 地域で困っていること、解決すべき課題



年齢別でみると、20～29歳では「歩行喫煙・ポイ捨て」が、35～44歳では「子どもの居場所・あそび場」が多くなっています。また、35～44歳、55～69歳では「診察時間外の救急医療体制」が20%台半ばを占め、やや多くなっています。

年齢別 地域で困っていること、解決すべき課題

	調査数	診察時間外の救急医療体制	歩行喫煙・ポイ捨て	治安・防犯対策	放置自転車	地震・災害への備え	子どもの居場所・あそび場	特別養護老人ホーム・老人保健施設等の入所施設	保健・医療・福祉に関する情報	高齢者の入院医療体制	子ども・高齢者・障害者等の安全・安心のまちづくり	介護者への支援・相談体制	認可保育園等の保育施設	虐待・いじめ・不登校等	まちの緑化	仕事・就職・賃金	ごみの減量やリサイクル	子育てについての支援・相談体制	趣味活動や余暇を過ごすための機会や場所の確保
全体	1188	284	260	249	241	229	204	191	185	177	164	156	154	148	136	125	120	119	103
	100.0	23.9	21.9	21.0	20.3	19.3	17.2	16.1	15.6	14.9	13.8	13.1	13.0	12.5	11.4	10.5	10.1	10.0	8.7
20～24歳	58	7	24	11	10	16	6	4	7	7	9	7	7	17	10	14	9	7	4
	100.0	12.1	41.4	19.0	17.2	27.6	10.3	6.9	12.1	12.1	15.5	12.1	12.1	29.3	17.2	24.1	15.5	12.1	6.9
25～29歳	87	20	30	24	11	17	23	3	15	5	10	7	15	10	14	20	10	13	7
	100.0	23.0	34.5	27.6	12.6	19.5	26.4	3.4	17.2	5.7	11.5	8.0	17.2	11.5	16.1	23.0	11.5	14.9	8.0
30～34歳	92	21	15	23	14	15	23	6	19	2	11	6	24	4	13	16	13	14	11
	100.0	22.8	16.3	25.0	15.2	16.3	25.0	6.5	20.7	2.2	12.0	6.5	26.1	4.3	14.1	17.4	14.1	15.2	12.0
35～39歳	120	33	32	29	20	20	41	7	23	4	23	10	25	11	17	18	12	27	12
	100.0	27.5	26.7	24.2	16.7	16.7	34.2	5.8	19.2	3.3	19.2	8.3	20.8	9.2	14.2	15.0	10.0	22.5	10.0
40～44歳	94	24	22	23	24	16	28	11	10	5	15	13	9	14	11	17	5	15	4
	100.0	25.5	23.4	24.5	25.5	17.0	29.8	11.7	10.6	5.3	16.0	13.8	9.6	14.9	11.7	18.1	5.3	16.0	4.3
45～49歳	112	25	22	22	24	25	21	23	20	13	12	14	6	14	10	13	10	7	11
	100.0	22.3	19.6	19.6	21.4	22.3	18.8	20.5	17.9	11.6	10.7	12.5	5.4	12.5	8.9	11.6	8.9	6.3	9.8
50～54歳	98	21	23	21	23	28	11	19	15	16	15	18	7	18	14	7	7	6	6
	100.0	21.4	23.5	21.4	23.5	28.6	11.2	19.4	15.3	16.3	15.3	18.4	7.1	18.4	14.3	7.1	7.1	6.1	6.1
55～59歳	127	33	24	28	23	19	8	31	22	27	11	23	20	12	13	9	18	13	11
	100.0	26.0	18.9	22.0	18.1	15.0	6.3	24.4	17.3	21.3	8.7	18.1	15.7	9.4	10.2	7.1	14.2	10.2	8.7
60～64歳	140	37	25	27	38	33	18	35	18	31	23	26	18	18	15	5	15	5	13
	100.0	26.4	17.9	19.3	27.1	23.6	12.9	25.0	12.9	22.1	16.4	18.6	12.9	12.9	10.7	3.6	10.7	3.6	9.3
65～69歳	115	30	19	13	25	18	10	23	14	30	14	15	13	14	10	2	12	8	15
	100.0	26.1	16.5	11.3	21.7	15.7	8.7	20.0	12.2	26.1	12.2	13.0	11.3	12.2	8.7	1.7	10.4	7.0	13.0
70～74歳	120	25	20	13	25	18	10	23	18	32	18	14	6	12	5	2	7	2	7
	100.0	20.8	16.7	10.8	20.8	15.0	8.3	19.2	15.0	26.7	15.0	11.7	5.0	10.0	4.2	1.7	5.8	1.7	5.8

	安心・安全	子どもの通園・通学の安全	住宅	子どもの健康や発達	認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス施設	掃除・ごみ出し	寝たきりや認知症	ショートステイ	デイサービス	訪問看護	栄養・食生活に関する支援・指導体制	地域住民・ボランティアによる子育て支援	学級体制(少人数学級等)	話し相手・相談者	家具等の移動	買い物等の外出	被介護者への暴力・虐待	入浴	配偶者等からの暴力・虐待
全体	99	98	64	63	62	62	59	57	49	49	42	41	39	25	18	17	13	9	7
	8.3	8.2	5.4	5.3	5.2	5.2	5.0	4.8	4.1	4.1	3.5	3.5	3.3	2.1	1.5	1.4	1.1	0.8	0.6
20～24歳	11	3	4	2	2	4	3	2	2	5	1	1	2	2	1	1	1	-	4
	19.0	5.2	6.9	3.4	3.4	6.9	5.2	3.4	3.4	8.6	1.7	1.7	3.4	3.4	1.7	1.7	1.7	-	6.9
25～29歳	6	5	8	7	1	4	4	3	1	1	4	4	1	1	-	1	-	-	-
	6.9	5.7	9.2	8.0	1.1	4.6	4.6	3.4	1.1	1.1	4.6	4.6	1.1	1.1	-	1.1	-	-	-
30～34歳	16	12	4	11	2	8	3	2	6	5	3	8	2	3	-	-	2.2	-	1.1
	17.4	13.0	4.3	12.0	2.2	8.7	3.3	2.2	6.5	5.4	3.3	8.7	2.2	3.3	-	-	2.2	-	1.1
35～39歳	5	17	11	6	1	8	3	2	5	3	4	6	11	2	1	2	-	-	0.8
	4.2	14.2	9.2	5.0	0.8	6.7	2.5	1.7	4.2	2.5	3.3	5.0	9.2	1.7	0.8	1.7	-	-	0.8
40～44歳	5	17	5	10	5	4	2	3	3	3	1	3	6	-	-	-	1	-	-
	5.3	18.1	5.3	10.6	5.3	4.3	2.1	3.2	3.2	3.2	1.1	3.2	6.4	-	-	-	1.1	-	-
45～49歳	14	9	8	4	7	6	13	6	8	2	6	3	9	1	1	1	1	-	-
	12.5	8.0	7.1	3.6	6.3	5.4	11.6	5.4	7.1	1.8	5.4	2.7	8.0	0.9	0.9	0.9	0.9	-	-
50～54歳	15	2	1	5	9	3	5	9	3	2	2	2	3	2	2	2	2	1	1
	15.3	2.0	1.0	5.1	9.2	3.1	5.1	9.2	3.1	2.0	2.0	2.0	3.1	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0
55～59歳	9	4	5	2	11	4	7	10	6	5	2	4	1	3	2	-	-	-	-
	7.1	3.1	3.9	1.6	8.7	3.1	5.5	7.9	4.7	3.9	1.6	3.1	0.8	2.4	1.6	-	1.6	0.8	-
60～64歳	5	7	8	5	7	10	7	9	7	7	6	3	1	3	3	1	1	1	-
	3.6	5.0	5.7	3.6	5.0	7.1	5.0	6.4	5.0	5.0	4.3	2.1	0.7	2.1	2.1	0.7	0.7	-	-
65～69歳	2	10	3	5	7	5	8	8	4	10	5	3	-	4	6	4	-	-	-
	1.7	8.7	2.6	4.3	6.1	4.3	7.0	7.0	3.5	8.7	4.3	2.6	-	3.5	5.2	3.5	-	0.9	-
70～74歳	9	11	7	3	10	6	4	3	4	5	7	3	2	4	2	3	3	5	-
	7.5	9.2	5.8	2.5	8.3	5.0	3.3	2.5	3.3	4.2	5.8	2.5	1.7	3.3	1.7	2.5	2.5	4.2	-

3地区別でみると、中央地区では「治安・防犯対策」が23.2%と、他の地区よりやや多くなっています。

地区別 地域で困っていること、解決すべき課題（3地区）

	調査数	診療時間外の救急医療 体制	歩行喫煙・ポイ捨て	治安・防犯対策	放置自転車	地震・災害への備え	子どもの居場所・あそび場	高齢者の入院医療体制	高齢者の安全・安心のま	子ども・高齢者・障害者等の安全・安心のま	介護者への支援・相談	認可保育園等の保育施設	認可保育園等の保育施設	虐待・いじめ・不登校	まちなみ・緑化	仕事・就職・賃金	ゴミの減量・リサイクル	子育てについての支援・相談	子育てについての支援・相談	趣味活動や余暇を過ごすための機会や場所の確保
全 体	1188	284	260	249	241	229	204	191	185	177	164	156	154	148	136	125	120	119	103	8.7
	100.0	23.9	21.9	21.0	20.3	19.3	17.2	16.1	15.6	14.9	13.8	13.1	13.0	12.5	11.4	10.5	10.1	10.0	8.7	
東部地区	302	75	64	56	67	66	46	51	49	45	45	36	34	51	36	25	25	39	24	7.9
	100.0	24.8	21.2	18.5	22.2	21.9	15.2	16.9	16.2	14.9	14.9	11.9	11.3	16.9	11.9	8.3	8.3	12.9	7.9	
中央地区	642	164	149	149	134	126	110	104	92	92	90	89	83	65	70	69	68	56	59	9.2
	100.0	24.0	23.2	23.2	20.9	19.6	17.1	16.2	14.3	14.3	14.0	13.9	12.9	10.1	10.9	10.7	10.6	8.7	9.2	
西部地区	241	54	48	43	40	36	46	36	44	39	28	30	37	32	30	30	26	24	20	8.3
	100.0	22.4	19.1	17.8	16.6	14.9	19.1	14.9	18.3	16.2	11.6	12.4	15.4	13.3	12.4	12.4	10.8	10.0	8.3	
	授心の悩みに 関する体制	安全 子どもの通園・通学	住宅	子どもの健康や発達	認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス施設	認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス施設	掃除・ごみ出し	寝たきりや認知症	ショートステイ	デイサービス	訪問看護	支援・食生活に関する指導体制	地域住民・ボランティアによる子育て支援	学級体制（少人数学級等）	話し相手・相談者	家具等の移動	買い物等の外出	待介者への暴力・虐待	入浴	虐待者等からの暴力・虐待
全 体	99	98	64	63	62	62	59	57	49	49	42	41	39	25	18	17	13	9	7	0.6
	8.3	8.2	5.4	5.3	5.2	5.2	5.0	4.8	4.1	4.1	3.5	3.5	3.3	2.1	1.5	1.4	1.1	0.8	0.6	
東部地区	25	20	17	17	17	22	16	13	11	12	10	8	10	6	6	4	6	2	2	0.7
	8.3	6.6	5.6	5.6	5.6	7.3	5.3	4.3	3.6	4.0	3.3	2.6	3.3	2.0	2.0	1.3	2.0	0.7	0.7	
中央地区	53	60	35	36	32	25	28	26	25	28	28	23	15	6	10	12	3	5	2	0.3
	8.3	9.3	5.5	5.6	5.0	3.9	4.4	4.0	3.9	4.4	4.4	3.6	2.3	0.9	1.6	1.9	0.5	0.8	0.3	
西部地区	21	17	12	10	13	15	15	18	13	9	4	10	14	13	2	1	4	1	3	0.3
	8.7	7.1	5.0	4.1	5.4	6.2	6.2	7.5	5.4	3.7	1.7	4.1	5.8	5.4	0.8	0.4	1.7	0.4	1.2	

8地区別でみると、東部地区2、中央地区3、中央地区4では、「診察時間外の救急医療体制」が30%前後を占め、他の地区より多くなっています。一方、中央地区1では「歩行喫煙・ポイ捨て」が28.7%と多く、中央地区4では、「治安・防犯対策」が26.2%を示しています。

地区別 地域で困っていること、解決すべき課題（8地区）

	調査数	診療時間外の救急医療 体制	歩行喫煙・ポイ捨て	治安・防犯対策	放置自転車	地震・災害への備え	子どもの居場所・あそび場	高齢者の入院医療体制	高齢者の安全・安心のま	子ども・高齢者・障害者等の安全・安心のま	介護者への支援・相談	認可保育園等の保育施設	認可保育園等の保育施設	虐待・いじめ・不登校	まちなみ・緑化	仕事・就職・賃金	ゴミの減量・リサイクル	子育てについての支援・相談	子育てについての支援・相談	趣味活動や余暇を過ごすための機会や場所の確保
全 体	1188	284	260	249	241	229	204	191	185	177	164	156	154	148	136	125	120	119	103	8.7
	100.0	23.9	21.9	21.0	20.3	19.3	17.2	16.1	15.6	14.9	13.8	13.1	13.0	12.5	11.4	10.5	10.1	10.0	8.7	
東部地区1	152	27	31	22	31	34	15	29	19	27	20	17	14	24	15	9	11	15	11	7.2
	100.0	17.8	20.4	14.5	20.4	22.4	9.9	19.1	12.5	17.8	13.2	11.2	9.2	15.8	9.9	5.9	7.2	9.9	7.2	
東部地区2	150	48	33	34	36	32	31	22	30	18	25	19	20	27	21	16	14	24	13	8.7
	100.0	32.0	22.0	22.7	24.0	21.3	20.7	14.7	20.0	16.7	12.7	13.3	18.0	14.0	10.7	9.3	16.0	8.7	8.7	
中央地区1	188	39	64	44	41	35	26	31	28	30	22	28	29	22	19	22	12	18	18	9.6
	100.0	20.7	34.0	23.4	21.8	18.6	13.8	16.5	14.9	16.0	11.7	14.9	15.4	11.7	10.1	11.7	6.4	9.6	9.6	
中央地区2	179	38	33	36	37	33	32	30	24	21	28	22	25	18	24	15	22	18	11	6.1
	100.0	21.2	18.4	20.1	20.7	18.4	17.9	16.8	13.4	11.7	15.6	12.3	14.0	10.1	13.4	8.4	12.3	10.1	6.1	
中央地区3	134	38	34	32	26	25	24	12	21	19	19	13	17	10	14	14	18	12	13	9.7
	100.0	28.4	25.4	23.9	19.4	18.7	17.9	9.0	15.7	14.2	14.2	9.7	12.7	7.5	10.4	10.4	13.4	9.0	9.7	
中央地区4	141	39	28	37	30	33	28	31	19	22	21	26	12	15	13	18	16	8	17	12.1
	100.0	27.7	19.9	26.2	21.3	23.4	19.9	22.0	13.5	15.6	14.9	18.4	8.5	10.6	9.2	12.8	11.3	5.7	12.1	
西部地区1	117	23	24	22	22	17	22	14	28	20	11	12	14	14	15	10	13	10	13	7
	100.0	19.7	20.5	18.8	14.5	18.8	12.0	23.9	17.1	9.4	10.3	12.0	12.0	12.0	12.8	8.5	11.1	8.5	11.1	
西部地区2	124	31	22	19	18	19	24	22	16	19	17	18	23	18	15	20	13	14	7	5.6
	100.0	25.0	17.7	15.3	14.5	15.3	19.4	17.7	12.9	15.3	13.7	14.5	18.5	14.5	12.1	16.1	10.5	11.3	5.6	
	授心の悩みに 関する体制	安全 子どもの通園・通学	住宅	子どもの健康や発達	認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス施設	認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス施設	掃除・ごみ出し	寝たきりや認知症	ショートステイ	デイサービス	訪問看護	支援・食生活に関する指導体制	地域住民・ボランティアによる子育て支援	学級体制（少人数学級等）	話し相手・相談者	家具等の移動	買い物等の外出	待介者への暴力・虐待	入浴	虐待者等からの暴力・虐待
全 体	99	98	64	63	62	62	59	57	49	49	42	41	39	25	18	17	13	9	7	0.6
	8.3	8.2	5.4	5.3	5.2	5.2	5.0	4.8	4.1	4.1	3.5	3.5	3.3	2.1	1.5	1.4	1.1	0.8	0.6	
東部地区1	14	13	6	9	10	11	7	5	5	5	2	2	3	5	3	1	3	1	1	0.7
	9.2	8.6	3.9	5.9	6.6	7.2	4.6	3.3	3.3	3.3	1.3	1.3	2.0	3.3	2.0	0.7	2.0	0.7	0.7	
東部地区2	11	7	11	8	7	11	9	8	6	7	8	6	7	1	3	3	3	1	1	0.7
	7.3	4.7	7.3	5.3	4.7	7.3	6.0	5.3	4.0	4.7	5.3	4.0	4.7	0.7	2.0	2.0	2.0	0.7	0.7	
中央地区1	13	16	8	7	11	5	11	7	7	6	11	6	2	2	5	2	-	1.1	0.5	
	6.9	8.5	4.3	3.7	5.9	2.7	5.9	3.7	3.7	3.2	5.9	3.2	1.1	1.1	2.7	1.1	-	1.1	0.5	
中央地区2	18	20	11	15	7	7	2	6	6	6	3	4	6	2	4	2	1	1	1	
	10.1	11.2	6.1	8.4	3.9	3.9	1.1	3.4	3.4	3.4	1.7	2.2	3.4	1.1	2.2	1.1	0.6	0.6	0.6	
中央地区3	12	13	7	8	8	6	7	7	5	7	7	4	4	1	-	5	2	-	-	
	9.0	9.7	5.2	6.0	6.0	4.5	5.2	5.2	3.7	5.2	3.0	3.0	3.0	0.7	-	3.7	1.5	-	-	
中央地区4	10	11	9	6	6	7	8	6	7	9	7	9	3	1	1	3	-	2	-	
	7.1	7.8	6.4	4.3	4.3	5.0	5.7	4.3	5.0	6.4	5.0	6.4	2.1	0.7	0.7	2.1	-	1.4	-	
西部地区1	12	8	6	3	7	8	7	10	9	1	3	5	5	8	1	-	2	-	-	
	10.3	6.8	5.1	2.6	6.0	6.8	6.0	8.5	7.7	0.9	2.6	4.3	4.3	6.8	0.9	-	1.7	-	-	
西部地区2	9	9	6	7	6	7	8	8	4	8	5	9	5	1	1	2	1	3	3	
	7.3	7.3	4.8	5.6	4.8	5.6	6.5	6.5	3.2	6.5	0.8	4.0	7.3	4.0	0.8	0.8	1.6	0.8	2.4	

2 住民と行政の役割分担のあり方

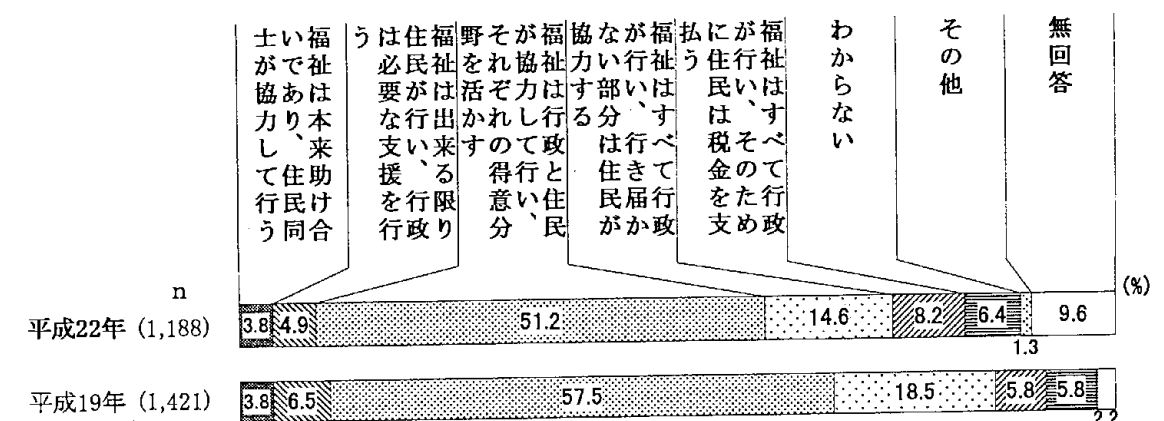
問30 福祉サービスを充実していくために、住民と行政（区・東京都・国）がどのように役割分担すべきだと思いますか。（○は1つのみ）

(%)

Category	Percentage (%)
福祉は本来的に協力し合うものである、住民同士が協力して行う	4.9
福祉は行政と住民が協力して行い、それぞれ得意分野を活かす	51.2
福祉はすべて行政が行い、行き届かない部分は住民が協力する	14.6
福祉はすべて行政が行い、そのために住民は税金を支払う	8.2
福祉は行政と住民が協力して行い、それぞれ得意分野を活かす	6.4
その他	9.6
無回答	9.6

平成19年調査と比較すると、「福祉は行政と住民が協力して行い、それぞれの得意分野を活かす」は、前回の57.5%から今回51.2%へと6.3ポイント低下しているほか、「福祉はすべて行政が行い、行き届かない部分は住民が協力する」も低下傾向を示しています。

《参考》平成19年調査との比較 住民と行政の役割分担のあり方



99

3 地区別でみると、上位 2 項目については、3 地区の間に大きな違いはありません。

8 地区別でみると、東部地区 2、中央地区 2・3、西部地区 2 では「福祉は行政と住民が協力して行い、それぞれの得意分野を活かす」が、他の地区よりやや多くなっています。

地区別 住民と行政の役割分担のあり方

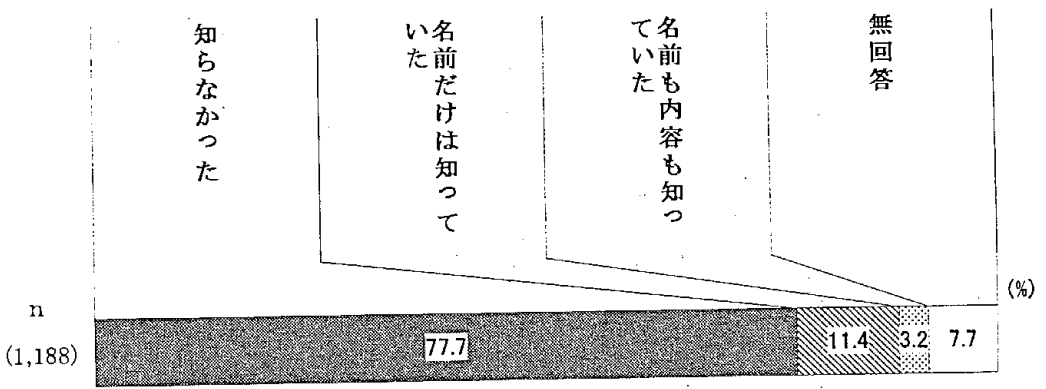
	調査数	行政が主体で住民が協力	住民が主体で行政が協力	行政と住民が協力	行政と住民が協力	行政と住民が協力	行政と住民が協力	行政と住民が協力	行政と住民が協力	行政と住民が協力
全 体	1188	45	58	608	174	97	76	16	114	
	100.0	3.8	4.9	51.2	14.6	8.2	6.4	1.3	9.6	
東部地区	302	9	13	156	49	26	16	5	28	
	100.0	3.0	4.3	51.7	16.2	8.6	5.3	1.7	9.3	
中央地区	642	27	33	327	90	55	46	8	56	
	100.0	4.2	5.1	50.9	14.0	8.6	7.2	1.2	8.7	
西部地区	241	9	11	124	35	16	14	3	29	
	100.0	3.7	4.6	51.5	14.5	6.6	5.8	1.2	12.0	
東部地区 1	152	4	7	76	23	15	7	2	18	
	100.0	2.6	4.6	50.0	15.1	9.9	4.6	1.3	11.8	
東部地区 2	150	5	6	80	26	11	9	3	10	
	100.0	3.3	4.0	53.3	17.3	7.3	6.0	2.0	6.7	
中央地区 1	188	9	13	90	24	14	18	5	15	
	100.0	4.8	6.9	47.9	12.8	7.4	9.6	2.7	8.0	
中央地区 2	179	7	10	95	26	14	11	3	13	
	100.0	3.9	5.6	53.1	14.5	7.8	6.1	1.7	7.3	
中央地区 3	134	3	5	72	20	15	6	-	13	
	100.0	2.2	3.7	53.7	14.9	11.2	4.5	-	9.7	
中央地区 4	141	8	5	70	20	12	11	-	15	
	100.0	5.7	3.5	49.6	14.2	8.5	7.8	-	10.6	
西部地区 1	117	3	5	57	16	7	8	3	18	
	100.0	2.6	4.3	48.7	13.7	6.0	6.8	2.6	15.4	
西部地区 2	124	6	6	67	19	9	6	-	11	
	100.0	4.8	4.8	54.0	15.3	7.3	4.8	-	8.9	

地域保健福祉計画改定に向けた課題

- 地域保健福祉計画を知っていた人は、依然として一部にとどまっていることから、多様な情報媒体を利用し、計画の内容を区民に分かりやすく伝えていくことが求められます。
- 地域福祉の推進のために重視すべきこととして、「身近な相談」「専門相談」「情報提供」は、平成19年調査に比較して数値は減少したとはいえ、依然として上位を占めており、引き続き情報提供・相談体制の充実を図る必要があります。
- 地域福祉の推進のために重視すべきこととして、高齢者、とくに一人暮らし高齢者、高齢者のみ夫婦では、「いつでも気軽に相談できる身近な窓口や専門的な窓口の充実」が多くなっており、こうした高齢者の利用しやすい相談体制を充実させていく必要があります。
- 防犯・防災については、地域の人々、町会・自治会、民生委員等が緊密に連携して、防犯活動から災害時要援護者の情報の把握まで、積極的に取り組んでいく必要があります。

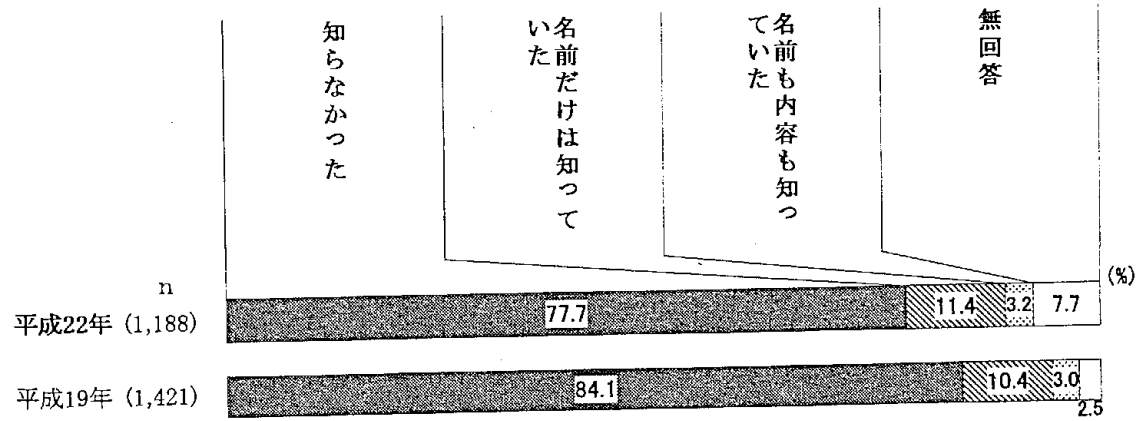
3 「地域保健福祉計画」の認知状況

問31 豊島区では地域に住む誰もが安心して暮らし続けられるまちを目指す「地域保健福祉計画」を策定していますが、この計画を知っていましたか。(〇は1つのみ)



「知らなかった」が77.7%となっており、「名前も内容も知っていた」は3.2%にとどまりました。平成19年調査と比較すると、「知らなかった」は、前回の84.1%から、今回77.7%へと6.4ポイント低下しています。一方、「名前も内容も知っていた」「名前だけは知っていた」は、今回、ほぼ横這い状態となっています。

《参考》平成19年調査との比較 「地域保健福祉計画」の認知状況



性別でみると、ほとんど男女差はありません。

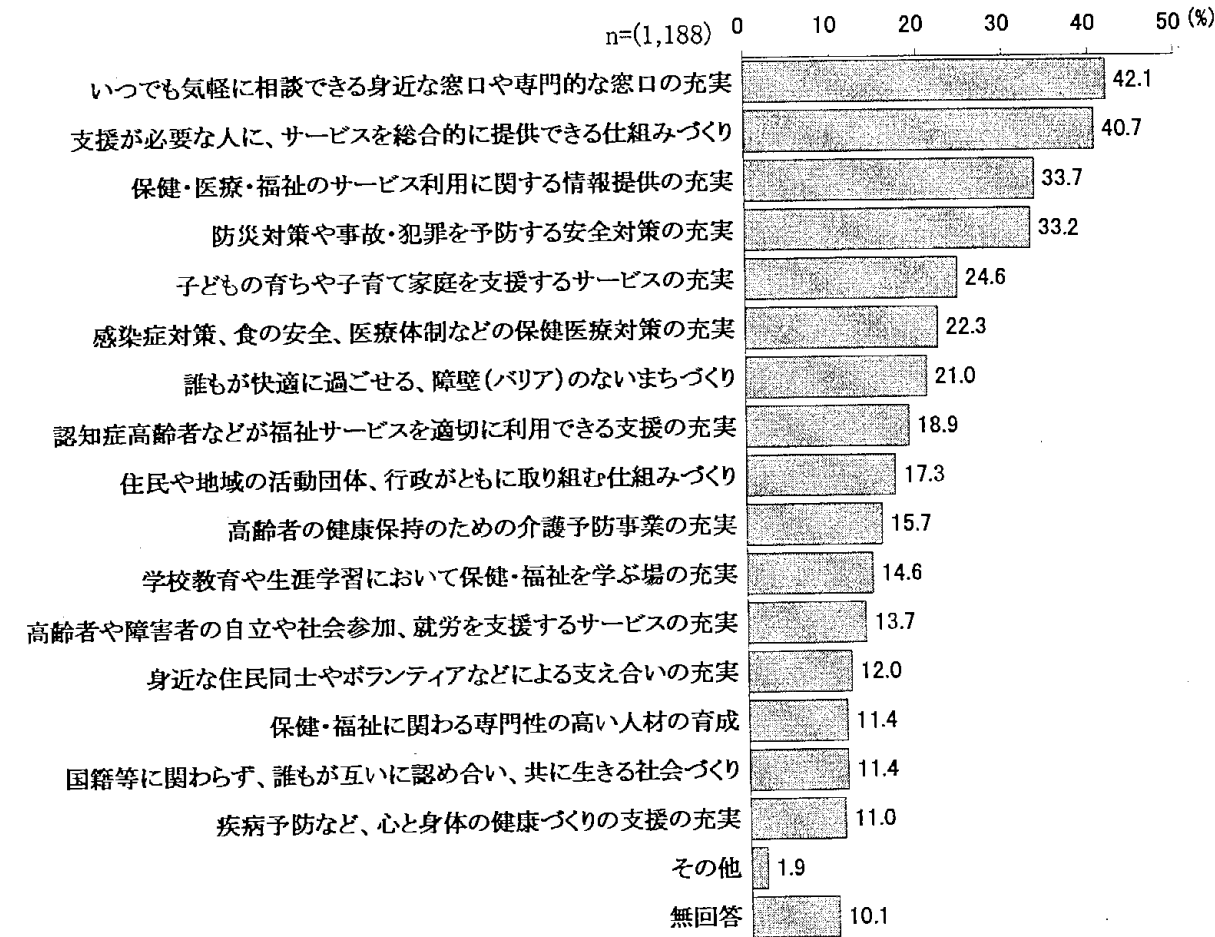
年齢別でみると、20～49歳までは「知らなかった」が80%を超えていますが、50歳以上になると低下し、50～54歳、70～74歳では、「名前だけは知っていた」が20%前後とやや多くなっています。

性別・年齢別 「地域保健福祉計画」の認知状況

	調査数	知らなかった	名前だけは知っていた	名前も内容も知っている	無回答
全 体	1188 100.0	923 77.7	135 11.4	38 3.2	92 7.7
男性	452 100.0	356 78.8	42 9.3	17 3.8	37 8.2
女性	729 100.0	560 76.8	93 12.8	21 2.9	55 7.5
20～24歳	58 100.0	47 81.0	8 13.8	1 1.7	2 3.4
25～29歳	87 100.0	76 87.4	5 5.7	1 1.1	5 5.7
30～34歳	92 100.0	76 82.6	5 5.4	6 6.5	5 5.4
35～39歳	120 100.0	103 85.8	11 9.2	-	6 5.0
40～44歳	94 100.0	77 81.9	11 11.7	3 3.2	3 3.2
45～49歳	112 100.0	98 87.5	7 6.3	3 2.7	4 3.6
50～54歳	98 100.0	71 72.4	19 19.4	3 3.1	5 5.1
55～59歳	127 100.0	101 79.5	12 9.4	4 3.1	10 7.9
60～64歳	140 100.0	105 75.0	12 8.6	8 5.7	15 10.7
65～69歳	115 100.0	80 69.6	17 14.8	4 3.5	14 12.2
70～74歳	120 100.0	70 58.3	24 20.0	5 4.2	21 17.5

4 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと

問32 豊島区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいます、あなたはどのようなことに力を入れてほしいですか。（〇は5つまで）



「いつでも気軽に相談できる身近な窓口や専門的な窓口の充実」が42.1%で最も多く、次いで「支援が必要な人に、サービスを総合的に提供できる仕組みづくり」が40.7%、「保健・医療・福祉のサービス利用に関する情報提供の充実」が33.7%となっています。

3 地区別でみると、東部地区、西部地区では「支援が必要な人に、サービスを総合的に提供できる仕組みづくり」が、それぞれ44.4%、44.0%と中央地区より多くなっています。

地区別 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと（3 区分）

	調査数	的なる窓口の充実	きいでも窓口に相専門で	供でできる仕組みづくりに提	サ一援が必要な人に、	情報提供の充実	保健・医療・福祉に関する	充実する安全対策・犯罪	防予対策や事故・犯罪	家の充実	子どもの育ちや子育て	健康医療体制などの安	全医療・食の安	感染症対策、の	ないま（バリア）	誰が快適に過ごせ	用できる支援の充実に福	認知症高齢者などが利	組む仕組みづくり	住民や地域の活動団
全 体	1188	500	484	400	395	292	265	249	225	206	100.0	42.1	40.7	33.2	33.2	24.6	22.3	21.0	18.9	17.3
東部地区	302	121	134	108	99	76	74	65	52	60	100.0	40.1	44.4	35.8	32.8	25.2	24.5	21.5	17.2	19.9
中央地区	642	280	243	218	215	145	142	134	122	108	100.0	43.6	37.9	34.0	33.5	22.6	22.1	20.9	19.0	16.8
西部地区	241	97	106	73	80	71	48	49	51	38	100.0	40.2	44.0	30.3	33.2	29.5	19.9	20.3	21.2	15.8

	実の 高齢者の健康保持の充 た	おの 学校の教育や生涯学習に おいて保健・福祉を学 ぶ場の充実	援するサ ービスの充実	や社会参加、就労を支 援するサ ービスの充実	高年齢者や障害者の自立	えン テイアなどによる支 援	身近な住民同士やボラ ンティアの充実	もが互いに認め合い、誰 共々生きる社会づくり	国籍等に関わらず、誰 もが互いに認め合い、誰 共々生きる社会づくり	門性の高い人材の育成	保健・福祉に関わる専 門性の高い人材の育成	の体 康づくりの心と 支援	疾病予防など、心と身 体の健康づくりの心と 支援	その他	無回答
全 体	187 15.7	173 14.6	163 13.7	142 12.0	136 11.4	135 11.4	131 11.0	22 1.9	120 10.1						
東部地区	46 15.2	53 17.5	40 13.2	35 11.6	41 13.6	36 11.9	29 9.6	4 1.3	30 9.9						
中央地区	101 15.7	87 13.6	87 13.6	80 12.5	59 9.2	61 9.5	76 11.8	17 2.6	62 9.7						
西部地区	40 16.6	33 13.7	36 14.9	27 11.2	35 14.5	38 15.8	25 10.4	1 0.4	28 11.6						

8 地区別でみると、東部地区2と西部地区2では、「支援が必要な人に、サービスを総合的に提供できる仕組みづくり」「子どもの育ちや子育て家庭を支援するサービスの充実」が他の地区より多くなっています。

また、東部地区2では「保健・医療・福祉のサービス利用に関する情報提供の充実」が他の地区よりやや多くなっています。

地区別 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと（8 区分）

	調査数	的なる窓口の充実	きいでも窓口に相専門で	供でできる仕組みづくりに提	サ一援が必要な人に、	情報提供の充実	保健・医療・福祉に関する	充実する安全対策・犯罪	防予対策や事故・犯罪	家の充実	子どもの育ちや子育て	健康医療体制などの安	全医療・食の安	感染症対策、の	ないま（バリア）	誰が快適に過ごせ	用できる支援の充実に福	認知症高齢者などが利	組む仕組みづくり	住民や地域の活動団
全 体	1188	500	484	400	395	292	265	249	225	206	100.0	42.1	40.7	33.2	33.2	24.6	22.3	21.0	18.9	17.3
東部地区1	152	62	64	48	43	30	38	30	32	29	100.0	40.8	42.1	31.6	28.3	19.7	25.0	19.7	21.1	19.1
東部地区2	150	59	70	60	56	46	36	35	20	31	100.0	39.3	46.7	40.0	37.3	30.7	24.0	23.3	13.3	20.7
中央地区1	188	76	68	62	56	42	35	38	38	30	100.0	40.4	36.2	33.0	29.8	22.3	18.6	20.2	20.2	16.0
中央地区2	179	83	67	62	56	42	36	38	31	26	100.0	46.4	37.4	34.6	31.3	23.5	20.1	21.2	17.3	14.5
中央地区3	134	59	56	46	54	31	32	24	24	25	100.0	44.0	41.8	34.3	40.3	23.1	23.9	17.9	17.9	18.7
中央地区4	141	62	52	48	49	30	39	34	29	27	100.0	44.0	36.9	34.0	34.8	21.3	27.7	24.1	20.6	19.1
西部地区1	117	48	44	36	43	28	22	27	28	17	100.0	41.0	37.6	30.8	36.8	23.9	18.8	23.1	23.9	14.5
西部地区2	124	49	62	37	37	43	26	22	23	21	100.0	39.5	50.0	29.8	29.8	34.7	21.0	17.7	18.5	16.9

	実 めの 高齢者の健康保持の充 た	お いて 保健・福祉を学 ぶ場の充実	学 校 教 育 や 生 涯 学 習 に	援 や サ ー ビ ス の 充 実	高 齢 者 や 障 害 者 の 自 立	高 齢 者 や 障 害 者 の 自 立	身 近 な 住 民 同 士 や ボ ラ ン テ ィ ア な ど に よ る 支 え 合 い の 充 実	共 に 生 き る 社 会 づ く り	も が 互 い に 認 め 合 い、 誰 も が 互 い に 認 め 合 い
--	----------------------------	-----------------------------	--	---	--	--	--	--	---

家族構成別でみると、一人暮らし高齢者では、「いつでも気軽に相談できる身近な窓口や専門的な窓口の充実」が53.3%と他の家族構成より多くなっています。

家族構成別 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと

	調査数	窓 口 の 充 実	い つ で も 気 軽 に 相 談 で き る 身 近 な 窓 口 や 専 門 的 な 窓 口 の 充 実	支 援 を 必 要 と し て い る 人 に 対 し て の 充 実	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 の 充 実	予 防 対 策 の 充 実	子 ど も の 育 ち に 関 する 支 援 の 充 実	対 策 の 充 実	感 染 症 の 防 止	障 害 者 の 支 援	さ ま ま の 支 援	認 知 症 の 支 援	組 織 的 な 支 援
全 体	1188	500	484	400	395	292	265	249	225	206			
	100.0	42.1	40.7	33.7	33.2	24.6	22.3	21.0	18.9	17.3			
単身（65歳未満）	184	65	76	64	70	34	42	39	28	38			
	100.0	35.3	41.3	34.8	38.0	18.5	22.8	21.2	15.2	20.7			
単身（65歳以上）	60	32	15	22	16	7	15	13	12	6			
	100.0	53.3	25.0	36.7	26.7	11.7	25.0	21.7	20.0	10.0			
夫婦のみ （夫婦とも65歳未満）	147	56	58	46	51	31	28	35	32	24			
	100.0	38.1	39.5	31.3	34.7	21.1	19.0	23.8	21.8	16.3			
夫婦のみ （夫婦とも65歳以上）	70	34	24	20	19	6	15	8	10	15			
	100.0	48.6	34.3	28.6	27.1	8.6	21.4	11.4	14.3	21.4			
夫婦のみ （夫または妻が65歳以上）	46	25	16	16	13	4	8	8	7	7			
	100.0	54.3	34.8	34.8	28.3	8.7	17.4	17.4	15.2	15.2			
二世世代家族（親と子）	538	225	233	183	180	175	129	121	111	93			
	100.0	41.8	43.3	34.0	33.5	32.5	24.0	22.5	20.6	17.3			
三世世代家族（親と子と孫）	84	37	32	28	28	22	17	19	16	15			
	100.0	44.0	38.1	33.3	33.3	26.2	20.2	22.6	19.0	17.9			
兄弟姉妹のみ	22	8	8	7	6	5	5	3	4	4			
	100.0	36.4	36.4	31.8	27.3	22.7	22.7	13.6	18.2	18.2			
その他	29	15	18	12	9	7	5	2	5	3			
	100.0	51.7	62.1	41.4	31.0	24.1	17.2	6.9	17.2	10.3			

	の高 介 護 予 防 の 充 実	の い ち つ の 充 実	学 校 教 育 ・ 福 祉 学 習 の 充 実	社 会 参 加 の 充 実	高 齢 者 の 支 援	身 近 な 住 民 の 支 援	生 活 の 充 実	国 籍 等 の 充 実	性 健 高 ・ 福 祉 の 充 実	実 の 充 実	疾 病 予 防 の 充 実	そ の 他	無 回 答
全 体	187	173	163	142	136	135	131	22	120				
	15.7	14.6	13.7	12.0	11.4	11.4	11.0	1.9	10.1				
単身（65歳未満）	27	21	28	24	30	33	15	7	15				
	14.7	11.4	15.2	13.0	16.3	17.9	8.2	3.8	8.2				
単身（65歳以上）	12	6	5	10	9	4	6	-	8				
	20.0	10.0	8.3	16.7	15.0	6.7	10.0	-	13.3				
夫婦のみ （夫婦とも65歳未満）	22	19	18	18	15	16	17	4	18				
	15.0	12.9	12.2	12.2	10.2	10.9	11.6	2.7	12.2				
夫婦のみ （夫婦とも65歳以上）	13	4	8	9	7	5	5	3	14				
	18.6	5.7	11.4	12.9	10.0	7.1	7.1	4.3	20.0				
夫婦のみ （夫または妻が65歳以上）	11	6	9	4	4	9	8	1	7				
	23.9	13.0	19.6	8.7	8.7	19.6	17.4	2.2	15.2				
二世世代家族（親と子）	74	96	78	60	61	54	63	6	39				
	13.8	17.8	14.5	11.2	11.3	10.0	11.7	1.1	7.2				
三世世代家族（親と子と孫）	16	12	9	9	4	9	9	-	9				
	19.0	14.3	10.7	10.7	4.8	10.7	10.7	-	10.7				
兄弟姉妹のみ	6	4	2	3	-	2	3	-	5				
	27.3	18.2	9.1	13.6	-	9.1	13.6	-	22.7				
その他	4	4	5	4	6	3	5	-	4				
	13.8	13.8	17.2	13.8	20.7	10.3	17.2	-	13.8				

※ 「兄弟姉妹のみ」と「その他」は基数が少ないため分析ではふれていない。

5 活動団体・取り組みの名称・活動内容

問33 豊島区では、区民の皆さんが中心となって、また、区民と行政が一緒になって、地域の中で様々な取り組みが行われています。現在、あなたが、地域の中で自主的に参加し、活動していることがありましたら、活動団体・取り組みの名称・活動内容を記入してください。

地域の中で自主的に参加し、活動していることを尋ねたところ、57名の方から回答をいただきました。活動団体・取り組みの名称は、以下に分類し、まとめました。

分類項目		主な活動内容	年代・性別
町会・自治会活動	11名	祭礼協力、夜回り（防犯パトロール等）、清掃活動（ゴミOデー外）、防災訓練、地域イベント交流活動	30代～60代（女） 60代～70代（男）
交通安全や防犯活動	2名	小学生の自転車教室指導、防犯パトロール	40代（女） 60代（女）
子育て支援・PTA活動	5名	子育てサポーター、子育てサロン、PTA活動、子どもキャンプ活動支援、学校課外活動	30代（女） 60代（女） 70代（男）
運動（スポーツ）・健康づくり・文化活動	11名	和太鼓演奏（老人ホーム、福祉まつり等） 妊婦・お年寄り向けのヨガサークル活動 早朝ウォーキング活動、高齢者太極拳 テニスサークル、スポーツ吹き矢、 ケーナ・オカリナ演奏（老人福祉施設） 美術ボランティア、民謡（高齢者クラブ所属）	20代（男）（女） 30代（女） 40代（女） 50代（女） 60代（男）（女）
環境美化・清掃・リサイクル活動	2名	池袋西口環境浄化パトロール	60代（女）
防災活動や災害援助活動	2名	消防団の教育訓練活動、防災訓練指導	20代（女） 50代（男）
高齢者福祉分野	3名	特別養護老人ホームでの外出ボランティア、元気あとおし事業、見守り活動	60代（女） 70代（男）（女）
障害児・者福祉分野	6名	ダウン症児・自閉症児の水泳指導 重度心身障害者活動支援（ボランティア） 手話サークル活動、視覚障害者向けの録音テープ作成、対面朗読等、障害児・者団体活動（勉強会外）、精神障害者の社会参加支援活動	30代（男） 50代（女） 60代（男）（女）
地域における生涯学習・スポーツ活動（指導・助言・運営協力含む）	5名	少年サッカー、野球の指導員、子どもヨガ教室の指導員 シニアパソコンクラブ	40代（男）（女） 50代（女） 60代（男）
地域助け合い、コミュニティづくり活動	5名	生協組合員同士の助け合いを通じた地域助け合い活動の推進、目白地区の景観やコミュニティ道路の提案外、仲間づくり、ふるさと森づくり等	30代（女） 50代（男）（女） 60代（女） 70代（女）
募金・チャリティバザー活動	1名	商店街におけるチャリティー活動	60代（女）
その他	4名	労働者へのカウンセリング、若年者への就労支援（個人・自主サークル活動）、コープ会ミーティング（豊島区消費生活展に参加）等	20代～60代（女）

6 自由記入

問34 身近な生活上の問題で困っていることや保健・福祉の課題について感じていることなど、ご意見を自由にお書きください。

身近な生活上の問題や保健・福祉の課題について感じていることやご意見を尋ねたところ、449名の方から513件の自由記述がありました。以下の16項目に分類して示します。

1. 高齢者の保健・福祉について
2. 障害者の保健・福祉について
3. 子どもの保健・福祉について
4. 保健医療全般について
5. 地域活動・コミュニケーションについて
6. 相談・情報提供について
7. 意識啓発について
8. 教育について
9. バリアフリー・駅等のエレベーター等について
10. 防災・防犯について
11. 生活保護について
12. ホームレスについて
13. 保健福祉全般について
14. 外国人について
15. 区政全般について
(ごみ問題、自転車対策、喫煙マナー、公園・緑地、ペット・動物、道路、その他)
16. その他

1. 高齢者の保健・福祉について

- ⑤骨粗しょう症対策として、60才以上で骨量を調べる検査を、豊島区では行っていないようですので、年をとっても骨密度を調べてくれる所をつくって下さい。(保健所等で) 65才以上でも、保健所に行けば骨密度を測れる様にして下さい。低料金で。(一、一)
- ⑥75歳以上の2人暮らし、要支援1が2人。介護付き老人ホームに入る事も考える。予算内の受け入れ口があるのか心配。持ち家を区がグループホームに改造または立て直して利用して頂きたい。38坪 2階建て リバースモーゲージという方法もあると聞いています。区役所のどこで相談できますか。福祉部ですよね。グループホーム「池袋の家」内覧会に行きました。理想的で区内の空き家、土地を利用して沢山建設して、老人の「憩の家」を造って頂きたい。(一、女性)
- ⑦古い家も多く、一人暮らしの高齢者が多いのではないかと思います。訪問等の支援が必要なのではないかと思います。(20代、女性)
- ⑧若い世代の福祉に対する認知を得る様にする事と、高齢者への心使いが必要な事だと思います。より良い街にする為には、若い世代のモラル向上と高齢者への労わり、一人ひとりの心が大事だと私は思います。(20代、男性)
- ⑨特別養護老人ホームを増やしてほしい。入居を持っている方が沢山いるので。自分が通っていた小学校の校庭などで、運動できる環境を作してほしい。(30代、女性)
- ⑩老人福祉のさらなる充実を望みます。(30代、男性)
- ⑪学校の空き教室を老人ホームや認知症対策など、また、子どもの保育園や幼稚園対策に改造して安い料金で老人のボランティアの手助けも借りながら校庭を公園にして、認知症の人が心配しないで散歩できる楽園にしたい。そのために独り暮らしでまだ体力の十分ある人達にお手伝いしていただく方法も必要かと思えます。学校を保育園から老人ホームまで小さな協同体にして住めるようにしていただきたいです。(30代、女性)
- ⑫高齢者の介護については深刻な問題だと思います。周りに、老人ホームや施設に入所出来なくて、困っている方が沢山いらっしゃいます。施設不足というのは、家族では深刻な問題になっている様なので、地域密着型の施設等はずっと増やしてあげてほしいです。グループホームは特に豊島区は少ないように思います。それが原因で引っ越される方もいます。福祉業界も少し、人材育成に力を入れ、拡大すべきだと思います。(40代、女性)
- ⑬将来の年金について不安です(老後の生活)。(40代、女性)
- ⑭昨年実母が福祉の方にお世話になり、車椅子貸し出しやレンタル制度が充実しているんだなあと身を持って体験してみて初めて分かりました。毎日元気で忙しく動き回っていると感じない事も、自分の身に振りかかって、豊島区の区民の有難さが分かりました。(他

の区は知りませんので。)これから高齢者が増えて来ますので、診察時間外の医療体制を充実させて下さい。年末からお正月にかけて、診てくれる病院は豊島区に無く、板橋区の帝京病院しかダメでした。是非、近くにもお願いしたいです。(40代、女性)

- ⑮仕事で一人暮らしの老人のところへ行くと、家でじっとテレビを見ている人が多く、外へ出ていける様な、何かきっかけ作りが有るといいのになと感じる事が有ります。(40代、男性)
- ⑯現在、同居はしていないが親が郊外で認知症で、治療を受けられず重症になっており、どこに相談するかも分からず、病院(専門外の病院)から出た後、どうしたらよいか困っています。我が家も経済的にも余裕がなく、子どもも小学校で手がかかっている状態ですので、相談に是非のっていただける方はいないでしょうか。(40代、女性)
- ⑰高齢者、特に単身の方の福祉が最も重要ではないでしょうか。自治体も財政難の所がほとんどのようです。かといって税金や保険料を上げるのも限界がありますから、ボランティアの力を使うほかには無いと思えます。私も何かしてみたいとは思いますが、きっかけがつかめません。ごく簡単に短期間、短時間からでもできることなどがありましたら、区の広報誌などで紹介していただけたら良いと思います。例えば悪いかも知れませんが、求人ときの正社員ではなく、パートや日雇いなら応募する方も比較的気軽にできるようなものです。(40代、男性)
- ⑱高齢者の住宅問題。安価な住宅を増設。出来ないと更に生活保護者が増加する。2点とも国の支援が必要なので、死に物狂いでお願いします。(40代、男性)
- ⑲問29で○を付けた所は、自分に近い将来良くなってほしいと言う意味で○を付けました。特に⑫は、今、子どもと住む事が難しかったり、年金で暮らす事が大変な人が沢山います。年金でも入居できる老人ホーム等を、今、空いている学校や公共施設などをリフォームして、造ってほしいと思います。(50代、女性)
- ⑳父も介護保険、老人医療を利用させていただき大変助かりました。父(82歳)の年まで間がありますが、自分が父と同じぐらいの年齢になったとき制度がどのようになるか心配です。(50代、男性)
- ㉑高齢者の入所が数少なく、待たれている方が多いので、十分に必要な時に、待たずに施設に入れる様に増やしてほしい。家族もかなり、自らの生活が出来なくなり、無理をしたり、限界の状態に追い込まれてしまう。他区(港区等)は、良い場所にそれなりのホームが充実して出来ている。(新設も)(50代、女性)
- ㉒現在特に困っていることはありませんが、将来が不安です。街は若者であふれ、高齢者の居場所が少ないと感じます。(50代、女性)
- ㉓私は84才の母が家に一人でいる事が多く、ヘルパーさんも頼んでいます。週に5時間位です。一人ですつと置いておけず、仕事もあり子どももいる為、心配

です。高齢者の医療をもう少し考えてほしいです。

(50代、女性)

- ㉔介護の仕事をしている者です。利用者様のところに伺うと、時間が少ないために時間通りには終わらないのが現状です。一人暮らしのお年寄りとは話し相手がほしくて、行くとずっと話されています。掃除機をかけているときも話しかけられたり、そのたびに手を休め先に進めません。もう少し時間にゆとりがあったらと思います。(50代、女性)
- ㉕今、直面している問題は行政への不安(不信感)。母が病気になる、何とかやりくりはしていますが、私自身疲れがでて、仕事を一週間も休んでしまいました。今も体調のすぐれないまま、生活を養う為(母子家庭)、仕事をしなければ食べていく事も出来ず、必死で働いています。母の通院にも酸素を一人で持ち歩く事も出来ず(やせ細り)、兄弟で仕事の調整をしていますが、今の社会情勢を考えると解雇されるのではないかと不安になります。現実には生活の苦しい者が必死に生きている(母は介護認定されず)にも関わらず、生活にゆとりがあり元気な方が認定を受けている。どんな形で行政が介護認定しているのか。私には理解が出来ません。今一度、弱者の事を考えて頂きたい。今回の調査を価値あるものにして下さい。お願い。介護認定基準等、広報に記載して下さい。(60代、女性)
- ㉖高齢化が進み、これからは様々な問題が出てくると思われます。一つひとつお金、人手がかかってきます。そこで提案です。私も団塊世代ですが、元気なそして暇なお年寄りが大勢います。その人達を、いかにうまく取り込むことができるか、ここが鍵ですが、その活用により、少しでも、お金、人件費が減らしていければ、そしてその人達にも生きがいに繋がっていければ、まさに一石二鳥。私は、半世紀以上豊島区に住んでいます。少しでも住みやすいところになってくれればと思っています。(60代、女性)
- ㉗高齢者福祉については、職業柄、色々感じるがありますが、どの程度、どこまで一市民ができるかわかりません。近所にも困っている人がいるだろうと思いますが、プライベートな問題なのでどこまで入れるか疑問です。自分でできることがあればしたいとの気持ちはありますが、さて、何をとなるとわかりません。(60代、女性)
- ㉘高齢の母と二人暮らしです。母は元気で「要介護1」の認定を受けています。昼間はいいのですが、夜間一人にしておくことができず、そのため、国内一泊旅行もできません。このように、夜間の救急体制(連絡の仕方、人的ヘルプ)は「自分でやれ」とばかりで、現在は考えられていないと思います。24時間連絡が可能な高齢者専用マンションを考えていますが、行政では無理なんでしょうか。(60代、女性)
- ㉙高齢者が急性期の病院へ入院、数ヶ月で退院、医療行為が必要なまま退院を余儀なくされ、特老及び老健は医療行為の必要な人は入所を断られる。在宅での介護、

看護をするには、24時間体制となり自費が必要となる。また、長期療養型病院も差額ベッド料金が高く、お金がないと生きられない現実。在宅の介護者援助のための介護保険ですが、現実に老々介護、及びマンパワーの少ない介護者を救えるような一般的な年金受給金額で医療行為もOKの医療施設(延命をしなくてすむ)や、特老、老健、老人ホームができることを願います。閉校になっている学校を利用するのも案だと思います。

(60代、女性)

●この先一人になっても、安心して医療、福祉が受けられる豊島区になってほしい。(60代、男性)

●本年100歳になる母親が高齢で誤えん性肺炎となり、胃ろうの手術をしました。その為、家族がどうしても出掛けなければいけない(冠婚葬祭等)時に一時的に預かってもらえる、ショートステイ等の施設が少なく困っています。ショートステイを受け入れている施設が胃ろう等の手術をした人を、もう少し多く受け入れてくれると、家族も助かると思います。(60代、男性)

●介護、高齢者に関わるショートステイ施設の拡張。(60代、男性)

●一時金1000万円台、月額30万円台の民間有料老人ホームは現状採算が取れるはずが無いので、最終的に整備化する。国民の老後を安くして暮らせるよう、同じ額を払っても全て国営とすべき。(60代、男性)

●現在高齢の親の介護中ですが、親の介護が終われば、次は私自身の老後について考えなくてはなりません。体力と思考能力のあるうちは、自分のために体力作りの運動やスポーツ、文化活動等で活性化を図り、地域で支援を必要とする人のための、ボランティア活動が出来ればと思っています。自分の体力、思考能力が衰えた時、身寄りのない一人暮らしの老人は、どこを頼ればよいのだろうと不安になります。近隣は集合住宅が多くなり、隣近所の付き合いも希薄になってしまった今、長年住んだ愛着のある場所ですが、現状の福祉の施策では、住み続けるのは無理な気がします。不勉強でどの様なボランティア活動が現在なされているのか、よく知らないのですが、短時間、不定期なら生活の支援ができる人も沢山いると思うのです。例えば、毎週金曜日9時から12時、買物、家事援助出来ます。明後日スーパーの買物同行できる方10時から11時半まで、のような登録ができる掲示板(インターネット上)を作り、住民同士で支え合う。勿論トラブルが起きないための、ルールも作らないといけないと思います。(60代、女性)

●私の仕事は在宅のホームヘルパーです。豊島区ではない、ケアサービスの会社(事業所)で仕事をさせて頂いております。介護保険でのサービスでは色々と制限があり、お手伝いしたいと思う事がありますが、介護保険を使っている方にはして差し上げられない事が多く、気の毒な思いをしています。ほとんどの方が高齢者の方ですので(私も高齢者ですが)、短い時間の

訪問では出来ない事が多いのです。介護度1などの場合は1時間の間に食事の用意、片付け、掃除、ゴミ処理、ベットメイク等しますので、時間は足りないですね。(60代、女性)

●高齢者になると病気も多くなり、1つの医者だけでは済まない。総合病院は遠いこと、紹介状がないと行くことが出来ない、病気がどこの科に行けばよいかわからないときに素人が勝手に病院(医者)へ行行って、なかなか直らない事が多い。(60代、女性)

●保健、福祉にしても、私達70才に近い者はお金、仕事もなし、高いアパート代を払うために、生活するにも大変です。保健にしても、1年間国民健康保険を未納にしたら、入院する事になって相談に行った時の対応が悪かった。入院は2、3日でよかった為、そんなに入院費がかかりませんでした。これからの事を考えると、国や区の対応に私達夫婦は絶望を感じました。子ども達も独立していますが、私達夫婦の面倒を見る余裕が無い為、相談に行ったのですが。今はお金を持っていないと駄目なのではないでしょうか。(60代、男性)

●高齢者の夫婦の生活で一人が病気になり高齢者介護者になった場合の支援体制(二人ともだめになる)。病院に入った場合の医療体制の充実(年取ってから転々と病院をたらいまわしにされてはかなわない)。高齢になってから病院を選ぶのも大変。病気の状況により、わかりやすく病院を判断できるような体制(若い人は自分で判断できるが)。(60代、男性)

●年寄りが気楽に楽しめる文化的な催し、例えば、耳慣れたクラシックコンサート、落語、心暖まる映画会等、心癒されるもの何でも良いです。なるべく、安いチケット代で宜しくお願いします。(60代、女性)

●子どもにばかり給付金があるのはおかしい。年金だけで暮らしている老人に、例え5,000円でも給付すべき。年金から天引きする税もおかしい。(70代、女性)

●一人暮らしの高齢者が入院等あるとき、同意書、保証人を書く場合があるのですが、遠くの兄弟の名前を書いたりするより、地域、行政での保証人をして下さる方法はないのでしょうか。いつも、入院する度、困っています。(70代、女性)

●私達が高齢となり自宅での生活が不能になったときに低額で入れる施設(何年も待つことなく)が多くできる事を願っています。(70代、女性)

●地方(横浜)で介護施設に世話になっている兄弟がいます。金額を聞くと一部の人しか入れないくらい高いと思います。マンション等売って、前納金を作ったり、月々の食生活をみてもらう代金のお話を聞くと、驚きます。豊島区も想像しますが、老後～元気の保証が必要です。区の経済も大変な時と考えると、やる事、やれない事と大変だなと思います。(70代、男性)

●将来、認知症等になったとき、入所できるホームが多くあれば安心できると思いますが。(70代、女性)

●一人暮らしの老人に対する様々なサービスに何があるか判らない。有料、無料でも。(70代、男性)

●問3の地域ごとに警備員を各人置いていただいて高齢者の希望としてポケットベルを持たせていただきたいと思います。夜間に使用させていただくのですが(ベルに各人々の番号をつけて、名前、住所がわかるようにしておく)、ベルを押すだけで誰とわかるようにし、ランプがつくようにしておく。(70代、女性)

●年金(各種)、生活保護、区からの援助は一切受けていません。定年後今日まで、少々の蓄えで生活してきましたが、妻の死亡(今年1月)以降、何らかの援助を受けたいと思います。(70代、男性)

●高齢者が健康維持のため体育施設を利用しているが、以前は高齢者無料でした。せめて70才以上は無料にすれば、医療費の減少に寄与すると思います。(70代、男性)

●私は今、妻と二人の年金生活です。不安です。持ち家ではなくアパート住まいなので、いずれここに住めなくなります。知人はいても心の友はいない。困ったことができて一人でも解決しなければ・・・、相談できる友がほしい。(70代、男性)

●私は今、健康で不自由がないため地域が行っている支援について、本当にわかりませんが、今後のことはわかりませんので、受けやすい支援の仕組みが整うことを望んでいます。(70代、男性)

●頸椎椎等手術による後遺症で歩行困難のため、自転車による外出ができないため、通院のとき最寄りの交通機関の近くに自転車置き場がないこと。手足のしびれ、ひざの痛み、背骨のきしみ、手術による症状とのことで、近隣の大きな病院はどこも治療に当たってくれないこと。今現在の症状が少しでも改善することができたら、ライフワークにしているボランティア活動に参加できるのではないかと思います。身体機能はかなり悪い状態ですが、頭はまだ正常です。以上のようなことから真摯に治療に取り組んでくださる医療機関の紹介を強く望みます。(70代、女性)

●将来、身体が不自由になったら、どうなるのかと心配です。使用していない学校等に、入所できるようになると良いと思います。(70代、女性)

●高齢者に対して、介護保険料、高齢者医療保険料が高い、年金生活者に対して厳し過ぎる。無駄な支出が多いからだ。年金生活者には、住居費の割合が高いため、都営、区営住宅の充実。入居する方法の情報が少な過ぎる。また、入れない。都営、区営に高額収入者が入っていて、本当に必要な人が入りづらい、入れない。世襲制度はおかしい。同じ都民税支払っているのに、不公平だ。税金を支払いたくない。(70代、男性)

●現在、患者として毎日戦っています。医療費の高騰で今後の「後期高齢者医療制度」、見直しを考えてほしい。(70代、女性)

●95歳の認知症の姑の世話をしています。自分が心身ともに健康であることが介護のためには一番大切だと思います。やさしくなるために、介護者のサポート、癒しの機会があればうれしいと思います。(60代、女性)

●一人暮らしの老人の多いことが目立ちます。行政の支援が、親と子を分離しているのが原因ではないか。子は親をひとり世帯にした方が支援を得られると考えられる人が多いという事です。病気の老人を子どもが看る事への支援を重点に考えてほしいです。施設ばかり増やす事ではないと思います。(70代、女性)

2. 障害者の保健・福祉について

●通勤中に目の不自由な方と電車で一緒にいます。その方もエレベーターに乗り、階段を上り、次の電車へと乗り換えています。いつも大丈夫かなと何か手助けをしたいと心では思っているのですが、どう声をかければいいのかわからず、何もできません。本当はこうしてほしい、こうしてくれると助かるという不自由な方からの意見を公表していただけるとありがたいです。(30代、女性)

●障害のある子ども達が保育園、幼稚園に入りやすくなるように区から働きかけてほしい(統合保育の推進)。障害者への配慮(障害者の家庭がもっと暮らしやすくなるように)。小学校以降も障害のある子ども達が適切な教育を受けられるように区が福祉に力を入れてほしい。(30代、男性)

●もっと障害者に考慮してほしい。例えば、障害者手帳の内容の見直し、障害年金も年々もらえる金額が少なくなっている。障害者も健常者同様に扱ってほしい。(40代、女性)

●重症筋無力症全身型の患者ですが、重いものを持つことができないため、タクシー利用の際には人の助けが必要で、食事もできない。外出時に気軽に休める場所がない。都内だけでもシルバーパスのようなパス、都営電車で乗車できるフリーパスの発行を望みます。(40代、女性)

●心身障害者のサポートについてより広報に力を入れてほしい。(50代、男性)

●発達障害に対する理解と援助が、学齢が上がると少なく、現場の先生の理解も、とても差があると感じています。今、現在中学生の子が、将来、自分の力で生きていける様に、色々な事を身に付けることができる様に、援助して頂けると有難いです。相談できる機関が9～5時の受付だったり、平日だけだったりして(電話だとしても)、相談がしにくいです。(50代、女性)

●看護者や介護者は多少なりとも疲れています。でもなかなか他の人などをお願いすることに罪悪感をもってしまいます。それは心の問題で他人に見てもらって良いのだと思えるようになるには、相談などに言ったときにそちら側から「こんなサービスがあります。こんなサービスを利用したらどうですか」などと声をかけられると安心できるものです。お年寄りも大変ですが、障害のある子を持った親はいつまでも現役の介護者でいなければならない、先が不安です。自分も老人になり、介護される立場になります。もう少し、そんな子ども

(障害者)を社会が見てくれるのだと思わせてください。ここに相談すれば、支援してもらえるという安心感を下さい。(50代、女性)

●姉が心身障害者ですが、年齢が65歳未満のため、介護費、おむつ等が全て実費です。79歳になる母が介護しています。生活のため、私は働きに行くので年老いた母の負担が重いです。現実的にもっと福祉を充実していただきたい。心身障害者に対する制度の見直しを希望します。(50代、女性)

●私の息子は29才の障害者です。以前、移動支援でヘルパーさんにプールに連れて行って頂いていたのですが、プール内は支援出来ない(自費)という事で、その理由として万一の時に責任が取れないという事ですが、万一の時は道上であれ、水中であれ、起こるものですし、区が責任を取る事でもないと思います。他の区では利用できる所もあるそうで、バリアフリーとか社会参加とか言われていますが、行政の方がバリアを作っているのではないのでしょうか。今一度ご検討お願いします。(60代、女性)

●自転車を処分するだけではなく、車椅子だけが、バリアフリーの対象ではないと思えるので、良い案を。店の経営の邪魔になるのでしょうか。混んでいるスーパーの通路の真中に車椅子が、最近よく見る光景です。(60代、女性)

●障害者といっても色々な障害があり、目に見える障害は周りの人達も分かりやすいが、内部障害、知的、精神という、分かりづらい障害者にとって地域で暮らす事は、願いの一つであるが、なかなか住み続ける事は難しいと感じている。グループホームも世話人さんを必要とする知的高齢者等は、お世話して下さる人を育てる事が大事であり、仕組み作りが課題だと思う。ネットワーク作りとよく言われるが、物事を決める時のみ、声高に言っている様に感じられ、身近な生活の中でのネットワーク作りはどんな人達が連なっていくのが一番なのかが話し合われていない様に感じられる。本当に必要な繋がりを掘り下げてもらえたら、色々な事が進んでいくのではと思っています。特に行政においてはたて割りがまだ残っており、たて横と繋いでもらいたいです。(60代、女性)

●50才になる精神障害の息子がおり、福祉や保健所の方々にお世話になり、また、アドバイス等して頂いて助かっておりますが、病院の先生には、この病気は治らないと言われ、また、薬も気休めですと言われました。発病して4年になりますが、将来を案じております。地域活動もしたいとは思っておりますが、抱えているものが重くて、とても人の事に気がまわりません。(70代、女性)

●近所に「みんなで一歩館」という施設がありますが、毎朝6時30分から窓を全開にして、掃除機を使用した掃除を始めます。毎日その音で起こされるのですが、住宅密集地にある施設として、地域住民への配慮はないのでしょうか。障害施設に対し、地域住民からの協

力を求めるだけでなく、施設側(スタッフ)も多少地域住民のことを考えてほしいと思います。(30代、男性)

●精神疾患を抱えているため、健常者にできることが難しい場合も多々ある。精神科医の情報は他の医院に比べて少ないため、なかなか良い医師にめぐり合えない。見た目ではわからない病気もたくさんあると思うので、そういった病気にも優しい制度があると良い。(20代、女性)

3. 子どもの保健・福祉について

●保育園の整備をお願いします。待機児童が問題になっているのに、豊島区は保育園を閉鎖したり、世の中の流れと逆行している気がします。本来であれば、育休を十分取って子どもの成長を見届けたいのに、年度中途の入園が困難であるため、まだまだ小さい子どもを0歳で4月入園させなければなりません(それも入れるかどうか保証はない)。窓口で相談しても安易に無認可か保育ママでと言われてしまいます。前向きな対応をお願いします。(一、女性)

●子育てをしている働くお母さん達を助けてあげたい。高齢者福祉も大切だろうが、選挙権がない子どもは一票にならないから、年寄りに政治家の目が行くと考えてしまったりする。肉体的に子育てが大変なのは数年で、人生ではあつというまであったと思う(我娘23歳の経験より)。でも、その肉体的大変さの後は、教育費で家庭経済は疲労しっぱなしである。しかし、教育は大事なのだ。親として子に残す一番の財産は、教育であると思うから、親は頑張るのだ。(一、女性)

●今後、結婚や出産をすることになった場合、育児休暇を利用するなどして働き続けたいが、保育園を利用できるか、どうか心配です。満員だったり、子どもの体調が悪い場合預かってもらえないなど。(20代、女性)

●2才の子どもがいますが預け先がない。延長保育といっても、夜19時までが多く22時まで預かってくれないと、正社員として働けない女性が多い。リストラなど厳しい世の中、女性に足かせが多い気がする。(20代、男性)

●仕事に復帰する予定だが、保育園に入れるか不安を感じています。(20代、女性)

●児童館や保育園にもっと予算をかけるべき。隣の板橋区と比べてもすごい差。一時保育の場所が少なすぎだし、遠くて利用できない。(20代、女性)

●小さな子どもがいるのに、歩ける範囲に保育園がない。共働きなので2人目がほしいが産めない。(20代、女性)

●子育てするのにいい区を目指して、子どもづれが転居してきた町にしてほしい。そのためには、保育園を充実すべき。保育園をたくさん作れば、ダブルインカムの夫婦が来て、税収が上がるのでは。(30代、女性)

●周囲で子育て(働きながら)に苦労している家庭や、保母さん達の賃金の安さ等、「負のループ」をよく感じます。区だけでは無理かもしれませんが、働いていても育てられる環境作りをお願いします。(30代、女性)

●保育施設が足りない。身近に世話をしてくれる人がいない。本当に保育施設を必要としている人がいるのに、コネやごまかし(自営業との偽り等)で保育園に入園できている人がいる。年に何回か入園条件の査定を行うべきである(一度入園できればOKとするのは疑問である)。保育園と幼稚園の差をなくし、幼稚園も午後6時ぐらいまでは保育してくれるようにしてほしい。(30代、男性)

●今年6月から始まった「子ども手当」現段階でいくら、どのような家族構成の子ども数分を給付しているか報告すべし。豊島区には約1万8000人の外国人登録者が住んでいますが、いったい彼らにいくら税金を使用しているかが明確ではない。(30代、女性)

●保育所の充実を。全体を少しうおすのではなく、本当に困っている人を見つけ手厚く。(30代、男性)

●小さい子どもがいるので保育園などの施設の充実はすぐにでもしていただきたい。今すぐ利用するわけではないが、子どももあと一人ほしいので、1、2年の間には増やしてほしい。(30代、女性)

●子どもが産まれたばかりで、すぐにでも保育園に入りたい。だけど豊島区でも待機児童問題があるようだ。そのことで子育て支援課に直接行ってみたが、申込用紙を渡されただけで対応に不満があった。やはり保育園を増やしたり、定員を増やさないで待機児童問題の根本的解決にはつながらないと思う。待ったなしの問題で、即、動いてもらいたい。(30代、女性)

●子どもが保育園に入りたての頃(1歳児)、しょっちゅう風邪を引いたりして休み、半年位は、落ち着いて仕事をする状況ではありませんでした。どちらが仕事を休むかで、その度に夫婦で喧嘩になったり、「もう1日休ませてあげたいけど、仕事も行かなければ。」ということで、完治させずに園に送り出したりもしました。豊島区はまだ病(後)児保育の施設が少ないので、こういう施設をもう少し作ってほしいと思いました。(30代、女性)

●保育園に入りづらいのが、今後不安。(30代、男性)

●小児科を充実させてほしいです。子ども(小学生)が日中一人歩きが安心してできるような環境が理想です。(30代、女性)

●3才になる下の子、日本脳炎の知らせが来て、初めて、新しいワクチンでの接種が始まっていることを知った。上の子はその時すでに6才半を過ぎており、保健所に問い合わせたところ、実費で受けておいた方がよいとの事。受けておいた方がいいのに、下の子はタダ。上の子は実費。わけが分かりません。たまたま、下の子が3才だから通知が来たのでしょうか、知らない人がいっぱいいると思う。うちは新聞を取っていませ

んし、そういう重要な知らせを、全員に伝える方法に疑問があるし、とても、怒りを感じる。(30代、女性)

●自宅近くの保育園に通えない様なので、通勤に困っている。保育園の増設あるいは、受け入れ人数の増加をしてほしい。(30代、男性)

●保育園の空きがなく、共働きが出来ない。来春から公立幼稚園に入れようと考えているが、定員30名なので希望する近場の幼稚園に入園できるかも不安。(30代、女性)

●子育てサポートセンターの料金が高く、パートで働いて保育園児を育てておりますが、時給と同じ料金を取られると、頼みづらく、今までも何度も最後の最後でキャンセルせざるをえなくなっています。待機児童が多いからか、保育園の就労条件も厳しくなっていて、親も子どもも具合が悪くなると、すぐ職場を辞めさせられるという状況になるため、あまり厳しくされるのも困っています。あと、保育園が民営化で区立から私立に変わって思ったことですが、今までの区立はなぜ、あんなに厳しいのか?明らかに自分達(先生)の方が偉いんだぞ、という様な態度をとられたりする事がとても嫌でした。自営業の人などは、働く時間や収入等誤魔化しているとも聞き、真面目にきちんと働いて生活している方が馬鹿みたいに感じています。(30代、女性)

●マンションが増えているが、保育園の定員が少なく、仕事をしなくても出来ない人がいる。(30代、女性)

●課題がずれているかもしれませんが、子どもを養育し、子どもを成長させて気づきました。乳幼児は時間に余裕があり、些細な事で病院へ受診します。この制度は、小学から高校生を対象にした方がよいと思います。最近では手当で内容も充実し市場の紙おむつ代も10年前とは比べると安価になっています。行政は、本当は誰が何を必要としているのか、中身を見て判断してほしいです。(30代、女性)

●子育て支援は参加しにくいシステムで参加していません。学校もどこことなく暗いイメージです。東京都内の子どもはロボットみたいだなあと日々思います。社会的弱者がいつらい街ですね。今は、夫の仕事の都合で住んでいますが、老後は出身地に帰りたいです。(30代、女性)

●子ども手当を受け取る際に、1年毎に更新する。現状届の提出で返送用に80円切手を住民が支払うのは、おかしい。毎年、納得がいかず腹が立つ。義務であれば、返送用(無料)を提供すべきである。(30代、男性)

●認可保育園が不足している。働きたくても、働けない。(30代、女性)

●西巢鴨駅付近に区立保育園を作してほしい。この付近は、保育園の過疎地域である。旧朝日中学校跡地がベストではないか。現在、区はNPO法人に無償提供しているそうだが、今、この経済状況の中で働きに出た

い母親の支援の方が文化芸術より優先すべきではないのか。跡地の一部の活用でも保育園は運営できるのではないか。(30代、男性)

●育児・教育・児童福祉施設等については他の区(隣接の文京区や新宿区)と比して、全面的に薄い。(30代、男性)

●子ども達が安全で安心し、伸び伸びと心豊かに育つ環境づくり(公園や運動施設、イベント)が必要。(30代、女性)

●学童保育は、小3までで終了してしまいます。小4以降も可能になると、より良いと思います。(40代、男性)

●学童保育が定員一杯で入れなくて困っているので、全ての小学校にスキップを作ってほしいです。(40代、女性)

●子どもが幼い頃、母親(私)が具合が悪くした時に、一時的(1日)に預かってくれる機関がほしいと思いました。(40代、女性)

●問20:子育て支援課に相談したことはあるが、対応は事務的、且つお役所仕事であった。ファミリーサポートの更新をネットか郵送、または区役所の分所でできるようにしてほしい。

児童館・高齢者用ことぶきの家が「ひろば」になり、サービスも低下し、スタッフも有償ボランティアで、頻繁に変わり、豊島区は机上論だけで「福祉計画」をしているように思う。

今までの「児童手当」は一定の収入に対して支給されていたが、「子ども手当」が国の政策で始まったからといって、「児童手当」と置き換えるのはおかしい。

「子ども手当」は全ての子どもがいる家庭に支給され、扶養控除や配偶者控除がなくなり、実質的に税金のアップになるのであれば、高収入の家庭のみが得をし、今まで「児童手当」を受けていた家庭には何のサポートもされないことになる。「児童手当」と「子ども手当」は対象受給者が別なので、両方とも支給されるべきだと思う。(40代、女性)

●私が病気で通院、入院する時に子どもの面倒を見てもらえる所がなく、大変苦労しました。有料でよいので、子育て支援サービスを充実させてほしいと思います。また、介護の経験はありませんが、介護している人が病気になる時のサービスも充実させて頂けたら、安心して暮らせる町になると思います。有料でも、その様なサービスを利用したい人が沢山いると思います。(40代、女性)

●息子が4歳の時、豊島区の保育園は定員いっぱいに入園できませんでした。(40代、女性)

●高齢者に対する(障害者を含む)優遇が多すぎる気がする。必要最小限にし、少子化対策、子育てに対し予算を計上しなければ、うまくいかないような気がする。(50代、男性)

●私も56才まで公務員として働いていました。二人の子どもを育てましたが、最近都会の保育所に入所出来な

い話をたびたび聞きます。働きたくても働けない状況をつくるのは、とても寂しい気がします。子育て支援をして頂きたいと考えています。特に娘が出産したので、最近そう思うのかもしれませんが。そうすれば、豊島区ももっと住みやすい街になると思います。(50代、女性)

●孫がおりますが(近くに住んでいます)、娘が仕事に行けない理由として、保育園に入ることがなかなか難しい状態のようです。(50代、女性)

●教育、児童福祉については、良くわからないことが多く感じます(自分自身に現実感がないことが大きな原因と思います)。(60代、女性)

●生後7ヶ月になる孫が保育所に入園できずに待機しています。祖父母との同居ではより難しいため、他区へ転居しましたが、まだ入園できません。安心して預けられる保育所の充実を願っています。(60代、女性)

●子どもの人間的な成長の援助に力を入れる。教育者の人格向上。(70代、男性)

●学校教育で「修身」のマナー教育を。(70代、男性)

●高齢者や障害者支援などの内容が多いですが、それも最もだが、より子どもに対する支援を充実させていく事が重要だと思う。今、必要なのは将来、未来に繋がる政策や支援が大事であると思う。(20代、男性)

●保育所の不足。(30代、男性)

●池袋のディズニーランド化を。皆が憧れる町になれば、そこに住む人達もかわり、心豊かに自発的行動によって、助け合いができるようになるのでは。土地の高い池袋で子どもを育てるのは大変です。若い人でも安心して子どもを産み育てられる環境づくりをしないと、年寄りと他の地域から移り住み、1、2年で無責任に去っていく住人だけの町になってしまいます。(30代、女性)

●出産のために助けたり、幼児の予防接種などはお金を出してあげるべきと思うが、子どもへの補助金や全額負担はいかがなものかと思う。(40代、女性)

4. 保健医療全般について

●夜に病気になった時、医療関係はどこに行ったらよいのか。(70代、男性)

●国保に加入しているが、健康診断が高すぎて受けられません。予防の為に支払っているのに、本末転倒ではないか。(20代、男性)

●自分はまだ若いので保健、福祉を考える機会がない。親もまだ現役で働いているので、当面は困ることはないと思う。親が高齢者になるということを今は全く考えられない。とりあえず、今は自分が生きて生活していくので精一杯です。高齢化は日本国民の最大の問題だ。(20代、男性)

●介護、月に何点分(?)と利用点数が決まっているので、本当にすごく必要なのに、点数を使いきってしまって困っている人をみた事がある。(20代、女性)

●無料検診をたくさんしていただきたいです。通知ハガキをいただけるのでしょうか(配布しているのか、広く教えていただけるとありがたいです)。(30代、女性)

●脳血管疾患などで入院して、リハビリを行なった後、一定期間で終了となりますが、退院後地域でリハビリを継続して行く所がないというのが、困っているところです。(30代、男性)

●無料の乳がん検診、40歳以上ではなく、30代でも毎年できる様にならないかなと思う。(30代、女性)

●自営業の家です。年に1度は区の健康診断が受けられたら心強いのですが、年齢制限もあり、中々難しいです。また、受ける事が出来たとしても、問診の際に「大病をした事もなく、元気です。」と言うと、そのまま検診が終わってしまったこともあります。大きな病気を見つけるための検診ではなく、日々のチェックのための検診であってほしいと思いました。また、採血に携わっている方もあまり経験のない方の様で、お世辞にも上手とは言えませんでした。がん検診や婦人科検診など、個別に申し込まなければならないシステムになると、もっと活用度も上がるのではないかと思います。(30代、女性)

●現在公費で接種できるワクチン(BCG、ポリオ、MR、三種混合、日本脳炎)以外でも必要なものがたくさんあります。自費接種は高額なため、できる人、できない人の格差が大きい。ヒブワクチンの助成は始まりましたが、それ以外にも無料化、助成をどんどん進めてほしい。(40代、女性)

●診察時間外の救急医療体制が整っていないので、将来的には豊島区の外に出たいと思います。豊島区に住んで20数年経っていますが、病人には住みにくい町であると実感しています。特に救急医療の池袋病院の対応はどこが救急なのか、と思うこともあり、多分これはどこの病院も同じなのかと思います。年齢を重ねていくと、時間外の診察をお願いしたくてもできないので、そういうことができる所に住みたいと思います。病気をしなければ池袋はいい町です。(40代、男性)

●インフルエンザのワクチンなど接種したほうが良いと言われているワクチンを無料で受けられるようにしてほしいです。職員を減らして財政を増やして、その分ですべての健康診断が受けられる仕組みがあると良いと思う。今後、高齢化社会になるのは明らかで、年金にも期待が持てない中、元気で生涯働ける事が、個人にとっても行政にとっても良いことだと思う。それゆえに、健康が第一だと思う。(40代、女性)

●区の検診は手続きが面倒で受けにくい。(40代、女性)

●無料の健康診断等、限られた項目にせず、40才以上には、全ての健康診断が受けられる仕組みがあると良いと思う。今後、高齢化社会になるのは明らかで、年金にも期待が持てない中、元気で生涯働ける事が、個人にとっても行政にとっても良いことだと思う。それゆえに、健康が第一だと思う。(40代、女性)

●昨年の冬、主人の具合が悪くなり救急車を呼びました。すぐに来てくれましたが、受け入れ先がなく、2時間

後にある病院へ。そして「うちでは盲腸の手術はできません」と日大板橋病院へ搬送され、朝の10時に救急車を呼んだのに夜8時にやっと処置をしてくれました。死ぬ病気ではありませんが、文京区から越してきた私達は、また、色々な面で充実している文京区に戻りたいと心から思いました。(40代、女性)

●仕事をしている為、保健所等の検査が利用出来ない(平日限定)。(40代、女性)

●数多くあるが、早急に対処しなければならないのは、要介護者の介護の問題。介護施設の増設や在宅介護の支援拡充。介護従事者の報酬アップ。(40代、男性)

●介護に認定されていないが、病気で歩行困難な年寄りを抱えている。病院でも、特に介護が必要とされていない高齢者だけでなく、認定されていないが病に苦しんでいる人もいます。行政に頼るのは失礼かもしれないが、家族は疲れきっている。そんな人にも温かい支援をお願いいたします。(50代、男性)

●休日の医療。(50代、男性)

●義父が酸素の機械をお医者様を通じて会社から借りていますが、急に旅行が決まったとき、旅行サービスで宿泊先に設置してもらおうのが間に合わないことが時々あります。豊島区に申し上げても関係ない話かもしれませんが。一週間前であれば、主治医に承認書にサインをしてもらい、酸素の会社が宿泊先に無料で機械を設置してくれるサービスがある。(50代、女性)

●民間の医療機関とタイアップしたショートステイの充実を望みます。(胃ろうによる介護が必要なため)。(50代、男性)

●メタボで指導を受けています。毎日、仕事で忙しく、3ヵ月の期間をいただいてメタボの予防、解消を目指し記録をしていますが、保健所からは3ヵ月がたった現在、何の連絡もありません。当人が申し出なければ動きませんという行政のスタイルというのでしょうか。中途半端な指導が目に見えてしまいがちです。行政側も、やるからには最後まで徹底してやってほしいものです。(50代、女性)

●健康診断など高い費用を要する人間ドックなど、60歳を迎えて一度受けてみたいが、少しでも安価で受けるにはどうしたら良いか、病気にならなければ診てもらえないのでは困ります。(60代、女性)

●保健や介護にもっと日本古来からの漢方医療(はり、灸、マッサージ、漢方薬)を積極的に利用できるようにすれば(啓蒙活動も含めて)国の負担も少なくなると思う。昔は近隣で集まっておしゃべりをしながら、灸をすえたり食べ物を持ち寄ったり、子どもの世話をしたりした。地域で気軽に立ち寄れる場所があれば、自然形で助け合いも生まれるのではないだろうか。私は鍼灸マッサージを生業としていますが、もっとお年寄りや若者の役に立ちたいと考えています。(60代、女性)

●一年に一度程度、無料で健康診断をしていただけたらとを希望します。(60代、女性)

- ⑤医療費が毎月15,000円から20,000円位かかるのでとても困っています。(60代、女性)
- ⑥子宮頸がんの検診無料チケットが届いて、とても助かりました。ワクチンの一部金額補助などあるとさらに助かります。(20代、女性)

5. 地域活動・コミュニケーションについて

- ⑦ボランティアに参加したいが、方法がわからない。最初の一步がなかなか出せない感じです。もっと呼びかけてほしい。(20代、女性)
- ⑧近所に住んでいる人とのコミュニケーションが少なく、周りにどんな方が住んでいるのかもあまり知らないことが多くさみしく思います。(20代、女性)
- ⑨隣人の顔を全く知らない。引越しの際の挨拶も女性なので、逆に危険(女性が住んでいることを知らせることになる)ということでした。住民同士の交流が活発にできる様な、実験的なマンションや活動が増えてほしい。例えば、スガモコレクティブハウスのようなもの。(20代、女性)
- ⑩豊島区が取り組んでいる様な活動の多くを知らなかったです。私自身がもっと地域の取り組みに興味を持とうと思いました。そう思う中で引越しが多い転勤族の人々も、参加しやすい活動が多ければ良いと思いました。(20代、女性)
- ⑪自分は30代の男性で、写真が趣味なのですが、高齢の方も写真を趣味とする活動も多く見られます。年に1回、豊島区主催のフォトコンテスト(クラス別)を、ビックカメラ協賛で行う事も面白いかと。応募資格を豊島区在住以外に幅を広め、撮る写真の内容を「豊島区にまつわる事全て」。(30代、男性)
- ⑫区民の年齢(年の近い人)等とコミュニケーション、友人作りなどの場を提供してほしい。スポーツセンターのスタジオ(プログラム)の充実。(30代、女性)
- ⑬高齢者の方々と就学前の幼児、母との交流の場などあったら、お互いに癒されたり、元気になったりするのでは?と思います。(30代、女性)
- ⑭東京では住民同士は、深くかかわらないことを良しとするところがあります。普段元気な時はそれは居心地が良いのですが、病気になったり、また、老化が進んでいくと、急に不安になるように思います。町内会などで、生活に不安を感じる人を気軽に支えあうような、「おとなりさん同士」までは深くない、少し広い範囲で住民同士で支えあえるようなネットワークや取り組みがあると良いと思いました。(30代、女性)
- ⑮今年7月に第一子を出産します。これからは、保健所や区民センター等を利用する事が多くなると思うので、宜しく願います。もっと会社員でも、参加できる活動があったらと思います。ゴミ拾い等でもいいので、子どもと一緒にできるイベントとかも、もっと、沢山知りたいです。(30代、女性)
- ⑯ご近所の方々との交流がありません。仕事をしている時間が長く、余暇が少ない。興味のある講座などになかなか参加できない。(30代、女性)
- ⑰行政の規制にとらわれず、まずは区民の生活環境、コミュニケーションをより良く円滑に行ってもらえる取り組みを希望します。期待しています。(30代、女性)
- ⑱個人的には、個人対象に草の根レベルの活動をしていますが、対学校など根本対策の必要性を感じます。セクシャルマイノリティ(ゲイ、レズビアン、性同一性障害)へのフォローもしていますが同様です。(40代、男性)
- ⑲朝の登校時にシルバーの方が交通安全のために道に立ってくださり、あいさつをしてくださるので安心です。我が家は核家族なので近所のシルバーとのふれあいは良いことだと思います。そのような方がもっと活躍できるようになるといいと思います。(40代、女性)
- ⑳活動団体に参加したことがないので、これからは少しずつ学んでいきたいです。(40代、男性)
- ㉑夫婦共に実家が遠く、子ども達も地元の学校に通学せず、仕事で忙しくしているのもあり、また、マンションという事で、気持ちはあってもコミュニティ作りは、迷ったりあきらめたり、遠方まで出掛けたりしています。近所の人達と人間関係がほとんど作れていません。きっかけがありません。(40代、女性)
- ㉒ボランティアでできる事が何かわからないでいます。献血には行っていますが、他に何かあるのか知りたいです。(50代、男性)
- ㉓今私は58歳ですが、29歳の時2ヵ月入院しました。その時「西福祉事務所」だと思うのですが、子ども2人の保育園入園手続き等、色々お世話になりました。急な病気、病後の体調の悪い時、とても助かりました。今、また、薬を飲みながらの生活ですが、地域の活動に参加したいです。(50代、女性)
- ㉔町内会は古い住民の年寄りの集会所でしかなく、町内会費もそれらの人達の飲食代になっている。まず、行政が先導してテコ入れをしない限り、風通しのよい町民のコミュニティは無理。(60代、男性)
- ㉕後から越してきた人にとっては、自分がどういうところにいるのか、いつまでたってもわからない。区民ひろばとか、地域創造館とか行ってみたが、区民ひろばは高齢すぎるし、創造館は趣味にはいいが、地域とは離れている。お祭りのお手伝いをしたが、それが一番、地域を知ることができた。他の人も言っていたが、いつまでたっても知り合いができていく。地域はもういいかなという気になってきている。(60代、女性)
- ㉖古い町なので、マンション住民が町会等に参加しづらい。旧住民のみの集まりとなっている。新住民は町会費を払って、雑用のみさせられる現状があり、参加の意欲がなくなってしまう。解決策がなく、困っています。(60代、男性)

- ㉗私は身体は元気ですので、出来れば様々なボランティアに参加したいのですが、なかなか参加出来ず(仕事)もどかし感じています。今後、できる様になったらと思っています。(60代、女性)
- ㉘私が豊島区に移住して4年になりますが、豊島区は自治体として区民に快適な暮らしを提供しているとは思えない。また感じない。新築マンションに住んでいるというもあるが、近所づきあいは皆無であり、あいさつや助け合いなども見られない。また、新宿区では生涯学習施設での講座が多く設けられたり、運動施設の貸し出しも多い。福祉、子ども対策は練馬・板橋区より劣っているだろう。人口差もあるだろうが、他区の方が力を入れているのではないかと。豊島区がもっといい街になってくれることを祈っています。(20代、男性)
- ㉙ボランティアをもっとしたいと思い探していましたが、豊島区ではあまり見つかりませんでした。豊島区社会福祉協会のボランティアのHPに情報が少ないので、もう少し充実させてほしいです。(20代、女性)

6. 相談・情報提供について

- ㉚区の活動についてもっと知りたいです。回りに助けを求められるような人が少なく少し不安を感じています。(お隣さんも挨拶程度で名前も知りません。)(一、女性)
- ㉛ちょっとした事を相談できる場がほしいです。(20代、女性)
- ㉜インターネットなどを使わず、情報が行き渡らないような環境の人にも、わかりやすく情報やサービスが紹介されるようにしていただきたいです。(20代、女性)
- ㉝軽度の認知症だが、要介護の認定を受けられず、自宅で暮らす父がいます。地域の活動に参加する事もなく、日々、症状が進行中。こういった親を支える者(母親や息子)のメンタル面での相談窓口を知らせてほしい。(30代、男性)
- ㉞情報を広く知らせるための仕組みを考えてほしい。もっと誰でも知っているような状態をつくるべき。(30代、女性)
- ㉟情報を取りに行きにくい。(インターネットがない。広報も置いてある所が限られている等。)例えば、子ども支援の情報等は子ども手当を払っている家庭に積極的に郵送した方が広く普及できると思う。(30代、女性)
- ㊱問33の「豊島区では、区民の皆さんが中心となって、また、区民と行政が一緒になって、地域の中で様々な取り組みが行われています。」それについて、そのような活動をしている様ですが、詳細がわかりにくいような気がします。そして、今、具体的に困っていること。ものすごく個人的な事ですが、子ども(年中)が「サッカーをやりたい。」と言い、どこでできるのか、仕事をしている為、情報収集のツールはインターネット

- トのみ。インターネットで検索しても、豊島区の活動はわかりにくく、結局民間のみしか分からず。今後のこと(子どもが小学校、中学校に。)と考えると区での取り組みを優先した方がいいと思うのですが、豊島区のサッカー協会のホームページの最終更新日は2003年、7年前でした。活動しているのか、していないのか、分かりにくい。サッカーチームはあるのか、無いのか。まったく、わかりません。これだけでも、引越そうかと思ってしまいます。色々やっているとか言うならちゃんと、やってほしい。そんなところまではとか、いうならやらなければいい。そうしたら深く引越すので。ちなみにサッカーは近々の一例。とにかく、色々よく分かりません。(30代、女性)
- ㊲もっと自分から情報を取りに行かなくてはならないのだろうが、子どももおらず、介護すべき老人もいない我が家では、あまり健康、福祉に関する情報が届いておらず、今回のアンケートを書くにあたって初めて知ったことや、調べたことも多々ありました。地域社会に参加するきっかけや機会がないまま、豊島区に在住している若者層、中間層は多いと思います。実際仕事で他の区にいる時間の方が長いのですが、もっと豊島区の情報を楽しんで入手できればと思うこともあります。(30代、女性)
- ㊳行きつけとしていた病院が閉院、廃科などがわからなかったため、とても困ったことが近年ありました。情報を取りまとめ提供してくれると、とても役立つと思います。(30代、女性)
- ㊴子どもの保健については、ママ友達から情報が得る事が多いです。大人に関する情報は、豊島区ホームページ等にこちらからわざわざ情報を取りに行かないと、情報は入ってきません。(うちは、新聞を取っておらず、マンションの為に「広報」はポスティングされません。)ホームページにしても、「広報」にしても、こちらから情報を取りに行かない限り、知り損ねている事がよくあります。お知らせはメールマガジンとしても配信して頂ければ、知り損ねも防げ、区民の皆さんにも広めやすいと思います。(40代、女性)
- ㊵全てを行政にゆだねるという考えには、賛同しかねますが、情報発信源としての役割は、大変重要な事柄と考えております。豊島区も、多国籍な住環境となっており、老若男女、国内、国外を包括したバランス行政を望みます。今後の活動に尚一層、期待します。(40代、男性)
- ㊶福祉というと高齢者、育児に目が向きがちですが、豊島区のように10~30代の単身または、若年夫婦が多い地域では、就労支援も深刻だと思います。彼らが相談できる窓口がほしいです。(40代、男性)
- ㊷区に相談窓口等があっても、結局ろくに機能をしていない。全てにおいて優遇されているのは、一人親家庭のみで、一番税金を納めているはずの独身者には、何の恩恵もないし、相談できる窓口もない。(40代、女性)

- ⑤区役所へ行く機会が少ないので、ホームページなどの情報を求めます。更新などが少なく、レスポンスも悪い。もっとホームページを活用してください。(40代、男性)
- ⑥独身で今のところ健康なので、特に困っていることはありませんが、何かあったとき、どこに相談すればどの程度のサービスや援助が受けられるのか明確になっていると安心です。問24と同様、豊島区の福祉手帳のようなものを作ってはどうかと思います。区の行事や歴史に関する暦(カレンダー)に、緊急連絡先や相談窓口案内が記載され、災害時マップと一体になっていれば、常に携帯することも可能だと思います。ユニークなデザインにして有償でも良いと思います。(40代、女性)
- ⑦窓口は、仕組みや施設をどれだけ充実させても、その情報を入手出来なければ、何の役にも立ちません。確かに広報等を見ればいいのですが、それさえも日常的に入手できる様な生活ではありません。(どこに置かれているのかわからない。新聞を取っていない。役所のやっている時間に帰宅出来ない等。)現代において、情報の入手方法は、個人個人様々です。新聞やTVによる人、インターネット、携帯電話による人等。全てを網羅する事は難しいでしょうが、様々な媒体が次から次へと出てくる時代に考えるべき事だと思います。職員の方々の頑張りが実を結ばなければ、もったいない事です。(40代、女性)
- ⑧子育てが一段落し、幸いにもまだ両親も健康で過ごしているので、今すぐ福祉課のお世話になることはありません。しかし、両親は高齢ですので、お世話になる日は遠くないと思います。困った事が起こったとき、気軽に相談できるよう、時間や曜日の枠を越えたサービスをお願いしたいです。(40代、女性)
- ⑨相談できる窓口が多いのは良いことだと思います。育児、介護などセンターを渡り歩くのは大変です。簡素化できたらよいと思います。(50代、女性)
- ⑩高齢者に関して(殊に一人暮らしの方)の定期的な安否確認。生活上の点で、例えば、電灯の交換。老人独りでは、困難な不具合に関して手助けをして下さる、連絡方法等に関してのお知らせ等。リボンサービスというシステムがある事を高齢者の中には知らない人もいらっしゃるの、この事業のある事を広く知らせる様な方法をご配慮していただきたく希望します。(50代、女性)
- ⑪老人介護と難病人の看護をしながら働いています。主人も昨年定年後、新しい会社に再就職してくれましたが、いつまで続けられるかわかりません。自分もリウマチを持ち、年をとっていくのに、先行きが見えず、こういうことをどこに相談するといいいのかが、よく分からない状況です。例えば、一つの認定でもあちこち行かなくてはならず、窓口が一本化していて担当部署に割り振っていただけるとありがたいです。(50代、女性)

- ⑫様々な保健・福祉サービスがあったとしても、区民に周知徹底されていなければ意味がないので、新聞に折り込まれる広報紙以外に、全てのサービスを記載した一覧表のようなものを全戸配布したらいかがでしょうか。(50代、女性)
- ⑬今後、団塊世代が高齢化していきます。心身共に健康な状態を長く保てるよう今から心がけていかなければなりません。そのための情報、ケアを支援していただければと思います。(50代、女性)
- ⑭今回アンケートに答えることで、行政の様々な情報(窓口や施設等)を知らないでいた事に気づきました。とりあえず区役所に行って広報誌を入手しようと思います。今回は、今すぐに相談すべき事はありませんでしたが、年を重ねていくうちに相談しなければならぬ事が出てくるだろうと思います。その時は今日入手の情報を活かしたいと思います。元気なうちは、ボランティアなら参加しようかな、とも思います。(50代、女性)
- ⑮情報提供の点で一部のところしか連絡が届かないこと。何とか区民がどこでも情報が入るよう手立てをしてほしい。(60代、男性)
- ⑯現在は健康に暮らしているのでご相談に伺うことは無いのですが、これから相談に伺うことも出てくると思います。あちらこちらとたらい回しにされずに高齢者サポートの諸々について相談できるシステムがあることを望みます。きめ細かく専門性の高いサポートを単純な手続きで受けられるようなシステムを作ってください。総合相談をできるような担当者が着いてくれるといいです。他区でしたが、両親の介護の折、税金のこと、おむつ代の申請、ケアマネジャーのこと等、あちらこちらと相談、申請に行かねばならず大変でした。(60代、女性)
- ⑰区、町、地域、近所、全て情報がない、分からない事だらけ、知るすべもない。インターネットやメールも出来ない人は、沢山いると思う。テレビなら、年よりも子どもも皆見るはず、豊島区のコマーシャルをながして、情報を伝えられたらいいと思う。(60代、女性)
- ⑱単身なので、将来が不安です。老人ホーム等、区で紹介いただけるのでしょうか。(60代、女性)
- ⑲子育て支援(障害者向け支援含む)活動に興味がある。今回のアンケートの結果、及び結果から具体的に住民に期待する事柄、事柄に対する区としての取り組みの「見える化」をお願いしたい。同様に東京都及び国の共通化した取り組みの「見える化」。我々高齢者は時間はある。子育ての具体例として、朝夕幼児を託児所に送迎している若い親を見ていると気の毒である。(60代、男性)
- ⑳豊島区の中で色々な行事等を知っている人達は一部の人達だけじゃないでしょうか。何もかも全部知っている人は豊島区内で何名いらっしゃるのか、知りたいです。(60代、女性)

- ㉑役所からいろいろな資料が送られてくるが、文章がわかりにくい。(60代、女性)
- ㉒自分の住んでいる地域、あるいは豊島区内の総合病院や各科(整形、耳鼻咽喉、歯)等々の病院名や場所、あるいは特徴等一目でわかる表の様なものがないでしょうか。(70代、女性)
- ㉓現在は仕事もしているし、友人達もいますが、年齢的にこれからいろいろと問題も出てくる事と思います。もう少し身近に相談できるところが、目に見えるところにあると良いと思います。(70代、女性)
- ㉔体が少し不調のとき、気軽に電話で相談できる、各専門医が常駐する部門を作してほしい。(70代、女性)
- ㉕広報を読むか、パソコンで検索する以外、区の情報を良く知る事が出来ない。区で種々取り組んでいる活動や施設等、もっと簡単に区民が知る事ができる方法はないのか。知らないから、無関心になり、利用できるものも利用しないという結果になるし、活動も一部の人のみになる。行政の自己満足に終わらない様にしたい。(70代、女性)
- ㉖家族を介護している人の健康相談の窓口があると思う。(70代、女性)
- ㉗残念ですが、区のHPや区報をわざわざチェックしている人は多くありません。掲示板を活用し「やっていること」をきちんとアピールしてください。イベントもしてください。(20代、女性)
- ㉘今回、このアンケートで知った情報や活動がたくさんありました。広報としまの配布場所をもっと増やしてほしい。知る機会をもっと増やしてほしいです。(20代、女性)
- ## 7. 意識啓発について
- ㉙学校教育の中で、もっと「心のバリアフリー」について学ばせる必要があると思います。そうすれば、関心を持ち、人に対するやさしさや手助けする勇気が出てくると思います。(30代、男性)
- ㉚私の母は、腎臓病で透析を受けています。外見は普通に歩いているので、電車席を譲ってもらえず、若い人や子どもが席を占領してゲームなどをやっている姿を見るとイライラします。妊婦には今、札で他の人に分かるようになっていますが、内蔵疾患の病気の人の為にも「札」を配ってほしいです。あと、ボーイスカウト(ガールスカウト)の子ども達が、団体で電車の席に座り、老人がたくさん立っけていても知らん顔、もっと、学校(家庭)での教育をおねがいします。(40代、女性)
- ㉛もっと柔軟に対応できる優しさをハード、ソフト両面で用意していく事が大切だと思う。(40代、女性)
- ㉜今、日本で福祉関係の仕事をすることは自分の生活の向上(金銭的)をあきらめるくらいの覚悟がいります。豊島区なら福祉の仕事をしてもらえば家族が扶養できる、そんなシステムを作ってください。そうしないと若い人はやらないと思います。(40代、男性)

- ㉝人の手助けをできるものは、人の手であることを認識してください。(50代、男性)
- ㉞このようなアンケートに過去何回か回答したことがありますが、いつも思うのは行政と住民の融合・協力というのは大変難しいと感じています。行政として情報提供や啓蒙活動は必要ないと思いますが、行政は住民からの声を拾いつつ財源を有効に使って個人レベルでは不可能な施設の整備や増設などに力を注ぎ、その施設の運用に関してはある程度住民(自治会、NPO、サークルなど)に任せるといった割り切ったやり方も良いのではないのでしょうか。管理問題もありますが、任せることで団体の自立や使用者のモラルも向上するのは。(50代、女性)
- ㉟家族の中で介護を必要とする人がいないので、今は客観的に考えられるが、いざとなると、やはり、他の支えが必要となり、その窓口は広いほど良いと考えます。不自由な方が遠慮なく暮らせる町づくりのため、個人の意識も自ずと改革が必要です。(50代、女性)
- ㊱保健、福祉の課題について、区の実態がわからないので、課題がみえてこない。一区民だが、保健、福祉の活動内容について殆ど知らない。また、どこで情報が得られるのかも、よく分からない。折角、活動しているのなら、もっと普及と啓蒙に力を入れてもらいたい。大学や企業、百貨店ホテル等といった民間施設にも協力を求め、もっと親しみやすく取り組みやすく、簡単に情報を手に入れる事ができる様な工夫が不足しているのでは。限られた人材と予算では、アイディアも限られてしまうが、広くアイディアと予算を募る事で、区と企業にとっても、それぞれメリットとなる新しいハード、またはソフトウェアの環境が整うかもしれない。個人的には、とりあえず皆が癒される代々木公園レベルの公園がほしい。何だか狭くてごちゃごちゃしている所ばかりで豊島区は息が詰まる感がある。水辺もほしい。(50代、女性)
- ㊲今現在は困難な事はありませんが、お互いの助け合いが必要だと思います。(60代、女性)
- ㊳日本人はどうして身勝手な人間になってしまったのでしょうか。昔の年寄りには、健康には気を付けていました。それとも長生きをしているせいでしょうか。医療が進んだおかげもありますが、車が来たら自分からの道の端に立ってよける。昔の人は段差は身で覚えた。(70代、女性)
- ㊴妊娠してから電車に乗るのがとても怖くなりました。ドアが開いた瞬間、座るのに必死でイス取りゲームみたい。年寄りは席に座れるのが当たり前、譲られるのが当たり前という顔をしているし。サラリーマンは妊婦マークを見て見ぬふり、電車を利用する全ての人(様々な年代)に向けて、もう一度改めて電車の乗り方を考えてほしいと思います。それに対する取り組みや呼びかけをしてほしいです。(20代、女性)

8. 教育について

- 各小学校の生徒の少なさにびっくりします。教師、学熱費、他全ての委細において税金の無駄になっている様な気がします。1学年30人にも満たない小学校が多いというのは、非常に問題が多いのではないかしら、アクションを起こすべきかと思います。（30代、男性）
- 通学路の児童等の安全を地域が支える様な、学校への支援をもっと充実させ、学校での教員が本来、努めるべき教育に集中できるようにならないか。学生ボランティアを行政が支援することで、子どもなどの安全な居場所を確保し、保護者を働く親も参加し易い夕方、あるいは土曜日とし、家庭ですべき事など、親として当たり前のことを学習していく場も要るのではないかと感じている。（40代、男性）
- 小学校で上・中・下と頭によって授業をしている学校があるそうですが、とても良くない。子どもの心を傷つけます。学校の先生が不登校、いじめを作っているようなことをしているのか。子ども同士で下を見下していますよ。（60代、女性）

9. バリアフリー・駅等のエレベーターについて

- 駒込駅、1つの改札側にエスカレーター、エレベーターが付いていて、もう1つの側は階段のまま、すごく不便。駅の利用者の事を全く考えていない。（20代、女性）
- 池袋駅の地上から地下改札口に行くためのエレベーターがないのでとても困っています。乳幼児（7カ月）の子どもがいるので、基本的にベビーカーの移動になるのですが、駅を利用する時、東武デパートが開いている時間は問題がないのですが、朝や夜、（デパートが閉まっているとき）はとても不便に思います。ぜひ、地上から改札に行けるエレベーターを作ってください。現在は、ベビーカーを持ち上げて階段を降りるか、副都心線の方から地上から地下に行き、途中、段差があるのでやむを得ず、エスカレーターを使っています。でも、安全的に良いと思わないので、一日も速くエレベーターをお願いします。（20代、女性）
- ベビーカーを使って階段を登るのが足元も見えないので大変です。池袋の駅で改札を出た後、地上に出るとき、東武や西武を使っていますが、開店前にエレベーターを探したのですがなく、渋々エスカレーターを使ったのですが、知らないおじさんに「ずるい」と怒られました。駅にエレベーターをつけてほしいです。でも、豊島区は他の区に比べてエレベーターが多いので、結構満足しています。（20代、女性）
- 駅のバリアフリー化が遅れている。ベビーカーと子どもと荷物を持って、女性一人で階段の上り下りはきつい。誰も手伝ってくれない。（20代、女性）
- 駅内にエスカレーターがない。（遠い）ところがあり、重い荷物があると大変。（高齢者はもっと大変）（20代、女性）
- ベビーカー、道路（歩道）の段差でつまずくので、車椅子も同じかなと思う。（30代、男性）
- バリアフリー、おむつ交換場所、エレベーターの設置にも力を入れてほしい。（30代、男性）
- 歩道の段差がわりとあり、ベビーカーで上り下りが大変です。（30代、女性）
- 赤ちゃん、幼児を連れて買物や銀行、役所に行くのが大変です。具体的には、西口から東口にビックリガードを使うと便利なのですが、ベビーカーが使えません。幅の広いバリアフリーの歩道がほしいです。区民広場は監視されている様で、ママにとっては居心地が悪いです。ママ達が息抜きできる様に、子連れでランチやお茶ができる、遊具付きのサロンがあれば、どんなことより、みんな喜ぶと思います。（30代、女性）
- 後付けでエレベーター等造っているのですが、実際あっても遠かったり、あまり利用していない。（本当はしたくても、元気な若い人達が使っている事も多いし。）都市計画の中でもっと優先的に計画的にバリアフリーにしてほしい。障害のある方や弱者（高齢者や乳児連れ等）が普通に暮らせる街は、健全な私達にとっても当然暮らしやすいはずだから。考えるのではなく、感じてほしい。そういう行政が理想です。期待しています。頑張ってください。豊島区大好きな住民より。（40代、女性）
- 鬼子母神のけやき並木の参道近くに住んでいます。並木も大切なものですが、石畳の施工方法が悪く、多くの方がつまずいたり、転んだりしています。バリアフリーだけが良い事ではないと、日頃から思っていますが、小さな段差ほど怪我につながると思います。鬼子母神周辺は、観光客の方も多くなりました。並木も守り、石畳も美しい工事はできる、出来ます。これから環5の1も出来て、益々空気も悪く、車も多くなると思っていますので、この文化ある豊島区として大きな事以外にも目を向けてほしいです。（40代、男性）
- 普段、東上線下板橋駅を利用していますが人身事故で、踏切がなかなか開かない時に、階段を利用しないと、向こう側にいけない時に、足の悪い方やベビーカーを利用している人が（自転車の方）苦労している。（40代、男性）
- 東池袋地下鉄駅と都電駅を結ぶエレベーターがあればいいと思います。最近、通勤時に何人かの障害者が、義足付杖で昇り降りされている。通勤時、朝、自転車置き場は整理整頓されているが、帰りは自転車ステッカーが付いていない自転車が、点字ブロック上にも置いてある。早朝のみ管理でいいものか、考えていただきたい。（50代、男性）
- ご存知のように板橋駅の改札口は西口と東口があるが、ホームには十条以上に出口が1箇所のみ、その階段を下りて西口と東口に分かれる。西口は池袋本町の住民が利用する改札口だ。下車する場合はいったん階段を下りて再び上がる構図になっている。乗車する場合は大変だ。この地下道が狭く、階段の上り下りは障害者

- や高齢者には最悪だ。いつか将来必ず事故が起きる。その時になって大騒ぎしてからでは遅い。こういう事案に行政が主体になって取り組めば、その評価はすこぶる高くなる。ではどうすればいいのか、板橋駅そのものが限界水準をこえているので全体的に取り壊すか、とりあえず駅北口を緊急避難的に設置するしかないのではないかと。JR東日本当局がどう考えているか分からないがJR板橋駅は喫緊の課題である。たとえば、豊島区民の一人である両足の不自由な女子高生（豊島丘女子高）が松葉杖で当駅ラッシュアワー時に階段を上り下りしている。その光景を想像してください。上り下りの人たち同士の肩のふれあいどころか、ぶつかり怪我をするケースがある。とにかく1度朝8時前後、夕方6時前後の板橋駅をご覧になってください。（60代、男性）
 - 障害のある方や高齢者の方が積極的に外出するような取り組みをし、それを大々的に公表するべきだと思います。「困っている人がいたら助けてあげましょう」と教えるのも大切ですが、町がバリアフリーという点で完璧であれば、おのずとできるものだと思います。（20代、女性）
 - 池袋駅東口を利用しています。ベビーカーを押しているので、パン屋さんタカセの前のエレベーターを利用して駅に行くのですが、そのすぐ横にタバコを吸う場所があり、とても不快です。また、エレベーターの利用者のモラルが低い。ベビーカー、車椅子、大きな荷物を持った人以外はなるべく乗らない様なポスターを貼ってほしい。（20代、女性）
- ## 10. 防災・防犯について
- 夜一人で歩いていて知らない男の人につけられたり、声をかけられたり、体をさわられたりして何度も怖い思いをしています。自分なりに防犯には気を使っていますが、住宅街の夜は街灯が少なく暗く、人や車の通りも少なく交番もちょっと距離があり、かなり怖いので、もっと防犯対策をしてほしい。（20代、女性）
 - 池袋は昼間は警察も沢山いて安全であるが、夜間女性1人では、安全ではない。（20代、女性）
 - パトカーの見回りが多いのは良いが、それだけ治安が悪い所なのだと感じ、子どもを作るにあたり、引越してはと考えています。（30代、男性）
 - 不審な人物（探偵、素行調査らしき人物）がうろついて困っている。（40代、男性）
 - 住宅地の夜の歩行に関してですが、警察のパトロールまたは行政のパトロールをもっと増やしてほしいです。屋も夜も地域の皆様に意見を聞いて、パトロールの重点地域をつくったらいいいのではないのでしょうか。（40代、男性）
 - 子どもの登校について。現在は子どもの下校時に、小学校からスピーカーで「私たちの下校時間です。どうか、見守ってください」という旨の放送がなされる。地区毎で親が交代で1時間程度、徒歩や自転車です

- もの安全をパトロールしている。しかし、共働きの上、会社を休まねばならず、何とか、お年寄りや、近所の住民同士での連帯で、この問題を解決する糸口がないものかと考える。もちろん、子どもの安全の為なら、親も必死ではあるのだが、雇用側としては「女性は休みが多い」という負の情報が積み重なっていくのがなんとも切ない。（40代、女性）
- 交番の増設・充実に力を入れて治安の確保をしてほしい。（50代、男性）
- 繁華街を抱え、犯罪や事故など、子どもをめぐる環境は良いとはいえないので、充分な対策を講じてほしい。自転車が安心して走れる道路の整備。（40代、女性）

11. 生活保護について

- 生活保護を受けているのに、年に何度が旅行をしたり、明らかにおかしい生活をしている老人がいます。何回か査定をし直したり、調査をすべきである。（30代、男性）
- 生活保護を受けるために、板橋区に引越しようとする人がいるようだが、働けそうなのに働いていないような、屋からパチンコやっているような人もいるので、豊島区はきちんと調査して生活保護を受けられるようにしてほしい。（30代、女性）
- 母が入院する時、お金に困り区に相談に行ったところ、今は貸付をやっていないと言われ大変だった。税金はしっかり取られて、いざという時は何もしてくれない。（60代、女性）
- 普通に生活して困っている人がいるのに、生活保護を受けている人が裕福にしているのは矛盾している。（60代、女性）

12. ホームレスについて

- 浮浪者が多い。役所の職員（福祉課）で調査し、是正を実施してほしい。（20代、女性）
- 家の近くに、沢山ホームレスの人がいるのにも驚きました。あの人は、大丈夫なのでしょう。池袋の駅にも沢山見かけるので、長野県じゃあ、まず、ありえない事だと思いました。私も、将来の事を考えるとたまに不安になるので、みんなが平等に安全に暮らせる世の中になれば良いと思います。（20代、男性）
- 自宅付近で、ホームレスが沢山います。特に何をされた訳ではないのですが、金曜日の資源ゴミの日など、缶の持ち去り等、かなり気になります。小さな子どもを抱えていますので、何かあってからでは困ります。何とかしてほしいです。（30代、女性）
- 子どもだけで公園で遊ばせたいのだが、公園にホームレスの人達が住んでいて、夏場は水場で体を洗ったりしている。目のやり場に困るし、茂みにボールが転がっていてもホームレスの人達の住み家だったりするので、拾いにいくのをためらう。子どもだけではあぶないと思ってしまい、常に親もついていくことになる。ホームレスの方も人権があると思うが、心情的に

嫌である。子どもだけで遊びに行っても安全な公園を望む。(30代、女性)

●子どもを公園で遊ばせたいが、ホームレスの方がいると遊ばせられない。ホームレスの方々も大変な思いをされていると思うが、公園は公共の場なので、みんなが有効に使用できる場にしてほしい。ホームレス対策をお願いします。(30代、女性)

●ホームレスが家の前にいて、臭いがする。対応してほしい。(東池袋4丁目。ガード下辺り。)(30代、男性)

●ホームレスを甘やかせずして、働く気を無くさせている。色々な保護金を出しているが、もう少しよく調べて出すべき。年金受給者より、ずっと楽な生活をして、遊んで生活している人も多いようだ。(40代、女性)

●ホームレスの方々が住宅や公園、路上で寝ていて困る。(40代、男性)

●池袋にある図書館をよく利用しますが、勉強したり、資料を閲覧しようと思って行っても、路上生活者と見受けられる方が多数来館して、閲覧用の机、ソファ等で昼寝をしているところを、よく見かけます。図書館も公共の機関ですが、本当に図書館という場所、機能を必要としている人も多くいると思うので、例えば路上生活者の方々を受け入れる、支援する場を充実させる等の対策も必要なのではないかと思えます。池袋駅構内や、駅周辺でも路上生活者の方を多く見かけます。行き場のない人々を救うことで、池袋をはじめ豊島区に住む人にとっても、訪れる人にとっても、良い街になっていくのではないのでしょうか。(20代、女性)

●10ヶ月の子どもがいます。公園に連れて行きたいのですが、ホームレスがいるため安心して遊ばせられませんが、変な病気やばい菌が移ったらいやなので。どうにかならないでしょうか。認可保育園に入れずに待機の状態です。8月で育休が終わってしまうので、どうにか入園させたいです。(20代、女性)

13. 保健福祉全般について

●税金使途による保健、福祉活動に関しては、その進捗状況の定期的チェック及び投資効果の定期公開を望む。(一、男性)

●無駄な公共施設を造るくらいなら、生活支援に力を入れてほしい。住民税の減税。住民税のわりに、福祉の活動や町づくりに全く活かしていない。(20代、女性)

●今の保険では家族に責任を押し付けているように感じます。介護や福祉など、誰もが直面する問題に対し、社会全体で助け合いができる環境を作してほしい。(20代、女性)

●誰もが安心して暮らせるまちづくりとよく聞きますが、豊島区は税金が高すぎです。幼稚園補助金も隣の板橋区との差がありすぎ。100年に一度の超不景気、こんな時代だからこそ、みんな助けてほしいのに、東京都も

豊島区も何もしてくれない。口先ばかり、テレビで見る政治家と一緒に。誰が首相になろうと区長になっても何も変わらないと思う。福祉のアンケートなんて答えている場合じゃないですよ。子育て世代は住宅手当をもらえとか、他区とは違うすごいサービスをそろそろ考えてください。豊島区は高いから、一生は住めないといっている人が回りに多い。もう少し先のことを考えてください。(20代、男性)

●保健所や出張所を増やしてほしい。歩いていけないと大変。(20代、女性)

●「保健、福祉」の認知度が、若い世代になるにつれて理解が浅くなっているの、小、中学校から広報活動をもっとするべきです。自分は豊島区が大好きです。住民の全員が誇りに思える、素晴らしい都市を目指して下さい。お願いします。(30代、男性)

●福祉の充実は非常に大切だとは思いますが、お金(税金)の使い方に関しては、今の区政にささかの疑問を感じている。費用(予算)の投入は優先順位をつけて実施頂き、ハード面よりもソフト面での充実をお願いしたい。また、東京23区内では、子ども(12才未満)に対する優しさが弱い様に感じている。(30代、男性)

●体力づくりをする場所、機会が、都市にいと少ない様に感じられます。「区民の自覚的行動」だけでなく、区や都の側から場所や機会を作って、呼びかけるのも良いのではないのでしょうか。(30代、男性)

●豊島区に住んでいて良かったと思うような事がない。公園や病院が少ない。(30代、男性)

●新庁舎の中に保育園やデイサービスを入れてほしい。(30代、男性)

●自分自身が困っていると感じることはありません。地域にいる障害者や高齢者を始めとする方々が問題を抱えていることを実感することが普段の生活ではなかなかありません。様々な状況を抱えている人の立場になって、考える機会があれば良いと思いました。個人的に興味があることですが、一般の人でもできる応急措置や救命の技術を体験、訓練できる機会を、多くの人に向けて行えば良いと思います。(30代、女性)

●私事ですが、うつ病にかかって15年以上経ちます。家族と離縁一人で暮らしていますが、体調がすぐれないため、アルバイトができません。そこで初めて今年に入って障害年金制度があることを知り、3月に申請しましたが、返答がなく、いつホームレスになってもおかしくないほどお金がありません。これは、福祉の問題として対応できませんか。年金課しか窓口はありませんか。今後の変化に期待しています。(30代、女性)

●家は私達夫婦、父母、祖母、子ども2人(小1、幼少)で暮らしているため、お互い助け合って暮らしています。祖母が高齢のため、先日、リフォームをして、安心して生活できるようにしました。要介護だとリフォームなどに補助がでると聞きましたが、どこに、どのように手続きするのがわかりません。もうひと

つ困っているのが、私が2年ほど前からリウマチで、毎月の点滴と薬代で5万円かかり、サラリーマン(主人)にはとてもきつい。生活保護を受けている家は無料と聞き、リウマチで通勤できず退職したので、離婚したら無料になるのかと最近真剣に考えています。普通に税金を払い暮らしている人ほど何の支援も受けられず、生活保護等を受けていれば、年金をもらっている人よりも良い暮らしができていくシステムはどうかと思います。(40代、女性)

●国保が高すぎる。(40代、男性)

●民間の福祉サービス、公的サービスの併用で所得差、納税差、保険等の差に応じたサービスが提供できるようにしてほしい。一律の平等サービスは高額納税者やサラリーマンなどちゃんと納税している人にとっては不公平に感じる。(40代、男性)

●現状、健康に暮らし、不自由はありませんが、将来に対する漠然とした不安があります。少しずつ、情報収集に努めたいと思います。(40代、女性)

●家庭内の問題は外からでは分かりづらく、また、外にも言いにくい事も多くある様に思われます。家庭の中に引きこもっている人達の多い現代社会の中で、安全で安心に暮らせるのには、何をすべきか考えさせられます。もう少し、根本的な原因をさぐり、少しでも多くの人の社会復帰を願います。(40代、女性)

●病気で働けないため生活保護を受けています。食品等重い物の買い物がとてもつらいです。調理もできないので、コンビニ等のできあいの物だけ食べています。買い物や手作りの食べ物の宅配、訪問調理等の支援があれば助かります。(40代、女性)

●健康でちゃんと、しっかり働いている未婚の人達は、まだ、区からお世話になる事が無く、利用も必要性が無く、区民税などはきちんと納めている人が、多数だと思います。豊島区に限らず、東京は家賃が高すぎるので、母子家庭、老人に入りやすくなっている住宅を、30代から50代の人達にも入れるようにしてほしい。(40代、女性)

●福祉の言うことがころころ変わる。そのときによって違う。(50代、女性)

●将来の両親の介護などに不安を感じています。(50代、女性)

●福祉の原点である「必要な人に必要な量だけ・・・」がバランスよく行われていないと思います。また、福祉、イコール、ボランティアと考え勝ちですが、ボランティアだけに頼るのも限界があります。必要としている方がいる、弱っている方がいるという事実を知ってもらい、自分もこの先同じ立場になる可能性があることを、小さい時から考えられるような機会があれば、ボランティアの精神は育ちます。ただ精神が育っても日常に追われ、自分の生活を守るために、なかなか参加できない現実もあるでしょう。であれば、少しでも収入になるようなシステム作りから始めたら良いような気がします。不景気の中、人は集まるかも知れませ

んし、そこから何か広がるかもしれません。行政は多大な出費となるでしょうが、本来福祉はお金がかかるものだと思います。(50代、女性)

●夫がいるのに母子家庭の手当てをもらったり、生活保護の手当てをもらいながら、無駄な物ばかり買って、くさらせてしまい、近隣に迷惑を掛けている人がいるということをもっときちんと把握してほしい。みな、私達が一生懸命働いて支払っている税金なのですから。実際に私達の生活も大変です。(50代、女性)

●家族を若い頃に看取り、全て終わったときには51歳。子どももなく孤独でお金もなく、行動的なので全て自分のことは自分でという主義ですが、さすがに年齢的に限界を感じている今日この頃です。生活保護の制度も遅れているようで、相談に伺ってもたらい回しにされて、もう、相談する気力もないし、早く他界にいくのを待っています。日本はうわべは良く見られますが、税金投入のところはある意味おかしい。結局、弱い者は泣き寝入りするしかないのが現状です。(50代、女性)

●(障害者福祉、保健・福祉について)行政の場に援助を求めて出向くことができない人、あるいは、支援の存在を知らない人のために、民生委員、保健師等様々な立場の人がアプローチすることで、生活支援の道が開かれるようネットワークを整備して欲しい。(50代、女性)

●国と行政は税金や種々の料金を徴収する権利を強制的に行使しているのだから、その責を全て負うべきだと思います。保健、福祉の個人負担は嫌だなく増していくので、国民あるいは住民として、不満を感じている人が多いのではと思います。(50代、女性)

●健康・福祉の具体的な施設を交通不便なところに重複設置。多分、理念は素晴らしいと思うが、実際に人が行動するとは思えない。具体的には、あまり好ましくはないが、ハコモノを設置し、その地区の区民に任せ、利用状況等を地区で対抗させる。特に美化に努めさせる(高齢者雇用に役立つかも)。(60代、男性)

●福祉の充実を願っています。住みよい街づくりに期待しています。(60代、女性)

●現在は働いていますが、70、80歳と働けるとは思っていません。そうなった時、国民年金だけでは生活は厳しくなりそうですね。どうでしょうか。自業自得と言う事でしょうか。(60代、男性)

●地域活動についての課題。私の住む町会の役員組織は、商店の方が多い。サラリーマンや他業種の人達は、色々な場面で考え方が違うという実感がある。会合やイベントの準備への出席割合の多さから、商店の方が多くなるのは理解しています。そこで、区の行政に期待したいのは、各種環境により、福祉やサービスの要求は異なるので、少数意見のフォローをお願いしたいということです。(60代、男性)

●自分も母が59才で脳内出血で倒れ、12年半、長女の為に介護した。父が地方公務員の為、病院は入れたが。

(若かったのだ。老々介護に疲れたお年寄りが気の毒でならない。)このアンケートを提出したくない程、豊島区は、福祉行政が他区に比べて本当に全ての面で遅れている。この様なアンケートを提出して、どの位、良くなるのか。区長もフラの町、豊島(自分も参加するが)イベントも良いが、もっと大事な事に力を入れてと、切に願う。本当に福祉、行政(当事者を思い)良くなるのか?(70代、女性)

⑤最近特に多い母子家庭ですが、一緒にいながら、戸籍上離婚し福祉を受ける方が多くなったので、もっとよく調査した上で、行うなどして下さい。(70代、男性)

⑥保健、福祉といった幅広い分野でやるべきことが多いかと思いますが、バランス良く対策をしていく事が大切だと思っています。(20代、女性)

⑦地域保健福祉の向上につながる活動への一般市民への施設開放や、情報の提供、講師派遣等市民を育てることも重要なファクターだと思います。港区の新橋にある障害センターは、情報発信、コミュニティづくりをうまくやっている施設だと思います。品川区は母子家庭の方にとって住みやすい区という評判があります。「福祉の区、豊島区」と呼ばれるような豊島区になってほしいと思います。がんばれ豊島区。私も今日から心新たに一つひとつのことから目をそむけず、取り組みたいと思います。(40代、女性)

⑧仕事で板橋南の方を回っています。緑が多く、福祉もしっかりしていて、子育てしやすい環境だなあと感じます。しかし、生まれたときから豊島区に住んでいるため、やはり住み慣れた所は離れたくありません。隣の区ということで、ある意味ライバル的存在です。豊島区も板橋区に負けないう頑張ってもらいたいです。商業施設が多すぎるのもちょっと考え直さなければいけないところだと思います。もう高層マンション、ワンルームマンションはいりません。誰もが住みやすいと思える豊島区になるため、福祉や健康の充実に期待しています。(30代、女性)

14. 外国人について

⑨豊島区在住、在勤の外国人のモラル、最低限のルールを守ってもらえないのなら、しかるべき対処、処罰。手を差し伸べ、与えるだけの保健・福祉ではなく、個々が自立できるような環境や仕組みを構築していただければ、より良い豊島区になるのではないのでしょうか。長年住んでいる豊島区にこれからも住み続けたいと思う。(30代、女性)

⑩地域のコミュニティに外国人が増えてきたが、ゴミ出しや深夜の騒音等ルールを守らなくて困る。特に中国人。(40代、女性)

⑪外国人が多くなってきたため、生活習慣の違いも多く困っています。(60代、女性)

⑫私の地元は長野県なのですが、豊島区には外国の方がとても多くいる事に驚きました。外国の方も私達と同

じ様に生活が出来ているのが不安です。たまに、外を歩いていると外国人だからという理由で、文句を言われたりしている人がいます。なんか、可哀想です。

(20代、男性)

⑬中国人との接し方。(隣人女性。配偶者は日本人。)外国人に対する心構え的な指導の必要性を感じます。敵対心が強く、人のことを考えられない自己中心的思想の強い人種ようで、付き合い方がわからず、不愉快なことがあっても全て我慢せざるを得ない状態です。一度、対立すると、常時喧嘩腰で脅迫めいた発言、罵声を浴びせられ、時には、ドアを蹴られたりします。そんな野蛮な行動に殺されるのではないかとという恐怖を感じることもあります。法律違反しなければ、何をしても自由という考えの持ち主らしく、マナーやルールの意識や日本で生活することに対しての意識は希薄のようです。(30代、女性)

⑭近くの商店街が、風俗店や飲食店ばかりになっていきます。また、外国人がやたらと増えて、近隣の環境が大きく悪化しています。保健や福祉もさることながら、そうした問題対応もセットにした街づくりが必要のように思います。(50代、男性)

⑮春日通りに面した、手塚薬局の隣にある「たこ祥」という店の看板や自転車、椅子等が店の前に色々置いてあり、買物で通るたびに狭くて、危険を感じています。店主が中国人らしく近所の人も困っている様です。個人では、店主に伝える勇気はありませんので、よろしくお願ひしたいと思います。(60代、女性)

⑯主人(外国人)に参政権は無いのに、住民税はしっかり取られる。関係ない問題でしょうが。(20代、女性)

⑰在日の方が罪を犯した場合、日本名ではなく、自国での本名で報道してほしい。(30代、女性)

15. 区政全般について

1) ごみ問題

①池袋はゴミが落ちている。(20代、男性)

②ゴミの分別がわかりづらい。スーパー、公共施設でも徹底を。(30代、女性)

③新しい家が数軒建ち、ゴミが今までより多くなったし、ゴミ出しの仕方が良くない。個人的に注意する事も出来ず、カラスがゴミを散らかしたり、困っている。(40代、女性)

④ごみ出しのルールが守られておらず、365日ずっとゴミが出ている状態です。夏に向けて、とても気が重いです。(美しい豊島区を目指してください。)(50代、女性)

⑤ごみ出しの分別がよい加減な方や、通りすがりに収集日以外に置いて行く人。収集後の掃除を地域の人が全く協力しないで、決まった人に押し付ける等、自分勝手な人がめだつ。(60代、女性)

⑥地域環境について、次のことが困っているので、マナー教育の強化をしていただきたいと思っています。ゴミ出しルールを守らない。(60代、男性)

⑦ゴミの分別、曜日を守られていない。(60代、男性)

⑧街が汚れています。商店の人はせめて、自分の店の前をきれいに掃除するという気持ちがあってもいいのではないのでしょうか。(50代、女性)

⑨ゴミの分別を公園などに設置して、いつでも出せる様にしてもらいたい。(60代、女性)

⑩ゴミが収集日以外でも路上に出し放しになっている所がある。(60代、女性)

⑪ゴミ収集日を守られていない所が多く、町が不衛生になっているのが気になります。(70代、女性)

⑫ゴミの収集(ゴミを取っていってくれなかった)。(20代、女性)

⑬池袋を中心として駅前、街の中が汚すぎる。(20代、女性)

⑭収集日以外のゴミが多く、道路が汚く、危険な時が多い。(生ゴミの散乱、悪臭、ガラスの飛び散り等。)(20代、女性)

⑮資源ゴミの回収日に缶を持って行って、それを大量に運んでいる人をよく見かけます。そういう人達にとって、それは収入源になるのかもしれませんが、私達はリサイクルに出している物なので、その現場を見るととても悲しい気持ちになります。持って行かれない様に、しっかり監視というか管理してほしいです。(20代、女性)

⑯豊島区ではエコキャップの回収をしているのでしょうか。今は回収ボックスと一緒に入れるようになっていますが、ワクチンなどの方に行くのでしょうか。それがよく分からないので、私は板橋区の回収場にまとめてキャップを持っていきます。もっと区が周りにエコをアピールして、みんなが参加するようにしてもらいたい。スーパーの袋も1円でもいいからお金を取るようにしないと、一人ひとりの意識が変わらないと思う。(20代、女性)

⑰生ゴミ(燃えるゴミ)の収集が週2回では、家族の多い家庭では非常に困る。(30代、男性)

2) 自転車・バイク等の対策

①放置自転車問題はいつになったら解決するのか。池袋は自転車が多い。(20代、男性)

②数時間で有れば無料の駐輪場がほしい。(20代、女性)

③放置自転車より、路上駐車の為に子どもを連れて、車道を歩かなければ行けない所があり、とても恐いです。もっと路上駐車の取締りをして頂きたいです。歩道は自転車が乗り入れ出来ない所が沢山ありますが、広い歩道では自転車用の道を沢山作ってください。(30代、女性)

④足に障害があり原付が手放せないで、どこに行くにも乗っているのですが、あちこち駐車禁止や撤去されて、怖くて外に出られない。困って役所、警察に相談に言っても何も変わりません。(30代、男性)

⑤歩道での自転車の速度を規制、もしくは、マナー教育の徹底。(70代、男性)

⑥狭い道路で自転車に走られるのは危ないしとても嫌。(20代、女性)

⑦家の出入り口に放置自転車、バイクを置かれ困ります。私道の為、撤去が入れずいつも同じ自転車、バイクが止まっている状況。その為、必要な車が入れなかったり、無理に止めて通れなかったりと困ります。自転車、バイク置場を安く増やせたらと思いますが。難しいでしょうか。(30代、女性)

⑧ごちゃごちゃとした雑多な町から、統一性のある美しい町づくりを(駐車、駐輪スペースが必要)。(30代、女性)

⑨池袋周辺の放置自転車を撤去してほしい。家電量販店の前は店員が注意して置かせないようにしているが、その周りに自転車を置かれては意味がない。狭い歩道に量販店に向かう人が多く、更に自転車とくれば歩きようがない。それから、ビラ配りも邪魔ではない。歩道を広くしてほしい。そもそも池袋にあんなにたくさんの家電量販店はいらぬ。豊島区は街をどの方向にもっていきたいのか、わからない。秋葉原のような電気街にしたいのか。そうなったら、もうここには住みたくない。もっと文化的な街にしてほしい。(40代、女性)

⑩オートバイ、スクーター、大型バイクの駐車場の増設。(40代、男性)

⑪バイクの駐輪場をもっと作ってください。目白警察の取り締まりは「路上やくざ」。怖くて外出もできません。豊島区のバイク駐輪場は特に遅れているので全国の自治体の模範となるように、特に路上駐輪場の設置に取り組んでください。ロンドンやミラノを参考に。そのための海外出張ぐらい、どんどんやりなさい。そのためにたくさん税金払っていますよ。(40代、男性)

⑫放置自転車の撤去などはいいいことだと思いますが、不公平感があります。撤去する人が知り合いの自転車だった、知り合いが止めたので目の前にあっても隣の自転車を撤去して、その人とは世間話をしてそのまま行ってしまったことなど、私の知り合いも同じようなことを言っていました。放置していることは悪いことだと思いますが、しかし、一定のルールで撤去してほしい。撤去する年配のおじいさん達感覚でしないでほしいと思います。不法投棄したもの勝ち、撤去されなかったもの勝ち、知り合いだったもの勝ちはいやです。(40代、男性)

⑬駐輪場が少なすぎると思います。(40代、女性)

⑭明治通り沿いなので、車が通らない日がないくらいです。時にエンジンをかけたままの駐車には大変迷惑しています。もう少し、交番の方で見回りをして頂けないでしょうか。自転車のルールが守られておらず、我が物顔でものすごいスピードで走っていく自転車に、ヒヤヒヤしています。定期的に取り締まってほしいで

す（特にライトをつけずに走っている自転車）。タバコに火をつけたまま、手を振って歩いている方を目にします。以前小さい子にあたったようで火が着いたように泣いているのを目にして、腹が立ったことがあります。車の駐車取り締まりや、タバコのポイ捨ての取り締まりを促している、緑の洋服を着て、回っている（2人組もしくは数人で）動いているようですが、注意を促すどころか、ただ歩いているようですが、あの方たちは何なのか。税金を使われているとしたら、腹が立ちます。しっかり仕事をしてください。私はいつも見えています。もし、税金が使われているなら無駄です。（50代、女性）

●放置自転車等撤去の徹底及び対策（50代、女性）

●池袋のグリーン大通りには、契約駐車場がありますが、駅前には駐輪場がないので、買物に来た人のための、一時止められる有料の駐輪場があればと思います。放置自転車が少なくなるのではと思います。（50代、女性）

●放置自転車やお店の前の商品が出すぎている時があり、歩きにくい。（50代、女性）

●道路が狭いので無理な注文かもしれませんが、歩道を自転車がスピードを出して通り抜ける等、歩行者の方が危険なときが多々ある。自転車専用レーンがあると良いと思うが。（60代、女性）

●自転車が便利に使えるように。駅へ乗り入れの駐輪場。歩道・自転車・車の三分離（現在は自転車の走るところがはっきりしていない）。（60代、女性）

●地域環境について、次のことが困っているの、マナー教育の強化をしていただきたいと思います。家の前に無断駐車。（60代、男性）

●私道の無断駐輪の被害。警告はしてくれるのですが、強制的に撤去は出来ないとの事で、警告の紙のみで、すぐに剥がされ放置されている現状です。車の通行と人々とのすれ違い等の時に、とても迷惑しております。（60代、女性）

●自転車・大人の二人乗り、スピードの出しすぎ、ライトをつけていない。自転車での散歩。オートバイの、ふかしたままの配達（新聞）等。（60代、男性）

●確かに放置自転車が多いエリアですが、私は毎日自転車に乗りますがルールは守っています。自転車に乗る人にとって 不便なことや不便な道は多い。以前は千早に住んでいましたが、駅周辺に自転車置き場ができて、すごく良かったです。ちょっとした所に自転車置き場があれば、放置自転車も減るのではないかと思います。（30代、女性）

●今、駅の周りの放置自転車が少なくなり、とても良いことと思いますが、最近、我々が住む駅から少し離れた路地に多く置かれています。ショッピングカートを引き通るお年寄りや通行に危険を感じています。これを何とかできないものでしょうか。（70代、女性）

●駐輪場が少ないのが問題ではないか。（30代、男性）

●放置自転車、歩行喫煙も困りものですが、自転車の夜間無点灯も危ないと感じることが多々あります。どれもこれもマナーの問題です。池袋駅周辺の下水道のくさがたまに気になることがあります。（30代、女性）

●放置自転車の件で区が長年頭を悩ませているのは理解しているが、日常の買物の際、自転車を止める事が出来なくて本当に困る。例えば、我が家は南池袋在住で、サンシャイン前の西友に週1、2回買物に行くが、必ず買物から戻ると自転車に放置自転車としての警告の紙が付けられる。手に持てるだけの商品を購入し、足りない分は再び出直して買物に行くなんて、現実的に無理だし、スーパーの横で放置自転車扱いされ、毎週貼る紙を付けられ、買物が終わったら警告の紙を剥がして帰るだけなのに、その警告の紙の無駄を感じるし、何の問題解決にもつながっていない事が、毎週毎週、ここ何年も気になって仕方ない。（私の自転車に毎週付けられる警告の紙だけでも相当なコスト。）これで本当に自転車を持っていければ、西友と行政のどちらに文句言えればいいのでしょうか。（30代、女性）

●自転車等の通行路がなく、通りづらい。（30代、男性）

●自転車の無謀な運転をしている人達がとても嫌です。歩きにくい。タバコを吸いながら歩いている人達は、とても危ないです。（30代、女性）

●自転車の危険運転が多く困る。（40代、女性）

●歩道上、駅周辺の放置自転車。特に地下鉄、新大塚駅周辺は量も多く、危険である。（50代、女性）

●歩道における自転車の規制。歩行者の安全の確保。（60代、男性）

●駐輪場を利用しているが月々2,500円は高い。また、シルバー人材センターの人のやる気があるため、駐輪所代がその人の給料になっているかと思うと腹立たしく思うことがある。（20代、女性）

●放置自転車の改善を望みます。（30代、女性）

●自転車をよく利用するが、駐輪場が少ない。自転車用のレーンができるといいと思う。（40代、女性）

●路上駐車をなんとかしてほしいです。自転車ばかりに力を入れているのが気になります。（30代、女性）

3) 喫煙マナー

●池袋はたばこを吸う人が多い。（20代、男性）

●歩きタバコは危険だしとても不快です。（20代、女性）

●路上喫煙をなんとかしてほしいです。（30代、女性）

●池袋駅北口をよく利用するのですが、早朝ボランティアの方がタバコのポイ捨ての掃除をしているのをよく見ます。「ごくろうさま」と思います。でも我々は掃除しているんだという感じを受ける時もあります。私もポイ捨てをするときもあるので、気をつけたいと思います。（60代、男性）

●地域環境について、次のことが困っているの、マナー教育の強化をしていただきたいと思います。タバコのポイ捨て。（60代、男性）

●ウイロードの西口出口に喫煙所を設置するのは止めてほしい。通行者は必ず副流煙を吸うことになるし、大勢がたむろされると通れない。毎日通学で通るので、本当に迷惑。（20代、男性）

●駅などの人が密集するところでの歩行喫煙は、そばを通る時にとても恐怖を感じます。タバコを持ったまま、腕を降ろしている人の隣では、引火が恐くて荷物を持ち変えます。子どもの顔の高さでもあるので、危険。何かしてほしいと思います。（20代、女性）

●路上喫煙を全て禁止。飲食店も全て禁煙として下さい。（20代、男性）

●歩きタバコ、環境を意識した町づくり「上水のきれい」はもちろんですが、下水もできるだけ自然に戻る過程をきちんと理解し、自然環境をもっと一人ひとりが変えていこうと意識できるように、難しい説明や言葉、文章でなく小学生でも分かる様な説明で、案内をしてほしい。分かり易いが一番。（20代、女性）

●出勤時駅までの道で何人も歩きタバコをしているので煙い。また、あまり広くない道にある店先に灰皿が設置されているので、そこに人がたまっていて、すぐ横を通らねばならないので困ることがある（エビス通り、要町駅寄り）。（20代、女性）

●どうしても注意してほしいことは「喫煙のマナー」です。現在、室内禁煙が多いせいか、歩きタバコが多くて、妊婦の時困りました。豊島区はなぜ禁煙にしないのですか。日出町公園には喫煙スペースがあります。子どもが遊ぶ公園に喫煙場を作るセンスのなさに驚きです。豊島区は考え直すべきだと思います。西武の前の喫煙場も道に喫煙場を作り、煙たくて歩けません。ありえないのではないのでしょうか。いろいろとお願いを書きましたが、子ども、妊婦にやさしい豊島区にしてください。よろしくお願いします。（30代、女性）

●歩きタバコ、路上喫煙がまだまだ多く、危険、不快なので、もっと厳しく対応をして減らすなどを望みます。（30代、男性）

●家の周りにタバコやゴミを捨てられる。（30代、男性）

●歩きタバコをしている人の付近を通った時に、危険だと思った。（30代、女性）

●豊島区も神奈川県のように街全体で、禁煙地域にしてほしい。（30代、男性）

●歩きタバコをしている人が多く、危険を感じる。（30代、男性）

●歩行（自転車）喫煙の改善を望みます。（30代、女性）

●人通りが多い所で、歩行喫煙をしている人が多く感じられます。小さい子どもの顔のあたりに、タバコが触れてしまいそうで、非常に危ないと思います。（40代、女性）

●毎朝、歩きタバコの人とすれ違い、煙を浴びせられる。（40代、女性）

●歩行喫煙、ポイ捨て。（40代、男性）

●私が住んでいるマンションの前に、毎日タバコの吸殻が落ちている。ポイ捨てはとても困る。町に緑を増やしてほしい。（50代、女性）

●歩行喫煙、タバコのポイ捨てを禁止してほしい。そのための罰則を作してほしい。（50代、男性）

●禁煙というシールをテーブルに貼ってある喫茶店があるが、全然、禁煙の役目を果たしてない。早急に全店禁煙にすべく指導すべきである。（60代、男性）

●歩きタバコをしている人には、厳しく罰金をとるべき。歩道が狭いのに、街路樹や植込みが多すぎる。そこにゴミが溜まりやすいし、ポイ捨てする人が減らない。（20代、女性）

4) 公園・緑地

●豊島区は人口密度日本一。全く不名誉な記録である。豊島区には公園、緑地が少なすぎる。旧朝日中学校跡地は、公園にはできないだろうか。保育園との共存を考えてもらえないだろうか。今は文化芸術の状況ではありません。（30代、男性）

●緑の多い街づくり、花の多い街づくりも良いかと思います。豊島区は治安が悪いというイメージ、現実を改善、心が和むものを置く、その近所の人達で育てて会話や共感（花の咲く喜びなど）、お年寄りと子どもに関わりがあると嬉しいです。（30代、女性）

●幼児を連れ公園に行くが、浮浪者や危険な遊びをする少年などがいて、遊びにくい。（30代、女性）

●現在2人の乳幼児の子育て中ですが、豊島区は子どもが安全に遊べる公園が少ないと感じています。緑化を推進し、子ども達が住みやすい街づくりを希望します。（30代、女性）

●スポーツ（特にボールを使用するスポーツ）が、できる場所が少なすぎる。子どもが自由に遊べる場所もなく、少年野球の支援に力を入れなさすぎるように思う。（40代、男性）

●町の緑化、子ども達の育成環境。公園の整備や施設の充実を望みます。（40代、女性）

●公園以外の所にも、少し座れる様なベンチがあるといいと思います。または、公園が少し増えるといいと思います。（50代、女性）

●スポーツ環境の不足。学校の建替え等で、野球のできる場所が無くなっています。公園はほとんど、キャッチボールも禁止。区営グラウンドも他区に比べて大きな差。（60代、男性）

●毎日散歩等なるべく外出するように心がけてはいますが、公園等の整備が少なく、緑も少ないので、とても外出を楽しむような気持ちにはなれない。文京区、荒川区の公園の数の多さにうらやましさを感じます。特に豊島区の公園の数が最低だと思う。池袋地区だけに

力を入れないで下さい。私達も豊島区民です。(60代、女性)

⑤旧池袋八丁目町会には大きな公園がありません。造幣局の寮の跡地を利用して、造って頂ければ有難いと思います。災害時に利用出来ればと思う。(70代、男性)

⑥とにかく緑が少なく、空気が汚れているように感じる。東京に引っ越してきた時、うちの近くはまだわりと木が多くあったのに、次々とマンションが建ったため、緑がなくなってしまいショックだった。自然のものと人口のもののバランスをもっと考えてほしい。(20代、女性)

⑦ボールが使える公園の充実。(20代、男性)

⑧子どもが安全に遊べる公園が少なすぎる。幼稚園を増やしてほしい。(30代、女性)

⑨子ども達のがびのびと遊べる公園や広場が少ない(ボールを使えない広場が多いので)。自転車置き場が少ない。(40代、女性)

⑩子どもが安全に遊べるきれいな公園がそばに少ない。(40代、男性)

⑪公園は近所にいくつかあるのですが、ボールを使って遊ぶことができないので、遊具のない広場があると良いと思います。(40代、女性)

⑫子どもがのびのびと遊べる場所、公園などが少ないと思います。(30代、女性)

⑬子育て中の主婦です。子どもが安心して遊べる公園が少なく困っています。小さな公園等は、大人の喫煙所になっている所が多く、本来の機能とはかけ離れています。そのような事を防ぐために、小さな公園でも芝生にするなど、自然と子ども達が遊ぶ場所となる事を願います。(30代、女性)

5) ペット・動物

⑭野良猫が多く、糞、臭い、尿などに困っています。えさをあげる人等もいるので、問題は広いと思います。(40代、男性)

⑮カラス、鳩等の糞、カラスの巣になる様な木の伐採。(40代、男性)

⑯カラス問題。(30代、女性)

⑰近所に(西巢鴨1丁目24番地)野良猫に餌を与える人がいて、強烈な悪臭と庭木の被害、糞尿の被害で困っています。以前、区役所の保健課に相談したが、何の解決にもならなかった。地域の人々でどうにかしたいと個々に話はあるが進んでいません。大きなトラブルになる可能性もあるので心配です。社会的にも問題になっているこのような事例に、行政が一步踏み込んだ対応をしていただきたいと思っています。(30代、男性)

⑱道路がカラス、猫によって、撒き散らされたゴミで汚れている。(30代、女性)

⑲早朝、通学時(小学校)の際にカラスがゴミの近辺を飛びまわり、子どもを襲撃する場面があり、それ以来駅までの道を一人で歩くことが不安になっています。繁

華街のゴミを荒らすカラスの対応を検討していただけたらと思います。(40代、女性)

⑳毎日通る道路に犬の糞が大量にあります。不衛生です。保健、衛生上、消毒する等してほしいです。(飼い主のモラルの問題ですが。)(50代、女性)

㉑夏は生ゴミの日の回収が遅いと、カラスがあちらこちら袋を破っているの、早い時間に回収してほしいと思います。(50代、女性)

㉒地域環境について、次のことが困っているの、マナー教育の強化をしていただきたいと思っています。犬散歩の飼い主の犬の糞尿の不始末。(60代、男性)

㉓犬の糞の処理。(60代、男性)

㉔最近カラスが多い。野良猫や鳩も多く公園が汚い。餌やりなど条例で罰則がほしい。(20代、男性)

㉕ペットと入れるカフェや公園、ベンチなどを増やしてほしい。緑が感じられる街は安心、安らぎ、ゆとりにつながる。ペットを通じて、コミュニティを広げたい。(40代、女性)

㉖カラスの対策。(60代、男性)

㉗野良猫の多いこと。糞や尿の始末に困っています。(60代、女性)

㉘最近、犬を飼っておられる方が多くなりまして、散歩させながら糞をさせても、人が見ていないと、そのまま知らんふりして行ってしまう方が多く困ります。これから夏が来ますので衛生上、ちゃんと取って行ってほしいと思います。(70代、女性)

6) 道路

㉙車の一方通行等の標識の不足。(30代、男性)

㉚生活上、困っている事。最低でも消防車が通れる位の道幅にしてほしいです。行政で道路にはみ出しているブロック塀や物等を撤去する事はできないでしょうか。(50代、女性)

㉛目白通りの1本下の道(裏通り)はいつの間にか、車優先の抜け道となり、年をとっていると(高齢者、子ども等)とても歩きにくくなったと感じる。人の通る道幅を広くしたり、むしろ、一時停止用の信号を付ける等して、通りにくくしてほしい。人優先通りをつくってください。道の途中にベンチや樹木等があって、歩きやすい道づくりを。(50代、女性)

㉜道路のガス工事、水道工事後、道路が凸凹のまま放置されている為、自転車を通るたびに振動で腰痛が起きそうです。工事後、道路の舗装をきちんとして頂きたいと思っています。(60代、女性)

㉝雨が降ると道路に水が溜まります。私道との事で、なかなか修理が進みません。(60代、女性)

㉞雑司が谷地域の各地域は道路が狭い。災害時に消防車、救急車の進路を確保する為、日頃より住民の皆さんに指導する必要あり。(70代、男性)

㉟「補助172号線」の工事が当初3月までとの事だったが、周知もなく6月中旬に延び、更にまだ完了していません。気候等の不良もあるとは思いますが、通勤が不

便であり、騒音もなかなか止まないのには困っております。いつ終了するのか、分からず不安です。(20代、女性)

7) その他

㊱単身世帯で、平日仕事をしていると豊島区の休日利用できる、様々な機関やサービスがとても助かります。(20代、女性)

㊲土・日及び平日も20時程度まで窓口を開けて、仕事をしている人も利用できる体制が必要ではないですか。(30代、女性)

㊳大塚駅前で視覚障害を持った方々によく出会いますが、皆さんとても苦勞されている様に感じます。自転車だけでなく、せめて駅前はまだ少し、歩きやすい様、段差をなくしたり、整備する必要があると思います。(30代、女性)

㊴仕事をしていると、平日、日中に窓口に伺うことができません。わざわざ休みを取ってまでと思ってしまうことが多いと思います。平日夜間や土、日の受付窓口を増やしていただきたいです。(40代、女性)

㊵公園や緑も決して多くはない。広い施設も中心となる地区に集中していて、住民の憩える場所(居場所)が少ないと感じます。子どもの遊び場も、狭かったり、遠かったりで全体的に整備されてない印象です。区民ひろばは「区民」ではなく、「高齢者」しか行かない所になっている気がします。例えば、千川小学校跡や区民事務所等、もっと整備して、皆が自然に集まりたくなる様なスペースとして、住民に開放してほしいです。いつも、「もったいないなあ。」と思ってしまう。商業施設を入れたり、頻繁にイベントを開催する等、様々な活用の余地があり、検討できるのではないのでしょうか。楽しい企画であれば、募集に応じる団体等も増えてくると思います。地域も活性化すると思います。期待します。よろしくお願い致します。(40代、女性)

㊶電柱の地下埋設を更に進めてほしい。(40代、男性)

㊷東武東上線と埼京線の踏み切りにはさまれている所に住んでいるので移動には必ず踏み切りを渡らなくなりませんが、朝は「開かずの踏み切り」でベビーカーや自転車だと歩道橋を渡るのがとても大変です。降りている遮断機の中に入って渡る人もたくさんいて、実際に死傷者も出ています。子どもの教育上も問題ありだと思っています。立体化や地下化する等の対策を講じてほしいと思います。(40代、女性)

㊸区役所を中心に、土日祝日に営業してほしい。(40代、女性)

㊹豊島区に住んでとても満足しています。区のスタッフの方の対応にも対処の仕方にも満足しているので、これからもよろしくお願いします。区役所がきれいな建物になるとよいですね。(40代、女性)

㊺旧中央図書館跡に、コミュニティ関連の施設の利用は出来ないのでしょうか。区で検討してほしいです。活用不可ですか。(50代、女性)

㊻公営の賃貸アパート等を増やしてほしい。民間はあまりにも家賃が高すぎる。(60代、女性)

㊼街灯の増加。(60代、男性)

㊽東池袋5丁目の旧中央図書館はもう何年も放置しているが、福祉施設に転用できないだろうか。特別養護も老人派遣施設も入所待ちの人が多く聞くと。どんどん老人が多くなるばかりである。立派な区役所より福祉施設の充実を望む。(60代、女性)

㊾いつも不便に感じているのは、横断歩道の白線を重ね塗りする為に厚みが出て、けつまずくことです。多少色が薄れても頻繁に重ね塗りする必要があるのでしょうか。無駄に思えますし危険です。車椅子の人なら通らないでしょう。(70代、女性)

㊿今回、出産を機に区役所に行く機会が増えましたが、対応がきつかったり、高飛車な態度をとられて嫌な気分になります。(20代、女性)

㊱区役所は17時までしか開いていないので、書類の提出の為に、わざわざ仕事を休まなくてはならない。土曜日も通常業務にしてほしい。(30代、女性)

㊲ホームセンター、スーパーが少ない。(近くに1つ有るが商品が充実しておらず値段も高い)池袋駅からの帰り道に寄れるようなスーパーがあると大変助かります。休日にいつもまとめ買いなので、自転車に入りきらず運転も怖い。(一、女性)

㊳みんな思っていると思いますが、沢山の税金を払っている割に、使われている内容や実態がはっきりわかりません。少しの参加者しかいない事業を沢山つくるのではなく、もっと根本的な町づくりをしてほしいと思います。(20代、女性)

㊴区役所に行かなければならないときも、仕事していると営業時間内に行くのが困難であるため困る。(20代、女性)

㊵路上に出ている看板が多すぎて、危険だと思う。(20代、女性)

㊶知恵を絞ってより良い街となるようがんばってください。期待しております。(20代、男性)

㊷年金生活者になってまで、重税、保健の個人負担が重くのしかかっています。行政のスリム化を進め区民税等少額で行ってほしい。全て止めろとは言わないが、必要以上にムダ使いの多いのが行政と思う。(一、一)

㊸2年以上前の未納年金を納められるように。(20代、男性)

㊹子どもの相談をしに行こうと思っても、区役所なのか、保健所なのかかわからない。窓口を1つにしてほしい。(20代、女性)

㊺ベビーカーで一緒に入るトイレが少なく、外出先で自分がトイレに行けず困る。(20代、女性)

㊻区の職員の英語レベルが低い。主人(外国人)に頼みたい、色々な手続きを、私が子どもを連れて行かなければならず非常に不便。(20代、女性)

㊼区役所の屋上庭園。階段を上らないと行けないので、ベビーカーだと行けない。また、その事について受付

の方に何か、行き方はないかと聞いてみたが、「ベビーカーでは行けません。」の一言しか返ってこなかった。あの庭は誰のための庭ですか。(20代、女性)

③子どもの予防接種の冊子がわかりにくい。「スケジュールを立ててみましょう。」のページはどのママ友達に聞いても使っているが人いない。あの冊子より、ネット上で月齢を入れたら大体のシミュレーションができるシステムを作してほしい。(20代、女性)

④失業中なので税金が払えないで困っている。福祉も大切だが、お金がなくて生活が困難な人のことも考えてほしい。(30代、男性)

⑤ラブホテルが最近乱立して治安が悪化している。塾帰りの夜遅くにこの地域を通る子ども達、お年寄りが心配です。建物は近隣区の組合、住民等の賛成がなければ建てられないようにすべき。(30代、女性)

⑥全健国保15%偽装、どういうことか説明してほしい。(30代、女性)

⑦我が家は共働きで帰宅時間も遅いため、はっきり言って区役所などの公的機関が開いている時間に利用したりするのが不可能なため、保健、福祉についての情報を得る機会が限られています。色々とライフスタイルも変わっているので、区役所などもそのスタイルに合うような情報提供の仕方などを考えなくてはならないのではと考えます。とは言え、街のために色々と考えてくださっている姿勢は感じていますので、どうか効率的に有効に進めていただけたらと思います。(30代、女性)

⑧現在妊娠中で、仕事をしたくても出来ず、収入が得られないが、税金や健康保険等昨年度の収入から算出されたものは支払わねばならず、悩んでいるところです。夫の収入も安定しない仕事をしているので、子どもが生まれたら、更に家計が圧迫されるのではないかと、不安でいっぱい。(30代、女性)

⑨税金が高い。医療サービスの充実、不安感のない毎日。ありがたいと思う心。もう心配したくない。(30代、男性)

⑩ファミリー世帯向けの住みやすい住宅を増やす事を行政として、できないでしょうか。(40代、男性)

⑪代々豊島区に在住している方々のコミュニティと通勤等で在住期間が短い、または一人暮らしの若者等もいると思います。回りを見ると圧倒的に高齢の方々が多く、この少ない若者達が地域とコミュニティを保ち、支えていくというのは、あまりにも負担が多く、やはり行政の援助は必要だと思います。収入の少ない、職の安定していない若い方々をボランティアではなく、有償で関わられるように取り組んでほしい。また、元気な高齢者で経済的にも時間的にもゆとりがある方々が沢山います。その方々には無償のボランティアをお願いしてはどうでしょうか。(40代、女性)

⑫保健、福祉の課題を解決する、公務員の皆さんの中には、豊島区に住んでいない方もいらっしゃいます。豊

島区を良くしようとするには、まず、公務員の方が住み、豊島区に住民税を払い、豊島区のことを考えて頂きたいと思います。豊島区から豊島区以外に住まいを変えた方は、公務員を転職すべきです。ぜひ、調査してください。改善してください。(50代、男性)

⑬いわゆる世話好きの人はよくおりますが、必要以上に個人情報に興味を持ち、心にとめることのできない人がおります。こういう人がおりますと、信用できなくて、相談しなくなってしまう危険があります。公的な力も加える必要を感じます。(50代、男性)

⑭役所の広報誌や印刷物に、外来語もしくは和製外来語らしい片仮名言葉が氾濫して、文意が理解しにくい。分かり易い国語で表現、表記してほしい。保健や福祉に限らず、建物や組織づくりを行うのではなく、住民に対する広報活動を中心に税金を使ってほしい。(60代、男性)

⑮区民税が高すぎる。健康保険料についても年間を通じて利用しなかった人へは薬一式を贈るとか、何かあってもいい。(60代、男性)

⑯税金が高すぎ、国民健康保険、年金生活者は毎日がアップアップです。区の政治家と区の職員を減らすよう、また、給料をもっと減らすように望む(浦安に住みたい。家があれば)。(60代、女性)

⑰これらの事業は全て税金(住民税)によるものだと思います。これらに関わる人数を減らし、事業を小さくし、住民税を減額し、介護保険以外は自立、自己解決すべきである。区役所へ行っても、その他の区の施設に行ってもムダと思われる人が多い。(60代、女性)

⑱リーダーの若返り。行政、議員の人格の向上。税金の無駄使いを止める。(70代、男性)

16. その他

①福祉といっても子ども、高齢者、障害者とやり方は様々で、考え方も違ってくると思います。豊島はこの3つをとってもバランスよくこなしているの、一生住みたいと思います。池袋中心部は仕事場や子ども支援が活躍して、巣鴨や大塚で高齢者の楽しみや、病院があり、長崎あたりで障害者に力を入れているイメージがあります。交通便も良く、衣食住ともにすばらしいと思います。後は人が住む街になりつつあるので、マナーを守って思いやりをもって、豊島区民が楽しく生活できることを心より思っています。住民税だけ安くできればさらに最高です。(20代、女性)

②早朝駅前で言われている街頭演説に迷惑しています。拡声器を使用している為、テレビの音も聞こえないほどです。何か対策をして頂けると、大変ありがたいです。宜しくお願いします。(20代、女性)

③図書館で勉強できるスペースの拡大。または、勉強できる場の提供。(20代、男性)

④豊島区には、地藏通り、とげ抜き地藏があり、高齢者に強くアピールできるので、その面をさらに生かせるのではと思います。(30代、男性)

⑤身近な問題で申し訳ありませんが、隣の空き地に毎年、草、雑草が生えて、自分の土地ではないのに、抜いたりしなくては行けなくて、こういう問題はどこに相談していいか、分からず困っています。(30代、女性)

⑥仕事を持つ身にとって、通勤は毎日の生活上、色々な事を感じる場面です。妊婦や子ども連れ、お年寄りが安全に使える公共機関、乗り物が必要です。駅で毎日危険を感じている人も多です。また、最近他人に無関心な若者(イヤホンして、携帯でゲームしていて、周りの人達に目が行かない)が多いと感じます。もっと、強い力で指導するしかなさそうな時代なのかもしれないですね。(飲酒運転の厳罰化により、交通事故が減った事は記憶に新しい。)(40代、男性)

⑦建物の立替が進んでいますが、環境、空気汚染なども気になり、調査を進めてほしいと思います。(40代、女性)

⑧都電の音がうるさいので廃止出来ないのか。(50代、女性)

⑨豊島区には古くから狭い歩道が多いが、多くの場合、置き看板やのぼり旗などが邪魔となっている。これらについては、現行法で撤去可能なはずなので、強く指導していただきたい。(過去、はみ出した自動販売機には、対策を強化して成功したはずである。)(50代、男性)

⑩ガス、水道工事での騒音、家屋の揺れによるストレスは健康を害する。大体が豊島区に長期間居住していても、区についてのことは何も知らない。その方が問題だ。(60代、男性)

⑪廃校になった教室を保育園に利用したら良いのでは。ある物を使って早く、待っている人を受け入れていただきたいと思います。(60代、女性)

⑫池袋駅及び周辺の美化。若い人達にも高齢者の方達にもやさしい街。(60代、女性)

⑬福祉ではないが、休土地を利用して、「畑」を貸してもらえとうれしい。公園も良いが、ぜひお願いします。(60代、女性)

⑭昼夜問わず、住宅街の路上で大声で歌ったり、話したりしている人がおり、大変迷惑している。TPOをわきまえてほしいと感じる。(20代、女性)

⑮ジョギングコースを造ってほしい(余暇の充実)。(30代、男性)

⑯先日出産を終えたばかりの主婦です。妊娠中、電車に乗っても席をあまり譲ってくれない。皆さん疲れているからしょうがないと諦めました。また、道を歩いているときに、中年の女性が横を見ずにぶつかってきたり、電車の乗り降りの際に押してきたりとマナーの悪さに頭にきました。子どもにはしつけが大切ですが、大人にも大切です。(30代、女性)

⑰現在は日常生活に(健康、金銭、友人他)恵まれているせいか、たいした答えが出来てない様に感じました。健康維持の一環として、テニスをしておりますが、学

校統合によって出来た不要の校舎、運動場を開放していただけており、感謝しております。(一、一)

⑱問30は○をつける項目を誘導している感じがして答える気がしませんでした。あの質問には意味があるのでしょうか。豊島区が大好きなので、ぜひ良い町にしていってほしいと思います。みんなのアンケートを役立てて下さい。(20代、女性)

⑲高齢者や障害者、小児の暮らしやすさについて行政が取り組むことはいいことだと思います。ですが、人と人とのコミュニケーションとして、マナーのない態度を目撃することがあるので(バスの割り込みを堂々とする高齢者)、年齢関係なく、人が生活する上でのマナーの取り組みをしなければ、若者は「この人を助けよう」という気持ちがわからないと思います。(20代、女性)

⑳アパートの近くにスーパーがないので、魚、肉などの生鮮食品を買うところがない。コンビニや100円ショップはあるので、買い物には行けるが、できれば大型スーパーやお肉屋さんなどがあるといいと思った。(20代、男性)

㉑何故、アンケートをwebで行わないのか。意見を聞きたいのであれば、併せてwebアンケートを用意すべきである。紙では余白の制限により言いたい事の1割も書けないし、そもそも書く気がしない。担当者の愚かさにただただあきれるばかり。(20代、男性)

㉒本調査票を設計した人間は、まず、統計(調査)について学ぶべき。記入者負担が大きいの、たいいていの人は回答しないのでは。(30代、男性)

㉓5月に出産した友人から聞いたのですが、出産前に参加する母親学級で「土日に豊島区に遊びに行くことは控えること。結核患者がたくさんいるので、感染する危険性があります」と言われたそうです。(昔、結核の病院があった為)現在もその危険性はあるのですか。住んでいて、怖くなりました。(30代、女性)

㉔このアンケートですが、ところどころはっきりとしない表現があるように感じました。精度を上げるためにも、もう少し作りこまれた方が、無駄がなくなるのではないのでしょうか。(30代、女性)

㉕先日電車に乗った際、子どもを抱えた母親らしき韓国人の方が座っていた私の前に立ちました。そのとき、私は持っていた写真を見ていると、急にその韓国人の子どもが私の見ている写真をたたいてきました。「何?これ?」とパンパンたたいてちぎれそうなほどで、それを見ていた母親は全く謝罪せず、あげくの果て写真を折り曲げられました。あまりに恐ろしくなり、席を立つと母親から舌打ちを受けました。席を譲って欲しかった行動かもしれませんが、あまりに暴力的。どんな権利で彼等を豊島区に住まわせているのですか。今月からでもいいので、早急に外国に籍を持つ子どもへの子ども手当を止めることで、保健・福祉に回す税金は増えると思います。(30代、女性)

- ⑤ハローワークで100社受けても、人が溢れかえり過ぎて
いるのか、なかなか受かれず。職にありつける町へ、
今後変わってほしいと思っています。(30代、男性)
- ⑥子どもが深夜にレストランやお店等にいるのはだめだ
と思います。寝かせるべきです。だめ親と不愉快にな
ります。マナーの悪い子どもは、他人の私も注意して
良いのでしょうか。(30代、女性)
- ⑦質問自体が漠然としていてイメージ、理解しながら回
答するのが難しかったです(それだけ自分が今まであま
り関心を持ってこなかった分野だからかもしれません
が)。また、知っているのを前提とした質問が多く、答
えにくいアンケートでした。(30代、女性)
- ⑧この街に越してきた時、ここで子どもを育てようと
思っていました。しかし、あまり豊島区はよい話を聞
かない。少し不安に思っています。(30代、女性)
- ⑨望まない。期待しない。(30代、女性)
- ⑩無職状態が4ヶ月になります。区がどうこうより、社
会全体として対策がないと、地域はおろか国の存続さ
え危ういと思います。(30代、男性)
- ⑪現時点では20年後をイメージすることが困難であり、
今回のアンケートについて、今困っていることがない
ために難解でした。今後は様々な分野で相談したい事
柄が出てくる可能性はあると思いますが、具体的にど
うしてほしいかの希望、期待は思いつきませんでした。
(30代、女性)
- ⑫問13について。こういう脱力感を植えつける質問自体、
こうして調査そのものを台無しにするものです。よいア
イディアを「やってやった」という、したり顔が想像に
たやすいです。発想の転換を願います。(30代、男性)
- ⑬住民に頼りすぎ。アンケートの主旨が不明。(40代、
男性)
- ⑭車の往来が不安。大きな道路(都電両側)が完成した
ら、事故が増えるのではないか。(40代、女性)
- ⑮区民の暮らしの為に努力していただいて、ありがたう
ございます。引越して色々な土地に住みましたが、
豊島区は行政の方々の対応が、とても感じが良くて、
感謝しています。これからも頑張ってください。(40
代、女性)
- ⑯普通に働いているのに、給与が低く、生活が苦しい。
(40代、男性)
- ⑰子どもが大きくなって来て感じる事は、中、高校生の
居場所が無いという事です。何か話したい、相談した
いと思っても場所が無く、お金も無いのにカラオケや
ファミリーレストラン、ボーリング場でたむろしてい
る現状です。(40代、女性)
- ⑱単身で利用できる公共住宅の提供がなく、民営のマン
ション賃貸料が高いため、今後高齢になり、職をリタ
イヤ後の住居費の支払いが不安。(50代、女性)
- ⑲現在、仕事を持っているので問題ない。たぶん、60~
65歳になって身近に感じるのかも。(50代、女性)
- ⑳一人暮らしの方が多くなり、一日中誰とも話さないと
聞くとときがあります。場所があってもそこまで行けな

- い人が多いのではないのでしょうか。何をどうすると
言われても、具体的には難しいとは思いますが、気にな
っております。若夫婦が共働きで、子育てをしている
方達を見ると、助けてあげたいと思う時があります。
大して自分も動けないのですが、心の支えになってあ
げたいと思っています。(50代、女性)
- ㉑いまのところ、日常生活をしていくには障害はない。
(50代、男性)
- ㉒豊島区の財政は、他の区より厳しいと聞きます。あま
り希望を持たせるアンケートより、今の予算等ででき
る事を絞って計画を立ててみてはどうですか。(60代、
男性)
- ㉓豊島区は他区(文京、杉並、中野など)と比べて劣る
ところが多い。良いところを取り入れ同レベルにして
ほしい。(60代、男性)
- ㉔生命保険に、高い危険がある仕事の人は入れません。
これについて一計をお願いしたいです。人の集まる所、
個人的な商売の目的の人がいるし、いじめ、挨拶の強
要(自分からは先にしないで、周囲に悪口を言う)が
まかり通っています。個々の競争意識などないとい
いのですが、今は人がこわくて、外に出られません。
(60代、女性)
- ㉕高齢になれば誰でも持病を抱えて、それでも何とか生
きている。誰の世話にもならずじやっていくという矜
持も尊重しなければならぬし、だがさて、いざと
なった時に駆け込み寺(〇〇政策とかいうより、この
方がいいね)の門は、開かれているのか。門に区の
ホームページをご覧ください、と貼紙がしてあったりし
て。(何でも親の敵みたいパソコン(急激に職場
に入ってから、私の人生暗かった。))を毛嫌にするの
か、もっともテレビも嫌い持たず、見ず。)
まあ以上、変わった人間もいるんだなあとと思って頂け
れば、今年天候不順で私の身体のリズムも不順のため、
乱筆乱文で失礼。(6月中旬つづじがまた咲き始
めたのを見た、変だよな。)
- 将来(明日かもしれない)歩行出来なくなった時、美
術展に行きたい。あるいは昔よく行った、ダービーを
競馬場でもう一度見たいといった望みはわがままなの
か。費用は別として連れて行ってくれないものだろう
か。おじいさん外に出ると危ないから、テレビを見て
いましょうね。これが福祉だったら、そんなもの真っ
平ごめん、とタンカはきれないが、人が生きるとい
う事はそういう望み(人それぞれ)を持てるかどうかと
言う事ではないのか。障害者だから、高齢者だから、
あきらめて生きる。そうじゃないのだよという理念を
高く掲げていただきたい。参院選も近いな、ブツブツ。
(60代、男性)
- ㉖今回のアンケート、一応目を通させていただきました
が、今は、少し働いていますので、この先70歳くらい
にならないと、今はよく分かりません。私達一人ひと
り身体に気をつけることと思っています。(60代、女
性)

- ㉗2010年4月から完全年金受給者となった。幸い健康に
も恵まれており、本分野に何らかの係わりを深めてい
きたいと考えている。(60代、男性)
- ㉘知らないことがいっぱいありました。もう少し広報誌
をよく見ようと思います。今も病気ですが、動けなく
なったとき、どう生きようかと不安があります。(60
代、女性)
- ㉙根本的に生に対する感覚がいつの間にか違ってきてい
る。個人、自分の命は自分で守るが原則。何でもかん
でも、行政、人に頼り過ぎの人々が増え過ぎる。だか
ら、本当に困った人々が助けてもらえない。行政は良
くやっていると。転んだら道路が悪い。頭が悪い
のは、先生の為。怪我したら、公園の遊び道具が悪い
等々。(60代、男性)
- ㉚あまり行政や福祉の事はわかりませんが、もし自分の
身の回りの近所で何かあったときは、できるだけ協力
はしたいと思います。(60代、女性)
- ㉛2年程前に引っ越してきましたので、地域の事があま
りわかりません。まして、マンションですので。今の
ところ、体は健康です。不安はありません。母の介
護をしておりますので、自宅にはあまり住んでおりま
せんので、区の件はあまりよく分かりません。(大田
区の方に介護に行っております。)(70代、女性)
- ㉜小売業は大変売り上げが減っているのに、維持費が減
らないので大変困ります。先が不安です。(70代、男性)
- ㉝携帯電話の使用マナーの教育。問20の「相談したいとは思
わない」設問は少し考えてしまう。(70代、男性)
- ㉞現在は日常の生活に支障がないが、将来の事を考える
と不安です。(70代、女性)
- ㉟仕事が忙しく、なかなか保健、福祉の問題に考えが及
びません。一般的に、経済的に余裕がない20代の1人とし
て、正直なところ、時間に余裕があり、お元気そう
な老人をみると羨ましくもあり、少し恨めしく思いま
す。勿論、障害のある方の為の税金負担等ならば納得
できます。ただ、元気な老人の趣味のようなものの為
に(しかもバブルを始め、高度経済成長期を謳歌して
きた方々の為に)、若者が日々の生活費にも困って、
将来の不安の為に結婚も出来ない、そんな若者に更なる
税負担(例えば、住民税の所得割、なぜ、累進を
止め、比例税率なのか)を負う事については疑問を感じ
えません。(20代、女性)
- ㊱夜道が暗い。池袋をもっと活用すべき。文化に乏しい。
(20代、女性)
- ㊲今まで仕事ばかりで、これからは色々なものに参加で
きる様にならば。都電、バスの中でベビーカー
をたたんで乗ってもらいたい。足元が悪いので転びそ
うです。運転手さんによっては、注意する人もいるの
ですが、なかなか大変そうです。(70代、男性)
- ㊳子連れで出掛けると、何かと動きづらさを感じる事が
あります。(バス利用等)(20代、女性)

以上

第2編

グループヒアリング調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

「区民意識・意向調査」を補完するため、今後の地域福祉活動の担い手として期待する団体や事業者等から、活動の状況や成果・課題、地域における連携・ネットワークづくり、区への要望などをお聞きし、計画検討の基礎資料とすることを目的としました。

特に地域福祉の推進の視点から、地域の関連する団体・グループが顔を合わせ、話を聞くことで、相互理解と連携をさらに深めることもねらいとしました。

2. 対 象

下記の対象を関連名簿などから抽出し、グループヒアリング調査を実施しました。

① 高齢者関連グループ

属 性	所 属	人 数	ヒアリングシート
高齢者団体	高齢者クラブ	1人	A
	養心パソコンクラブ	1人	
民生・児童委員	豊島区民生児童委員協議会	2人	B
高齢者サービス提供事業者（民間事業者）	東電さわやかケアポート としま	1人	C
高齢者サービス提供事業者（事業系NPO）	特定非営利活動法人 システム・ハーイ	1人	
合 計		6人	

※学識経験者：山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科
准教授 神山 裕美氏

② 障害者関連グループ

属 性	所 属	人 数	ヒアリングシート
障害者団体	豊島区身体障害者福祉協会	2人	A
	手をつなぐ親の会学童部（こんぺいとう）	1人	
ボランティア団体	としまコスモスの会 ＜豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会＞	1人	
民生・児童委員	豊島区民生児童委員協議会	1人	B
障害者サービス提供事業者（民間事業者）	東京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	1人	C
	株式会社アライブ アクセスポイント池袋	1人	
障害者サービス提供事業者（事業系NPO）	特定非営利活動法人クローバー	1人	
合 計		8人	

※学識経験者：大正大学人間学部 教授 石川 到覚氏

③地域団体・事業者関連グループ

属性	所属	人数	ヒアリングシート
商店街	豊島区商店街連合会	1人	A
商工会議所	東京商工会議所豊島支部	1人	
町会・自治会	大塚駅南町会	1人	
	上池袋町会	1人	
民生・児童委員	豊島区民生児童委員協議会	1人	B
社会貢献企業	株式会社ファミリーマート 社会環境推進部	1人	D
	株式会社サンオート	1人	
合計		7人	人

※学識経験者：早稲田大学人間科学学術院 教授 田中 英樹氏

3. 調査内容

調査対象に応じて、下記の内容を事前に「ヒアリングシート」で配布し、記入・提出いただいたうえ、ヒアリングを実施しました。

なお、ヒアリングにおいては、地域福祉推進と計画への要望把握の視点から「ネットワークづくり」「区への要望」を重点的に伺い、他の項目についてはシートでの情報把握を主体にとりまとめました。

ヒアリングシートA 高齢者団体、障害者団体、ボランティア団体、町会・自治会、商店街、商工会議所

項目	施策への反映	設問項目
基本属性	基本的属性をたずねる	○設立時期、○メンバー構成、○活動目的
活動状況	参加促進に関わる要因や意識を探る	○活動までの経緯 ○活動内容
活動の成果と課題	活動を促進、支援するための方策検討につなげる	○活動によって得られたこと、よかったこと ○活動を進める上で支障になっていること・問題・課題
ネットワークづくり	ネットワークの効果を把握し、ネットワークづくりの支援方策の検討につなげる	○他の団体や行政との関わり方 ○連携・ネットワークによる効果と展望 ○今後の課題
区への要望	支援策の検討につなげる	○区への要望 ○地域保健福祉施策・計画への要望 ○コミュニティソーシャルワーカーへの期待 ○住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて団体としてできること

ヒアリングシートB 民生・児童委員

項目	施策への反映	設問項目
基本属性	基本的属性をたずねる	○活動年数
活動状況	参加促進に関わる要因や意識を探る	○活動内容 ○地域の方との関わり方
活動の成果と課題	活動を促進、支援するための方策検討につなげる	○活動によって得られたこと、よかったこと ○活動を進める上で支障になっていること・問題・課題
ネットワークづくり	ネットワークの効果を把握し、ネットワークづくりの支援方策の検討につなげる	○他の団体や行政との関わり方 ○連携・ネットワークによる効果と展望 ○今後の課題
区への要望	支援策の検討につなげる	○区への要望 ○地域保健福祉施策・計画への要望 ○コミュニティソーシャルワーカーへの期待 ○住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて民生・児童委員としてできること

ヒアリングシートC サービス提供事業者

項目	施策への反映	設問項目
基本属性	基本的属性をたずねる	○設立時期、○メンバー構成、○事業の目的
活動状況	参加促進に関わる要因や意識を探る	○事業開始までの経緯 ○事業内容 ○事業の実施場所、対象者
活動の成果と課題	活動を促進、支援するための方策検討につなげる	○事業によって得られたこと、よかったこと ○事業を進める上で支障になっていること・問題・課題 ○利用者などの反応
ネットワークづくり	ネットワークの効果を把握し、ネットワークづくりの支援方策の検討につなげる	○他の団体や行政との関わり方 ○連携・ネットワークによる効果と展望 ○今後の課題
区への要望	支援策の検討につなげる	○区への要望 ○地域保健福祉施策・計画への要望 ○コミュニティソーシャルワーカーへの期待 ○住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて事業者としてできること

項目	施策への反映	設問項目
基本属性	基本的属性をたずねる	○設立時期、○メンバー構成、○主な事業内容
活動状況	参加促進に関わる要因や意識を探る	○社会貢献活動のきっかけ ○社会貢献活動の内容
活動の成果と課題	活動を促進、支援するための方策検討につなげる	○社会貢献活動によって得られたこと、よかったこと ○社会貢献活動を進める上で支障になっていること・問題・課題
ネットワークづくり	ネットワークの効果を把握し、ネットワークづくりの支援方策の検討につなげる	○他の団体や行政との関わり方 ○連携・ネットワークによる効果と展望 ○今後の課題
区への要望	支援策の検討につなげる	○区への要望 ○地域保健福祉施策・計画への要望 ○コミュニティソーシャルワーカーへの期待 ○住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて事業者としてできること

4. スケジュール

- ヒアリングシート配布 6月下旬～7月上旬
- ヒアリングシート回収 7月中旬
- ヒアリングの実施 7月22日（高齢者関連グループ）、27日（障害者関連グループ）、
28日（地域団体・事業者関連グループ）
- 結果とりまとめ 8月上旬～中旬

第2章 ヒアリング結果

地域保健福祉計画改定に向けた課題

- 高齢化が進み、一人暮らし高齢者や、高齢者のみ夫婦が増加する中であって、地域の見守り活動の重要性が増しています。その際、町会、民生委員、老人クラブ等の関係団体が、緊密に連携をとって、対応できるようにしていく必要があります。
- 見守りや、災害時に地域の人々を支援していくためには、地域に住む人々の情報が必要ですが、個人のプライバシーの保護のために、情報が入手しづらい状況にあります。こうしたことから、ルールを作って、「公にしてよい個人情報」と「守らねばならぬ個人情報」を明確化していく必要があります。
- 地域福祉を推進していくためには、地域の団体と連携していく必要がありますが、地域で活動している団体の情報が得づらいというのが現状です。こうしたことから、地域のインフォーマルな情報を、公的機関等へ提供し、両者の連携を支援する仕組みをつくる必要があります。
- 地域福祉を推進するためには、福祉に関する法律・制度や各種のサービスについての情報が広く区民に周知されていることが大切です。しかしながら、法律や制度がしばしば変わること等によって、区民が福祉についての最新の情報を得ることが、難しい状況にあります。こうしたことから、区民に、福祉についての情報を分かりやすく提供する体制を充実させていく必要があります。
- 地域福祉を推進するためには、「地域保健福祉計画」に基づいて、計画的総合的に施策が推進されることが求められています。しかしながら、計画の内容が、区民一人ひとりに十分に伝わっていない面があります。今後は、計画の内容を広く区民に周知し、計画の実効性を高めていく必要があります。
- 地域福祉を推進するためには、区民一人ひとりが、生涯にわたって的確な支援を受けられるよう、ライフステージに沿った支援体制を構築していく必要があります。
- 今後の地域福祉を推進する上で、コミュニティソーシャルワーカーには重要な役割を担うことが期待されます。コミュニティソーシャルワーカーには地域に密着した活動が求められることから、地域の実情に即したシステムを構築していく必要があります。
- 行政が、町会や自治会、商工会議所等と連携していくためには、どのような分野や活動で連携したいか、具体的なイメージを提示していくことが重要です。
- 地域福祉を推進するためには、地域の社会貢献活動に熱心な企業と連携していくことが必要であり、企業の規模や特徴に応じて、活動への支援をしていく必要があります。
- 厳しい社会経済状況にあって、ホームレスが増加していますが、ホームレスの支援については、行政と支援する団体とが、支援のあり方について十分に話し合う必要があります。

ヒアリング調査で得られた結果を、次ページより、以下の項目ごとに整理して示します。

- 活動の目的
- 事業内容（サービス提供事業者のみ）
- 活動を通じた地域の方との関わり（民生・児童委員のみ）
- 団体発足（社会貢献活動）のきっかけ
- 活動の内容
- 活動（事業）で得たこと、よかったこと、成果
- 活動（事業）上の支障・問題点・課題
- 他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動
- 他の団体等との活動で得たこと、よかったこと、成果
- 他の団体等との活動での支障、問題、課題
- 他の団体、事業者、行政との活動についての考え
- 地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるため必要なこと
- コミュニティソーシャルワーカーに期待すること
- 住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、団体としてできること
- 保健・医療・福祉に関する行政の施策への意見・要望
- 「豊島区地域保健福祉計画」に期待すること

1 高齢者関連グループ

	①活動の目的	②団体発足のきっかけ
豊島区高齢者クラブ 連合会	○高齢者が高齢者を介護する「老々介護」の時代になり、世の中の多様化が進み、後期高齢者が多くなっている現状で、区高連が目指す「見守り支え合いネットワーク」の友愛訪問活動と介護予防「健康・友愛・奉仕」が、生きがいにつながる最大の活動の目的。	○各地域に「親睦会・茶話会・仲よし会」などが誕生した。これを機会に各クラブが連絡をとり拡大して、昭和37年4月「豊島区老人クラブ連合会」（現在 高齢者クラブ）が設立され、当時は「クラブ数12、会員数2,000名」（現在 クラブ数84、会員数7,500名）、昭和38年「老人福祉法設定」老人クラブ活動の支えとなっている。
養心パソコンクラブ	○パソコンの勉強 ○地域シニア活性化を図る	○区主催のシニア講座、受講がきっかけ。区からの要望で「講座終了後もグループ活動をしてほしい。」という事で、受講生の間で話し合いの結果パソコンの勉強をしようという事になった。
特定非営利活動法人 システム・ハート	○日常生活をおくる上で、不自由を持つ障害者及び高齢者を対象とし、家事や食事を中心とした生活全般にわたる介護及び援助を行い、福祉の増進とまちづくりに寄与することを目的とする。	○平成2年に障害のある子を持つ親達が集まり、支援を受ける側の気持ちがよく分かるということから、障害者・高齢者の方へ対して相手の立場に立った支援を提供していきたいという観点よりスタートした。
東電パートナーズ株式会社 東電さわやかケアポートとしま	○できる限り、地域の方が住みなれた地域で暮らし続けられるよう、支援を行う。	○電気を利用の方へ、介護サービスを通じて、安心な生活を提供できるよう、平成12年より、一都三県で在宅介護事業を開始。高齢者の方も多い豊島区で、より良い在宅生活を支えられる様、複合型の多機能サービス施設として、当ケアポートを開設した。

	③活動の内容	④活動で得たこと、よかったこと、成果
豊島区高齢者クラブ連合会	○社会福祉活動 清掃活動、リサイクル、募金、交通安全、防災、防犯活動、その他。 ○友愛訪問・介護予防 一人暮らし、寝たきり、病弱者に対し見守り友愛訪問活動、その他。 ○生きがいを高める活動 広報誌発行、芸能大会、研修旅行、作品展、研修会、新年会、その他。 ○健康増進活動 ゲートボール、ペタンク、輪投げ、秩父市親善ゲートボール大会他。 ○趣味の活動 囲碁将棋、書道、絵画、写真、俳句、手芸、盆栽、民謡、舞踏、その他。	○高齢者クラブ活動のお陰で多数の友人、知人、仲間ができて「健康・友愛・奉仕」を通して生きがいの心が芽生え、同時に元気に明るく楽しく毎日を過ごすことが最高だ。 ○成果は一挙にでるものではないので、地道な取り組みを続けていくことが必要である。
養心パソコンクラブ	○毎週水、木曜日午前、午後とクラス分けして勉強している。春、秋各8週シニア入門講座を開催している。(定員12名) 区報で募集。(介護予防係を通じて)	○パソコンを学びながら、地域の人達と親睦を深めることが出来た。 ○地域シニアの自己実現の場を提供出来た。 ○初心者でも入りやすい教室なので、高齢者には好評である。 ○こうした趣味を通じてコミュニティを形成することに意義があると思う。
特定非営利活動法人 システム・ハーイ	○有償家事支援 ・毎日配食サービス(昼食、夕食) ・移送サービス(豊島区、練馬区)。 ○居宅介護支援事業所 ・デイサービス(定員10名)2ヶ所 ・練馬区いきがいデイサービス ・相談情報ひろば ・ボランティア活動(車椅子の修理、入れ歯リサイクル)他。	○高齢者・障害者の方より要求されたことが、いろいろな事業を行っていることにより対応できることである。実施していない事業については他団体を紹介するが、当団体で行っている事業についての要求は細部にわたり検討もできるし、多少無理なことでも応ずることが可能である。特に当団体では事業所間での相乗効果が期待できる。
東電パートナーズ株式会社 東電さわやかケアポートとしま	○在宅介護事業 ○居宅介護支援 ○訪問介護 ○訪問看護 ○福祉用具貸与・販売 ○デイサービス ○認知症対応型デイサービス ○認知症対応型グループホーム ○介護予防事業(マシントレーニング) ○ヘルパー養成研修	○利用者より、「毎日が楽しくなった。」「リハビリで動けるようになった。」等、声をもらい、介護疲れの家族にサービスや情報提供を行い、一息ついてもらえる。 ○利用してくれた人からの感謝の言葉が何よりうれしい。 ○家族に対して情報提供をすることで、家族の負担を軽減できる。 ○複合型施設のメリットとして、専門家同士の情報交換ができる。

	⑤活動上の支障・問題点・課題
豊島区高齢者クラブ連合会	○会員の中でも「物の見方の違う人、物の考え方の違う人、意見の違う人」が集まる会議や会合でリーダーが掲げる目標や目的に向かって一つにまとめることが大事。なかなかまとまらない場合は自ら発想の転換をし、時には逆転の発想も必要。 ○現在、高齢化が進んで活動が消極的になる傾向があるので、年齢にみあった活動をしていくことが課題である。 ○老老介護や、後期高齢者が増加する中であって、地域の見守りの重要性が増している。その際に、地域の人々、町会、民生委員等の関係者の連携を強化していくことが求められる。 ○地域の中で、家の中に引きこもり、人と会いたがらない高齢者や、うつ状態の高齢者が増えている。高齢者クラブの見守り活動では、家の中までは入れないので、何かあれば、民生委員に連絡するようにしている。 ○個人情報の守秘義務が、地域の個人情報を共有化することの妨げになっている。また、高齢者が犯罪等に巻き込まれないよう、個人情報の保護を警察が強く指導しているという状況もある。
養心パソコンクラブ	○パソコンがXPからVISTAに経費の問題もあり、スムーズに機器の更新が出来ない。 ○クラブ等に積極的に参加する高齢者は問題ないと思うが、家に閉じこもりがちな人をどうしていくかが問題である。 ○クラブに参加していた人で、最近出てこないと感じながらも、個人のプライバシーというものがあるので、人に関わるにしても限界がある。
特定非営利活動法人 システム・ハーイ	○人(時間)、物(設備、場所)、金(補助金)である。人の雇用ができないので、現スタッフが兼務しながら活動しているため、時間的な拘束が生じてきている。設備(場所)についても新規に準備することができず、既存のものを兼用し活用しているため、活動範囲が限られてくる。財政的に厳しい部分もあり、この点がクリアできず、十分な活動ができていないのが現状である。 ○人と接するのが苦手という人も多いので、こうした人をどのように活動に参加させるかが課題である。麻雀やカラオケ等の趣味を通じて、交流を深めていくことも一つの方法である。 ○ボランティアへ参加しやすいきっかけづくりや工夫をしていくことが大切である。 ○相談窓口を一本化していくことが必要である。また、一般相談から、専門相談へとつないでいくシステムを構築することが重要である。
東電パートナーズ株式会社 東電さわやかケアポートとしま	○介護職、看護職の人材の確保が困難。 ○介護報酬の中では、要員配置が必要最小限になりがちで、より喜んでもらえるサービスを行うには、人手が不足してしまう時がある。 ○介護保険制度の法的な制約の中でやっているの、介護保険では対応できないサービスにどう取り組んでいくかが重要である。 ○グループホームも外出支援にボランティアをもっと活用できるとよい。 ○福祉サービスの担い手として、元気な高齢者を活用していくことが重要である。 ○高齢者虐待の問題については、家族との関わりがあるので、対応が難しい。

⑥他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動			
	活動の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	活動の具体的内容
豊島区高齢者クラブ連合会	健康活動	ラジオ体操 豊島歩こう会 豊島区高連	・ラジオ体操(豊島総合体育館、各地域広場) ・都内、近県、神社仏閣(散策、荒川、多摩川) ・ゲートボール、ペタンク、輪投げ、健康体操
	友愛活動 介護予防	単位クラブ 単位クラブ 各地域町会	・一人暮らし、寝たきり、病弱者宅友愛訪問 他 ・一人暮らし、寝たきり、病弱者宅友愛訪問 他 ・病弱者宅友愛訪問、介護予防(軽作業手伝い) 他
	奉仕活動	各地域町会 各地域警察署 池袋消防署	・清掃活動、各小中学校、神社仏閣、草取り 他 ・交通安全、防犯訓練、年末・年始パトロール ・各地域防災訓練、資源ゴミ回収活動(月2回)
	生きがい活動	豊島区高連 各地域町会 区民ひろば	・研修旅行、芸能大会、作品展、新年会、研修会 他 ・神社祭礼参加、もちつき大会、お花見大会 他 ・地域区民ひろば催し、パッチワーク、ダンス 他
特定非営利活動法人システム・ハイ	有償家事援助 毎日配食サービス	豊島区社会福祉協議会	・会員制の相互扶助による困ったときの助け合いを基本理念に介護(食事、排泄、入浴他)、家事(掃除、洗濯、買い物、調理他)および配食(昼食、夕食を自宅へ届ける)等非営利での宅配サービスを提供している。
	いきがいデイサービス 相談情報ひろば	練馬区高齢者対策課 練馬区地域福祉課	・要支援、要介護状態への予防を目的としている趣味活動、健康保持、食事(会食形式)等を提供している。 ・地域コミュニティの活性化及び地域福祉の推進を目的として、健康麻雀、本格的なカラオケ教室を実施している。
	空飛ぶ車いす	大森学園高等学校 日本社会福祉弘済会	・不用となった車いすのゴミ、ホコリ、さびを落とし、専門的な箇所は技術者に支援をしてもらい、安全できれいに整備されたリサイクル車いすを日本社会福祉弘済会を通じてアジア諸国の車いすを必要としている方へ提供していく。
	プラス ^{アルファ} α	日本入れ歯リサイクル協会	・高齢者の方より不要となった入れ歯を回収し、入れ歯に使用されている金属等をリサイクル目的で洗浄、消毒し、日本入れ歯リサイクル協力を経て、日本ユニセフ協会へ寄付していく。
東電パートナーズ株式会社 東電さわやかケアポートとしま	パチンコ体験	サミー株式会社	・デイサービスの利用者をサミー株式会社のショールームに案内し、パチンコ、スロットマシンの体験や展望を楽しむ。
	学校との交流	十文字学園	・デイサービスで生徒の合唱やマンドリン部による演奏。 ・生徒に対し、介護体験教室の開催。
	ボランティアの受入	社会福祉協議会	・介護体験ボランティア ・グループホーム入居者との交流
	防災への取り組み (予定)	町会消防署等	・避難訓練の共同実施 ・災害時の連携

⑦他の団体等との活動で得たこと、よかったこと、成果		⑧他の団体等との活動での支障、問題、課題
豊島区高齢者クラブ連合会	○豊島区役所、福祉課管理係、社会福祉協議会、シルバー人材センター 他 ○ボランティアー豊島区高連 「作品展」「芸能大会」「指導者講習会」「各運動競技」など会員が心を込めた「作品展」開催。歌、踊りに真剣な「芸能大会」を開催し、会員に周知し、楽しく見学、鑑賞している。 ○意識と見識を高めるために「指導者講習会」は学習の場として見識を高めている。何事も行政の指導の下に行っている。	○豊島区役所、福祉課管理係、社会福祉協議会、シルバー人材センター 他 ○豊島区、秩父市親善交流ゲートボール大会は当番制。その都度秩父市の名所、旧跡や産業などを見学している。豊島区担当の場合も同様に交流試合終了後に和やかに歓談し、次の交流の約束をして再会を楽しみにしている。 ○豊島区と秩父市は姉妹都市で深い交流があり、親善も大事なイベントである。
特定非営利活動法人システム・ハイ	○団体ーリサイクル不可能な車いすの処理や交換した車いすの部品等を引き取ってもらい、社会資源の有効利用につながった。 ○ボランティアー高齢者・障害者の方だけでは車いすの修理ができない部分を手伝ってもらい、ある程度までやりきることができた。 ○事業者ー車いすの修理について親身になり指導してくれた。特にメーカーの方を紹介してもらい、勉強会を開催することができた。 ○行政ー企画として車いすのリサイクル活動である「空とぶ車いす」は存在していたが、実質的な担当者不在等で進展していなかった。練馬区より補助金をいただいたことをきっかけに再スタートすることができた。	○団体ー先方の団体としての活動もあり、当団体としてやってもらいたいことや指導してほしいことなど、十分な時間が取ってもらえないため、活動が中途半端になってしまった。 ○ボランティアーボランティアの方はあくまでボランティアなので、当団体が期待する責任のある活動の依頼には制限がある。 ○事業者ー先方の事業者としての業務も多忙であり、当団体の都合だけで依頼していくことが難しい。先方の担当者と当方の都合を合わせなければならないため活動が後回しになる。 ○行政ー「空とぶ車いす」の補助金は最終的には、車いすを必要とするアジア諸国の方のためとなり、区民への還元が少ないということもあって、22年度は補助金の申請を断念した。
東電パートナーズ株式会社 東電さわやかケアポートとしま	○車イスの人より、「昔はよくパチンコに行ったが、もう二度と出来ないだろうとあきらめていたけど、再び挑戦できうれしい。」との声があった。 ○施設外の人との交流ができた。 ○グループホームについて、知ってもらう事ができた。 ○学生に介護に対して、興味を持ってもらえた。	○どのような団体等との協同ができるのか。情報が少ない。 ○外出付き添いのボランティアがもっと増えるとよい。(外出するとフロア要員が減り、安全上のリスクが高くなるので、思うように外出行事ができていない。)

	⑨他の団体、事業者、行政との活動についての考え	⑩地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるために必要なこと
豊島区高齢者クラブ連合会	○団体－東京都老人クラブ連合会、東老連「城西ブロック定例会議」その他。 ○ボランティア－城西ブロック会議(豊島、板橋、練馬、杉並、中野)5区で定期連絡会議(当番制)、各事業計画及び経過報告、会員増強、友愛活動 など。 ○城西ブロック「軽スポーツ大会」5区対抗(輪投げ大会、GB大会)。 ○事業者－東老連、城西ブロックの親睦交流が図られ大変良好な関係が保たれている。 ○行政－開催区役所の関係者も会議に参加し、取り組んでいる事業などの説明がある。	○高齢化社会が進む中で「後期高齢者(75歳以上)」が多くなっている現状は、高齢者が元気にいつまで健康でいられるか、また、毎日を楽しく愉快地過ごすことができるか。単なる長生き、寿命ではなく、いかに「健康寿命年齢」を高めていくことができるか、みんなで研究し努力していきたい。
特定非営利活動法人 システム・ハーイ	○団体－大森学園高等学校のクラブ活動の一環として「空とぶ車いす」が実施されている。夏休みなど先方のスケジュールの余裕のある時期に指導依頼や相談等をしていきたい。 ○ボランティア－大森学園高等学校の「空とぶ車いす」の顧問の先生によると、仕事をリタイヤして間もない方が、一通り修理技術を習得されボランティアとして活躍されているとのこと。当団体として技術者の育成を考えていきたい。 ○事業者－本来の業務である福祉用具貸与事業の一環として「空とぶ車いす」に係わってもらえないか検討を依頼していく。 ○行政－補助金等助成をしていただくことも必要であるが、「空とぶ車いす」の活動を含めて、障害者・高齢者の方の生きがいづくりについて、ボランティアの募集や公共の施設の利用などを依頼していく。	○ボランティア等を含めた社会貢献に寄与したい人は少なからずおられるはず。その方々が活動に参加する、参加できるきっかけづくりが必要である(活動への参加のための背中をポンと押してあげるシステムづくり)。多分そのような方は単なるボランティアとして一人での参加のみにとどまらず、ボランティア事業として団体の設立を考えている可能性もあると思う。そこで、行政等に相談窓口を設置し、同じような活動を展開している団体の紹介、及び団体設立のための体験や講習会の開催などの情報を提供していき、支援体制を確立し、周知させていくことが必要ではないか。
東電パートナーズ株式会社 東電さわやかケアポートとしま	○他にも、地域の学校や団体、行政等とつながりを持ち、幅広く活動できる場があれば、是非とも参加していきたい。	○今回の様な、各団体等が直に顔を合わせて話し合う場が、もっとあると活動が進みやすいのでは。 ○医療機関の方にも入っていただくと、更に視点に広がりができると思う。

	⑪コミュニティソーシャルワーカーに期待すること	⑫住民同士の支え合い(互助)による地域づくりについて、団体としてできること
豊島区高齢者クラブ連合会	○豊島区が目指す「セーフコミュニティ」地域の安心安全、人づくり、各分野の活動づくり、子どもから高齢者まで、生活の安全と健康の質を高める街づくりに取り組む豊島区。高齢化の進展により医療費や介護費など財政負担増で予算の1/3が福祉関係になっていると聞いている。膨らむ医療費増加の歯止めにも少しでも役立てばと健康管理、自己管理に注意しながら毎日活動している。	○かつては「福祉・介護・友愛」の意識向上に対する心構えと「心の優しさ・尊敬の心、感謝の心、奉仕の心」があった。物資は無いが心の豊かさがあった。人に対しての思いやりや優しさ、目上の人に対する尊敬や感謝の礼儀があったが現在はどうか。薄れている地域の活性化に高齢者ができる活動「幼稚園児・小学生の通学路の見守り活動」と地域の身体障害者・病弱者に対して、一声運動の実施。
特定非営利活動法人 システム・ハーイ	○介護保険でケアマネジャーがいるように、地域の課題に対応していくための窓口の一本化が必要ではないかと思う。問題がある方に対してケアをしていく支援者・相談者を地域に配置してもらい、問題解決に向けて活動していただく。地域住民も近所でそのような方がいれば、その窓口へ行けば問題解決に向けて地域を巻き込んでの行動が起こしやすいと思う。もちろん団体としてもそのようなシステムがあれば、相談することもできるし、困難事例についても指導していただくこともできる。いずれにしても地域住民や団体だけでは、問題解決に向けての限界があるので、地域の相談窓口としての対応をお願いしたい。	○システム・ハーイの基本理念は、高齢になろうと障害があろうと、誰もが住み慣れた街で当たり前の生活が送れるように支援していくということだ。その一環として、平成3年より毎日配食サービスが続けている。食べることは、生きていくための源である、との一念で続けてきた。この配食サービスの機能を用いて、食べることを目的とした食のサロンの開催を考えている。他にも、健康麻雀やカラオケ、絵てがみなど趣味としてのプログラムも同時開催し、高齢者、障害者の人達のたまり場として、地域住民の人達との親交を深め、住民同士の支え合いのきっかけづくりに貢献していきたいと思う。
東電パートナーズ株式会社 東電さわやかケアポートとしま	○独居の高齢者宅への定期的な訪問。	○介護予防教室 ○家庭で介護している人への、家族介護教室(ネットワークができる場の提供も)。 ○IHを使った料理教室

	⑬保健・医療・福祉に関する行政の施策への意見・要望	⑭豊島区地域保健福祉計画に期待すること
豊島区高齢者クラブ連合会	○高齢者クラブ連合会が進める「友愛訪問活動・介護予防活動」は行政が行っているホームヘルパー、リボンサービス、見守り活動と違い、会員同士で「一人暮らしの人、寝たきりの人、病弱の人 他」を対象に友愛チーム（2～3人）が訪問して「話し相手、買い物の手伝い、病院への同行 他」を実践している。友愛チーム192、友愛活動員488人、これからも行政のバックアップをお願いしたい。 ○区民広場に、ボス的存在がいて、地域の人々の活動を妨げる大きな要因となっているので、こうした現状に対応してほしい。	○「年を重ねただけでは老いては行かない」恵まれた環境の中で介護や寝たきりや病弱の人などが生活できるようにするには何が一番大切なのか。これから、避けては通れない介護予防の問題等も考慮した中で、豊島区地域保健福祉計画が来年改定され、こうした施策がさらに大きく前進してほしいと期待する。
養心パソコンクラブ	○区民広場のボス的存在を何とかしてほしい。	
特定非営利活動法人 システム・ハイ	○保健、医療、福祉においては、当団体は福祉の部門に分類される。保健、医療に関しては正直なところ、どのような活動をしており、どのような団体があるのか、十分は把握ができていない。従って保健、医療に関して意見、要望なども具体的に思いつかない。強いていうなら、問11でも書かせてもらったが、相談窓口の一本化ではないか。介護保険を利用している人であれば、担当のケアマネジャーに相談し、指示を仰ぐこともできるが、そうでない人については各々団体で解決できる事については限界がある。保健、医療、福祉の連携を深めていくためにも、相談窓口の開設を希望する。	○人に対してのきっかけづくり、場所の提供、補助金の支給などを希望する。元々、人は世のため、人のために何かをしなければいけないとか、何かをすべきであると思っているはずである。しかしながら、なかなか行動に移せないのが現実。人は自分が好きなことには興味を示す。そのきっかけづくりが大切になってくると思う。次に場所の提供。場所がなければ活動することができない。商店街の空き店舗および公共施設等の場所の提供を希望する。次に活動をするためには資金が必要。逆の発想だが、お金(補助金)をいただいた以上は責任をもってやらなければならないという考え方もある。事業実施の確約のためにも補助金の支給を希望する。
東電パートナーズ株式会社 東電さわやかケアポートとしま	○高齢者虐待（介護放棄を含む）のケースへの対応支援がもっと充実するとよいと思う。 ○介護の担い手となる人を確保するため、何か介護を体験できる仕掛けをつくってほしい。	○医療、介護の人材確保、育成の施策の強化。

	①活動の内容	②活動を通じた地域の方との関わり
豊島区民生児童委員協議会	○担当地域の方の高齢者実態調査、児童手当等の受給申請にあたっての訪問、聞き取り調査と証明書または意見書を発行する証明事務。 ○子どもや高齢者の虐待通報による、見回り調査。 ○地域の学校、児童館、ひろば等の行事への参加協力と懇談会出席。 ○社会福祉協議会の年会費の集金と会報の配布。民児協自主活動（子ども支援やサロン運営）	○普段は挨拶をする程度。町会の行事には、都合がつけば手伝いとして参加する。実態調査で伺った事のある人、社会福祉協議会の協力会員の人は会った時に挨拶するだけでなく、体調や近況などを聞いたりした。地域の行事やひろばへの参加や情報を伝える等、声かけを心がけている。
豊島区民生児童委員協議会	○民生委員として高齢福祉部会に参画し、平成20年度より認知症をテーマにして学ぶ。 ○ひろば西池袋にて、いきいき部会に所属し、わいわいまつり、敬老会などを開催。	○左記の活動に係わりなく、独居老人、生活保護受給者を時々、訪問している。

	③活動で得たこと、よかったこと、成果	④活動上の支障・問題点・課題
豊島区民生児童委員協議会	○困り事があった時に思い出してもらい、電話をかけてきたり、直接訪ねて来たりする事もある。私の家の前を通る時に、私の家族と顔を合わせても挨拶をしたり、立ち寄ってくれる事もある。「何かあったら、あなたがいてくれるから良かった。」と言っていただけの時は嬉しい。	○行政からの働きかけを極端に拒む人もいるし、民生委員と聞くと生活保護を連想され、しばしば誤解を受ける事もある。（近所に聞こえたら、みっともないとか。）様々な勧誘や高齢者を狙った詐欺も多いため、民生委員を名乗った詐欺ではないかと思われる事もある。 ○住民から相談を受け、早速行政に連絡し改善するとの返事をもらい、住民へ返事をしたのに、数ヶ月たっても何の変化もない為、再度行政に問い合わせ、「民生委員ならと相談してくれた人に対し、信用してもらえなくなり、活動上、困る。」と伝えたら、早速やりやすとの返事だった。しかし、一向に変化はなかった。住民→民生委員→行政→民生委員→住民。一生懸命パイプ役に努めても、返事だけで何もしてくれない場合は本当に立場をなくす。 ○町会に参加しない独居老人への対応が問題である。また、マンションの住民には町会と接点のない人も多い。 ○町会にも入らず、人との付き合いもせず、周囲から孤立している高齢者の存在が見落とされている危険がある。 ○地域全体の要援護者に対する見守りネットワークが弱い。民生委員、区民、行政が、情報を共有し、連携していくことが重要である。
豊島区民生児童委員協議会	○時として喜ばれたり、民生委員以外の人達と知り合いになる。	○地域内での自宅訪問の際、お宅によってはやがられる事があるので、小声で名乗るか、町会として名乗る。 ○独居老人に何かあった場合でも、個人のプライバシーのことがあり、親戚に連絡することさえ難しいケースもある。 ○町会は、町会費を払っている人には対応するが、生活保護を受けている人や、独居老人等への対応は弱い。

⑤他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動			
	活動の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	活動の具体的内容
協議会 児童委員 豊島区民生	池袋二丁目南町内会		○副会長として、都合をつけて参加する。夜警、祭り、敬老の日、交通安全など。

	⑦他の団体等との活動での支障、問題、課題	⑧他の団体、事業者、行政との活動についての考え
豊島区民生児童委員協議会	○行政 ・支障になっている事は思い当たらないが、現状では行政からの依頼ばかりで、一緒に活動するというより、地域住民の代表として行政のお手伝いをしているといった感じ。	○行政とは必要に応じて、単発的に協力してもらって、ご一緒させてもらう事はあるが、それ以上の事は今のところない。専門部会（私の場合は高齢福祉部会）でも、高齢福祉課の活動の手伝いなどで、一緒に活動できないかと希望したが、今のところは必要なしとの事だった。 ○他の団体等についても一緒に活動できる事が見つかるかもしれないが、一緒に活動するには、その目的や内容についての話し合いや準備期間も必要であり、3年毎にメンバーチェンジする専門部会で、他と一緒に活動する事は難しいようだ。
協議会 児童委員 豊島区民生児	○独居老人、生活保護受給者が町会費を払って、町会員になれないでいる事。	○行政ー行政は、民生委員に対して依頼してくることは多い。例えば、行政と一緒に民生委員が活動することは、あまり必要なさそうだ。（高齢者問題）

	⑨地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるために必要なこと
委員協議会 豊島区民生児童	○連携することは望ましい事だ。横のつながりを持つことで情報を共有できれば、早い対応が可能となる。部所が違っていると情報が伝わっていない為、住民からは「前にも役所へ伝えてあります。何度も同じ事を・・・。」と苦情を言われる事もある。確かに個人情報の扱いは難しいが、安全の為の情報管理に振り回される事も多いと思う。行政も住民のために、色々計画して有難いが組織としてもっとわかりやすくしてもらいたい。あちこちで同じ問題に係わっている為、どこを主として話を持っていくのがベストなのか迷うこともある。例として、見守りなどについて、ひろば（旧ことぶき）と地域包括センター。
協議会 児童委員 豊島区民生	○高齢者相談センター、ひろばが一生懸命活動していることはわかるが、民生委員とも、各々の地区での高齢者、被介護者の情報交換が必要と感じているので、システム化するとよい。

	⑪コミュニティソーシャルワーカーに期待すること	⑫住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、団体としてできること
豊島区民生児童委員協議会	○コミュニティソーシャルワーカーなど専門職の人が増え、各地区に配置されることは大変望ましい。地域の中でCSWが中心的役割を担い、連携の輪をまとめてくれる事で、そこから縦横に情報を共有し無駄な動きをせず、有効な活動ができると民生委員としても助かる。	○地域の中でのパイプ役、連絡調整などができると思うが。近年、近隣住民も顔ぶれが随分と変わり、昔から住んでいる人よりも新しい住民が増え、顔見知りが少なくなりつつある。従って地域への関心や愛着がうすくなり、支え合える人のつながりが激減してきている。つながり合える関係を作るには、子育て支援活動やアウトリーチ型の活動（本年度より、はじめた「みみずくサロン」の活動）を展開して、積極的に働きかけたいと思う。 ○民生委員は、見守りを求める人と見守る人とを結びつける仕事をしているが、見守りを希望する人が少なく、見守りボランティアが余っている。こうした人員を活用していくことが必要である。 ○見守る人についての情報を各機関で共有化していくことが必要である。 ○民生委員、町会、老人クラブが、情報を共有化し、連携を強化して、地域の課題の解決に向けて取り組んでいく必要がある。
協議会 児童委員 豊島区民生児	○コミュニティソーシャルワーカーが各地に配置されることは望ましい。	○見守りのボランティアを増やし、民生委員との情報交換を密にして、独居老人等を見守る。

2 障害者関連グループ

	①活動の目的	②団体発足のきっかけ
豊島区身体障害者福祉協会	○障害者の生活福祉向上、障害者団体との連携協働を目的とする。	○昭和25年豊島区障害者団体が要町小学校(区立)全団体集合して大会開催
豊島区身体障害者福祉協会(視覚障害者)	○障害者の生活福祉向上、障害団体との連携協働を目的とする。	○戦後の傷痍軍人の方々が発足。視覚障害者協会もありましたが、20年位前に会員数の減少により、当協会に編入した。
豊島区手をつなぐ親の会	○障害者(児)とその家族(介護者)の交流を通して、地域で安心して生活できる事 ○国・都・区に対しての要望事項の働きかけ ○本人達が自立できる事への援助、協力 ○地域の人達への理解を深めてもらうこと	○重度・軽度とこだわらず全員就学させたいと願って。 ○企業に就職できない本人達の通所場所の確保(各区になく、都の施設としてはあった。重度の人達は遠い施設に入るしかなく、軽度の人達は在宅になってしまう人が多かった)。 ○親でも何かできるのではないかと集まって、親の会ができ上がってきた。
手をつなぐ親の会 学童部 こんぺいとう	○障害をもつ子ども達に学校外での遊びの場を提供する。多くのボランティアとの交流を通じ、親や先生以外にも関わりあう場を持たせる。社会性や環境への順応性、対人関係への対応性を養う。	○学校の週休二日制の導入に伴い、障害を持つ子ども達に活動の場を学校外に広げるため、1993年区内の親や関係者が請願署名運動を行い、休日や放課後活動の余暇活動の場を求め発足した。
としまコスモスの会(豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会)	○地域の中で孤立しがちな精神障害者に社会参加の場を提供する。 ○当事者がより自分らしい生活が送れることを願って、精神障害の知識や理解を区内に広める啓発活動を行う。	○保健所主催の「精神保健福祉セミナー」の企画委員と受講生達がセミナー受講後、この分野での新しい環境づくりをボランティアの立場で始める必要性を痛感して、自主グループを結成した(平成8年11月)。

	③活動の内容	④活動で得たこと、よかったこと、成果
豊島区身体障害者福祉協会	○定時総会、新春の集い、自立機能訓練日帰り研修会、ユニバーサルデザイン検証会宿泊研修会、ふれあい文化祭、障害者スポーツの集い、バザー。	○地域住民のふれあいによってお互いに勇気、激励が持続できること。
豊島区身体障害者福祉協会(視覚障害者)	○会員相互の親睦・区民との交流として、ふれあい文化祭開催・関係機関への陳情・各種研修、区政への協力。	○外出する機会の少ない障害者に対して、各種イベントを企画して日常生活に張り合いと潤いを提供することができた。行政からの連絡や行政への要望等、障害者と行政との橋渡しの役割を果たすことができた。福祉関係を始めとして各所情報を提供。
豊島区手をつなぐ親の会	○会員交流のバスハイク(親子年2回)。 ○新年の集い。 ○研修、講演会、見学会。 ○都、区、東京都知的障害者育成会(手をつなぐ親の会)の行事、研修に参加。	○知的障害といっても、それぞれが違ってくるため、お互いに知り、理解したり助け合って本人達の自立に役立っている。 ○親にとっては一人で悩むことが少なくなっている。
手をつなぐ親の会 学童部 こんぺいとう	○毎月1回、第二土曜クラブ、春休み、夏休みクラブ、バスハイク、第四土曜クラブ(NPO法人クローバーに委託・・・目白の身障センターを中心に活動、係りの親とボランティアと共に外出や遊びの会を企画し、実行している。また、保護者の話し合い、施設見学、親同士の勉強の場としても活動、福祉祭りにも参加)。	○人間関係、行動範囲が限定されがちな子ども達が、ボランティアや他の子との関わりを持つことで、行動範囲が広がった。学齢期の子にこそ必要な学校外での余暇活動を提供することができ、コミュニケーション能力が高められたと思う。障害者手帳を取得できない子の受け皿にもなっていると思う。また、外出することにより、社会へ障害者への理解を得ることができていると思う。
としまコスモスの会(豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会)	○フリースペース(安心して自由に過ごせる場)の運営・・・区内4ヶ所。 ○精神保健福祉ボランティア講座の開催。(他団体との共催で) ○「こころまつり」の実行委員として、立案、企画、準備の段階から参加。 ○個別の支援。	○当事者は、フリースペースに参加することで、自身の能力に気づき社会性を養うきっかけとなっている。 ○ボランティア講座は、ノーマライゼーションにも寄与している。 ○「こころまつり」では、障害者、関係団体、地域の人々の交流が促進されている。 ○フリースペースにすら参加できない人達、あるいは社会復帰後の不安定さを抱えている人達を支援。

	⑤活動上の支障・問題点・課題
豊島区身体障害者福祉協会 (視覚障害者)	○活動資金が慢性的に不足しているため、満足な活動ができない。 ○会費だけではまかなえない。 ○会員が高齢化しており、若年層の会員が不足している。 ○ボランティアが集まらない。 ○車椅子など若い方のパワーがほしいが、集まってこない。 ○ネットワークづくりは大変。高齢化などではPCもできない。
豊島区手をつなぐ親の会	○会員が増えない(協力をするという考えがない)。 ○会員(親、本人)の高齢化に伴って活動に参加する人が減ってきている。
手をつなぐ親の会 学童部こんぺいとう	○ボランティアの確保・・・ヘルパー登録を事業所にする人が増え、真の意味でのボランティアが減少している。 ○子どもあまり増やせないが、子どもが少ないと親の負担も増え、団体として大きくならない。 ○活動の場所の確保・・・今まで目白の身障センターを活動拠点としてきたが、年々利用が困難になってきているのが不安。 ○どんどん活動場所が減っているのが、地域の方がほしい。 ○専門の方がケアしてもらえるようにしてほしい。
としまコスモスの会 (豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会)	○会員の高齢化に伴い、活動可能な会員が限られている。広報活動の余裕がなく、ボランティアを志す人が見つけられずにいる。活動の幅を広げるのが難しい。 ○精神疾患や障害を理解するために、研修の場を増やす必要がある。 ○専門職の人との交流を通して、生きた知識を学ぶ必要がある。 ○区は都会なのに偏見がまだあると思う。 ○ボランティアなので制度の隙間を見つけて活動しようと思う。 ○活動にかかわる人がたくさん増えてほしい。 ○精神のボランティアは活動が目に見えづらいので、達成感が少ないらしい。

	⑥他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動		
	活動の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	活動の具体的内容
豊島区身体障害者福祉協会 (視覚障害者)	レクリエーション 各種講座や研修・スポーツ	東京都身体障害者団体連合会 東京都盲人福祉協会	・バス旅行。 ・福祉関係講演会。 ・スポーツ大会。
手をつなぐ親の会 学童部こんぺいとう	全ての活動	社会福祉協議会(ボランティアセンター)	・活動の具体的内容 センターだよりでボランティアの募集。夏の体験ボランティアなどを受け入れている。
	第四土曜クラブ	NPO法人クローバー	・企画は保護者で立て、引率、ヘルパー派遣を委託している。
	手をつなぐ親の会の行事 施設見学会 おでかけ会	手をつなぐ親の会 障害者福祉課	・学齢期以外の障害のある人達との交流。 ・学齢期以外の保護者との交流。
	全ての活動	区内の大学	・サークルや個人的にボランティアをやってもらっている。
としまコスモスの会 (豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会)	精神保健福祉ボランティア講座	長崎健康相談所 地域生活支援センター こかげ 豊島ボランティアセンター このはの家 帝京平成大学ボランティア学会	・毎年開催 今年は2回シリーズ(1回目：講演と茶話会、2回目：ボランティア体験(2週間にわたり))。
	こころまつり	長崎健康相談所「フレンド」「サンハウス」「このはの家」「あおぞら」「アトリエ・ゆうかり」	・毎年開催 実行委員として全段階で参加。 今年度の担当は「副実行委員長」と「ボランティア担当」。
	研修	豊島区精神保健福祉連絡会(せいほれん)	・研修会に参加。 ・ガイドブック発行に協力。
	研修	東京都精神保健福祉ボランティア連絡協議会	・会員として総会、研修会、交流会に出席。

	⑦他の団体等との活動で得たこと、よかったこと、成果	⑧他の団体等との活動での支障、問題、課題
豊島区身体障害者福祉協会 (視覚障害者)	○全体として：各々協会では単独では実行できないイベントが可能となる。 ○団体：各々協会に参加人員が少数であっても、全体では多人数となり安価で企画から実行まで充実できる。 ○行政：豊島区の「障害者スポーツの集い」は大変よい企画。	○全体として：豊島区内でどのような団体・企業があり、どのような活動をしているのか情報が無い。 ○ボランティア ・純粋なボランティア活動として参加する人は少なく、有償でないと参加していただけない。 ・車椅子などをサポートする力のある若者の参加者が少ない。
手をつなぐ親の会 学童部こんべいとう	○団体：手をつなぐ親の会・・学齢期以外の障害のある人との交流、保護者との交流によって色々な情報交換ができる。 ○ボランティア：家族以外の人達との関わりは大きな意味での社会参加になると思う。子ども達の人間関係が広がり、他人の介助に関わり、慣れることは非常に重要。子どもにとってのびのびと普段と違う自分を出せる。 ○事業者：行動援助の人との関わりにも介助の必要な子ども達を理解してもらう機会にもなり、慣れていくことによって、個人としても利用が可能になる。 ○行政：学童期の大変な時期から関わってもらうことにより、行政に相談できる安心感を得られるようになる。また、理解を深めてもらうこともできていると思う。	○団体：世代間ギャップによる関心事の違い、方向性の違いがある。親の会での行事に参加したくても、予算不足により、ボランティアとのマンツーマン体制がとられず、参加できないことが多い。 ○ボランティア：継続してもらうことの難しさ、任せられるようになると事務所にヘルパー登録してしまい、ボランティアとしてお願いできなくなる。学生は就職後ボランティアを続けるのは困難。 ○事業者：学童は手がかかり、外出介助は大変なこともあり、委託事業をお願いしてもヘルパー不足のため不安がある。 ○行政：活動を広げるための説明をする際、教育委員会経由、学校経由でパンフレットを送付しなくてはならず手間がかかる。
としまコスモスの会 (豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会)	○専門職(保健所、障害者就労支援センター、事業所、地域生活支援センター等)と一緒に活動することで、生きた最新情報を得られる。また、それ以上に当事者の支援が一方的ではなく、多面的であることが実感でき、活動に生かせる。 ○他の団体・事業所・行政と共にすることで、活動の幅が広がり、また、協力も得られる。 例：ボランティア講座の講師を広い範囲から選べる。 活動中支障が生じた場合、相談や支援を得られる。等々。 ○異なる分野のグループと交流することで、会の視野が広がり当事者との係わりに生かすことができた。また、実際の活動現場での交流が生まれ、当事者も新しい体験をすることができた。 ○事業所や行政と活動を共にすることで、法律や行政が埋められないすきまの部分が発見でき、当「としまコスモスの会」独自の活動を生むきっかけになる。	○他の団体や事業所、行政と一緒に活動する上での支障は、ほとんど当「としまコスモスの会」自身の抱える問題に起因している。会員の高齢化、財政不足、拠点を持っていない等のため、現在の活動を維持しているのが精一杯の状況。しかし、活動の特殊性により、事業所や行政との関係をもっと密にして、ボランティアグループならではの可能性を探りたい。

	⑨他の団体、事業者、行政との活動についての考え	⑩地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるために必要なこと
豊島区身体障害者福祉協会	○行政：指導をいただきながら一緒に活動を前進させたい。	○少数意見の尊重。対話続行。
豊島区身体障害者福祉協会 (視覚障害者)	○全体として：具体的な活動内容がわからないのでコメントできない。参加できる内容であれば、積極的に参加したい。	○障害者と子ども達とのふれあう機会を作り、イベントを通して障害者に対する偏見を取り除く教育が必要と考える。 ○地域住民と障害者とのふれあいの場や交流の機会を作り、災害時などにおいて障害者に対して助かしやすい環境を平常時に整備する必要がある。
手をつなぐ親の会 学童部こんべいとう	○団体：活動の主旨が同じであればいいが、考え方が違う分をどのように埋めるかが課題。 ○ボランティア：会の活動には不可欠な存在であり、継続的に確保するためには、こちらでも育てていくという活動が必要かと思う。 ○事業者：保護者の活動の負担を軽減するために、委託事業は必要。信頼関係を損なわないようにお互いにコミュニケーションをとることが必要。 ○行政：ボランティア活動を福祉課以外の部署の職員に呼びかけてほしい。実際に活動に関わってもらい、知的障害者の現実を理解することで、今後の行政に生かしてほしい。	○相談窓口の一本化。個々の相談内容を受け、要望を拾ってもらいたい。今、あまりにも杓子定規で利用者の声がなかなか受け入れてもらえない。柔軟な対応、それを事業者へ受け渡してもらいたい。 ○移動支援(ヘルパー)をスキップで利用させてほしい。 ○児童のデイサービス事業者を増やしてほしい。特に緊急のショートステイ、短期入所が足りない。
としまコスモスの会 (豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会)	○精神障害者関係団体(家族会、自助グループ)が地域から孤立している現状は、3年前と変わらない。なるべく多くの機会を作って連携を進めることが望ましいが、連携を推進する事業所や当会もエネルギーが乏しく、現実には連携、交流、協力が困難な状況にある。行政の関与に期待している。	○共通の問題をテーマに、情報や意見交換の機会を増やすことが重要。具体的なアイデアとして ・イベント 「こころまつり」は団体・事業者・行政が実行委員会を構成して、対等な立場で企画、実現している手作りの行事。8、9ヶ月かけての準備段階での交流が深まる。また、消防署、保育園、他分野の任意団体の協力も得られ、回を追うごとに地域に溶け込んできた感あり。このようなイベントが各地域で催されると、地域の人達にノーマライゼーションが浸透するのではないかと考えている。 ・豊島区精神保険福祉連絡会(せいほれん)の補強と活用 区内の精神保健福祉分野を網羅したこの連絡会を上手く機能させると、連携活動が進むのではないかと。

	⑪コミュニティソーシャルワーカーに期待すること	⑫住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、団体としてできること
豊島区 身体障害者 福祉協会	○地域住民に広く知らせること。 ○個別相談提供が受けられること。	
豊島区身体障害者 福祉協会 （視覚障害者）	○コミュニティソーシャルワーカーの存在を初めて知った。 ○PRが必要と思う。 ○それぞれの団体などに出向いて意見交換を実施したらと思う。	○障害者と一言と言っても、実際は多種の障害を抱えており、それぞれ支援していただく内容が異なるので、それぞれの特徴を地域住民に理解してもらう必要がある。そこで団体がその役割を果たすことができると思う。ただし、その橋渡しは行政にお願いしたい。
手を つなぐ 親の会 学童部 こんぺいとう	○個々の障害に応じた対応、サービスの紹介 ○個々が求めている要望を行政へ吸い上げてもらいたい。	○団体としてできる事は特にないが、一住民として地域の方々に実情を理解してもらう努力をしていくこと。
としまコスモスの会 〈豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会〉	○そもそも、コミュニティソーシャルワーカーの制度は、区民に浸透しているのだろうか。まずは地域の中にもっと周知してほしい。この制度がよく機能すれば、精神保健福祉の分野でも効果があがるだろう。精神疾患に悩む人達の中には、福祉の制度を上手に利用できる人、あるいはSOSを発信できる人もいるが、大多数は生活のしづらさを一人で抱えて、ひっそりと暮らしているのが現状。幅広く、しかもきめの細かいネットワーク作りに取り組んでほしい。 ○どんなに画期的な制度ができて、精神を病んでいる人（家族も含めて）の中には、自分から支援を求めることが難しい人もいる。支援する側が待っているのではなく、手を差し伸べる必要がある。その点を含んだネットワークづくり（町会、民生委員、区民ひろば、保健所、センター、学校、PTA、ボランティア団体等、有機的なネットワーク）をコミュニティソーシャルワーカーは心がけてほしい。ネットワークが機能するためには、まず区民への啓発をもっと盛んに行ってほしい。	○「としまコスモスの会」の活動の三本柱 ①フリースペースの運営 ②精神保健福祉ボランティア講座の開催 ③こころまつり実行委員会所属は、何れも地域に開かれている。どなたでも参加が可能。現在、活動は、地域づくりに充分寄与していると自負している。

	⑬保健・医療・福祉に関する行政の施策への意見・要望	⑭豊島区地域保健福祉計画に期待すること
豊島区 身体障害者 福祉協会	○保健も医療福祉も自助・共助・公助の原則を守り、自ら健康で元気で協働していくことに、大切なご指導をお願いしたい。	○高齢者の一人暮らしが増加していると聞く。見守り、対話の充実を図り不慮の事故のないよう安全・安心の対策を考慮してほしい。「知らなかった、訪問できなかった」のないように。
豊島区身体障害者 福祉協会 （視覚障害者）	○障害者が地域で暮らしやすい環境を実現するための啓発活動をお願いする。 (1) 声かけ活動 地域住民が日常生活で障害者が困っている状況にあるときに声をかける。 (2) 視覚障害者のケースとして信号機で止まっているとき、買い物で困っているとき、お店の入り口がわからないとき、曲がり角がわからないときなど。	○従来、法律用語が多く、難解な表現が多いので改善してほしい。また、総論的な説明が多いが具体論を記載してほしい。
手を つなぐ 親の会 学童部 こんぺいとう	○学齢期における福祉、教育のサポートがおざなり。福祉、教育、医療の連携サポートが重要。特に特別支援教育において、全く理解が進んでいない。ボーダーにいる子どもの対応が大難解すぎる。 ○自閉症でないIQ76～91の支援の必要な子は、現在、福祉から取りこぼされている。 ○自立ができない重度障害者が安心して利用できる福祉園の実現 ○PT、STが今、土曜日に行われていないため、就学児童はほとんど利用できない。せめて、隔週でもいいので行ってほしい。 ○障害者の自立のため、まず、区役所内で知的障害者を雇用してほしい。実際に他区で雇用されている実例がある。	○要望をしっかりと受け止めて確実に実現させてほしい(同じ要望を何度もしたくない)。予算不足を理由に福祉が切り捨てられないことを願う。保護者が障害児の将来を不安に思わず暮らせるような地域・施設、行政であってほしい。 ○マンパワーが不足しており、ボランティア、ヘルパーの知識を増やすため、学べるような機会を担保してほしい。
としまコスモスの会 〈豊島区精神保健福祉を進めるボランティアの会〉	○地域から孤立しがちな障害者にとって、情報を得ることは難しく適切な対応が必要。そのためには、専任の専門相談員（精神保健福祉士の有資格者）の配置を要望する。 ○財政上の理由から切り捨てられたり、減らされたり、質が低下したのが見受けられる。見直してほしい。 例えば、 ①専門職の削減 ②保健所のデイケアの量の激減 ③保健所指導の「ひきこもり家族の会」の削減 ④精神保健福祉セミナー、メンタルヘルズ講座の質・量ともの縮小 ○社会資源がたくさんある地域では、保健所のデイケアの役割は終わったのではないかと、という意見もあるが、保健所のデイケアは、地域の社会資源の補填的役割以上に①保健師をはじめとする職員の研修の場、②区民へのノーマライゼーションを推進する場として、まだ必要とされている。平成21年度の実施状況では定員20名に対し実績3人となっているが、これは保健所側の呼びかけ努力が不足しているという状況を表しているのではないかと。障害者への声かけが足りないのではないかと。支援を求めたり社会参加できない障害者は、地域の中にもっといるはずではないか。	同左

	①活動の内容	②活動を通じた地域の方との関わり
豊島区民生児童委員協議会	○高齢者実態調査（本人81件対応） ○災害時一人も見逃さない地域マップづくり ○社会福祉協議会との協働 ○障害者部会への参加 ○子育てサロン等の活動 ○町会への参加等	○個別援助活動として見守り支援のための連携を心掛けている。 ○地域内の情報を得る。 ○学校運営協議会への参加で小・中・高校との情報交換 ○部会に参加して障害者のことが少々わかってきた。

	③活動で得たこと、よかったこと、成果	④活動上の支障・問題点・課題
豊島区民生児童委員協議会	○状況把握ができ、顔見知りになり、挨拶をしたり、現況を聞いたりすることができた。 ○「高齢者実態調査」は直接会って顔を合わせ聞き取りができるので、様子を伺うことができる。地域で声かけをしたり、委員の存在や役割を知ってもらう機会でもある。調査を通じてニーズを適切によりよい方法で把握し、支援につなげることができると思う。	○見守りや援助が必要。情報等、点と点を繋ぐことはできるが、もっと拡充することが望ましいと思う。 ○障害者については、地域の中でも何処に住んでいるのか皆目わからない。行政が出さないのか、家族が隠しているのか難しい（個人情報保護法の問題もあり情報が入手しにくい傾向にある）。 ○民生委員としては点と点をつなぐパイプ役にはなれるが、これからは点ではなく面として捉え、ネットワークとしての土壌を作っていく必要があると思う。それによって、もっと幅も出て、共有意識もできてくるのではないか。 ○個人情報保護法が前面に出てしまい、行政も情報提供ができないのか、地域の中で埋没していて把握が困難であり、関わりのきっかけもつかめない。

⑤他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動			
	活動の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	活動の具体的内容
豊島区民生児童委員協議会	障害者団体との意見交換会	身体障害者連合会 身体障害者相談員 知的障害者相談員	・障害者団体連合会、身体障害者相談員・地域障害者相談員、行政、障害者部会員との意見交換。
	一人暮らし高齢者実態調査	高齢者福祉課	・75歳以上の一人暮らし世帯の方を訪問。健康状態、困っていること、見守りの有無等を聞き取り調査票に記入し、地区の包括へ提出。
	防災訓練	防災課 町会	・2町会合同による救援センター運営訓練（運営調整会議と備蓄確認、応急処置）などの訓練を共有した。
	春の舞台発表 秋の文化祭 敬老会	区民ひろば	・お茶の接待 お抹茶を点てて労う。

	⑥他の団体等との活動で得たこと、よかったこと、成果	⑦他の団体等との活動での支障、問題、課題
豊島区民生児童委員協議会	○団体：障害者団体と意見交換を持つことで、若干理解することができたと思う。 ○行政：高齢者実態調査をすることで地域内での実態把握ができた。	○団体：団体・事業者がどのような活動をしているのか。情報が全く入ってこない。連携のきっかけがつかめない。 ○ボランティア：もっとお互いに情報が伝わるように、情報センターを設置してほしい。 ○介助する人たちの高齢化。またボランティアのなり手がいない。意見交換会的时候も同意見があった。障害者一人ひとりに個性があり、難しい面は多々あると思うが、早い時期に手を上げられるような仕組み（コミュニティソーシャルワーカーや他の団体等）づくりが必要と思う。 ○地域の中で安全に暮らせるような工夫。恒常的なネットワークづくりができるとよい。

	⑧他の団体、事業者、行政との活動についての考え	⑨地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるために必要なこと
豊島区民生児童委員協議会	○団体：障害者団体との意見交換会は今後継続したほうがよいと思う。 ○ボランティア：社協とコミュニティソーシャルワーカーを通して交流ができるとよい。 ○行政：従来通り。	○保健・医療・福祉の情報センターを設置し、そこで情報、研修・相談ができるような機能を作っていただきたい。

	⑩コミュニティソーシャルワーカーに期待すること	⑪住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、団体としてできること
豊島区民生児童委員協議会	○コミュニティソーシャルワーカーは区民ひろばに設置し、専門家の立場でその地域の新たな支え合いのためにネットワーク作りをともに協働して行えるのではないかと思います。	○民生委員一人では何もできないが、できれば「ひろば」等において、複数の民生委員が協力して、住民同士の互助を後押しすることができるのではないかと思います。

	⑫保健・医療・福祉に関する行政の施策への意見・要望	⑬「豊島区地域保健福祉計画」に期待すること
豊島区民生児童委員協議会	○地域の中に障害者が気軽に集まれるようなサロンがあるとよいのではないのでしょうか。小さなことからコンタクトを取り合って、ご家族と気軽に話し合える環境、関係を作ることが大切と思う。 ○施設、作業所などはいろいろあるが、ちょっと立ち寄れる場所（サロン）があるとよい。区民ひろばは世代を超えた、皆が利用できる交流の場でもある。障害者も利用できる広場でなければ意味がないし、利用できる方向に変えていくことが大事だと思う。	○地区割りについて考えていただきたい。現在の民児協は6地区、町会は12地区、包括は8地区、小学校、区民ひろばは22地区、中学校は8地区など整合性が必要ではないか。 ○ボランティアの情報センターのような組織があるとよい。 ○「ボランティアセンターだより」を読んだが、遠い所の支援はできないので、身近な地域のもっときめ細かな情報を地域に流してほしい。 ○コミュニティソーシャルワーカーが配置となっているが、まだ知られていない。実際には配置されていないに等しいので、中央だけでなく、東西に出向いて活動してほしい。

	①事業の目的	②団体発足のきっかけ
社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	○豊島区の障害者が家族の死亡、高齢化、疾病などの理由で通所の継続が困難となった場合に、日常生活の支援を行い、その後の生活に必要なことを身につけられるよう支援する。 （定員14人、登録者延400人、年間利用100名ぐらい）	○法人は戦後、全国組織の同胞援護会が解散し、昭和24年東京都同胞援護会として発足した。当初は引揚者や戦災者の収容所、母子寮等を展開、その後時代の要請に合わせて、福祉実現に向け事業を展開している。平成4年のさくらんぼ開設時より事業を委託され、運営を行っている。
アクセスポイント池袋	○高齢者または障害者の介護支援 ○障害者の方は10件程度、マネージャーがいなので、難しいと思っている。 ○自立支援協議会に出たりして勉強している。	○高齢者介護事業の立ち上げに伴い、障害のある方への支援も必要であったから。
特定非営利法人クローバー	○この法人は、障害を持つ人々が地域で自立して生活していける社会の実現を図るため、障害を持つ人々の自立支援や暮らしやすいまちづくりに関する事業を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的としている。	○ジグソーという現在も豊島区内の児童館（現区民ひろば）で活動をしているボランティアグループで、児童館内の活動だけではなく定期的に外出をするようになってから、保護者の方から「これを仕事にしたらいいいのではないか」と提案があり、法人を作ることにした。

	③活動の内容	④事業で得たこと、よかったこと、成果
社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	○法人は障害者施設、高齢者施設、保育園、児童施設、病院等を運営している。 ○さくらんぼでは長期自立援護指導（3年間の利用後、GH等で生活できるよう支援）。緊急一時保護、レスパイト（介護者の休養）、短期自立訓練（家族と離れた生活を経験する）。	○緊急時に対応することで、利用者、家族の安心した地域生活を支えることができる。 ○長期の利用後、グループホーム、一人暮らし等の生活に結びついている。短期訓練で家族と離れた生活を経験し、緊急時にも本人が安心して利用できる。
アクセスポイント池袋	○介護保険法における訪問介護サービス、居宅介護支援、障害者移動支援、居宅介護、重度訪問介護、公的サービス以外での高齢者や介護者への在宅サービスの提供。	○自社の事業を展開するにあたり、自治体や関連機関と連携していける事。 ○事業を通じて、微力ながら社会貢献ができる事。
特定非営利法人クローバー	○障害を持つ人々が地域で自立して生活していける社会の実現をめざし、障害を持つ方のためのヘルパー派遣やショートステイ、相談支援、移送サービス、余暇活動（レクリエーション）支援、他団体の行事の企画・運営、講師派遣などを行っている。 ・豊島区日曜教室（椎名町チーム）※業務委託 ・文京区と区別支援子育て事業（文京ふれんど）※業務委託	○設立当初は余暇活動を中心に事業を行ってきたが、続けていくうちに障害を持つ人々が住みなれた地域で自立して生活していくことの大切さに気づくことができ、これからの課題となっている。

	⑤事業上の支障・問題点・課題
社会福祉法人恩賜財団 京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	○長期自立援護利用後の支援策（グループホーム、一人暮らし支援）が不十分なため、退所後の生活の場を確保しづらい。 ○登録制になっているが、登録しておらず、家族関係が希薄な方の突然の利用という形が増えており、状況把握が難しい。 ○利用者が高齢化していて親子とも高齢世帯になっていく。親子あわせた支援が必要だが、現実には難しい。
アクセスポイント池袋	○事業運営が制度改正に大きく影響される事。 ○また、法解釈の一貫性がない場合があり、ご利用者に迷惑をおかけしてしまう事。 ○ヘルパー講座があっても、ごく一部にしか障害の方について学ぶ機会がない。 ○障害のある利用者の方は少しずつ増えているが、ヘルパーの対応が間に合わない。なかなかお受けできない。 ○障害のある方が相当高齢になった時、親なき後のコーディネートが必要である。
特定非営利法人 クローバー	○移動支援として認められる内容が、各市区町村によってかなり異なるので請求するときはどうしていいのかわからないときがある。 ○移動支援の依頼が曜日で偏っている（水曜日は多い）。必要なときにヘルパー不足になることもある。 ○また、ヘルパー指導もうまくやっていかななくてはならない。

⑥他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動			
	事業等の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	事業等の具体的内容
社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	就労支援ネットワーク	就労支援センター 目白福祉作業所 駒込生活実習所 等	・障害者の就労支援を目的に各関係機関の支援の協力、課題解決を行う。
	自立支援協議会	豊島区 保健所 育成会	・地域移行実施に向けた検討。
	防災訓練	町会	・地域防災訓練の実施。
	さくらんぼ祭り よりみちの会	ボランティア	・さくらんぼの地域開放行事での模擬店、販売や、よりみちの会での利用者外出行事の付き添い。
特定非営利法人 クローバー	豊島区日曜教室	豊島区学習スポーツ課	・中・軽度の障害者の余暇活動支援。
	文京区と区別支援子育て事業	文京区子育て支援課	・文京区在住の障害をもつ小学生を対象とした放課後のお預かり事業。

	⑦他の団体等との活動で得たこと、よかったこと、成果	⑧他の団体等との活動での支障、問題、課題
社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	○ボランティア：区民に事業を理解してもらえる。 ○事業者：事業者同士を知ることによって障害者を支援するときにお互いの強みで連携することができる。 ○行政：行政の担当を通して、他の事業者とのつながりができている。	○ボランティア：ボランティアの確保が難しい。 ○事業者：お互いに忙しく、理解しあう時間が取れない。継続が難しい。 ○行政：決められた制度の中の運用から広がっていくことが難しい。
アクセスポイント池袋	○行政：保健福祉センターのコミュニティソーシャルワーカーから、新規の利用者の依頼をもらうことが多いが、今までヘルパーサービスを使ったことのない方が、ヘルパーが訪問する事を拒否する方もいる。それでもサービスが必要な方の場合がほとんどなので、コミュニティソーシャルワーカーと訪問事業所で何度もカンファレンスして対策を考え、結果的に利用者が喜んでくれるサービスを提供できたときは、とてもうれしかった。そして皆で力を合わせる事の大切さも学んだ。	○行政：豊島区には、まったく身寄りのない独居の方がとても多く、担当のコミュニティソーシャルワーカーが緊急時の連絡先になっているケースがほとんどだ。ただ、土日や18時以降など、行政が対応できない時間や日に、何か緊急事態が起きた場合、どこにも判断をあおぐ場所がない（金銭的な事や、身体上の事など）。緊急時に事業所が頼れる場がほしいと切に思う。
特定非営利法人 クローバー	○行政：行政の方々とも色々と相談できるようになり、コミュニケーションがとれるようになった。	

	⑨他の団体、事業者、行政との活動についての考え	⑩地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるために必要なこと
社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	○事業者：利用者全体の支援は、各事業者、行政が役割分担をして、補っていく必要がある。そのコーディネートをする役割が必要。 ○行政：新しい事業・サービスを始めるにあたって、行政の後押し(制度、予算)があると進めやすい。	○それぞれの事業者が担う役割を行政が把握し、コーディネートをする必要がある。地域生活を維持していくには、住宅政策など福祉以外の分野との連携が必要。横のつながりをつけていくだけの力が必要。 ○障害者のヘルパー派遣の需要に対応するため、障害者施設での研修プログラムを設定する。 ○各事業所や相談窓口で受けた相談で、他機関との連携が必要なことは、コミュニティソーシャルワーカーにつなげ、連携して支援にあたるようなシステムづくり。
アクセスポイント池袋	○ボランティア：ボランティアと私達のようなヘルパー事業所は、もっと関わりを持っても良いと思う。私を含め、ヘルパーの中にはボランティアに興味を持っているが、情報がなく、自ら調べまではしないので、やってみようという一歩にはつながっていない方がいると思う。事業所にボランティアの情報などが定期的に入るシステムなどあったら、気持ちも動くように思う。 ○行政：より一層、密に関わっていただけたらと思う。常に変化する制度や対応についていけない現状があるので、今後も助けていただけたらと願う。	○軽度な障害者、要介護者に向けた生活支援的なサービス・精神的なサポートケアと対極する重度障害やターミナルの方への医療的部分も含めたケアの両面が必要。全く違う制度を考える必要があるのではないか。
特定非営利法人 クローバー	○行政：良い事業となっていくように一緒に考えていきたい。	

	⑪コミュニティソーシャルワーカーに期待すること	⑫住民同士の支え合い(互助)による地域づくりについて、団体としてできること
社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	○コミュニティソーシャルワーカーが障害者のニーズをつかみ、サービスをコーディネートできると、一人暮らし等障害者の生活の場の広がりが出る。したがって、コミュニティソーシャルワーカーを制度として確立して、ソーシャルワーカーが職業として成立するような身分保障をしてほしい。かなりの人員が必要と思う。また、各種のサービスを提供するということだけでなく、障害者本人の気持ちに寄り添う支援(定期的なニーズの把握、サービス提供者との情報交換、緊急時に対応できること等)が必要。 ○コミュニティソーシャルワーカーが現状より多く配置され、各事業所や相談窓口で受けた相談を、より良い支援につなげる役目を果たしてほしい。また、緊急時に対応できる体制を整えてほしい。	○住民同士の支え合いの中で、事業者が担う事業、制度があっても、活用につながっていないものを、民生委員や町会の集まりに事業者から制度の活用についてや事業の紹介をすることで、制度活用につなげていくこと。
アクセスポイント池袋	○訪問介護の事業所が直接、コミュニティソーシャルワーカーと関わりを持ったことが、今の段階ではとても少ないように思う(知らない事業所も多いのでは)。 ○介護の知識や技術だけでは、在宅生活を支えていくのには限度があるので、社会資源の情報や生かし方など気軽に相談できる体制や場があるとうれしい。	○ご利用者様宅でのサービスということで、ご近所やその地域の方々との連携はとても大切だと考えている。 ○どうしても孤立しがちなご利用者と住民の方との橋渡しの存在になればいい。
特定非営利法人 クローバー	○色々な意見や要望を聞き入れることは大変だと思いますが、誰もが住みやすい地域となるよう一緒に考えていけるよう、相談しやすい雰囲気となってほしい。	○困ったときにできるかぎり助けていけるよう協力したいと思う。

	⑬保健・医療・福祉に関する行政の施策への意見・要望	⑭豊島区地域保健福祉計画に期待すること
社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 福祉ホームさくらんぼ	○新しいサービスを作って、生活全般の向上を目指していくのはもちろんであるが、サービスを利用できていない人に、どのように広げていくか。最悪の状態になってから、福祉制度にのって来るより、状況を把握し、多少のサービスを受けることで、生活の維持、継続に繋がっていくことができないか。	○地域生活を支援するための施策の充実を図ってほしい。後見制度等、制度の充実とコーディネーター(コミュニティソーシャルワーカー)の充実等による安心した地域生活を送ること。 ○世代や対象による、支援パッケージが目に見えるようになってほしい。
アクセスポイント池袋	○その人が抱える問題や状態に合わせた柔軟な施策が必要だと思う。	○難しいことなのかもしれませんが、高齢者や障害者など、何の不安もなく生活していただくことができたかと常に思っている。 ○講習の参加費の補助などを支援してほしい。
特定非営利法人クローバー	○地域生活支援事業の料金をもう少し上げてほしい。	○誰もが安心して住めるような豊島区となるよう、よろしく願いたい。 ○ヘルパー研修の補助をしてほしい。 ○移動支援の報酬を向上してほしい。

3 地域団体・事業者グループ

	①活動の目的	②団体発足のきっかけ
池袋本町通り商店会	○商店街の街路灯の維持、管理、商店会加盟店の販売推進、全体の懇親 ○高齢化率が高く、一人暮らし高齢者が多いので、高齢者を助ける取り組みをしている。	○商店街街灯整備をするため。
東京商工会議所 豊島支部	○「商工会議所法」に基づく地域総合団体であり、豊島区内商工業の総合的な改善及び発達並びに区内一般の福祉の増進に資することを目的とする。 ○まちづくりのために行政へ様々な働きかけを行っている。	○地域に密着したきめ細かな活動を展開するため。
上池袋町会	○会員の親睦を図り、自治及び社会福祉の向上を目的に目的達成のために次の行事を行う。 1. 会員相互の社会福祉に関すること 2. 防災防火・防犯・交通に関すること 3. 保健衛生及び環境に関すること 4. 福利厚生に関すること ○地区の8割は町会に関係している。	○前会長が高齢のため退任することになり、私が会長を引き受けた。私は一般の役員で副会長も勤めたことがないのに、後継者もいて、少々時間もあるとの理由で、何もわからないままに突然引き受けることになってしまった。会長としてやっていけるのか心配ではあったが、私なりにエリアを創ることから始め、落ち着くまでに3～5年かかった。役員に恵まれたこともあり、大成功ではないかと自負している。
大塚駅南町会	○別添の会則3条を参照	○戦後の復興も一段落して、一般論として自治の必要性から機運が高まり、町会発足に至ったと推察する。

	③活動の内容	④活動で得たこと、よかったこと、成果
池袋本町通り商店会	○中元、歳末、福引売り出し、七夕まつり売り出し、本町ふれあい祭り参加、協力、街づくりネットワーク(NPO法人)と連携して、きずなセール運営、諸活動に協力。 ○地域の連携の強化を目的としている。 ○地域のコミュニティをまとめる核としての商店街をつくっていききたい。	○会員の親睦が図れ、来街者の増加、売上のアップ ○地域のつながりが強化され、同時に商店の利益の増大へつながっている。
豊島支部 東京商工会議所	○経営支援活動(無料の経営相談・事業資金調達の相談、ビジネス交流会・セミナー等の開催)。 ○政策活動(区長や区議との懇談会、区への意見要望)。 ○地域振興活動(区内で開催されるイベント等への支援)。	○経営支援活動により、区内事業者の経営改善に貢献 ○区への要望活動により、経営環境改善に貢献 ○区内イベント等の開催に協力することにより、集客や認知度アップに貢献
上池袋町会	○防犯・・・毎月のパトロール、計報時(お通夜、告別式)にお宅をお帰りにするまで見守る。 ○防災防火・・・年4回の訓練を積極的に行い、関連行事に必ず参加している。 ○福利厚生・・・あらゆる行事に女性の多い厚生部が主力に活躍している。 ○交通安全・・・春秋交通安全に参加。小学生、高齢者に安全安心の呼びかけを欠かさない。 ○部長合同会・・・毎月、役員会前に会合を開催して、主なことを協議しておく。 ○総合して・・・団体では、経理が明確確実であれば会員はついてくる。 ○監査・・・監査は町会会員の本職の税理士が監査をする。	○役員が全員信頼感があり、おのずと団結していることである。 ○さらに会員の理解と信頼が増していくことである。 ○大イベントには、会員は役員の団結と信頼に対して信用している。
大塚駅南町会	○会則3条を具体化すること。	○別添 事業報告書を参照

	⑤活動上の支障・問題点・課題
池袋本町通り商店会	○高齢化による人手の確保が難しい。 ○チェーン店も商店街へ加入する条例はある。加入の促進をしているが、料金を払わない。 ○店をやめ、チェーン店に貸すところが多い。 ○地区の中に買い物難民(限界集落)がいる。 ○高齢者が買い物に出かけるのは難しいので、宅配事業+見守りのシステム作りが課題となっている。
豊島支部 東京商工会議所	○社会貢献したい企業はあるが、アプローチの仕方がわからない。現実に町会、自治会とどうにかかわっていくのが難しい。
上池袋町会	○困ることは、全ての役員が高齢化してしまったこと。ボランティア精神は十分なのだが、跡継ぎを育てなければと今になって慌てている。 ○上池袋さくら公園は20年くらい前に「防災公園」としてスタートし、ブロックの釜戸が2個と防災倉庫、リサイクル倉庫のみでした。今は釜戸腰掛式3ヶ所増設だけだ。せっきくの防災公園も整備不十分なので、大々的に整備をお願いしたい。 ○加入促進プロジェクトをやっており、新しい店、古い店も含めて、加入促進の条例をつくっているが、なかなか進まない ○災害時の食の確保を今、課題として考えている。ファミリーマート等の対応と協力していく。
大塚駅南町会	○町会加入を勧誘しても管理会社とオーナー(賃貸マンション)間の連絡が不十分なのか、中々、話が進まないこと ○不況のため、商店会(南大塚盛和会)会員の中から町会費の減額申し入れが初めて出てきた。 ○町会の加入率が低いので、加入促進のルールをつくって、加入を呼びかけている。 ○外国人との関係では、イスラムのモスクがあり、道路でイスラム人が集まる。しかし、町会にも入って、行事にも参加しており、トラブルはない。

⑥他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動			
	活動の名称	一緒に取り組んでいる 団体等の名称	活動の具体的内容
池袋本町通り商店会	本町ふれあい祭り	NPO街づくりネットワーク 中央通り商店会 北池袋商店会 協和会	・本町公園を会場にして地域のグループ、商店のブース、舞台上で演技の発表 参加人数1万人位
	遊佐ノ市	NPO街づくりネットワーク	・商店街の空き店舗を利用して5月～11月第1、3日曜日に開催。 ・山形県遊佐町の物産展
	きずなカード事業	NPO街づくりネットワーク おたすけクラブ	・本町地域の商店街全体で運営するポイントカード。おたすけクラブと連携でボランティア活動の手助け
東京商工会議所豊島支部	起業支援事業	豊島区(財)としま未来文化財団	・地域経済活性化の観点から、区内での起業を促すための事業を実施。具体的には、セミナーをはじめ、区内まち歩き事業、ビジネスプランコンペ等の開催。 効果がすぐに表れるものではないため、今後継続的に実施していく(問6～問9に対応)
	大塚阿波踊り、商人まつり、ふくろ祭り等区内イベント	豊島区商店街連合会、観光協会等	・協賛、後援等により、それぞれのイベントへの協力。 ・パンフレットの配布等により、集客や認知度アップに繋がり、地域の活性化に貢献している。今後も積極的に協力していく。(問6～問9に対応)
	公的融資制度個別相談会	日本政策金融公庫池袋支店	・区内小規模事業者の資金繰り対策の一助として開催している。金融面からの経営改善を支援するため、今後も継続して実施する。(問6～問9に対応)
上池袋町会	防災防火防犯訓練	池袋東一町会 上池袋三丁目町会 区役所防災課	・訓練を始め、ポンプ、発電機、水のろ過器、チェーンソー、防災用具等の点検、非常食の備蓄、防災資金の貯蓄、犯罪を未然に防ぐ防犯灯の設置、電球交換、自主的なパトロール等、地域の会員と協力し助け合って取り組んでいる。
	情報	豊島区と町会で連携を取り合う	・ホームページに新たに事柄を入力する。 ・災害時に備えて、本格的な無線通信ができる方を役員に置く。町内会の掲示板を有効に使用し、会員に周知する。
	新入学祝 成人祝 敬老・福祉祝	町会独自で実施	・祭日に「赤飯・餅つき」で祝う。 該当者に無料で提供
	交通傷害保険 会員障害保険	町会独自	町内会会員全員が安心できる団体保険に加入している。
			町会のイベントに高齢者にも出てほしいが、町会に入っている人は出るが、入っていない人は出ない。災害のとき、多くが地域の人に助けをもらうので、声かけ運動をやるなど、できるだけ町会にかかわってもらうようにしている。
大塚駅南町会	南大塚防災まちづくりの会		別紙ニュース第8号
	大塚駅周辺を考える会	南北大塚の町及び商店会	資料は(財)としま未来文化財団 担当 井上氏

	⑦他の団体等との活動で得たこと、よかったこと、成果	⑧他の団体等との活動での支障、問題、課題
池袋本町通り商店会	○団体：街づくりネットワークだと本町全体に広げて活動ができる。 ○行政：活動費や設備費の補助が受けられる。	行政：補助申請の事務業務の負担が大きくなる。 ○事業所だけの地域では、昼の人はおらず、町会を形成しづらい。 ○町会は重要であるが、高齢化が進んでおり、若い人の力が重要となっている。
上池袋町会	○団体：復興まちづくり訓練、上池袋まちづくり協議会、区民ひろば上池袋、北池袋モデル地域協議会、電波障害サンシャイン60、サン納涼盆踊り大会。 ○ボランティア：それぞれに積極的にボランティアとして参加している。 ○事業者：首都大学東京教授・学生 ○行政：区役所活動推進課、地域区民ひろば課、都市再生プロジェクト課。	○団体：復興まちづくり協議会、北池袋モデル地域協議会、上池袋まちづくり協議会、区民ひろば上池袋。 ○ボランティア：何れも参加して勉強しないといけないことが多い。区民ひろばは「NPO」にするか否か、勉強したい。かなりの時間を掛けないと結論は出てこない。 ○行政：区行政にお願いですが、区民ひろば上池袋の1階と2階を室内から行き来できるように改良をお願いしたい。

	⑨他の団体、事業者、行政との活動についての考え	⑩地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるために必要なこと
池袋本町通り商店会	○団体：連携、協働をすることで、お互いのよい点が高められる。 ○ボランティア：今はしていないが、連携したいと思う。 ○事業者：面倒見のよいところとならやっていける。 ○行政：いろいろな相談にのってくれることが大切。	○地域の問題の根本がわかれば、解決は早いと思う。そのところを明らかにするために連携の中から考えていく。
東京商工会議所 豊島支部		○それぞれ目的や性格の違う団体等が連携するためには、平素のコミュニケーションを良くする必要があるのではないか。
上池袋町会	○団体：区民ひろば上池袋 ○ボランティア：再度の議題での自主運営ができるまでは資金の支援が必要。 ○事業者：落語出演者へのお車代、音楽演奏者へのお車代等に資金が必要。 ○行政：区民ひろばについて自主運営に移行するにあたって、運営には収入がなければ運営できなくなると思います。したがって、行事に対して入場料をいただかなければならないが、そうすると来場者がなくなると思う。	○再三書き添えているが、区民ひろば上池袋は設備の不備で幼児から高齢者までの行事に支障をきたしている。年計画も立てにくい。できるだけ早く改良をお願いしたい。資金繰りで心配なのは、収入が得られるか否かである。

	⑪コミュニティソーシャルワーカーに期待すること	⑫住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、団体としてできること
池袋本町通り商店会	○いろいろな観点から意見を出してもらい、中にいるとわからないところを外部からの目で見つけてほしい。	○各コミュニティの連携の中心として商店街が寄与していく。空き店舗対策、本町ホールを利用する。
東京商工会議所 豊島支部	○ニーズを吸い上げ、その情報を一元化する。	○区内事業所への啓発活動の協力（セミナー、講演会等の開催やパンフレット等の配布）。
上池袋町会	○地域社会での働き手は、町会の役員にお願いすれば整えられる可能性はあるが、どのように収入を得たらよいのか疑問である。難しいと思う。	○祭り事は大事なことで、一人ひとりを知ることにより交流ができ、親しみがわいてくる。また、人柄にも触れ合える。団体行動を取ることで、親しみが出てくること、町会の考え方も知ってもらうことにより理解もしていただける。
大塚駅南町会		○災害時の要援護者の避難の手伝い。 ○独居老人の見守り。 ○住宅用火災報知器を町会として共同購入。頒布の際、豊島消防署員を迎えて取り付け、扱い方等の説明をいただく。

	⑬保健・医療・福祉に関する行政の施策への意見・要望	⑭「豊島区地域保健福祉計画」に期待すること
池袋本町通り商店会	○柔軟な対応	
東京商工会議所 豊島支部		○事業所としてこれまで以上に、社員への福祉の重要性を高く位置づける。
上池袋町会	○保健については、少々アピールが足りないように思える。 ○健康については、きめ細かな配慮が必要ではないかと思う。指導をもっとしていただきたい。 ○医療の面でも個々の負担を軽減していただきたい。 ○敬老者・身体障害者に対しては、当町会では年に2回ほど接待を行っている。できれば、もう1回、行えるように支援をしていただきたい。	○区民ひろば上池袋を利用して、高齢者が子ども達に「昔話を伝える」場所にして歴史を伝えてコミュニケーションの場にしたい。

	①活動の内容	②活動を通じた地域の方との関わり
豊島区民生児童委員協議会	○高齢者の実態調査と生活保護者の見守り・相談。 ○社会福祉協議会 中央地域包括支援センターコミュニティソーシャルワーカーへの協力。 ○NPO法人てのはし 路上生活者の支援と協力	○池袋東地区民生・児童委員協議会会長として、上池袋区民ひろば、朋有区民ひろばに出入りし、区民ひろばまつりの支援と協力をしている。 ○地域(町会)としては、総務役員、町会副会長として町会行事で関わっている。 ○メゾンサンシャインで、7、8割、70歳以上はマンションで付き合いが薄く、高齢者も多い。 ○ひとり親家庭が増えている。

	③活動で得たこと、よかったこと、成果	④活動上の支障・問題点・課題
豊島区民生児童委員協議会	○放課後子ども教室のコーディネーターとして教育総務課より推薦され、スキップ朋有に出入りし、子どもの実情と家庭を把握することができた。 ○子ども同士で思い切り共感しあいながら交わり、遊ぶという機会や心を失ってきたことが判明した。	○高齢者実態調査で面談拒否や資料説明の拒否など、途中居住者・賃貸入居者と面会できない。町会に加入せず(町会費の未払い)、郵便ポストにも居住の宛名を明示していない。 ○区民ひろばでは、利用者の自主利用で勝手な意見が多く、使用して当然の意識が強く、お世話になっているという感謝の心が薄い。 ○マンション等、管理組合で町会に入るのが難しい。 ○店のオーナーが住んでいない。

	⑤他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動		
	活動の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	活動の具体的内容
豊島区民生児童委員協議会	区民ひろばまつり	区民ひろば朋有 上池袋	・運営協議会を設立し、自主事業を展開する。朋有では7月にいきいき部会として盆踊りを実施した。 ・上池袋では、こども広場で工作コーナー(作って遊ぼう)を担当する。
	さくらまつりもちつき大会	体育場周辺実行委員会	・総合体育場の民間委嘱を機に、周辺4町会(南大塚仲町会、サンシャイン町会、中部町会、四丁目南町会)と体育協会を交え、体育場の継続支援と親睦に取り組んでいる。
	ホームレス支援	NPO法人てのはし	・池袋周辺のホームレス状態にある人に向け、地域生活の安定を目的とし、年末年始(年越し)炊き出し支援の打ち合わせ場所の提供。
	子どもまつり	豊島区社会福祉協議会	・高齢者や障害者に重点が置かれた社協の支援活動が、子どもの弱者に目が向けられ、年賀状を送ろうや、正月料理の体験と試食など家庭環境の中でできない体験を実施。

	⑥他の団体等との活動で得たこと、よかったこと、成果	⑦他の団体等との活動での支障、問題、課題
豊島区民生児童委員協議会	○無縁社会に孤立した30代の一部が区民ひろばに顔を出したこと。 ○ボランティア：ホームレス対策事業を行う支援にあって、集団対応型かつ就労自立支援にアパートや福祉住宅などのコーディネートができた。	○ボランティア：世界の医療団やNPO法人てのはしの地域活動で、精神や知的機能障害による生活困難者の支援において、池袋地区にホームレス状態の人が増えるのではないかな。 ○行政：区民ひろばの自主運営において、施設の老朽化に伴い、施設管理費の見積もり(出費)が不明である。 ○ホームレス支援のため、生活困窮者のシェルター等の施設をつくることが課題である。

	⑧他の団体、事業者、行政との活動についての考え	⑨地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるために必要なこと
豊島区民生児童委員協議会	○行政：区民ひろばの自主運営は資金的(交付金の継続性)に不安があり、自主財源での運営は無理。	○アウトリーチ(訪問活動)の相談拠点の確立。 ○シェルターの設立と医療・保健活動のサポート。

	⑩コミュニティソーシャルワーカーに期待すること	⑪住民同士の支え合い(互助)による地域づくりについて、団体としてできること
豊島区民生児童委員協議会	○活動(出動)回数の増加により、電動自転車やバイク等の足の便の確保。(特に子ども家庭支援センターや社協のSCW担当の方に優遇を願う。) ○政策提言活動(アドボカシー)。	○子どもの貧困から、子どもの権利の回復。(子どもときの貧困を生み出す原因を除去し、支援する。家族に代わる社会的な教育支援と見守り。)

	⑫保健・医療・福祉に関する行政の施策への意見・要望	⑬「豊島区地域保健福祉計画」に期待すること
豊島区民生児童委員協議会	○協働型福祉社会のために、安心して老後を暮らせる社会へ介護の総点検。 ○町会(地域)より欠員の民生委員の補充がなく、そのままの状態である。 ○民生委員を補佐する協力員制度とともに民生委員の活動件数に手当の支援。 ○豊島区は、何年も前から、民生委員の補充がない。	

	①事業内容	②社会貢献活動のきっかけ
株式会社ファミリーマート	○フランチャイズシステムによるコンビニエンスストア事業。	○ファミリーマート基本理念に定められた「基本姿勢」として、安心、安全な生活と夢のある社会の実現に向けて、地域・社会に貢献していくことが定められている。
株式会社サンオート	○電位治療器スカイウェルと健康機器等の販売。	○昭和45年に電子機器の販社として創業するも、当時高齢化社会が近い将来に迫っていることで、国の高齢者に対する福祉政策が進んでいて、そこに使ってもらえる電位治療器のメーカーと出会ったことから、高齢者福祉に貢献することを企業理念に定めて業務を推進してきた。

	③社会貢献活動の内容	④社会貢献活動で得たこと、よかったこと、成果
株式会社ファミリーマート	○ファミリーマート夢の掛け橋募金。(店頭募金) ○ベルマーク運動への参加。 ○東京寺子屋へ協力。 ○全国環境美化活動の実施。 ○災害のとき、工場より、緊急に食べ物(おにぎり、サンドイッチ)を避難所に送るシステムがある。災害時物資提供協定があり、最初の2、3日に対応する。	○加盟店の店長、ストアスタッフが地域社会の一員としての自覚の下に日々の店舗運営に携わること。
株式会社サンオート	○全国900以上の市町村が運営する高齢者施設に、およそ2,500以上の施設に納め、予防介護の機器として高齢者医療費の圧縮に貢献している。 ○利用する人同士のコミュニティの形成を支援している。	○当社の機器を使用することによって、体の調子が整い、また、様々な効果が出て利用者のみならず施設の管理者からも感謝されている。 ○予防、介護、医療費削減につながっている。

	⑤社会貢献活動を進める上での支障・問題点・課題
株式会社ファミリーマート	○様々なNPO/NGO等の団体から要望をいただくが、全てにお応えできないこと。 ○障害者の雇用については、小売業(接客)なので、ハードルが高い。新宿区スポーツセンターのファミリーマートの店舗では、障害者を雇用しているが、できる範囲での作業をやるという形である。今後、どう拡大するかが課題である。
株式会社サンオート	○東洋医学的発想で作られている機器で、一般的健康機器のマッサージ器のように、すぐに効能が感じられるものでなく、理解されるのに時間がかかる。 ○たくさんの人に利用してほしい。コミュニティセンターにスカイウェルを置くことで、コミュニティづくりにつなげたい。

⑥他の団体、ボランティアや事業者、行政と取り組んでいる活動			
	事業等の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	事業等の具体的内容
株式会社ファミリーマート	ウォーク・ザ・ワールド	国連WFP協会	・飢餓撲滅のためのウォーキング活動
	途上国の給食支援	TABLE FOR TWO	・社員食堂などで食事を作る際、一食あたり20円を寄付。
	森の聞き書き甲子園の支援	共存の森ネットワーク	・森の名手、名人の話を高校生が聞き書きし、記録する活動。
	セーフティステーション活動	日本フランチャイズチェーン協会	・店舗が地域の拠点となり、女性、子どもの駆け込み対応を行う。 ・緊急の避難場所として活用してもらう。 ・徘徊等で店に来た高齢者に対しても支援する。
株式会社サンオート	予防介護のための機器販売と卸	全国市町村自治体の、主に福祉部高齢者福祉課 その他 社会福祉協議会、社会福祉事業団、福祉公社が運営する福祉施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、各デイサービス施設	・昭和56年の厚労省通知に準拠して、全国の納品先に年3回保守点検を行っている。 また、全国の自治体が計画している福祉等の関連施設計画先に、当社施設用機器のご案内と営業展開を行うと同時に、弊社機器スカイウェル販売の特約店の支援、指導を行っている。

	⑦他の団体等との活動で得たこと、よかったこと、成果	⑧他の団体等との活動での支障、問題、課題
株式会社ファミリーマート	○ベルマーク財団。 ・全てのおむすびのパッケージにベルマークを付けて販売。 ○成果として ・ベルマークを通じて子ども達の学校教育の支援。 ・各店舗にベルマーク回収箱を設置し、回収に協力(一部店舗)。	
株式会社サンオート	○行政が運営する施設が当社の機器を有効に使い続けていることで、多くの高齢者がその効果に浴し、感謝してくれていることが、弊社がもっとも良かったと思っていることだ。(全国で2,500以上の施設、900市町村で使われている事実)。	○一般の営利団体であり、高齢者福祉に貢献するといっても、利益がないと仕事が成り立たない。バブル崩壊以降、税収が減少した行政の中で、効果ある機器であっても利用されにくい状況は大変苦しい。

	⑨他の団体、事業者、行政との活動についての考え	⑩地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉活動を進めるために必要なこと
株式会社ファミリーマート	○東京青年会議所 ・ボランティア：社会人が中学校へ出向いて、社会人としての心得、仕事のやりがい等を伝える活動 ・今後：品川区の公立中学校に限られているが、とても良い活動だと思うので、拡大していきたい。 ・子どもの将来の職業観を育てる役割がある。	○コンビニエンスストアが求められていることを伺いたい。 ○例えば、障害者の方々が店舗で買い物をするときに困ることなどがあったら教えてほしい。 ○視覚障害者に、携帯電話を使ってお店への案内をする取り組みを進めている。
株式会社サンオート	○福祉に関するものは、やはり行政が深く関与していくものと思う。ただ施設の効率的使用については民間運営を取り入れることも必要かと思う。	○福祉に関するものは、やはり行政が深く関与していくものと思う。ただ施設の効率的使用については民間運営を取り入れることも必要かと思う。

	⑪コミュニティソーシャルワーカーに期待すること	⑫住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、団体としてできること
株式会社 ファミリーマート		セーフティステーション活動。 内容は問6の回答の通り。
株式会社 サンオート	○大変難しい仕事だと思う。そのワーカー達が仕事をやりやすくする一つの方法として、コミュニティを形成しやすいコミュニティセンター等を造り、そこに市民を集合させて、上手に指導すること。	○都下国立市の例。国立市北福祉館へ、弊社機器が導入された経緯と内容。 ○福祉館を管理している地域住民が、この機器を高齢者の健康維持の目的で導入したが、その後、従来にはなかった隣近所の挨拶から、交流もできる町内になったと喜んでいた。

	⑬保健・医療・福祉に関する行政の施策への意見・要望
株式会社 サンオート	○福祉とは、健康で健全な地域社会の構築が目的であり、それは医療、環境、治安、教育まで含めた正義と安全が保障される社会の創造と維持である。それこそが政治、行政の仕事だと思う。 ○これからますます少子高齢化が進み、誰が見ても大変な社会になることが分かるので、この分野のご担当には知恵を絞ってがんばっていただきたい。

資料編

資料 1 単純集計

問 1 性別

調査数	男性	女性	無回答
1188 100.0	452 38.0	729 61.4	7 0.6

問 2 年齢

調査数	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	無回答	平均 (歳)
1188 100.0	58 4.9	87 7.3	92 7.7	120 10.1	94 7.9	112 9.4	98 8.2	127 10.7	140 11.8	115 9.7	120 10.1	25 2.1	49.54

問 3 居住地区

調査数	東部地区 1	東部地区 2	中央地区 1	中央地区 2	中央地区 3	中央地区 4	西部地区 1	西部地区 2	無回答
1188 100.0	152 12.8	150 12.6	188 15.8	179 15.1	134 11.3	141 11.9	117 9.8	124 10.4	3 0.3

問 3 居住地区

調査数	東部地区	中央地区	西部地区	無回答
1188 100.0	302 25.4	642 54.0	241 20.3	3 0.3

問 4 居住年数

調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30年以上	無回答
1188 100.0	26 2.2	112 9.4	91 7.7	178 15.0	203 17.1	172 14.5	404 34.0	2 0.2

問5 住居の種類

調査数	一戸建て（持ち家）	一戸建て（賃貸）	共同住宅（分譲マンション等）	共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）	その他
1188	465	28	260	419	16
100.0	39.1	2.4	21.9	35.3	1.3

問6 家族構成

調査数	単身（一人暮らし）	夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	二世世代家族（親と子）	三世世代家族（親と子と孫）	兄弟姉妹のみ	その他	無回答
1188	249	147	70	46	538	84	22	29	3
100.0	21.0	12.4	5.9	3.9	45.3	7.1	1.9	2.4	0.3

問7 職業

問7 職業										
調査数	職員等	会社員・公務員・団体	自営業・自由業	会社役員・団体役員	専業主婦（夫）・家事 手伝い	アルバイト・パート	学生	無職	その他	無回答
1188	438	144	38	191	147	36	151	32	11	
100.0	36.9	12.1	3.2	16.1	12.4	3.0	12.7	2.7	0.9	

問8 看護や介護の必要な家族

調査数	いる	いない	無回答
1188	149	1034	5
100.0	12.5	87.0	0.4

問8-1 看護や介護の必要な家族の続柄

調査数	親	配偶者	兄弟	子	その他
149	106	10	5	9	26
100.0	71.1	6.7	3.4	6.0	17.4

問8-1 看護や介護の必要な家族の年齢／親

調査数	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	平均（歳）
106	-	-	-	-	-	2	5	12	85	2	85.36
100.0	-	-	-	-	-	1.9	4.7	11.3	80.2	1.9	

問8-1 看護や介護の必要な家族の年齢／配偶者

調査数	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	平均（歳）
10	-	-	-	-	1	-	4	3	1	1	68.33
100.0	-	-	-	-	10.0	-	40.0	30.0	10.0	10.0	

問8-1 看護や介護の必要な家族の年齢／兄弟

調査数	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	平均（歳）
5	-	-	-	-	-	-	3	1	1	69.60
100.0	-	-	-	-	-	-	60.0	20.0	20.0	

問8-1 看護や介護の必要な家族の年齢／子

調査数	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	平均（歳）
9	1	1	4	1	2	-	-	-	-	27.11
100.0	11.1	11.1	44.4	11.1	22.2	-	-	-	-	

問8-1 看護や介護の必要な家族の年齢／その他

調査数	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	平均（歳）
26	1	-	-	1	1	-	-	3	19	1	78.84
100.0	3.8	-	-	3.8	3.8	-	-	11.5	73.1	3.8	

問8-2 看護や介護が必要な理由

調査数	病気のため	心身の障害のため	認知症のため	高齢で身の回りの世話が必要なため	その他	無回答
149	40	27	37	86	7	4
100.0	26.8	18.1	24.8	57.7	4.7	2.7

問10 健康のため積極的に身体を動かすこと

調査数	よくしている	ある程度している	あまりしていない	全くしていない
1188	155	569	371	93
100.0	13.0	47.9	31.2	7.8

問10-1 健康のために実施していること

調査数	通勤・通学でよく歩く	家事・育児	スポーツ	散歩・外出	孫や子どもとの遊び	ボランティア活動	趣味・レジャー活動	自転車に乗る	階段をよく使う	その他	無回答
724	228	171	287	335	55	37	125	258	226	41	4
100.0	31.5	23.6	39.6	46.3	7.6	5.1	17.3	35.6	31.2	5.7	0.6

問11 充実感・生きがい

調査数	全く感じていない	少しだけ感じている	多少は感じている	かなり感じている	非常に感じている	無回答
1188	77	178	506	343	80	4
100.0	6.5	15.0	42.6	28.9	6.7	0.3

問13 日常生活の中で困ったときに助けてもらえる人

問13 日常生活の中で困ったときに助けを求めた人												
調査数	友人・知人	父親	母親	息子	娘	兄弟・姉妹	その他の親族	NPO等 地域のボランティア・	誰もいない	その他	無回答	
1188	634	187	314	223	201	377	162	24	156	56	4	
100.0	53.4	15.7	26.4	18.8	16.9	31.7	13.6	2.0	13.1	4.7	0.3	

問9 回答者の健康状態

調査数	とても健康である	まあまあ健康である	あまり健康でない	健康でない	無回答
1188	339	688	120	30	11
100.0	28.5	57.9	10.1	2.5	0.9

問14 地域活動やボランティア活動について

調査数	町会・自治会の活動	子ども会・PTAの活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	高齢者の身の回りの世話や話し相手	障害者の身の回りの世話や話し相手	手話通訳・点字ボランティアなど	子育ての支援や相談	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	交通安全や防犯活動	防災活動や災害援助活動	募金活動やチャリティバザーの開催など	路上生活者への支援活動
1188	170	97	69	42	14	7	24	13	42	43	35	1
100.0	14.3	8.2	5.8	3.5	1.2	0.6	2.0	1.1	3.5	3.6	2.9	0.1

無回答	どれにも参加していない	その他	公園や近隣の清掃活動 やリサイクル活動	インターネットやコミュニティ誌（紙）による地域への情報提供	国際交流や外国人への支援活動
2	825	17	59	10	18
0.2	69.4	1.4	5.0	0.8	1.5

問14-1 地域活動やボランティア活動に参加しなかった理由

無回答	その他	看護や介護で忙しかったから	子育てで忙しかったから	自分や家族の健康がすぐれなかったから	仕事や家族の健康がすぐれなかったから	自分が参加したい活動や団体等がみつからなかったから	どうやったら参加できなかったか	興味はあったが、参加できなかったから	地域での活動に興味はなかったから	調査数
4	68	54	52	99	428	96	179	182	179	825
0.5	8.2	6.5	6.3	12.0	51.9	11.6	21.7	22.1	21.7	100.0

問15 今後参加したい地域活動やボランティア活動

調査数	町会・自治会の活動	子ども会・PTAの活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	高齢者の身の回りの世話や話し相手	障害者の身の回りの世話や話し相手	手話通訳・点字ボランティアなど	子育ての支援や相談	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	交通安全や防犯活動	防災活動や災害援助活動	募金活動やチャリティバザーの開催など	路上生活者への支援活動	国際交流や外国人への支援活動
361	135	70	105	53	27	16	55	43	42	55	30	9	49
100.0	37.4	19.4	29.1	14.7	7.5	4.4	15.2	11.9	11.6	15.2	8.3	2.5	13.6

無回答	その他	どれも参加したいと思 わない	公園や近隣の清掃活動 やリサイクル活動	インターネットやコ ミュニティ誌(紙)に よる地域への情報提供
18	9	22	83	20
5.0	2.5	6.1	23.0	5.5

問16 ①重要度が高いと考える地域活動

調査数	豊島区の事業を通じてできる活動	社会福祉協議会を通じてできる活動	仕事を通じてできる活動	個人でできる活動	同じ志をもつ仲間と一緒にする活動	地域を通じてできる活動	特にない	無回答
1188	464	469	470	399	210	336	124	115
100.0	39.1	39.5	39.6	33.6	17.7	28.3	10.4	9.7

問16 ②参加したことがある地域活動

調査数	豊島区の事業を通じてできる活動	社会福祉協議会を通じてできる活動	仕事を通じてできる活動	個人でできる活動	同じ志をもつ仲間と一緒にする活動	地域を通じてできる活動	特にない	無回答
1188	30	25	28	130	55	94	499	444
100.0	2.5	2.1	2.4	10.9	4.6	7.9	42.0	37.4

問16 ③参加したい地域活動

調査数	豊島区の事業を通じてできる活動	社会福祉協議会を通じてできる活動	仕事を通じてできる活動	個人でできる活動	同じ志をもつ仲間と一緒にする活動	地域を通じてできる活動	特にない	無回答
1188	155	187	183	355	231	282	259	231
100.0	13.0	15.7	15.4	29.9	19.4	23.7	21.8	19.4

問17 地域活動により多くの人が参加するために必要なこと

調査数	具体的な団体情報について紹介する	参加する方法について紹介する	活動の担い手となる人材を育成する	活動拠点となる施設を整備する	地域の活動の大切さについて啓発活動をする	地域の人へ参加を呼びかける	日頃から地域の人々とのつきあいを深める	活動団体への支援を充実する	活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のあつくり社会をつくる	企業や家族の地域活動への理解を深める	わからない	その他	無回答
1188	648	675	175	261	151	294	397	160	445	178	88	38	47
100.0	54.5	56.8	14.7	22.0	12.7	24.7	33.4	13.5	37.5	15.0	7.4	3.2	4.0

問18 健康や福祉に関する情報の入手先

調査数	広報紙(都・区)	テレビ・ラジオ	一般の新聞・雑誌	コミュニティ誌(紙)	インターネット	町会・自治会の回覧板	公共施設などにある掲示板	医療機関	薬局	高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)	民生・児童委員	近所の知人	ボランティア等の団体を通じて
1188	651	566	484	55	378	213	186	296	69	24	10	110	18
100.0	54.8	47.6	40.7	4.6	31.8	17.9	15.7	24.9	5.8	2.0	0.8	9.3	1.5

その他	無回答
43 3.6	35 2.9

問19 健康・福祉に関する情報入手のしやすさ、相談窓口への満足度

調査数	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満	わからない	無回答
1188	10	164	241	88	634	51
100.0	0.8	13.8	20.3	7.4	53.4	4.3

問20 認知状況／

①区役所の福祉相談窓口

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	773	302	113
100.0	65.1	25.4	9.5

問20 認知状況／

②保健福祉センター

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	369	684	135
100.0	31.1	57.6	11.4

問20 利用の有無／

①区役所の福祉相談窓口

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	152	876	160
100.0	12.8	73.7	13.5

問20 利用の有無／

②保健福祉センター

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	58	949	181
100.0	4.9	79.9	15.2

問20 利用意向／

①区役所の福祉相談窓口

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	478	451	259
100.0	40.2	38.0	21.8

問20 利用意向／

②保健福祉センター

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	274	620	294
100.0	23.1	52.2	24.7

問20 認知状況／
③高齢者総合相談センター

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	291	767	130
100.0	24.5	64.6	10.9

問20 利用の有無／
③高齢者総合相談センター

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	50	960	178
100.0	4.2	80.8	15.0

問20 利用意向／
③高齢者総合相談センター

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	404	523	261
100.0	34.0	44.0	22.0

問20 認知状況／
⑦民生委員・児童委員

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	545	508	135
100.0	45.9	42.8	11.4

問20 利用の有無／
⑦民生委員・児童委員

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	26	980	182
100.0	2.2	82.5	15.3

問20 利用意向／
⑦民生委員・児童委員

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	223	667	298
100.0	18.8	56.1	25.1

問20 認知状況／
④池袋保健所・長崎健康相談所

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	676	393	119
100.0	56.9	33.1	10.0

問20 利用の有無／
④池袋保健所・長崎健康相談所

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	176	832	180
100.0	14.8	70.0	15.2

問20 利用意向／
④池袋保健所・長崎健康相談所

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	462	452	274
100.0	38.9	38.0	23.1

問20 認知状況／
⑧身体・知的障害者相談員

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	205	837	146
100.0	17.3	70.5	12.3

問20 利用の有無／
⑧身体・知的障害者相談員

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	13	983	192
100.0	1.1	82.7	16.2

問20 利用意向／
⑧身体・知的障害者相談員

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	151	725	312
100.0	12.7	61.0	26.3

問20 認知状況／
⑤子ども家庭支援センター

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	361	677	150
100.0	30.4	57.0	12.6

問20 利用の有無／
⑤子ども家庭支援センター

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	66	929	193
100.0	5.6	78.2	16.2

問20 利用意向／
⑤子ども家庭支援センター

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	251	633	304
100.0	21.1	53.3	25.6

問20 認知状況／
⑨介護相談員

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	308	739	141
100.0	25.9	62.2	11.9

問20 利用の有無／
⑨介護相談員

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	33	969	186
100.0	2.8	81.6	15.7

問20 利用意向／
⑨介護相談員

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	351	558	279
100.0	29.5	47.0	23.5

問20 認知状況／
⑥豊島区社会福祉協議会

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	358	693	137
100.0	30.1	58.3	11.5

問20 利用の有無／
⑥豊島区社会福祉協議会

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	38	969	181
100.0	3.2	81.6	15.2

問20 利用意向／
⑥豊島区社会福祉協議会

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	396	516	276
100.0	33.3	43.4	23.2

問20 認知状況／
⑩福祉関連の自主グループ・団体など

調査数	知っている	知らない	無回答
1188	240	803	145
100.0	20.2	67.6	12.2

問20 利用の有無／
⑩福祉関連の自主グループ・団体など

調査数	相談したことがある	相談したことはない	無回答
1188	12	980	196
100.0	1.0	82.5	16.5

問20 利用意向／
⑩福祉関連の自主グループ・団体など

調査数	相談したい	相談したいと思わない	無回答
1188	264	620	304
100.0	22.2	52.2	25.6

問21 バリアフリー化すべき施設

調査数	歩道	駅舎等の旅客施設	電車・バス等（コミュニティバス含む）の公共交通機関	公共施設（区役所、病院等）	公園	学校	その他施設等（映画館、デパート、スーパー等）	横断歩道・信号機	案内標識・音声や誘導ブロック等の設置	歩道の放置自転車等の撤去	車いす対応の駐車場やトイレの整備	その他	無回答
1188 100.0	679 57.2	542 45.6	572 48.1	463 39.0	253 21.3	203 17.1	357 30.1	407 34.3	229 19.3	592 49.8	375 31.6	37 3.1	103 8.7

問22 日常の外出頻度

調査数	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に2〜3回	年に数回	外出しない	無回答
1188 100.0	964 81.1	131 11.0	43 3.6	7 0.6	1 0.1	6 0.5	36 3.0

問22-1 外出時に街の中や建物の中で困ったり、不便に思うこと

調査数	点字ブロック・盲人用 信号の設置が不十分	道路・建物の段差	障害者用トイレの設置 が不十分	階段の昇り降り	道路に障害物（放置自 転車など）が多い	標識や案内がわかりに くい	駐車場がない	手すりやベンチなどの 設備が少ない	電車・バスなどへの乗 車が困難	介助者の確保が難しい	コミュニケーションが うまくいかない	特にない	その他	無回答
1146 100.0	60 5.2	413 36.0	73 6.4	313 27.3	514 44.9	204 17.8	227 19.8	240 20.9	93 8.1	31 2.7	18 1.6	172 15.0	111 9.7	46 4.0

問23 まちのバリアフリーの満足度

調査数	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満	わからない	無回答
1188 100.0	13 1.1	218 18.4	374 31.5	105 8.8	431 36.3	47 4.0

問25 困っている人を見かけたこと

調査数	ある	ない	無回答
1188 100.0	821 69.1	324 27.3	43 3.6

問25-1 困っていた人の状況

調査数	道に迷っていた	具合が悪くて動けなくなっていた	横断歩道や踏切を渡るのに苦労していた	車いすやベビーカーでの移動に苦労していた	人混みや路上の障害物で歩きづらそうだった	荷物などを運ぶのに苦労していた	子どもにマナーを守らせるために苦労していた	子どもの安全を守るために苦労していた	その他	無回答
821 100.0	172 21.0	88 10.7	262 31.9	463 56.4	358 43.6	224 27.3	128 15.6	90 11.0	56 6.8	2 0.2

問25-2 困っている人への対処

調査数	たけることができないのか	はるかからなかつた	どのようにかければよいかわからなかつた	声をかけたが、	助けを求められたので手助けした	自分で出来る範囲で進んで手助けした	自分から進んで他の人にも声をかけて手助けした	その他	無回答
821 100.0	58 7.1	123 15.0	64 7.8	489 59.6	33 4.0	47 5.7	7 0.9		

問26 心のバリアフリー推進のために必要な仕組み

調査数	外国人とのコミュニケーションの機会を増やす	障害者とのコミュニケーションの機会を増やす	イベントの開催や情報発信などにより、広く普及啓発すること	生涯学習において誰もが学ぶ機会を充実すること	学校教育において「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実すること	わからない	その他	無回答
1188 100.0	908 76.4	511 43.0	229 19.3	424 35.7	158 13.3	50 4.2	106 8.9	49 4.1

問27 住民同士の支え合いや助け合いの必要性

調査数	必要だと思う	必要だと思わない	わからない	無回答
1188 100.0	983 82.7	47 4.0	131 11.0	27 2.3

問27-1 地域の住民同士の支え合いや助け合いで必要なこと

無回答	その他	わからない	行政が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること	社会福祉協議会が相談窓口、側面的援助の体制を充実させること	地域の人が気軽に集まれる場所を作ること	ボランティアやNPO（民間非営利組織）の活動が盛んになること	自ら進んで目頃から住民相互のつながりを持つような心がけること	町会や自治会が中心となつて住民相互の交流活動を進めること	調査数
4 0.4	42 4.3	37 3.8	248 25.2	229 23.3	397 40.4	181 18.4	444 45.2	498 50.7	983 100.0

調査数	47 100.0	13 27.7	11 23.4	25 53.2	12 25.5	13 27.7	2 4.3	- -	10 21.3
-----	-------------	------------	------------	------------	------------	------------	----------	--------	------------

調査数	知っている	知らない	無回答
1188 100.0	41 3.5	1116 93.9	31 2.6

調査数	身近な地域での相談対応	相談窓口や支援体制についての情報の提供	高齢者や障害者など災害等の緊急時に支援の必要な人への見守り	困難事例への対応	地域における生活の課題解決に向けて、早期の対応	地域の人々や関係機関のネットワークづくり	その他
41 100.0	24 58.5	23 56.1	20 48.8	16 39.0	17 41.5	19 46.3	2 4.9

認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス施設	特別養護老人ホーム・老人保健施設等の入所施設	訪問看護	デイサービス	ショートステイ	子どもの居場所・あそび場	認可保育園等の保育施設	学級体制（少人数学級等）	子どもの通園・通学の安全	虐待・いじめ・不登校等	地域住民・ボランティアによる子育て支援	子育てについての支援・相談体制	子どもの健康や発達	調査数
62 5.2	191 16.1	49 4.1	49 4.1	57 4.8	204 17.2	154 13.0	39 3.3	98 8.2	148 12.5	41 3.5	119 10.0	63 5.3	1188 100.0

治安・防犯対策	地震・災害への備え	子ども・高齢者・障害者等の安全・安心のまちづくり	まちなみの緑化	ごみの減量やリサイクル	放置自転車	高齢者の入院医療体制	診療時間外の救急医療体制	心の悩みについての支援・相談体制	栄養・食生活に関する支援・指導体制	保健・医療・福祉に関する情報	被介護者への暴力・虐待	寝たきりや認知症	介護者への支援・相談体制
249 21.0	229 19.3	164 13.8	136 11.4	120 10.1	241 20.3	177 14.9	284 23.9	99 8.3	42 3.5	185 15.6	13 1.1	59 5.0	156 13.1

無回答	特にない	その他	住宅	仕事・就職・賃金	配偶者等からの暴力・虐待	趣味活動や余暇を過ごすための機会や場所の確保	入浴	家具等の移動	話し相手・相談者	掃除・ごみ出し	買い物等の外出	歩行喫煙・ポイ捨て
99	68	25	64	125	7	103	9	18	25	62	17	260
8.3	5.7	2.1	5.4	10.5	0.6	8.7	0.8	1.5	2.1	5.2	1.4	21.9

無回答							
その他							
わからない							
福祉はすべて行政が行い、そのために住民は税金を支払う	97	76					
福祉はすべて行政が行い、行き届かない部分	174	76					
は住民が協力する	14.6	6.4					
福祉は行政と住民が協力して行い、それぞれ得意分野を活かす	608	114					
福祉は出来る限り住民が行い、行政は必要な支援を行う	58	16					
福祉は本来助け合いであり、住民同士が協力して行う	45	1.3					
調査数	1188	100.0					
	45	3.8					
	58	4.9					
	608	51.2					
	174	14.6					
	97	8.2					
	76	6.4					
	16	1.3					
	114	9.6					

無回答	名前も内容も知っていた	名前だけは知っていた	知らなかった	調査数
92	38	135	923	1188
7.7	3.2	11.4	77.7	100.0

[illegible]

無回答				
その他	感染症対策、食の安全、医療体制などの保健医療対策の充実	疾病予防など、心と身体への健康づくりの支援の充実	誰もが快適に過ごせる、障壁（バリア）のないまちづくり	
120	265	131	249	
10.1	22.3	11.0	21.0	
				1.9

豊島区地域保健福祉計画改定のための 区民意識・意向調査

アンケート調査ご協力をお願い

日ごろから豊島区政にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。
豊島区では、高齢者や障害者を含む誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるしくみの一層の充実を図るため、保健・医療・福祉の各分野にわたり、総合的・体系的に施策・事業を盛り込んだ「豊島区地域保健福祉計画（※）」の改定を平成23年度に行う予定です。

このアンケートは、計画改定の基礎資料とするため、区民の皆さまに、ふだんの暮らしのなかで感じていらっしゃる問題点や課題、地域活動への参加に関する意向などをお伺いするものです。

実施にあたりましては、区内在住の20歳以上75歳未満の方3,000名を無作為抽出により選ばせていただきました。

皆さまからいただいたご回答は、統計的に集計・分析を行うため、個人の回答の内容が明らかになることはございません。また、決して他の目的に流用することはありませんので、安心してご回答ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、なにとぞ、このアンケートの趣旨についてご理解を賜り、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

平成22年6月

豊島区長 高野 之夫

※「豊島区地域保健福祉計画」の全文を豊島区の公式ホームページでご覧いただけます。

URL : <http://www.city.toshima.tokyo.jp/hukukan/keikaku/hukushikeikaku.html>

《ご記入にあたって》

1. 回答は、ボールペン、濃い鉛筆などで、この調査票に直接ご記入ください。
2. 設問ごとに、あてはまる番号に○をつけてください。（○は1つのみ）、（○は3つまで）、（○はあてはまるものすべて）などの記載に従ってください。
3. 一部、自由記入欄があります。（ ）などの枠内に自由にご記入ください。
4. ご記入が終わりましたら、恐縮ですが記入漏れなどがないかお確かめのうえ、この調査票を同封の返信用封筒に入れて、

平成22年6月30日（水）までにポストにご投函ください。

切手貼付けは不要です。

〈問合せ先〉 豊島区 保健福祉部 福祉総務課 計画グループ

電 話：03-3981-1365 FAX：03-3981-1404

あなたご自身についてうかがいます。

問1 性別を選んでください。（○は1つのみ）

1. 男 性

2. 女 性

問2 あなたの年齢は何歳ですか。6月1日現在の満年齢でご記入ください。

満

歳

問3 お住まいは、次のどれにあたりますか。（○は1つのみ）

1. 東部地区1（駒込1～7丁目 巣鴨1・2丁目 南大塚1～3丁目）
2. 東部地区2（巣鴨3～5丁目 西巣鴨1～4丁目 北大塚1・2丁目）
3. 中央地区1（北大塚3丁目 上池袋1～4丁目 東池袋1～5丁目）
4. 中央地区2（南池袋1～4丁目 高田1～3丁目 雑司が谷1～3丁目 目白1・2丁目）
5. 中央地区3（西池袋1～5丁目 池袋3丁目 目白3～5丁目）
6. 中央地区4（池袋1・2・4丁目 池袋本町1～4丁目）
7. 西部地区1（千早1～4丁目 要町1～3丁目 長崎1丁目 高松1～3丁目 千川1・2丁目）
8. 西部地区2（長崎2～6丁目 南長崎1～6丁目）

問4 豊島区に住んで、通算どのくらいになりますか。（○は1つのみ）

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 1年未満 | 4. 5～10年未満 | 7. 30年以上 |
| 2. 1～3年未満 | 5. 10～20年未満 | |
| 3. 3～5年未満 | 6. 20～30年未満 | |

問5 お住まいは、次のうちどれにあてはまりますか。（○は1つのみ）

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 一戸建て（持ち家） | 4. 共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等） |
| 2. 一戸建て（賃貸） | 5. その他（ ） |
| 3. 共同住宅（分譲マンション等） | |

問6 家族構成は、次のうちどれにあてはまりますか。（○は1つのみ）

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 単身（一人暮らし） | 5. 二世世代家族（親と子） |
| 2. 夫婦のみ（夫婦とも65歳未満） | 6. 三世世代家族（親と子と孫） |
| 3. 夫婦のみ（夫婦とも65歳以上） | 7. 兄弟姉妹のみ |
| 4. 夫婦のみ（夫または妻が65歳以上） | 8. その他（ ） |

問7 ご職業は、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つのみ)

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 会社員・公務員・団体職員等 | 5. アルバイト・パート |
| 2. 自営業・自由業 | 6. 学 生 |
| 3. 会社役員・団体役員 | 7. 無 職 |
| 4. 専業主婦(夫)・家事手伝い | 8. その他() |

問8 ご家族に看護や介護を必要とする方はいますか。(○は1つのみ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

(問8で「1. いる」とお答えの方に)

問8-1 看護や介護が必要な方は、あなたからみて、どなたですか。(○はあてはまるものすべて)
その方の年齢も合わせてご記入ください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 親 (歳) | 4. 子 (歳) |
| 2. 配偶者 (歳) | 5. その他 (歳) |
| 3. 兄弟 (歳) | (具体的に) |

(問8で「1. いる」とお答えの方に)

問8-2 看護や介護が必要な理由は、次のうちどれにあてはまりますか。
(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. 病気のため | 4. 高齢で身の回りの世話が必要なため |
| 2. 心身の障害のため | 5. その他() |
| 3. 認知症のため | |

問9 あなたの健康状態は、次のうちどれに最も近いですか。(○は1つのみ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. とても健康である | 3. あまり健康でない |
| 2. まあまあ健康である | 4. 健康でない |

問10 あなたは、日頃から日常生活の中で、健康のために積極的に身体を動かすことをしていますか。(○は1つのみ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. よくしている | 3. あまりしていない |
| 2. ある程度している | 4. 全くしていない |

(問10で「1. よくしている」「2. ある程度している」とお答えの方に)

問10-1 どのようなことをしていますか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 通勤・通学でよく歩く | 6. ボランティア活動 |
| 2. 家事・育児 | 7. 趣味・レジャー活動 |
| 3. スポーツ | 8. 自転車に乗る |
| 4. 散歩・外出 | 9. 階段をよく使う |
| 5. 孫や子どもとの遊び | 10. その他() |

問11 あなたは、生活に充実感や生きがいを感じていますか。(○は1つのみ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 全く感じていない | 4. かなり感じている |
| 2. 少しだけ感じている | 5. 非常に感じている |
| 3. 多少は感じている | |

問12 これからもずっと豊島区に住み続けたいですか。(○は1つのみ)

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 住み続けたい | 4. 住み続けたくない |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば住み続けたくない | |

あなたの住んでいる地域や市町村・ボランティア活動について教えてください。

問13 あなたは、身近な地域に日常生活の中で、何か困ったことがあったときに、行政以外で気軽に助けてもらえる人がいますか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|----------|-------------------|
| 1. 友人・知人 | 6. 兄弟・姉妹 |
| 2. 父親 | 7. その他の親族 |
| 3. 母親 | 8. 地域のボランティア・NPO等 |
| 4. 息子 | 9. 誰もいない |
| 5. 娘 | 10. その他() |

問14 過去1年くらいの間に、以下のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 町会・自治会の活動
2. 子ども会・PTAの活動
3. 運動・スポーツ・文化に関する活動支援
4. 高齢者の身の回りの世話や話し相手
5. 障害者の身の回りの世話や話し相手
6. 手話通訳・点字ボランティアなど
7. 子育ての支援や相談
8. 地域での学習活動の指導・助言・運営協力
9. 交通安全や防犯活動
10. 防災活動や災害援助活動
11. 募金活動やチャリティバザーの開催など
12. 路上生活者への支援活動
13. 国際交流や外国人への支援活動
14. インターネットやコミュニティ誌(紙)による地域への情報提供
15. 公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動
16. その他()

17. どれにも参加していない

→ 次ページ
問15へ

(問14で「17. どれにも参加していない」とお答えの方に)

問14-1 参加しなかった理由は、次のうちどれにあてはまりますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 地域での活動に興味がなかったから
2. 興味はあったが、参加するきっかけや誘いがなかったから
3. どうやったら参加できるのか方法がわからなかったから
4. 自分が参加したい活動や団体等が見つからなかったから
5. 仕事が忙しかったから
6. 自分や家族の健康がすぐれなかったから
7. 子育てで忙しかったから
8. 看護や介護で忙しかったから
9. その他()

問15は、問14で「1～16」をお答えの方のみ、うかがいます。

問15 今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)

1. 町会・自治会の活動
2. 子ども会・PTAの活動
3. 運動・スポーツ・文化に関する活動支援
4. 高齢者の身の回りの世話や話し相手
5. 障害者の身の回りの世話や話し相手
6. 手話通訳・点字ボランティアなど
7. 子育ての支援や相談
8. 地域での学習活動の指導・助言・運営協力
9. 交通安全や防犯活動
10. 防災活動や災害援助活動
11. 募金活動やチャリティバザーの開催など
12. 路上生活者への支援活動
13. 国際交流や外国人への支援活動
14. インターネットやコミュニティ誌(紙)による地域への情報提供
15. 公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動
16. どれも参加したいと思わない
17. その他()

ここからは、再びすべての方にうかがいます。

問16

- ① 今後、豊島区としてより充実させていくべき、重要度が高いと考える地域活動に○をつけてください。(○は3つまで)
- ② あなたが、今お住まいの地域(豊島区内)で、この1~2年間の間に、参加したことがある(または現在参加している)地域活動に○をつけてください。(○はあてはまるものすべて)
- ③ また、将来参加したいと思う活動(「参加したことがある・現在参加している」方は、今後も参加したいと思う活動)があれば○をつけてください。(○はあてはまるものすべて)

項目	① 重要度 (○は3つまで)	② 参加経験の有無 (○はあてはまるものすべて)	③ 将来参加について (○はあてはまるものすべて)
(1) 豊島区の事業を通じてできる活動 事業例：高齢者元気あとおし事業 ：認知症サポーター ：手話講習会	1	1	1
(2) 社会福祉協議会を通じてできる活動 事業例：高齢者困りごと援助サービス事業の協力員 ：リボンサービス事業 ：豊島ボランティアセンターを通じての活動	2	2	2
(3) 仕事を通じてできる活動 事業例：シルバー人材センターへの会員登録による多様な仕事 ：高齢者、障害者など就労の困難な方の採用を進める ：社会に貢献している事業者と優先的な取引をする	3	3	3
(4) 個人でできる活動 事業例：隣近所の人と顔見しりになる ：ひとり暮らしの高齢者など気になる方への安否確認 ：点字ブロックの上に駐輪しない	4	4	4
(5) 同じ志をもつ仲間と一緒にする活動 事業例：既存の枠組にとらわれず、仲間と組織をつくり活動する ：NPO組織をつくる ：健康づくり自主グループづくり	5	5	5
(6) 地域を通じてできる活動 事業例：地域で誰でも気軽に立寄れるサロンをつくったり運営を手伝う ：町会・自治会や青少年育成委員などが実施する地域行事に参加し手伝う ：地域防災組織の活動に参加する	6	6	6
(7) 特にない	7	7	7

問17 あなたは、お住まいの地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あなたのお考えに近いものの番号に○をつけてください。(○はあてはまるものすべて)

1. 活動や団体についての具体的な情報を広く紹介する
2. 参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する
3. 活動を担い、リーダーとなる人材を育成する
4. 活動拠点となる施設を整備する
5. 地域活動の大切さについての啓発活動をする
6. 地域の人へ参加を呼びかける
7. 日頃から地域の人々とのつきあいを深める
8. 活動団体への支援を充実する
9. 活動に参加できる“ゆとり”や“時間”のある社会をつくる
10. 企業や家族の地域活動への理解を深める
11. わからない
12. その他 ()

健康や福祉に関する情報提供や相談についてうかがいます。

問18 健康や福祉に関する情報を主にどのようなところから得ていますか。

(○はあてはまるものすべて)

1. 広報紙(都・区)
2. テレビ・ラジオ
3. 一般の新聞・雑誌
4. コミュニティ誌(紙)
5. インターネット
6. 町会・自治会の回覧板
7. 公共施設などにある掲示板
8. 医療機関
9. 薬局
10. 高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)
11. 民生・児童委員
12. 近所の知人
13. ボランティア等の団体を通じて
14. その他 ()

問19 健康・福祉に関する情報入手のしやすさや、相談窓口について満足していますか。
(○は1つのみ)

1. とても満足	3. やや不満	5. わからない
2. やや満足	4. とても不満	

問20 次の福祉相談窓口などを知っていますか。また相談したことはありますか。

区内の福祉相談窓口	知っていますか (①～⑩のそれぞれに○は1つのみ)		相談しましたか (①～⑩のそれぞれに○は1つのみ)		今後相談したいですか (①～⑩のそれぞれに○は1つのみ)	
	知っている	知らない	相談したことがある	相談したことはない	相談したい	相談したくない
○のつけ方の例	①	2	1	②	①	2
①区役所の福祉相談窓口 区役所には、生活福祉課・障害者福祉課・子育て支援課などの相談窓口があります。	1	2	1	2	1	2
②保健福祉センター (中央・東部・西部) 障害者等の心身の健康や生活の安定のための総合相談窓口があります。	1	2	1	2	1	2
③高齢者総合相談センター (地域包括支援センター) (8カ所) 高齢者の心身の健康や生活の安定のための総合相談窓口があります。	1	2	1	2	1	2
④池袋保健所・長崎健康相談所 健康づくりなどのためのサービスや相談を実施しています。	1	2	1	2	1	2
⑤子ども家庭支援センター (東部・西部) 健やかな子どもの育ちと家族・地域の支え合いのため、子育てに関する相談を実施しています。	1	2	1	2	1	2
⑥豊島区社会福祉協議会 区民の地域福祉活動の支援、家事・外出援助などの在宅サービスの提供、福祉サービス利用の援助、ボランティア活動の促進などを行っています。	1	2	1	2	1	2
⑦民生委員・児童委員 厚生労働大臣の委嘱を受け、住民の身近な相談相手として、住民と行政・専門機関のパイプ役となって福祉活動をしています。	1	2	1	2	1	2
⑧身体障害者相談員・知的障害者相談員 区長の委託を受け、障害のある方の療育・更生・生活などに関する相談相手となっています。	1	2	1	2	1	2
⑨介護相談員 介護サービス利用者から苦情や不満等を聞き、サービス提供者と行政の間に立って、問題解決に向けた手助けをする専門家です。	1	2	1	2	1	2
⑩福祉関連の自主グループ・団体・ネットワーク・NPOなど 自分たちで助け合うグループや団体・ネットワーク・NPOなど様々な民間団体があります。	1	2	1	2	1	2

福祉のまちづくりについてうかがいます。

問21 公共施設、生活関連施設や鉄道等のバリアフリー化の整備が進んでいますが、これからバリアフリー化を進めてほしい施設等がありますか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. 歩道 | 7. その他施設等 (映画館、デパート、スーパー等) |
| 2. 駅舎等の旅客施設 | 8. 横断歩道・信号機 |
| 3. 電車・バス等 (コミュニティバス含む) の公共交通機関 | 9. 案内標識・音声や誘導ブロック等の設置 |
| 4. 公共施設 (区役所、病院等) | 10. 歩道の放置自転車等の撤去 |
| 5. 公園 | 11. 車いす対応の駐車場やトイレの整備 |
| 6. 学校 | 12. その他 () |

※バリアフリーとは、障害者や高齢者等が社会生活をしていく上で、障壁 (バリア) となるものを取り除くという意味です。

問22 あなたは、日常どのくらい外出していますか (通勤・通学を含む)。(○は1つのみ)

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. ほぼ毎日 | 4. 月に2～3回 | 6. 外出しない |
| 2. 週に3～4回 | 5. 年に数回 | |
| 3. 週に1～2回 | | |

(問22で「1～5」のいずれかをお答えの方に)

問22-1 外出される際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 点字ブロック・盲人用信号の設置が不十分 | 7. 駐車場がない |
| 2. 道路・建物の段差 | 8. 手すりやベンチなどの設備が少ない |
| 3. 障害者用トイレの設置が不十分 | 9. 電車・バスなどへの乗車が困難 |
| 4. 階段の昇り降り | 10. 介助者の確保が難しい |
| 5. 道路に障害物 (放置自転車など) が多い | 11. コミュニケーションがうまくいかない |
| 6. 標識や案内がわかりにくい | 12. 特にない |
| | 13. その他 () |

問23 あなたが日常生活を送る範囲で、まちのバリアフリーについて満足していますか。
(○は1つのみ)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. とても満足 | 3. やや不満 | 5. わからない |
| 2. やや満足 | 4. とても不満 | |

問24 豊島区では、高齢の方や障害のある方だけでなく、すべての方々の安全でスムーズな移動に役立てていただけるよう「福祉のまちづくりガイドマップ」を平成22年3月に作成しました。このガイドマップに対して期待するもの、要望などありましたら、ご記入ください。

地域の支え合いや助け合いについてうかがいます。

問25 外出先で障害者や高齢者、乳幼児を連れた保護者などが困っているのを見かけたことがありますか。(〇は1つのみ)

1. ある

2. ない

(問25で「1. ある」とお答えの方に)

問25-1 困っていたのは、どのようなことでしたか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 道に迷っていた
2. 具合が悪くて動けなくなっていた
3. 横断歩道や踏切を渡るのに苦労していた
4. 車いすやベビーカーでの移動に苦労していた
5. 人混みや路上の障害物で歩きづらそうだった
6. 荷物などを運ぶのに苦労していた
7. 子どもにマナーを守らせるために苦労していた
8. 子どもの安全を守るために苦労していた
9. その他()

(問25で「1. ある」とお答えの方に)

問25-2 困っているのを見かけたとき、どうしましたか。(〇は1つのみ)

1. はずかしいので声をかけることができなかった
2. 声をかけたかったが、どのように声をかければよいかわからなかった
3. 助けを求められたので手助けした
4. 自分で出来る範囲で進んで手助けした
5. 自分から進んで他の人にも声をかけて手助けした
6. その他()

問26 電車で席を譲り合ったり、車いす使用者の手助けなどを自然にしたりできるような「心のバリアフリー」を進めるために、どのような仕組みが特に必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

1. 学校教育において子どもたちが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実する
2. 生涯学習において誰もが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実する
3. イベントの開催や情報誌の発行などにより、広く普及啓発する
4. 健常者と障害者等のコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める
5. 在住外国人とのコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める
6. わからない
7. その他()

※「心のバリアフリー」とは、心の障壁、つまり人々の意識にある「障害」や「障害者（高齢者・外国人）」に対する差別や偏見、理解の不足、誤解などに起因する障壁をなくすことを指します。

問27 地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。(〇は1つのみ)

1. 必要だと思う

2. 必要だと思わない

3. わからない

(問27で「1. 必要だと思う」とお答えの方に)

問27-1 地域で起きるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること
2. 自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること
3. ボランティアやNPO（民間非営利組織）の活動が盛んになること
4. 地域の人々が気軽に集まれる場所を作ること
5. 豊島区社会福祉協議会が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること
6. 行政が地域活動の相談窓口、側面的援助の体制を充実させること
7. わからない
8. その他()

(問27で「2. 必要だと思わない」とお答えの方に)

問27-2 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思うのはなぜですか。(〇は3つまで)

1. 地域社会の課題は、行政が全面的に対応すべきだから
2. 他人とのかかわりを持たなくても生活が可能だから
3. 個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから
4. 住民相互が協力して行う活動に期待していないから
5. 友人・知人との結びつきがあれば十分だから
6. 経済的に豊かであれば何でも解決できるから
7. わからない
8. その他()

問28 豊島区では、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする地域における新たな支え合いの仕組みづくりを進めるなかで、住民の生活課題や多様な地域の課題に対応していく中心的な役割を担うコミュニティソーシャルワーカーを、21・22年度、モデル事業として中央地域包括支援センター圏域で配置していますが、このことをご存じですか。
(○は1つのみ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

*コミュニティソーシャルワーカーとは、個人や家族の方が抱える生活ニーズについて、個別相談により適切なサービス提供や調整を行うとともに、その方々が暮らす地域の生活や福祉の共通ニーズについて、地域の方々の協力を得ながらネットワークをつくり課題対応に取り組む専門職です。

(問28で「1. 知っている」とお答えの方に)

問28-1 コミュニティソーシャルワーカーに期待すること、求めるものは何ですか。
(○はあてはまるものすべて)

1. 身近な地域での相談対応 2. 相談窓口や支援体制についての情報の提供 3. 高齢者や障害者など災害等の緊急時に支援の必要な人への見守り 4. 困難事例への対応	5. 地域における生活の課題解決に向けて、早期の対応 6. 地域の人々や関係機関のネットワークづくり 7. その他()
---	---

地域保健福祉全般についてうかがいます。

問29 あなたが地域で暮らす中で、日頃困っていること、解決すべき課題と考えていることをお聞かせください。(1～39のうち、○は5つまで)

※選択した項目について、具体的な内容があれば、問34の自由意見欄にご記入ください。

【育児・教育・児童福祉施設等について】

1. 子どもの健康や発達
2. 子育てについての支援・相談体制
3. 地域住民・ボランティアによる子育て支援
4. 虐待・いじめ・不登校等
5. 子どもの通園・通学の安全
6. 学級体制(少人数学級等)
7. 認可保育園等の保育施設(量やサービス内容等)
8. 子どもの居場所・あそび場

【家族の看護・介護・高齢者福祉施設等について】

9. ショートステイ(量やサービス内容等)
10. デイサービス(量やサービス内容等)
11. 訪問看護(量やサービス内容等)
12. 特別養護老人ホーム・老人保健施設等の入所施設(量やサービス内容等)
13. 認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス施設(量やサービス内容等)
14. 介護者への支援・相談体制
15. 寝たきりや認知症
16. 被介護者への暴力・虐待

【保健・医療について】

17. 保健・医療・福祉に関する情報
18. 栄養・食生活に関する支援・指導体制
19. 心の悩みについての支援・相談体制
20. 診察時間外の救急医療体制
21. 高齢者の入院医療体制

【地域の環境及び防災や防犯について】

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 22. 放置自転車 | 26. 地震・災害への備え |
| 23. ごみの減量やリサイクル | 27. 治安・防犯対策 |
| 24. まちの緑化 | 28. 歩行喫煙・ポイ捨て |
| 25. 子ども・高齢者・障害者等の安全・安心のまちづくり | |

【日常生活・その他について】

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| 29. 買い物等の外出 | 34. 趣味活動や余暇を過ごすための機会や場所の確保 |
| 30. 掃除・ごみ出し | 35. 配偶者等からの暴力・虐待 |
| 31. 話し相手・相談者 | 36. 仕事・就職・賃金 |
| 32. 家具等の移動 | 37. 住宅 |
| 33. 入浴 | 38. その他() |

39. 特にない

問30 福祉サービスを充実していくために、住民と行政（区・東京都・国）がどのように役割分担すべきだと思いますか。（○は1つのみ）

1. 福祉は本来助け合いであり、住民同士が協力して行う

2. 福祉は出来る限り住民が行い、行政は必要な支援を行う

3. 福祉は行政と住民が協力して行い、それぞれの得意分野を活かす

4. 福祉はすべて行政が行い、行き届かない部分は住民が協力する

5. 福祉はすべて行政が行い、そのために住民は税金を支払う

6. わからない

7. その他（

問31 豊島区では地域に住む誰もが安心して暮らし続けられるまちを目指す「地域保健福祉計画」を策定していますが、この計画を知っていましたか。（○は1つのみ）

1. 知らなかった

2. 名前だけは知っていた

3. 名前も内容も知っていた

問32 豊島区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいますが、あなたはどのようなことに力を入れてほしいですか。（○は5つまで）

1. 身近な住民同士やボランティアなどによる支え合いの充実

2. 住民や地域の活動団体、行政がともに取り組む仕組みづくり

3. いつでも気軽に相談できる身近な窓口や専門的な窓口の充実

4. 支援が必要な人に、サービスを総合的に提供できる仕組みづくり

5. 学校教育や生涯学習において保健・福祉を学ぶ場の充実

6. 保健・医療・福祉のサービス利用に関する情報提供の充実

7. 保健・福祉に関わる専門性の高い人材の育成

8. 子どもの育ちや子育て家庭を支援するサービスの充実

9. 国籍や貧富等に関わらず、誰もが互いに認め合い、共に生きる社会づくり

10. 防災対策や事故・犯罪を予防する安全対策の充実

11. 認知症高齢者など判断能力が不十分な方が福祉サービスを適切に利用できる支援の充実

12. 高齢者の健康保持のための介護予防事業の充実

13. 高齢者や障害者の自立や社会参加、就労を支援するサービスの充実

14. 誰もが快適に過ごせる、障壁（バリア）のないまちづくり

15. 疾病予防など、心と身体の健康づくりの支援の充実

16. 感染症対策、食の安全、医療体制などの保健医療対策の充実

17. その他（

問33 豊島区では、区民の皆さんが中心となって、また、区民と行政が一緒になって、地域の中で様々な取り組みが行われています。現在、あなたが、地域の中で自主的に参加し、活動していることがありましたら、活動団体・取り組みの名称・活動内容を記入してください。

活動団体：

取り組みの名称：

活動内容：

問34 身近な生活上の問題で困っていることや保健・福祉の課題について感じていることなど、ご意見を自由にお書きください。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。
同封された封筒にて、6月30日（水）までに、ポストにご投函願います。

豊島区地域保健福祉計画改定のための
関連団体等ヒアリングシートA

(高齢者団体、障害者団体、ボランティア団体、町会・自治会、商店街、商工会議所 向け)

問1 貴団体について、下記の事項をご記入ください。

①団体名	④メンバー構成 ・人数 _____ 人 ・内訳 _____
②連絡先	
③設立時期 昭和・平成 _____ 年	
⑤活動目的	

問2 団体発足のきっかけについて、具体的にお書きください。

問3 貴団体の主な活動内容をお書きください。

問4 活動によって得られたこと、よかったこと、成果などをお書きください。

問5 活動を進める上で支障になっていること、問題、課題などをお書きください。

問6 他の団体(町会、自治会、NPO等、以下同様)、ボランティアや事業者、行政と一緒に取り組んでいる活動があれば、お書きください。
(記入欄が不足する場合は、お手数ですが、別途、用紙を追加してご記入ください)

活動の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	活動の具体的内容

問7 他の団体や事業者、行政と一緒に活動することで、得られたこと、よかったこと、成果などをお書きください。

団体：

ボランティア：

事業者：

行政：

問8 今後、他の団体や事業者、行政と一緒に活動する上で支障になっていること、問題、課題などをお書きください。

団体：

ボランティア：

事業者：

行政：

問9 今後、他の団体や事業者、行政と一緒に活動することについて、どのようにお考えですか。

団体：

ボランティア：

事業者：

行政：

問10 今後、地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉に関する活動を進めるため、どのようなことが必要と思われますか。また、そのためのアイデアや工夫についてご自由にお書きください。

問11 豊島区では地域における新たな支え合いの仕組みづくりを進める中で、住民の生活課題や多様な地域の課題に対応していく中心的な役割を担うコミュニティソーシャルワーカーを設置していますが、団体として、コミュニティソーシャルワーカーに期待することは何ですか。

◇コミュニティソーシャルワーカーとは、個人や家族の方が抱える生活ニーズについて、個別相談により適切なサービス提供や調整を行うとともに、その方々が暮らす地域の生活や福祉の共通ニーズについて、地域の方々の協力を得ながらネットワークをつくり課題対応に取り組む専門職です。

問12 地域福祉の推進には、住民同士の支え合い（互助）が重要視されています。この住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、団体としてできることは何がありますか。

問13 保健・医療・福祉に関する行政の施策について、ご意見・ご要望があればお書きください。

問14 来年度改定する「豊島区地域保健福祉計画」に期待することがあればお書きください。

※貴団体の活動内容等をまとめた資料・パンフレットなどがありましたら、お手数ですが、添付してご提出お願いいたします。

添付資料名

以上で質問は終わりです。
ご協力ありがとうございました。

豊島区地域保健福祉計画改定のための
関連団体等ヒアリングシートB

(民生・児童委員 向け)

問1 下記の事項をご記入ください。

①お名前
②連絡先
③活動年数 _____ 年

問2 主な活動内容をお書きください。

--

問3 活動を通じて、地域の方とはどのように関わっていますか。

--

問4 活動によって得られたこと、よかったこと、成果などをお書きください。

--

問5 活動を進める上で支障になっていること、問題、課題などをお書きください。

--

問6 他の団体(町会、自治会、NPO等、以下同様)、ボランティアや事業者、行政と一緒に取り組んでいる活動があれば、お書きください。

(記入欄が不足する場合は、お手数ですが、別途、用紙を追加してご記入ください)

活動の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	活動の具体的内容

問7 他の団体や事業者、行政と一緒に活動することで、得られたこと、よかったこと、成果などをお書きください。

団体：
ボランティア：
事業者：
行政：

問8 今後、他の団体や事業者、行政と一緒に活動する上で支障になっていること、問題、課題などをお書きください。

団体：
ボランティア：
事業者：
行政：

問9 今後、他の団体や事業者、行政と一緒に活動することについて、どのようにお考えですか。

団体：

ボランティア：

事業者：

行政：

問10 今後、地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉に関する活動を進めるため、どのようなことが必要と思われますか。また、そのためのアイデアや工夫についてご自由にお書きください。

問11 豊島区では地域における新たな支え合いの仕組みづくりを進める中で、住民の生活課題や多様な地域の課題に対応していく中心的な役割を担うコミュニティソーシャルワーカーを配置していますが、民生・児童委員として、コミュニティソーシャルワーカーに期待することは何ですか。

◇コミュニティソーシャルワーカーとは、個人や家族の方が抱える生活ニーズについて、個別相談により適切なサービス提供や調整を行うとともに、その方々が暮らす地域の生活や福祉の共通ニーズについて、地域の方々の協力を得ながらネットワークをつくり課題対応に取り組む専門職です。

問12 地域福祉の推進には、住民同士の支え合い（互助）が重要視されています。この住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、民生・児童委員としてできることは何がありますか。

問13 保健・医療・福祉に関する行政の施策について、ご意見・ご要望があればお書きください。

問14 来年度改定する「豊島区地域保健福祉計画」に期待することがあればお書きください。

※活動内容等をまとめた資料・パンフレットなどがありましたら、お手数ですが、添付してご提出お願いいたします。

添付資料名

以上で質問は終わりです。
ご協力ありがとうございました。

豊島区地域保健福祉計画改定のための
関連団体等ヒアリングシートC

(サービス提供事業者 向け)

問1 貴団体について、下記の事項をご記入ください。

①団体名	④メンバー構成 ・人数 _____ 人 ・内訳 _____
②連絡先	
③設立時期 昭和・平成 _____ 年	
⑤事業の目的	

問2 団体発足のきっかけについて、具体的にお書きください。

--

問3 貴団体の主な事業内容をお書きください。

--

問4 事業によって得られたこと、よかったこと、成果などをお書きください。

--

問5 事業を進める上で支障になっていること、問題、課題などをお書きください。

--

問6 他の団体(町会、自治会、NPO等、以下同様)、ボランティアや事業者、行政と一緒に取り組んでいる事業等があれば、お書きください。

(記入欄が不足する場合は、お手数ですが、別途、用紙を追加してご記入ください)

事業等の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	事業等の具体的内容

問7 他の団体や事業者、行政と一緒に事業等を実施することで、得られたこと、よかったこと、成果などをお書きください。

団体：
ボランティア：
事業者：
行政：

問8 今後、他の団体や事業者、行政と一緒に事業等を実施する上で支障になっていること、問題、課題などをお書きください。

団体：
ボランティア：
事業者：
行政：

問9 今後、他の団体や事業者、行政と一緒に事業等を実施することについて、どのようにお考えですか。

団体：

ボランティア：

事業者：

行政：

問10 今後、地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉に関する活動を進めるため、どのようなことが必要と思われますか。また、そのためのアイデアや工夫についてご自由にお書きください。

問11 豊島区では地域における新たな支え合いの仕組みづくりを進める中で、住民の生活課題や多様な地域の課題に対応していく中心的な役割を担うコミュニティソーシャルワーカーを配置していますが、事業者として、コミュニティソーシャルワーカーに期待することは何ですか。

◇コミュニティソーシャルワーカーとは、個人や家族の方が抱える生活ニーズについて、個別相談により適切なサービス提供や調整を行うとともに、その方々が暮らす地域の生活や福祉の共通ニーズについて、地域の方々の協力を得ながらネットワークをつくり課題対応に取り組む専門職です。

問12 地域福祉の推進には、住民同士の支え合い（互助）が重要視されています。この住民同士の支え合い（互助）による地域づくりについて、事業者としてできることは何がありますか。

問13 保健・医療・福祉に関する行政の施策について、ご意見・ご要望があればお書きください。

問14 来年度改定する「豊島区地域保健福祉計画」に期待することがあればお書きください。

※貴団体の活動内容等をまとめた資料・パンフレットなどがありましたら、お手数ですが、添付してご提出お願いいたします。

添付資料名

以上で質問は終わります。
ご協力ありがとうございました。

豊島区地域保健福祉計画改定のための

関連団体等ヒアリングシートD

(社会貢献企業 向け)

問1 貴団体について、下記の事項をご記入ください。

①事業者名	④社員構成 ・人数 _____ 人 ・内訳 (社会貢献担当人数など)
②連絡先	
③設立時期 昭和・平成 _____ 年	
⑤主な事業内容	

問2 社会貢献活動のきっかけについて、具体的にお書きください。

問3 社会貢献活動の内容をお書きください。

問4 社会貢献活動によって得られたこと、よかったこと、成果などをお書きください。

問5 社会貢献活動を進める上で支障になっていること、問題、課題などをお書きください。

問6 他の団体(町会、自治会、NPO等、以下同様)、ボランティアや事業者、行政と一緒に取り組んでいる社会貢献活動があれば、お書きください。

(記入欄が不足する場合は、お手数ですが、別途、用紙を追加してご記入ください)

社会貢献活動 の名称	一緒に取り組んでいる団体等の名称	活動の具体的内容

問7 他の団体や事業者、行政と一緒に社会貢献活動を実施することで、得られたこと、よかったこと、成果などをお書きください。

団体：

ボランティア：

事業者：

行政：

問8 今後、他の団体や事業者、行政と一緒に社会貢献活動を実施する上で支障になっていること、問題、課題などをお書きください。

団体：

ボランティア：

事業者：

行政：

問9 今後、他の団体や事業者、行政と一緒に社会貢献活動を実施することについて、どのような
にお考えですか。

団体：

ボランティア：

事業者：

行政：

問10 今後、地域の多様な団体や事業者、行政が連携して保健・医療・福祉に関する活動を進め
るため、どのようなことが必要と思われますか。また、そのためのアイデアや工夫につい
てご自由にお書きください。

問11 豊島区では地域における新たな支え合いの仕組みづくりを進める中で、住民の生活課題や
多様な地域の課題に対応していく中心的な役割を担うコミュニティソーシャルワーカーを配
置していますが、事業者として、コミュニティソーシャルワーカーに期待することは何で
すか。

◇コミュニティソーシャルワーカーとは、個人や家族の方が抱える生活ニーズについて、
個別相談により適切なサービス提供や調整を行うとともに、その方々が暮らす地域の生
活や福祉の共通ニーズについて、地域の方々の協力を得ながらネットワークをつくり課
題対応に取り組む専門職です。

問12 地域福祉の推進には、住民同士の支え合い（互助）が重要視されています。この住民同士の
支え合い（互助）による地域づくりについて、事業者としてできることは何がありますか。

問13 保健・医療・福祉に関する行政の施策について、ご意見・ご要望があればお書きください。

問14 来年度改定する「豊島区地域保健福祉計画」に期待することがあればお書きください。

※社会貢献活動の内容等をまとめた資料・パンフレットなどがありましたら、お手数ですが、添
付してご提出お願いいたします。

添付資料名

以上で質問は終わりです。
ご協力ありがとうございました。

豊島区地域保健福祉計画改定のための
区民意識・意向調査 報告書

平成22年(2010年)11月

発行：豊島区

編集：豊島区 保健福祉部 福祉総務課
〒170-8422 東京都豊島区東池袋1-18-1
電 話：03-3981-1365
FAX：03-3981-1404

(委託調査機関) ㈱サーベイリサーチセンター
世論・計画部 世論・計画2課
〒116-8581 東京都荒川区西日暮里2-40-10